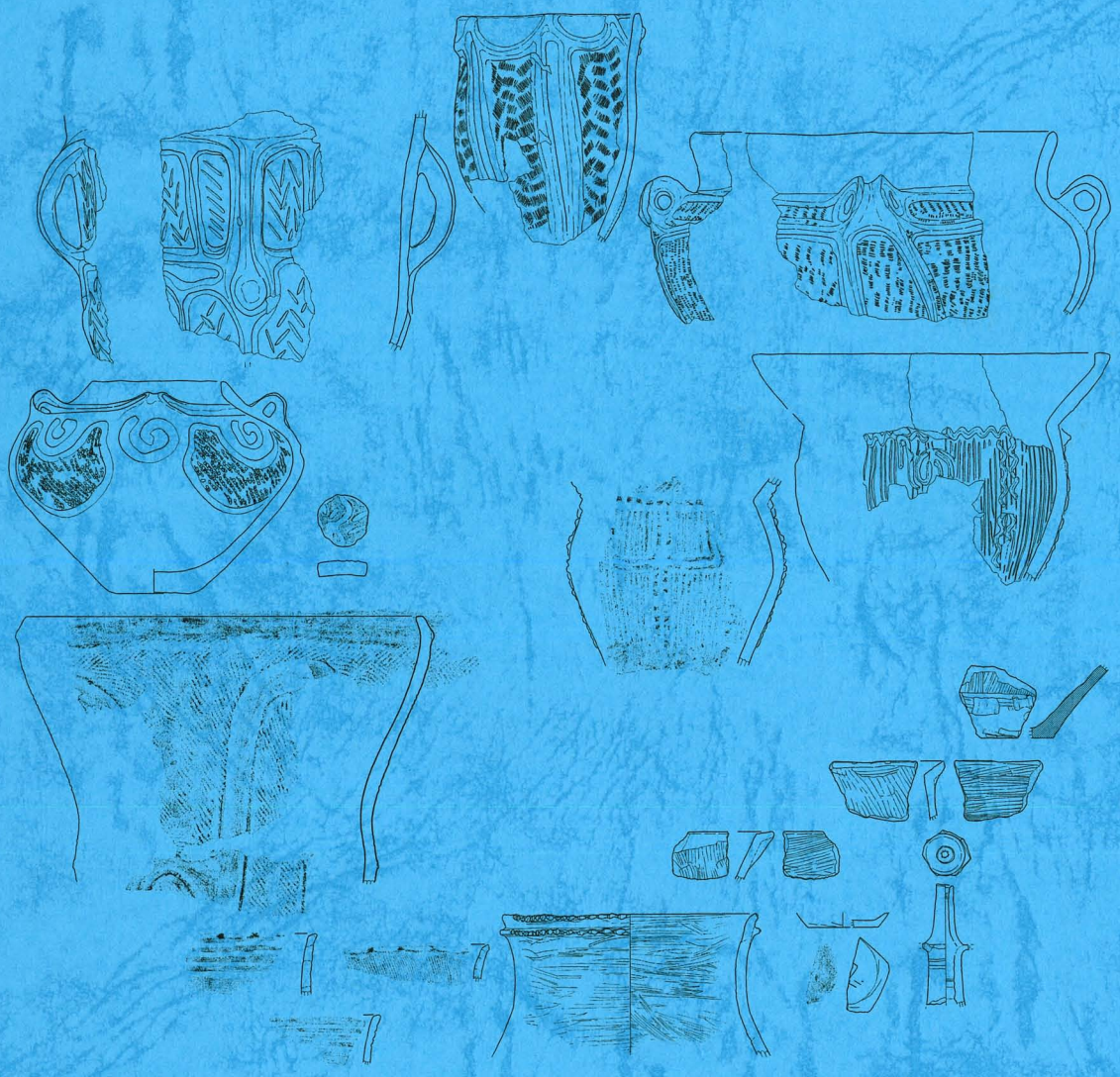
富士吉田市文化財調査報告書　第９集

上中丸遺跡（第２次）

―中丸地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―



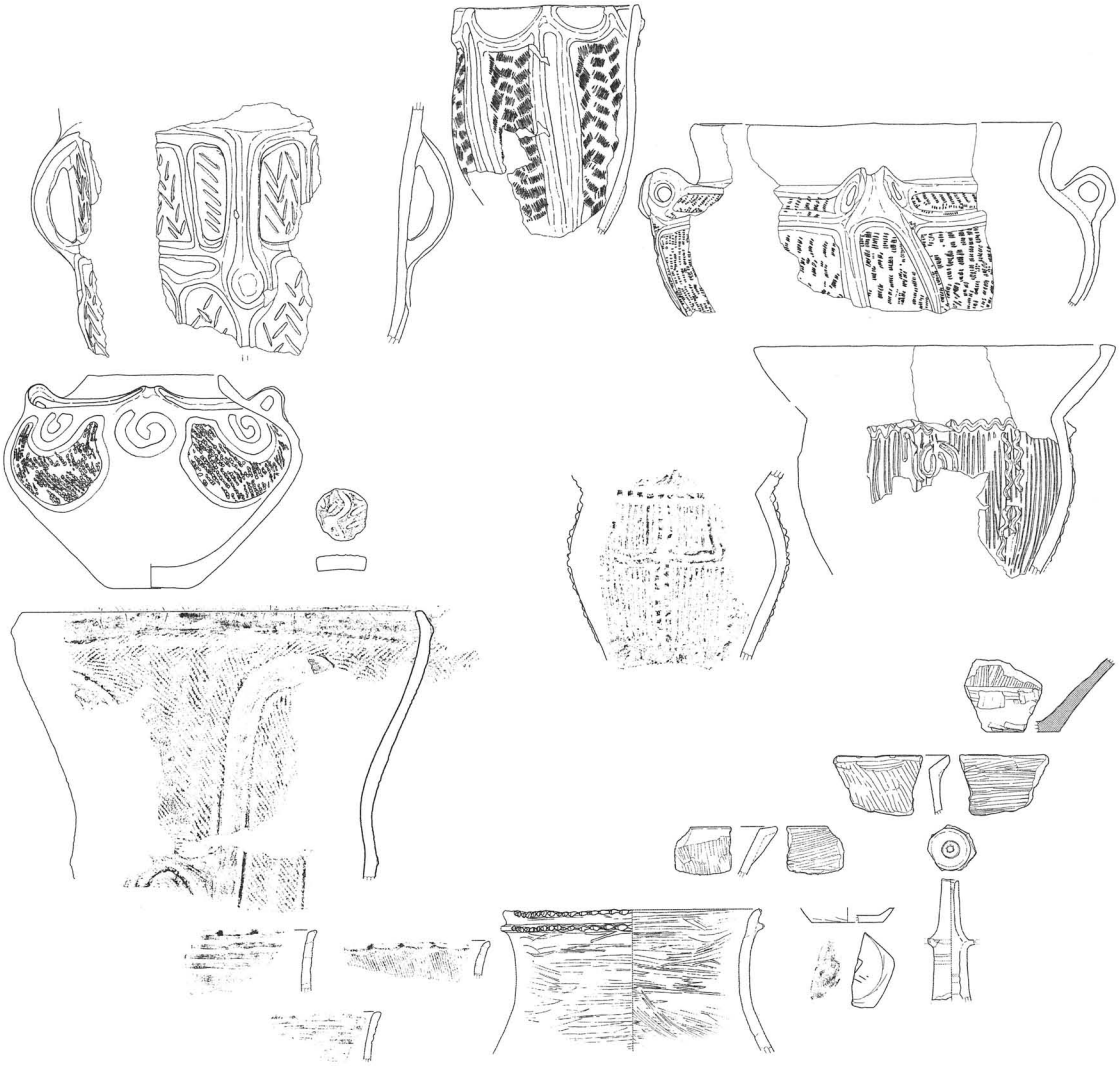
２０１２

富　士　吉　田　市
富士吉田市教育委員会
(公財) 山梨文化財研究所

富士吉田市文化財調査報告書　第９集

上中丸遺跡（第２次）

―中丸地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―



２０１２

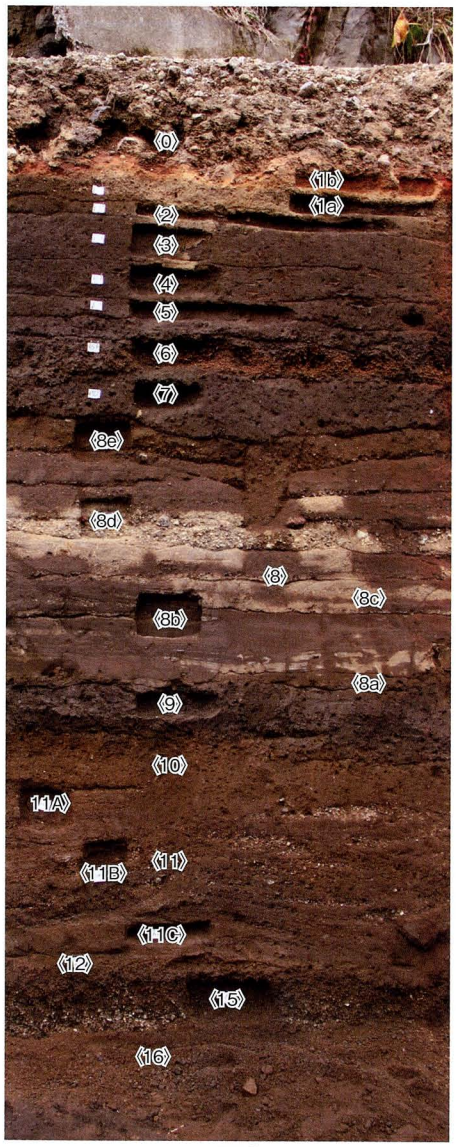
富　士　吉　田　市
富士吉田市教育委員会
(公財) 山梨文化財研究所

1. 上中丸遺跡からみた富士山

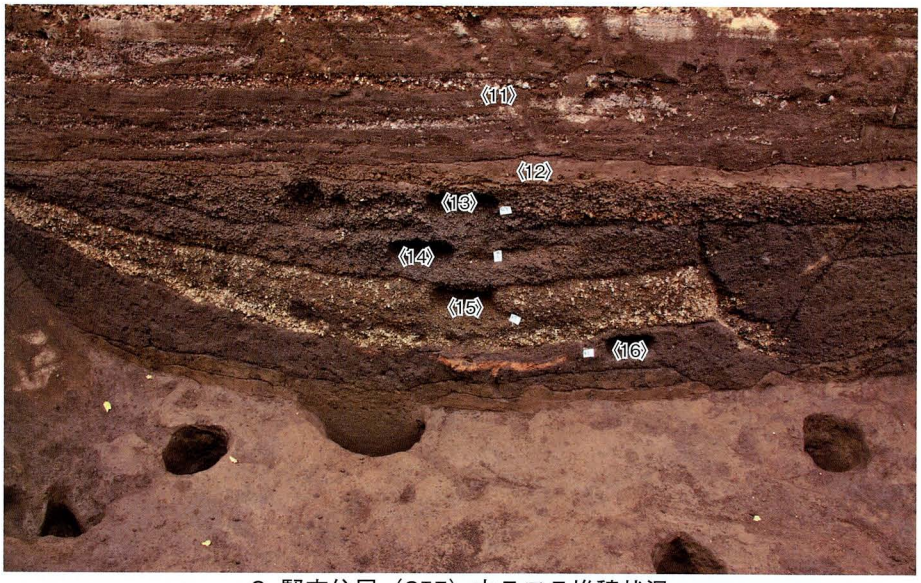
2. 調査区全景

巻頭図版２

1. C 区西壁　檜丸尾第１溶岩流による焼土およびテフラ土層



2. 同上



3. 竪穴住居（SI5）内テフラ堆積状況

4. C 区東壁

5. 火山弾 出土状況

発刊にあたって

本書は、中丸地区土地区画整理事業に伴う道路建設地内である上中丸遺跡で平成23年度に行われた発掘調査成果をまとめたものです。この調査は、平成19年度に本市教育委員会が行った発掘調査に引き続くものであり、今回の調査で、この開発事業に伴う発掘調査は全て終了しました。

調査主体である公益財団法人山梨文化財研究所が、綿密な調査を行った結果、富士山の火山灰で埋没した縄文時代中期の竪穴住居跡、県内でも発掘事例が少ない弥生時代前期の土器、寺院で使われる特殊な器である平安時代の浄瓶など、貴重な発見が相次ぎました。

中でも注目されるのは、縄文時代中期における活発な富士山の火山活動下でも、往時の人々がその火山災害を避けつつ繰り返し生活を営んでいたことが明らかになったことです。具体的には、先述した火山灰で埋没した竪穴住居跡は火山灰降下前には廃絶されており、直接の被害を受けていないことや、この火山噴火から程なくして、火山灰を掘り抜いて土坑を造るなどして再居住をしていることが判明しています。更に、富士山の災害はこれで終わりではなく、この再居住から間もなくして、火砕流～火砕サーヂ若しくは土石流が流下しており、その厚さは１ｍにもなります。しかし、その災害が収まると、再び生活を再開しており、富士山の火山活動が活発な中でも、その災害に臨機応変に対応して、富士山麓に暮らし続けたことが分かります。

こうした富士山の火山災害の痕跡など多くの成果を収めた本書が、本市のみならず富士山麓の歴史を考えていく上で、その一助となれば幸いと考えます。

最後に、調査を実施された公益財団法人山梨文化財研究所と調査担当者及び調査、整理作業に従事された方々に深甚なる敬意と感謝の意を表するとともに、調査にあたってご協力いただいた関係者、関係機関に感謝の意を表する次第であります。ここに厚く御礼申し上げるとともに、今後も一層のご協力を賜りますようお願い申し上げ、発刊のことばといたします。

平成24年９月15日

富士吉田市教育委員会

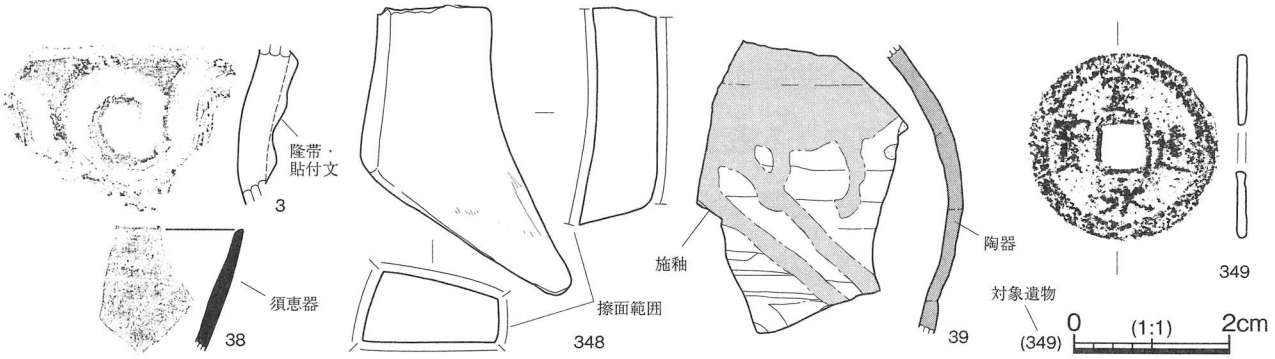
教育長　秋　山　勝　彦

例　言

1．本書は山梨県富士吉田市小明見に所在する上中丸遺跡の発掘調査報告書である。
2．本調査は中丸地区土地区画整理事業に伴う本調査であり、富士吉田市より委託を受けた財団法人山梨文化財研究所（2012年４月より公益財団法人山梨文化財研究所）が発掘調査および整理作業を実施した。
3．発掘調査は、平成23年８月７日より同年11月15日まで実施し、整理作業は平成24年９月まで実施した。
4．本書の執筆は、第４章を松元美由紀、高橋 敦（パリノ・サーヴェイ株式会社）、第５章を中山誠二（山梨県立博物館）、その他を望月秀和が行い、編集および遺構・遺物の写真撮影は望月が担当した。
5．発掘調査における基準点測量、ポール写真撮影、全体図作成業務を㈱テクノプランニングに委託した。
6．本書に関わる出土品・記録類は、富士吉田市教育委員会で保管される。
7．発掘調査から報告書刊行に至るまで、以下の諸氏、諸機関からご教示、ご配慮を賜った。記して感謝申し上げる。
上杉 陽　篠原 武　中山誠二　植月 学　保坂康夫　岡野秀典　村松佳幸　杉本悠樹　稲垣自由　阿部昭典　土屋健作　河西 学　櫛原功一　富士吉田市教育委員会　富士吉田市都市基盤部　富士吉田市歴史民俗博物館　古代甲斐国官衙研究会（順不同、敬称略）。

凡　例

1．本書におけるＸ・Ｙ数値は、平面直角座標第８系（原点：北緯　36度00分00秒）、東経（138度30分00秒）に基づく座標数値である（世界測地系数値）。各遺構平面図中の方位はすべて座標北を示している。
2．遺構および遺物の縮尺は次のとおりである。その他、各図版中にスケールを示している。
竪穴建物跡（SI）：1/60　土　坑（SK）：1/30　溝状遺構（SD）：1/40　ピット（Pit）：1/20
土器・須恵器・陶磁器類：1/3　石器：1/2（小型品は原寸大）
3．本書の遺物掲載番号は、実測図、写真図版、出土位置を示したドットの番号全てを一致させている。
なお、調査・整理記録と対応させるため、観察表には取り上げ番号および実測番号を合わせて掲載した。
4．遺構図版中の遺物点をつなぐ実線は接合した２点の接合関係、破線は同一個体である可能性を示す。
5．遺構図中に示した遺物ドットは、各図版に凡例を示した。
6．遺物実測図の表現については以下の通りである。
遺物実測図の断面中に示した破線は接合帯（隆帯、貼付文など）、黒色ベタは須恵器、グレーは陶器類、内外面のトーンは施釉、断面外側の実線は擦り面の範囲、薄い破線は施釉の範囲を示している。
なお、図版中で縮尺を変更した遺物については、別スケールを付け、（ ）内にその番号を示した。



7．土色観察には、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帖』（2006年度版）を使用した。
8．本書図版中に使用した元地図は以下のとおりである。
第１図　『富士吉田市都市計画基本図』№.12・13　平成８年発行
第４図　1/200,000 地勢図『甲府』国土地理院　平成17年７月１日発行
第５図　1/25,000 地形図『富士吉田』国土地理院　平成20年12月１日発行
9．第１～３・６章の引用・参考文献については、第６章の文末にまとめた。

目　　次

例言・凡例
目次
表目次
図版目次
写真図版目次

第１章　調査の概要
第１節　調査に至る経緯 …… 1
第２節　調査の方法 …… 1
第３節　調査の経過 …… 4
第４節　基本層序と遺構確認面について …… 6
第２章　遺跡の位置と歴史的環境
第１節　遺跡の位置と地理的環境 …… 10
第２節　歴史的環境 …… 10
第３章　調査成果
第１節　各調査区の遺構確認面と時期について …… 15
第２節　発見した遺構と遺物 …… 22
（１）　平安時代の遺構・遺物 …… 22
（２）　弥生時代の遺構・遺物 …… 24
（３）　縄文時代の遺構・遺物 …… 30
（４）　その他の遺構 …… 46
第４章　上中丸遺跡出土炭化物自然科学分析報告
Ⅰ.放射性炭素年代測定 …… 73
Ⅱ.炭化種実同定 …… 74
第５章　山梨県上中丸遺跡の植物圧痕の同定
１　分析資料 …… 77
２　分析手法 …… 77
３　分析結果 …… 79
４　小結 …… 79
第６章　総括
第１節　遺構の変遷について …… 80
第２節　検出した遺構・遺物について …… 83
第３節　上中丸遺跡周辺における遺跡の変遷について …… 85
おわりに

表目次

表１　テフラ土層観察・対応表 …… 7
表２　遺構検出面および土層時期一覧 …… 10
表３　周辺遺跡一覧 …… 14
表４　Ｂ区旧河道　出土遺物表 …… 18
表５　検出遺構一覧（竪穴住居跡・土坑） …… 33
表６　検出遺構一覧（ピット） …… 35
表７　出土遺物観察表（土器・陶磁器類） …… 51
表８　出土遺物観察表（石器・石製品類・古銭） …… 57
表９　出土遺物計量表 …… 57
表10　放射性炭素年代測定および暦年較正結果 …… 74
表11　炭化種実同定結果 …… 76
表12　上中丸遺跡圧痕一覧 …… 79
表13　各調査区・遺構別出土遺物重量一覧 …… 83
表14　出土遺物重量・取上点数比率一覧 …… 83

図版目次

第１図　調査区位置図 …… 2
第２図　調査区全体図 …… 3
第３図　基本層序 …… 9
第４図　遺跡の位置 …… 11
第５図　周辺の遺跡 …… 13
第６図　Ａ区全体図 …… 17
第７図　Ｂ区全体図 …… 18
第８図　Ｂ区旧河道 …… 19
第９図　Ｃ区全体図① …… 20
第10図　Ｃ区全体図② …… 21
第11図　SI１ …… 22
第12図　SI４ …… 23
第13図　SI2① …… 25
第14図　SI２② …… 26
第15図　SI２③ …… 27
第16図　SI３ …… 29
第17図　SI５ …… 31
第18図　SK1・２ …… 32
第19図　SK3～６、Pit95・96 …… 34
第20図　ピット① …… 36
第21図　ピット② …… 37
第22図　ピット③ …… 38
第23図　SX1・２・４ …… 40
第24図　SX3① …… 41・42
第25図　SX３② …… 43・44
第26図　遺物出土状況図 …… 47・48
第27図　SD１～３ …… 49
第28図　SD４・近代溝 …… 50
第29図　出土遺物〔Ａ区〕 …… 57
第30図　出土遺物〔Ｂ区旧河道〕 …… 58
第31図　出土遺物〔SI１・SI２①〕 …… 59
第32図　出土遺物〔SI２②〕 …… 60
第33図　出土遺物〔SI２③〕 …… 61
第34図　出土遺物〔SI３・SI４・SI５〕 …… 62
第35図　出土遺物〔SK１〕 …… 63
第36図　出土遺物〔SK２①〕 …… 64
第37図　出土遺物〔SK２②・SK４・SK６〕 …… 65
第38図　出土遺物〔SX１・SX２・SX３①〕 …… 66
第39図　出土遺物〔SX３②〕 …… 67
第40図　出土遺物〔SX３③〕 …… 68
第41図　出土遺物〔SX３④〕 …… 69
第42図　出土遺物〔SX３⑤、SD１・SD４〕 …… 70
第43図　出土遺物〔遺構外①〕 …… 71
第44図　出土遺物〔遺構外②、石器・石製品・古銭〕 …… 72
第45図　大型植物遺体 …… 76
第46図　上中丸遺跡の圧痕土器 …… 77
第47図　上中丸遺跡土器圧痕 …… 78
第48図　編年別土器出土状況図 …… 81
第49図　施文技法（櫛歯刺突・条線、ハの字文） … 84
第50図　施文技法の分類 …… 85
第51図　桂川流域遺跡分布図 …… 86

写真図版目次

図版１　調査区周辺景観、調査区空撮
図版２　調査区状況
図版３　Ａ区調査状況［全景（モザイク写真）］
図版４　Ａ区調査状況／Ｂ区調査状況［全景（モザイク写真）］
図版５　Ｂ区遺構・遺物出土状況〔旧河道〕
図版６　Ｂ区遺構・遺物出土状況［旧河道堆積状況］
図版７　Ｃ区調査状況［全景（モザイク写真）］
図版８　Ｃ区調査状況［SD・近代溝・Ｃ区近景］
図版９　Ｃ区遺構・遺物出土状況〔SI1・2〕
図版10　Ｃ区遺構・遺物出土状況〔SI2・3〕
図版11　Ｃ区遺構・遺物出土状況〔SI4・5〕
図版12　Ｃ区遺構・遺物出土状況〔SK1・2〕
図版13　Ｃ区遺構・遺物出土状況〔SK2～6、SX1〕
図版14　Ｃ区遺構・遺物出土状況〔SX2・3〕
図版15　Ｃ区遺構・遺物出土状況〔SX3〕
図版16　調査風景など
図版17　出土遺物（Ａ区・Ｂ区旧河道①）〔1～46〕
図版18　出土遺物（Ｂ区旧河道②、SI1・SI2①）〔47～88〕
図版19　出土遺物（SI2②）〔89～128〕
図版20　出土遺物（SI3～5、SK1）〔129～163〕
図版21　出土遺物（SK2・4）〔164～194〕
図版22　出土遺物（SK6、SX1・2、SX3①）〔195～207〕
図版23　出土遺物（SX3②）〔208～234〕
図版24　出土遺物（SX3③）〔235～259〕
図版25　出土遺物（SX3④）〔260～284〕
図版26　出土遺物（SX3⑤、SD）〔285～311〕
図版27　出土遺物（遺構外）〔312～342〕
図版28　出土遺物（石器・石製品、古銭等）〔343～350、溶岩〕

第１章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

今回の調査の調査原因は、富士吉田市が同市小明見に所在する上中丸遺跡地内において計画した中丸地区土地区画整理事業に伴う道路建設である。本件に係る埋蔵文化財発掘調査としては、まず計画が具体化した平成18年に、富士吉田市教育委員会によって試掘調査、および翌19年に第１次本調査として北区（平成19年７月17日～平成20年１月10日）・南区（平成20年１月15日～２月29日）で実施されていた。今回の第２次本調査については平成22年10月頃に照会があり、北区と南区の間の未調査部分を対象とし、文化財保護法94条の届出が平成23年４月７日に富士吉田市長名で富士吉田市教育委員会へ提出された（富23都整発第１号）。それを平成23年４月12日に富士吉田市教育委員会教育長名で山梨県教育委員会へ進達（富23歴文発第21-2号）し、その届出に対して平成23年４月15日付けで県から発掘調査が必要である旨の通知（教学文第230号）を受け、本調査の実施に至った。

調査にあたっては、富士吉田市、富士吉田市教育委員会、財団法人山梨文化財研究所の三者で協定を締結し、財団法人山梨文化財研究所が実施した。なお、2012年４月より公益財団法人山梨文化財研究所となり、引き続き発掘調査整理報告業務を行った。調査体制については以下のとおり。

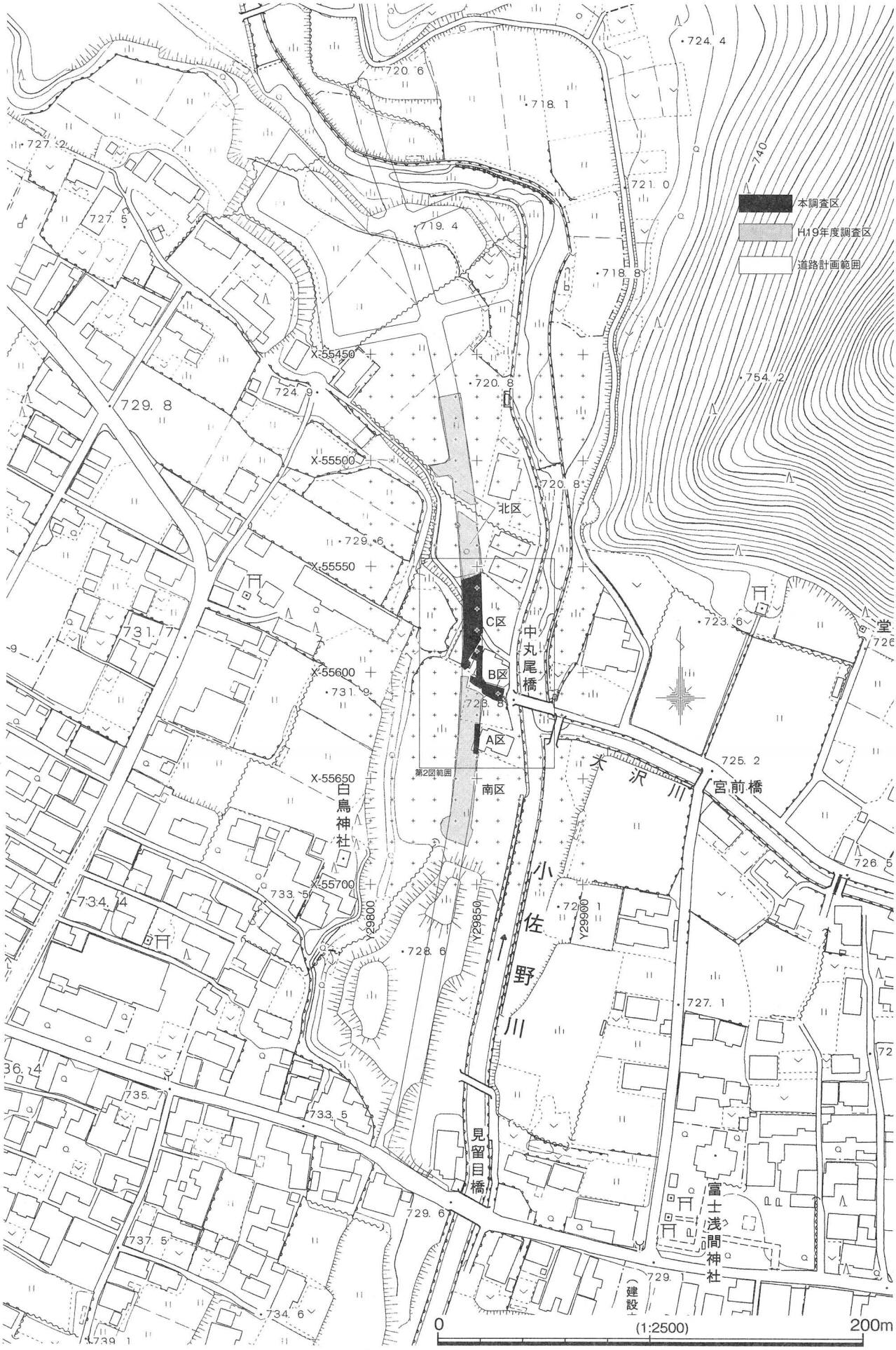
調査体制

調査主体	財団法人山梨文化財研究所（2012年４月１日より、公益財団法人山梨文化財研究所）
調査担当者	望月秀和〔財団法人山梨文化財研究所　調査員〕（同上）
発掘調査参加者	天野智子、太田久義、金井茂晴、川添重人、塩見徹男、須田 旭、筒井 聡、中村郷子 深沢政人、堀内知子、渡辺辰雄 〈都留文科大学〉　間中　愛、設楽なつみ、渡辺智子、山下翔平、近　秀彦、関　征寛 〈多摩美術大学〉　櫛原織江
整理作業参加者	櫛原ゆかり、須田泰美、藤原五月、古郡　明、山下詩雅、筒井　聡、中村郷子 間中　愛、設楽なつみ、渡辺智子、山下翔平、近　秀彦、関　征寛、櫛原織江
事務局	柳本千恵子、横田杏子

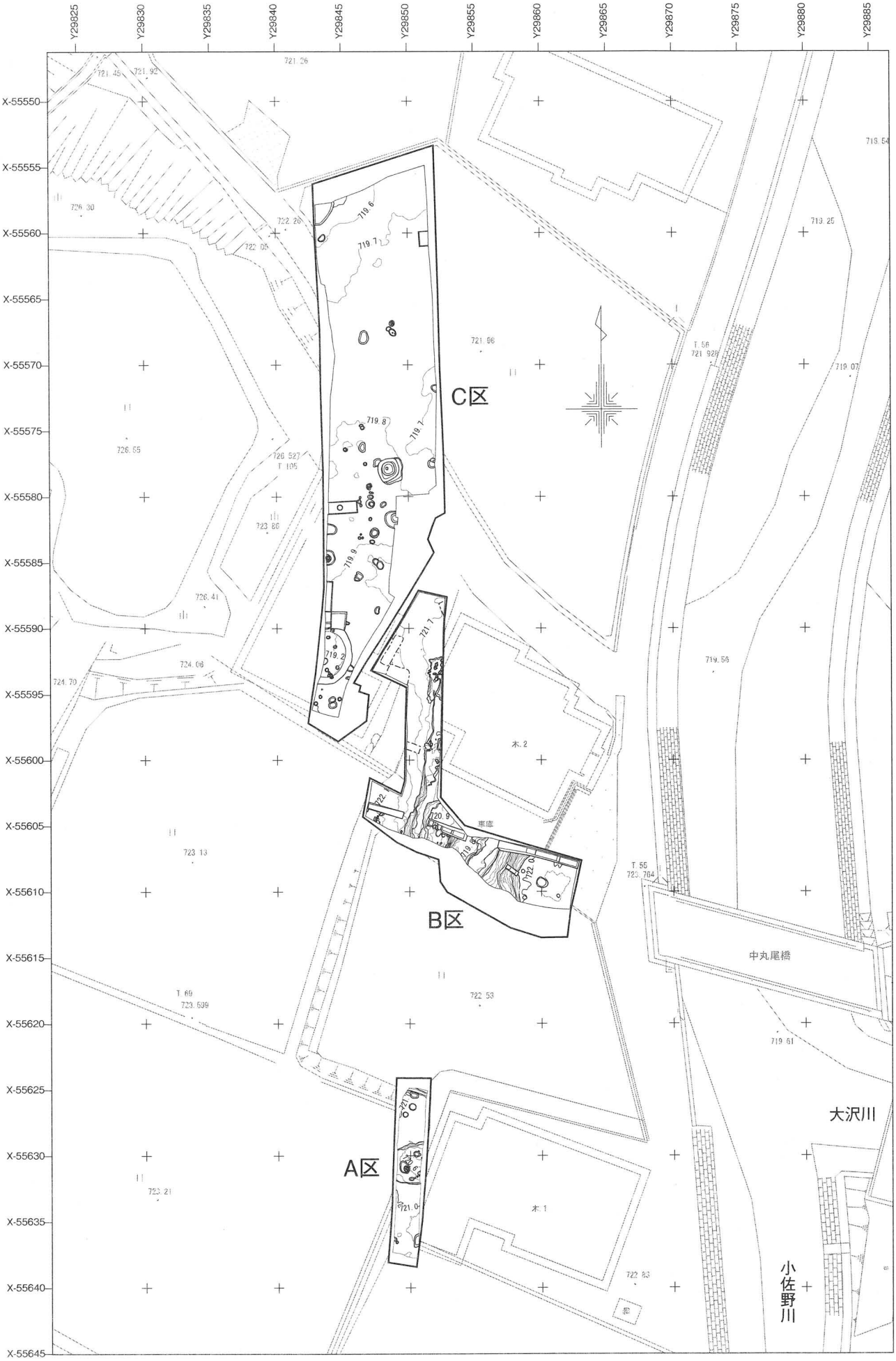
第２節　調査の方法

今回の調査は、上中丸遺跡地内における土地区画整理に伴って敷設する道路部分、約619㎡を調査対象とした。前述のとおり、平成19年度調査の北区と南区の間の未調査部分にあたる。調査区については、調査開始後に対象範囲内に水道管・下水道管が埋設していることが判明したため、市教育委員会・都市整備課との現地協議を行い、調査対象地から管の通った範囲を除外した都合Ａ・Ｂ・Ｃ区の３区画を調査することになった。Ａ区は平成19年度南区の北東隅に隣接する未調査範囲、Ｂ区は中丸尾橋へ向かう道路敷設部の南北区画と配管の保護のためＣ区と隔てられた南北区画のＬ字型の範囲、Ｃ区は檜丸尾第１溶岩の東端に沿った南北に長い区画を調査した。なお、Ｂ・Ｃ区の境にあった電柱周辺も保護範囲として調査区から外したことから、調査面積は約490㎡となった（第１・２図）。

調査は試掘および平成19年度の市教育委員会が実施した上中丸遺跡の調査成果から、当初より平安時代・弥生時代・縄文時代晩期・縄文時代中期の４面で遺構確認を実施する計画で開始した。表土および各面までの掘削は、調査成果を元に各調査区ごとに考察しながら、重機による掘り下げと人力による遺構確認を実施した。なお、発掘作業にあたっては事前ミーティングで調査参加者への安全指導を実施した他、調査区には発掘調査の実施を示す看板の設置とともにバリケードやロープを用いて保全し、周辺住民の方々へは調査概報を配布して周知を行うなど、調査中の安全配慮に努めた。


本調査区
H19年度調査区
道路計画範囲
C区
B区
A区
北区
南区
中丸尾橋
第2図範囲
太沢川
宮前橋
小佐野川
見留目橋
白鳥神社
富士浅間神社
X-55450
X-55500
X-55550
X-55600
X-55650
X-55700
Y29800
Y29850
Y29900
0
(1:2500)
200m

第１図　調査区位置図



第２図　調査区全体図

0　(1:400)　20m

発見した遺構・遺物の記録については、遺構断面図の作成、基本層序および遺構埋土の観察記録、光波測量による平面図作成、遺物の３次元記録、簡易図化システムによる写真測量を実施したほか、テクノプランニングによるポール撮影・ラジコンヘリによる航空撮影での写真測量をあわせて実施した。なお、今回の調査で用いた測量機器および図化・記録システムは以下の通りである。

光波測量機器 /TOPCONGPS －Ⅲ

コンピュータ /Panasonic TOUGHBOOK

取り上げ・図化システム /CUBIC 社製 遺構くん

簡易図化システム（カメラ）/Canon 50D+EF レンズ 20mm

第３節　調査の経過

今回の調査は平成23年８月５日から調査の事前準備に取り掛かり、基準点の設置、周辺住民へ調査実施についての周知、調査機材・プレハブ等の搬入などを行った。８日より重機による掘削を開始し、着手報告は平成23年８月12日に富士吉田市教育委員会教育長名で提出した（富23歴文発第200号）。

前述のとおり、発掘調査は４面の遺構確認を実施する計画で開始し、また都合３区画を調査することになったが、これまでの成果と掘削した状況を考察しながら段階的に調査を進めた。最終的にはＡ区３段階、Ｂ区２段階、Ｃ区５段階の遺構確認を行い、調査面積は延べ1400㎡となった。

本遺跡は厚い火山灰に覆われた土壌のため、各時代の確認面までの掘り下げには重機を使用しながら調査を進めなければならず、３調査区同時に着手することになった。しかし、各調査区ごとに状況を考慮しながら段階的に進めることができた結果、縄文時代中期末の遺構面を検出することができたといえる。今回の調査では、重機による掘削が調査の進展状況を示す段階的な指標になったことから、これに合わせて発掘調査の経過を示すことにする。

調査経過

重機による１回目の掘削　各調査区の表土剥ぎを実施した。堆積状況からＡ区全体とＢ区の大半は埋没した河道であることが判明し、またＣ区北側は水田（もしくは河川による削平）によって弥生時代の土層面まで掘削されていることが明らかとなった。平安時代の土層面が確認できたのはＣ区南端のSI1周辺のみであった。それより北側ではSI4以外に弥生時代よりも新しい時代の生活面は確認できず、古墳時代に流出したとする檜丸尾第１熔岩流や、河川（大沢川）の影響によるものと推定した。また、この段階で檜丸尾第１溶岩流による焼土層が確認できたことから、市教委担当者との協議により、調査とあわせて火山灰分析を実施することとなった。

重機による２回目の掘削　Ａ区では縄文時代の土層面までの掘り下げ、Ｂ区では河床部の確認、Ｃ区では弥生時代の土層面までの掘削を行った。Ｂ区と同様に旧河道と推定したＡ区であったが、H19年度の調査深度まで掘り下げたものの、遺物の出土は少量であった。Ｃ区ではSI2・３とした弥生時代前期の土器片が集中する遺構を確認した。また、弥生時代よりも新しい時代の面は確認できなかったＣ区北側では、平安時代の竪穴住居跡（SI4）を検出した。なお、同段階の面でも縄文時代中期の遺物が散在したが、河川の影響によるものと推定した。

重機による３回目の掘削　Ｃ区の縄文時代の土層面までの掘削を行った。遺物は少なく、明確な遺構は確認できなかった。人力による精査で加曽利E4式の深鉢片〔202〕（SX1）の出土と、これを包含していた基10層が北側へ落ち込んでいく状況（後に下層の基11層面の堆積の違いと判明）を確認した。この落ち込みにサブトレを設定して掘り下げたところ、砂質土中に遺物が散在する状況（SX3）を確認した。

重機による４回目の掘削　Ｂ区で河床下の土層確認と、Ｃ区でSX3の掘り下げを行った。SX3については曽利Ⅴ式段階を主体とする遺物が出土し、大半は人力で掘り下げた。なお、Ｂ区河床下の土壌観察では２層目の火砕サージ推定層を確認することができた。またＣ区北側の東壁際に設置したサブトレから曽利Ⅱ式

上中丸遺跡発掘調査日誌

月日	作業内容	重機
7/15	事前打ち合わせ１ 研究所	
7/25	現地打ち合わせ	
7/27	事前ミーティング１ 歴史民俗博物館	
7/29	事前打ち合わせ２ 研究所	
8/3	事前ミーティング２ 歴史民俗博物館	
8/5	現地調査区測り出し機材搬入開始 作業員打ち合わせ３ 歴史民俗博物館	
8/8	調査開始周辺環境整備（プレハブ設置場所の整地水道・下水道管埋設確認）A区掘り下げ	0.45
8/9	A区精査、写真撮影 B区表土剥ぎ、精査開始	0.45
8/10	A区 分層作業 B区 精査、写真撮影C区表土剥ぎ、精査開始 基準点設置檜丸尾第１溶岩流の火山灰層を確認	0.45
8/11	A区 セクション実測B区 遺物取り上げC区 精査	0.45
8/12	A区 セクション土説B区 精査 C区 精査遺物取り上げ、全景写真SI1検出	0.45
8/16	C区 撹乱抜き、畑溝掘削	
8/18	C区 撹乱抜き、畑溝掘削、浄瓶出土位置精査、断面確認 市担当と現地確認通行止め部分を確認していただく	
8/19	C区 撹乱抜き、近世溝掘削、セクション写真記録	
8/22	作業休み	
8/23	C区 撹乱抜き、近代溝掘削、セクション実測	
8/24	C区 近代溝完掘セクションC区南端サブトレセクション A区 崩落土除去	
8/25	雨天、現場整理作業	
8/26	B・C区 精査	
8/29	B・C区 精査SI1・SD1確認	
8/30	B・C区 精査SI2確認	
8/31	B・C区 精査掘り下げ	
9/1	台風対策現場確認	
9/2	雨天のため作業中止	
9/5	現場確認、室内基礎整理	
9/6	B・C区精査掘り下げ	
9/7	B・C区 遺構掘り下げ	
9/8	A・B・C区 掘り下げSI3確認SI1完掘 ポール撮影による写真測量	0.15
9/9	B・C区 掘り下げ 市担当者に深堀状況と車両通行止めを確認してもらう	0.15
9/10	B・C区 掘り下げ	0.15
9/12	B・C区 掘り下げ	
9/13	B・C区 掘り下げ SD2・３（SD1掘り残しか）確認	
9/14	B・C区 掘り下げ B区 旧河道河床を確認	
9/15	B・C区 掘り下げ	
9/16	A区 トレンチセクション撮影 B・C区 掘り下げ	
9/19	B・C区 掘り下げ	
9/20	雨天室内整理 見学会打診あり	
9/21	雨天室内整理	
9/22	C区 精査 SD4確認	
9/24	C区 清掃・精査 SI2・3完掘	
9/25	C区 清掃・精査	
9/26	ポール撮影による写真測量	
9/27	A・B区 重機掘削 C区 遺構掘り下げSI4確認	
9/28	A・B区 重機掘削旧河道河床下確認 C区 遺構掘り下げ	
9/29	C区 重機掘削 SX1 検出	0.45
10/1	重機掘削 A区 掘り下げB区旧河道埋め戻し	0.45
10/3	A・C区 精査A区南端で平安時代の遺物が混在する落ち込み確認 B区 北端部断ち割り	
10/4	A区 遺構実測C区 精査 土壌分析実施（上杉氏現場調査）	
10/5	雨天半日整理作業 土壌サンプル採取	
10/6	C区 精査、遺構掘り下げ 複数のPit（木根跡か）検出	
10/7	A区 復旧 C区 精査、遺構掘り下げ	

月日	作業内容	重機
10/12	C区 精査、掘り下げ A・C区 ポール撮影による写真測量 現地見学会日程決定	
10/13	A・C区 掘り下げ A区中央部で縄文時代の遺物が混在する落ち込みを確認	
10/14	A・C区 掘り下げ A区中央部は河川堆積の一部と断定C区SX3確認	
10/17	A・C区 掘り下げ C区 SX3を自然流路の一部と断定	
10/18	A・C区 掘り下げ A区 完掘	
10/19	C区 掘り下げ	
10/20	C区 掘り下げ	
10/21	C区 掘り下げ	
10/24	C区 北端部、重機による掘り下げ	0.15
10/25	C区 北端部、重機による掘り下げ SX2確認	0.15
10/26	C区 掘り下げ サブトレで下層面を確認	
10/27	C区 掘り下げ	
10/28	C区 掘り下げ見学会準備	
10/29	見学会（参加者80名） 午後、SX2遺物取り上げ、実測	
10/31	C区 掘り下げ	
11/1	C区 掘り下げ	
11/2	C区 掘り下げSX3完掘 調査区全景ラジヘリ空撮測量（テクノプランニング）	
11/4	A区埋め戻しB区一部埋め戻しC区重機掘り下げ	0.45
11/5	重機掘り下げ	0.45
11/7	精査、遺構掘り下げ、実測	
11/8	遺構掘り下げ、実測 SI5、SK1～6確認	
11/9	遺構掘り下げ、実測ポール撮影による写真測量 土壌剥ぎ取りSK1～4完掘	
11/10	土壌剥ぎ取り作業 遺構実測、埋め戻し開始SI5、SK5・6完掘	0.45
11/11	SI5観測作業終了後、埋め戻し発掘調査完了 撤収作業倉庫・トイレ引き上げ	0.45
11/12	撤収作業、道具整理 プレハブ引き上げ	
11/13	埋め戻し	0.45
11/14	埋め戻し遺物洗浄開始	0.45
11/15	現場図面、遺物確認遺物洗浄、データ整理 発掘調査、作業終了	
11/16	整理作業開始 図面整理、データ修正 遺物洗浄	
11/17	遺物洗浄、データ修正、整理	
11/18	遺物洗浄、データ修正、整理 概要報告作成	

段階の遺物が確認できたことから、さらに下層に遺構が存在する可能性が生じた。

重機による５回目の掘削

最終面の調査では、Ｃ区の調査状況を考慮して再度Ａ区の掘り下げを実施した。Ａ区では明確な遺構とは判断できなかったが、縄文時代の遺物が混在する落ち込みと、平安時代の土師器が混在する土坑上の落ち込みを確認した。Ｃ区では縄文時代中期の竪穴住居跡１軒、土坑６基を検出した。今回の調査では計画より１面多く遺構確認を実施したため、予定していた重機使用量、写真測量回数を超えることになった。費用に関しては予算枠内で調整し、調査期間のみを延長したことで、平成23年11月16日に発掘調査を終了した。

その他、各調査の時期や期間等の詳細については、前頁に掲載した調査日誌を参照されたい。

整理報告

現場作業終了後より基礎整理として出土遺物の洗浄･分類、遺構･遺物データの整理･保管作業を開始した。これとあわせて調査概要報告書をまとめ、平成23年11月28日付けで市教育委員会へ提出した。調査後の手続きについては、市教育委員会教育長名で富士吉田警察署へ埋蔵文化財発見届（富23歴文発第298号）を平成23年11月21日に提出し、同じく山梨県教育委員会へ埋蔵文化財保管証（富23歴文発第299号）を平成23年 11月21日、調査終了報告（富23歴文発第315号）を平成23年12月６日付けで提出した。

報告書の作成にあたっては、遺物の洗浄・注記・接合・実測図作成・写真撮影、遺構図の編集・図版作成、報告書原稿執筆・編集作業と順次実施した。今回の調査では、調査期間の延長や檜丸尾第一溶岩流下および市内初の検出事例となった縄文時代中期後半の竪穴住居跡から炭化物が採取されたことから、年代分析と富士火山灰のテフラ分析等をあわせて実施したことで、作業期間を平成24年９月28日までとする変更契約を行った。なお、2012年４月からは公益財団法人山梨文化財研究所となり、引き続き整理報告業務を実施して平成 24年９月15日に本報告書を刊行した。

その後、報告書の発送作業等を行い、平成24年９月28日までに調査に係るすべての業務を終了した。なお、埋蔵物の文化財認定及び出土品の帰属については、平成23年12月５日付け教学文第2298号で山梨県教育委員会から富士吉田市教育委員会教育長宛に通知された。今後は調査記録とともに富士吉田市教育委員会で保管される予定である。

第４節　基本層序と遺構確認面について

本調査における基本層序は、テフラ分析の所見を基に23段階（盛土層を除く）とし、これに現場観察の所見を対応させた。現場での土層観察については、河川と熔岩流の影響から各地点で様相が異なったため、調査後整理作業において観察記録とテフラ分析の成果の対応関係について精査・検討し、第３図と表１にまとめた。テフラ分析と現場観察においては、対応する層序の土色観察が異なる不備が生じてしまったが、検出した遺構の観察記録との兼ね合いもあるためそのまま表示した。遺構確認面および各層の時期については表２にまとめた。

テフラ分析と基本層序について

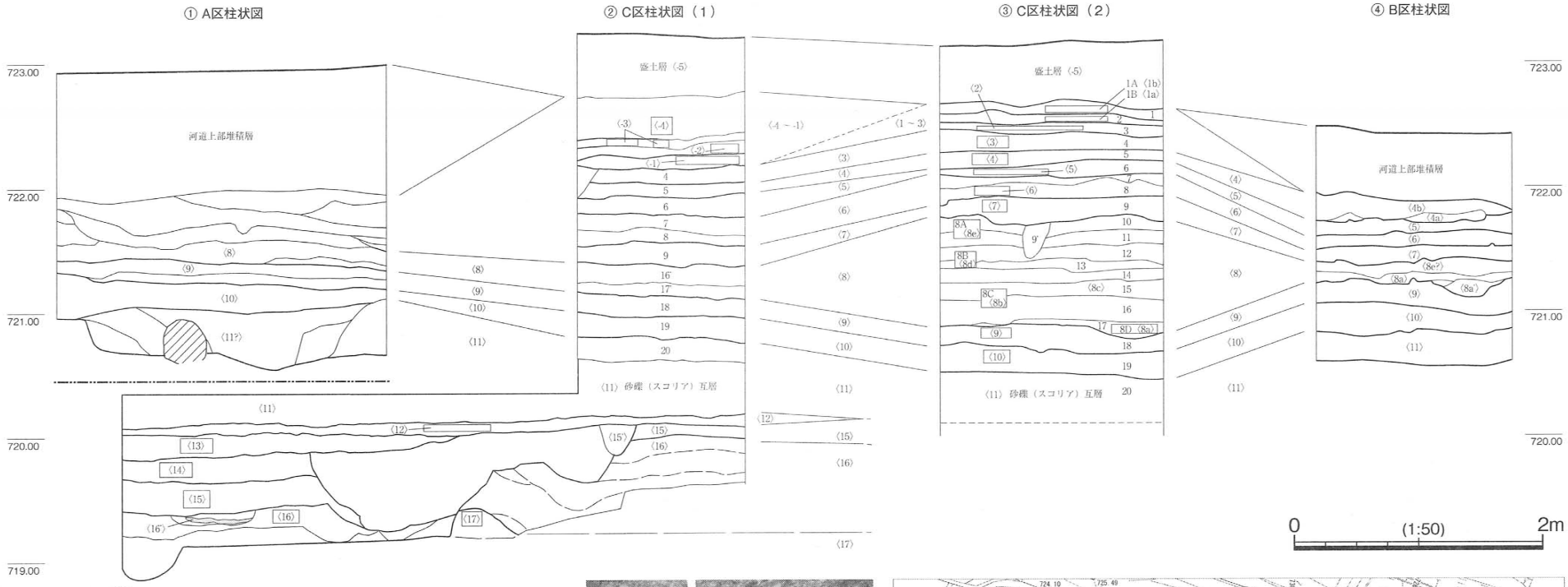
テフラ分析については、都留文科大学名誉教授の上杉陽氏に依頼した。調査中２度にわたって調査を実施していただき、その成果については上中丸遺跡第１次調査の発掘報告でまとめられる予定である。本書では表１で上杉氏の所見にあわせ、現場での土層観察に対応する番号を示した。現場での土層確認については、各調査区ごと、計５箇所で観察を行った（第３図①～④、Ｃ区深堀）。このうちテフラ分析については②・③およびＢ区旧河道でサンプルを採取した。

基本層序については、③で確認した檜丸尾第１溶岩流を０、熔岩流によって焼土化した土層を第１層とし、上位から第17層までを付番した。②では、１よりも上位に位置する弥生時代以降の層が確認できたことから、第－１層、－２層・・として表記した。なお、複雑な堆積状況のため、第８層のように土層観察で10～17に細分される部分については、基本層序としたテフラ土層を『基〇層』、図中等では『〈〇〉』と表記し、対応関係を示しているので、ご留意頂きたい。

表１　テフラ土層観察・対応表

地層番号	層厚(cm)	試料の有無	地層の色調等	肉眼的諸特徴	推定テフラ層位	時代観など	基本層序	C区観察対応No.
256.072-(-5)	50±	なし	締まった灰白色砕石層	背後の檜丸尾第1熔岩などの硬岩の砕石圧密人工礫層(自動車道路用)		21世紀	〈-5〉	盛土
256.072-(-4b)	35-25	なし	締まった暗褐色畑地耕作土～盛土	腐植質スコリア質充填物中に、檜丸尾第1熔岩塊転石などを含む		20世紀　人工的なガラス片(0.5×5cm)含む	〈-4〉	－
256.072-(-4a)	10～25	なし	締まった暗褐色旧水田土？	腐植質粘質水田用盛土(旧鋤床層など)？				－
256.072-(-3)	7	なし	ふかふかした未固結暗黄褐色火山灰土層	細砂径中心スコリア質充填物中に径3～4センチの熔岩塊や粗砂サイズのスコリア片を含む			〈-3〉	－
256.072-(-2)	10	有り	ふかふかした未固結暗褐色～黒褐色(7.5YR3/4)火山灰土層.一部は弱く固結。	スコリア質充填物中に微小な斜長石結晶を含む緻密な熔岩片(径2～3cm)や赤褐色スコリア片(径ミリ前後)を含む。	S-24-7AB以降	包含する熔岩塊は檜丸尾第1熔岩塊ばかりではなくではなく、より新しい檜丸尾第2熔岩塊(西暦802年頃)をも含む。考古学的には10世紀以降と推定されるとのこと(望月秀和氏)	〈-2〉	－
256.072-(-1)	10	有り	黄褐灰色火山灰土	スコリア質充填物中に、径3～4cmの熔岩塊や風化して脆くなったスコリア片を含む	S-24-3～S-24-6	弥生時代の遺物を含む(望月秀和氏)	〈-1〉	－
概略1700yrs. BPの檜丸尾第1熔岩流出時には、本露頭西側に旧桂川が流れ、本露頭一帯は東側ほど地表が高く、住居地としやすかったと思われる。溶岩流が旧桂川を埋めたため、東側地域は埋立湖地帯となり、小佐野川が堰止湖の水を排出した。この小佐野川に向けて、檜丸尾溶岩台地の東側の縁が削られ、いくつかの小凹地(旧河道256.08地点など)が発生した。								
256.071-0	350±	なし	青黒灰色熔岩	最大径２㎜前後、並みの粒径が１㎜前後の斜長石を面積比で30％近くまで含む黒灰色熔岩	S-24-3	檜丸尾第１熔岩(1700yrs. BP頃)	〈0〉	0
256.071-1AB	20	有り	上半は暗赤色10R3/6　焼土(7.5YR3/4)下部は暗赤色～黒褐色の腐植質火山灰土。	最上部には直上の檜丸尾第１熔岩で焼かれた当時の地表部の土壌層起源と思われる赤褐色泥層がある。また、局部的に焼け残った黒色の炭化物がある。上部は暗赤色(10YR3/6)に高温酸化した最大径１５㎜、並みの粒径3～５㎜程度の長柱状から扁平～球形のスコリアがある。下部には高温酸化が目立たない暗褐色(7.5YR3/4)の最大径７㎜、並みの粒径１㎜のねじれた柱状スコリアがある。	S-24-2～1	概略2000～1700yrs. BP頃、弥生時代中期以降	〈1〉	1,2
256.071-2	5	有り	暗褐色～黒褐色(7.5YR3/2～3/3)の腐植質火山灰土	最大粒径は５㎜、並みの粒径５～１㎜。黒色スコリア、赤褐色スコリア、赤紫色スパターなどを含む。	S-24-1～S-23-1～2	概略2000～2200年前頃、弥生時代中期から前期か？	〈2〉	3
256.071-3	18	有り	締まった粘質黒褐色(7.5YR2/2)火山灰土	腐植質火山灰質充填物中に、ほとんど芯まで風化した大きな気孔が多数ある赤褐色～やや赤みがある黄褐色スコリア(径10㎜前後)や赤褐色～赤紫色スパターを含む。	S-22～S-18?	概略2200yrsBPのS-22(湯船第2スコリア：YU-2)からS-18(概略2,300yrs. BP)までか？ これらは山頂部一帯では厚く降りつもり溶結火砕岩を構成する。	〈3〉	4
256.071-4	14	有り	締まった黒褐色(7.5YR3/2)腐植質火山灰土	腐植質火山砂質充填物(赤紫色スパター砂、黄褐色スコリア砂・斜長石結晶)中に黒色～黄橙色微細気孔スコリア礫(径20-10㎜)を含む	S-17～16	概略2300～2700yrs. BPの縄文晩期の赤味が目立つ火山砂層である。腐植が薄い部分では、赤砂帯～黄粉色火山灰帯になる。	〈4〉	5
256.071-5	10～5	有り	やや締まった暗褐色～灰黄褐色の腐植質火山灰土	最上部は暗褐色腐植質火山灰質充填物で構成され、上部～下部は褐色～黒褐色(10YR3/3～3/1)の気孔径が0.5㎜以下の微細気孔の隔壁の頑丈なやや青味～灰色味がある堅い褐色(10YR4/6)あるいは黒褐色(10YR3/1)スコリア(径6～1㎜)で構成される。	S-15～S-12' (大室スコリア層)	大室スコリアは概略2900yrs. BPの北西側側火山大室山からの噴出物。	〈5〉	6
256.071-6	25～15	有り	上半は黒褐色～極暗褐色(7.5YR2/2～2/3)の粘りの弱い腐植質火山灰土、下半は火山砂礫	赤褐色～赤紫色スパター・黒色コークス状スコリア・斜長石結晶などで構成される充填物中に、橙色細気孔スコリア(径20-10㎜)がある。皮膜の薄いややねじれた短柱状スコリアが目立つ。	S-11～S-12？ 忍野スコリア層	概略3000yrs. BP.北麓～北東麓で忍野スコリアと呼称さるテフラ層の模式地は忍野村笹見原遺跡。東麓スギナ沢を模式地とするS-11スコリア層はa～ｆユニットで構成される。本層は、そのうちの相対的に気孔が多く軽いcユニット以上で構成されているのか、あるいは道志川方面で二枚認められるＳ-12期スコリア層の下位テフラに相当するのであろう。	〈6〉	7,8
256.071-7	20～25	有り	黒褐色～暗褐色腐植質火山灰土	スコリア質～岩片質の火山砂質充填物中に、赤褐色細気孔スコリア(径10㎜前後)、黒紫色微細気孔スコリア(径10㎜前後)、サイコロ状熔岩片(10㎜前後)を含む。	S-10-2？～S-11？	本層は下位の第8層と漸移的な関係にあるので、第8層の最上部である可能性もある。	〈7〉	9

地層番号	層厚(cm)	試料の有無	地層の色調等	肉眼的諸特徴	推定テフラ層位	時代観など	基本層序	C区観察対応No.
256.071-8	100前後	有り	灰色～灰黒色～暗褐色火山砂礫・砂泥互層	大きくは下位よりA～Fまでのフローユニットで構成される。最下部Aユニットは暗褐色(7.5YR3/3)のシルト～極細砂で構成され、内部に波状～渦状の多数の葉理面があり、面上に、微小な炭化物が並ぶことがある。この部分は火砕サージ堆積物である可能性が高い。 これを切るその上位のBユニットは、6枚のマイクロユニットで構成される砂礫から始まり、細砂で終わるユニット群である。一部は固結している。赤色コークス状及び黒色コークスのスコリア片や、斜長石結晶が多い。 Cユニットは上述の物質で構成される砂礫層で、同じく泥を含まないが、やはり固結している。固結原因は不明。 Dユニットは最下部が熔岩礫・スパター礫・スコリア礫で構成され、中部～上部は数枚の固結した中～粗砂ユニットである。泥を含まないが固結している。BCDユニットは低温で焼結した火砕流起源である可能性を残す。天城火山カワゴ平火口起源のねじれた柱状気孔束で構成されるカワゴ平軽石(KGP)を含む。 　これらを切る最上部Fユニットは融雪洪水～土石流堆積物で径10～30cmの熔岩礫を含む。	S-11～10-1?	概略3100yrs. BP.縄文時代後期の前半と後半を分けるテフラである。北麓では最下部に重くて硬い無気孔～微細気孔のスコリア層がある。ここではサージ堆積物などで浸食されてしまったのであろう。	〈8〉	10～17
256.071-9	25～10	有り	極暗褐色(7.5YR2/3)粘りのある腐植質火山灰土	赤紫色スパター・黒色スパター・黄褐色スコリア・斜長石結晶起源の砂質充填物中に黒紫色～暗黄褐色球形微細気孔スコリア(径20-10㎜)等を含む	S-9～7？	概略3200yrsＢＰ以前。縄文時代後期前半に当たる。	〈9〉	18
256.071-10	15～25	有り	黒褐色～褐色(10YR2/3～4/6)の締まった火山灰土	腐植質火山灰質充填物中に、富士系の緻密な円磨熔岩礫や黒褐色細気孔スコリア(径10㎜前後)を含む。	S-6-2～4	やや黄味がある土層。縄文中期後葉加曽利E4式土器を含む(望月秀和氏)	〈10〉	19
256.071-11	100+	なし	灰色未固結～固結砂礫互層	平行葉理～斜交葉理面で構成される砂層および砂礫層である。固結砂層部がある。一部は径20－10㎜の円磨スコリア礫で構成される。	S-6-2～4	238.30(上中丸遺跡南地区)では、本層に相当する11層上面から径１５㎝ほどの縄文中期末？の加曽利利E4式土器が検出されている(布施光敏氏)	〈11〉	20
256.071-12	10～0	有り	灰黄色固結火山灰	下部に微細な炭化物を含む極細砂～シルト径のやや赤みが残る灰黄色固結火山灰火砕サージ噴出物起源である可能性がある。	S-6-2～4	地表部に沿って高速で走り、下位層を薄く削る傾向がある。	〈12〉	－
256.071-13	20～15	有り	青黒色～緑黒色	重くて硬い青黒色～緑黒色～赤褐色のスコリア(最大径５０㎜、並みの粒径20～30㎜のスコリア群とやや高温酸化～熱水変質を受けた脆い赤黄褐色～黄褐色のスコリア群(最大径10㎜、並みの粒径5～1㎜)が混在する。最大径７０㎜に達する剥片状溶岩片をも含む。なお最上部は薄い暗褐色腐植層	S-6-1(RⅡ)		〈13〉	－
256.071-14	15～0	有り	褐色	黄緑色スコリア(最大径10㎜、並みの粒径5～1㎜)で構成され、最上部に薄い暗褐色腐植質スコリア質火山灰層がある。	S-5'		〈14〉	－
256.071-15	30～0	有り	赤黄褐色～赤褐色～緑黄色	最下部に粒径10～5㎜の黒灰色～赤褐色スコリアとやや熱水変質気味のオレンジ色スコリア(粒径3～1㎜)がある。下部～上部に同系統の2群のより粗粒なスコリア群がある。黒灰色～赤褐色系は最大径は25㎜、並みの粒径10㎜。オレンジ色系は5～1㎜である。	S-5=RⅠ	4500～4300yrs. BP	〈15〉	－
256.071-16	35～25	有り	黒色腐植層	円磨熔岩礫などを含む。	S-4以下	最上部に曽利Ⅳ	〈16〉	－
256.071-17	20以上		青灰色～黄灰色湖成層	砂泥互層中心	S-4以下		〈17〉	－



〈-4〉 : − 旧地表　粘質土。
〈-3〉 : − 10YR3/3 暗褐　径0.5cm大のスコリア混。
〈-2〉 : − 10YR3/3 暗褐　径0.5cm大のスコリア混。平安期層。炭化粒含。
〈-1〉 : − 10YR3/3 暗褐　径0.5cm大のスコリア混。ややしまり弱。
〈0〉 : − 溶岩・砕石盛土層　桧丸尾第1溶岩（最下面）および調査前砕石盛土面。
〈1b〉 : 1 10YR4/6 褐　径1〜2mm大のスコリア堆積。被熱により焼土化。
〈1a〉 : 2 10YR3/2 黒褐　径1〜2mm大のスコリア堆積。
〈2〉 : 3 10YR3/2 黒褐　粘質土。炭化粒少含。スコリア含まず。
〈3〉 : 4 10YR2/3 黒褐　径2〜3cm大の礫混。
〈4〉 : 5 10YR2/2 黒褐　砂層互層。赤色スコリア（径0.5〜2cm大）少混。大室スコリア。
〈5〉 : 6 10YR2/3 黒褐　砂礫層。径0.5cm大の礫混。
〃 : 7 7.5YR4/3 褐　炭化粒少含。忍野スコリア。
〈6〉 : 8 7.5YR3/3 暗褐　径1cm大のスコリア多混。忍野スコリア。
〈7〉 : 9 10YR3/3 暗褐　砂質土。スコリア混。
〈8e〉 : 10 スコリア層　径0.1〜0.8cm大のスコリア混。
〃 : 11 10YR3/3 暗褐　スコリア含。砂質土。
〈8d〉 : 12 10YR3/3 暗褐　砂礫層。径1cm大の礫混。
〃 : 13 砂層　径5cm大の礫混。粒子やや粗。
〃 : 14 砂層　互層。砂粒細かい。径1〜2mm大のスコリア混。
〈8c〉 : 15 10YR2/3 黒褐　砂質土。5mm大スコリア多含。
〈8b〉 : 16 10YR3/3 暗褐　砂質土。褐灰色砂との互層。5mm大スコリア多含。遺物包含。
〈8a〉 : 17 10YR3/3 暗褐　火砕サージ推定層。炭化粒含。粒子細かい。しまり極強。
〈9〉 : 18 10YR3/2 黒褐　径1cm大のスコリア混。
〈10〉 : 19 砂礫層　径0.5cm大のスコリア多含。やや粘質。径15〜20cm大の礫混。
〈11〉 : 20 10YR3/3 暗褐　砂質土。径0.5cm大のスコリア混。
〈12〉 : − 10YR3/3 暗褐　火砕サージ推定層。焼土・炭化粒含。スコリア丸粒混。
〈13〉 : − 10YR3/3 暗褐　1〜2.5cm大のスコリア混。大粒。炭化物多含。
〈14〉 : − 10YR2/1 黒　径0.5cm大のスコリア混。粘質土少含。炭化粒含。住居内堆積土。
〈15〉 : − 10YR2/1 黒+10YR3/3 暗褐　径0.5〜0.8cm大の黒色スコリア、径0.1〜0.3cm大の黄褐色スコリア混。
〈16〉 : − 10YR3/1 黒褐　炭化粒多含。住居内堆積土。16'10YR4/6褐 埋没後の火床跡。遺物出土。
〈17〉 : − 10YR3/3 暗褐　粒子細かい。径0.5cm大のスコリア微含。

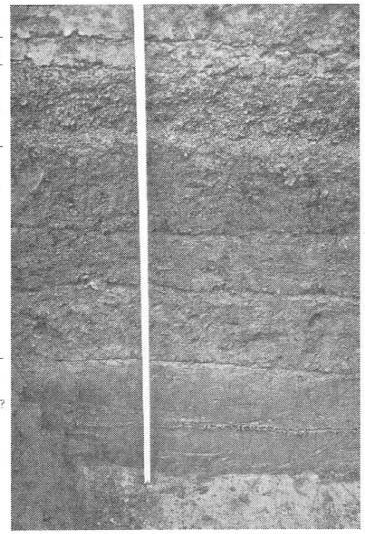
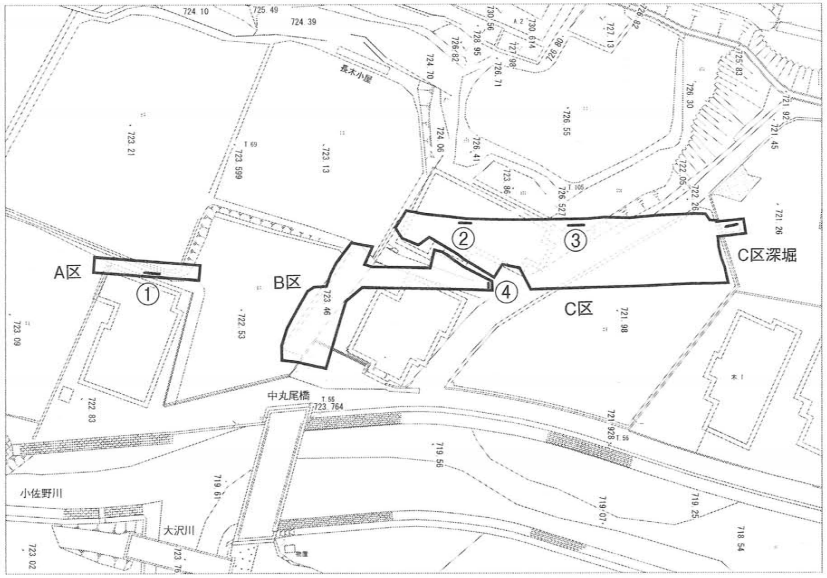


写真　C区深堀　基16層下堆積状況



第３図　基本層序

各調査区の対応関係について

土層観察においては、第３図①・④で示すように旧流路上に堆積する褐色土層を確認した。平成19年度に実施した上中丸遺跡第１次調査南区においても旧流路の痕跡が確認されている。今回の調査では、同区に隣接したＡ区とともに、Ｂ区でも同様の堆積状況がみられ、同じ流路上に位置するものと推定した。①・④については、この流路跡によって基８層より上層の対応関係は判然としない。また、③・④の対応関係についても、基４層以上は流路による堆積土となっており、平安時代以降の土層面が削平されていた。最下層とした第17層については、調査成果から曽利Ⅱ式段階以前と比定したが、発掘調査の最終段階にＣ区北端においてさらに深堀を実施し、基16層の表層から約1.2ｍまで掘り下げた（第３図写真）。これについても土壌サンプルを採取し、テフラ分析を実施している。その他、詳細については表１を参照されたい。

表２　遺構検出面および土層時期一覧

基本層序	遺構確認面・時期	検出遺構	出土遺物	推定テフラ層位	地層番号
〈-2〉	Ｃ区第１面(平安時代)	SI1,(SI4)	甲斐型土器(10世紀)	S-24-7AB以降	256.072-(-2)
〈0〉	檜丸尾第１溶岩流(古墳時代)			S-24-3	256.071-0
〈1〉	檜丸尾第１溶岩流による焼土面			S-24-2～1	256.071-1AB
〈3〉	Ｃ区第２面(弥生時代前期後葉)	SI2, SI3	柳坪式	S-22～S-18?	256.071-3
〈5〉	(大室スコリア層 概略2900yrs. BP.)			S-15～S-12'	256.071-5
〈6〉	忍野スコリア層 概略3000yrs. BP.			S-11～S-12？	256.071-6
〈7〉	(縄文時代後期)	(土坑)		S-10-2？～S-11？	256.071-7
〈8〉	火砕サージ推定層１層目		(称名寺式)	S-11～10-1?	256.071-8
〈10〉	Ｃ区第３面(縄文時代)加曽利E4式段階	SX1	加曽利E4式	S-6-2～4	256.071-10
〈11〉	Ｃ区第４面(縄文時代)曽利Ⅳ式新～Ⅴ式中段階	SX2, SX3,(SK1,SK4)	曽利Ⅴ式古～中段階頃	S-6-2～4	256.071-11
〈12〉	火砕サージ推定層２層目			S-6-2～4	256.071-12
〈15〉	(下層直上に 曽利Ⅳ式古段階),曽利Ⅴ式古段階	(SI5), SK6	(曽利Ⅳ式),曽利Ⅴ式	S-5=RⅠ	256.071-15
〈16〉	Ｃ区第５面(縄文時代)曽利Ⅱ式(Ⅳ式古)段階	SK2, (SI5)	曽利Ⅱ式,(曽利Ⅳ式)	S-4以下	256.071-16
〈17〉	曽利Ⅱ式以前			S-4以下	256.071-17

第２章　遺跡の位置と歴史的環境

第１節　遺跡の位置と地理的環境

遺跡の位置と周辺環境

上中丸遺跡は、富士吉田市小明見に所在する。同市は山梨県の南東端に位置し、富士山から流下した溶岩や土石流によって形成された火山扇状地帯にあたる。市域には梨ヶ原といわれる裾野原野を含み、北は甲府盆地との境をなす御坂山地の主峰のひとつである三ッ峠山（標高1,785m）の尾根、東は道志山地西端の杓子山（1,597.6m）に続く尾根で限られ、南は富士山頂直下より東の籠坂峠に至るライン、西は富士山頂より剣丸尾溶岩を辿りながら三ッ峠山頂へ向かうラインを境としている。市街地の地形については、北東に狭まる漏斗状を呈した傾斜面であり、標高約652～850mに展開している。市街地の東側には、檜丸尾とよばれる溶岩台地があり、山中湖と忍野村の湧水を水源とする桂川が北東の西桂町・都留市方面へ流れている。

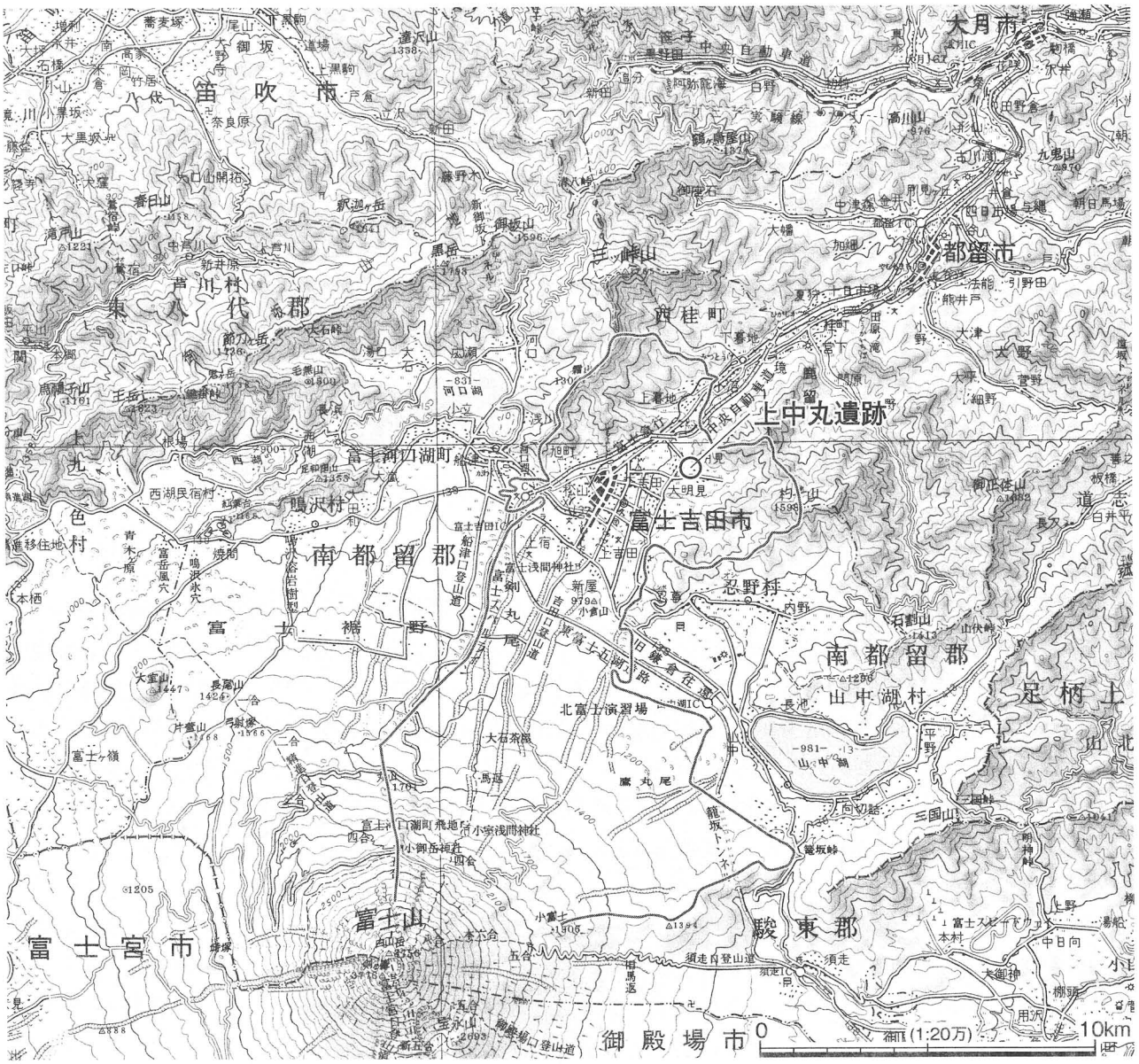
本遺跡が所在する小明見は市域の北東にあたり、調査地点の標高は約722m、富士山頂からの距離は約17.6kmを測る。調査区の西側は約1500年前に流出したとされる檜丸尾第１溶岩流による段丘面となっており、東側は市域を南流してきた小佐野川と丹沢山地から西流してきた大沢川の合流地点にあたる。なお、調査前より地形・地質の変化に富んだ地域であることは予想していたが、調査開始後に檜丸尾第一熔岩流による焼土層を確認することができ、富士山の火山活動を知る希少な環境であることが判明したことから、火山灰分析・炭化物年代測定等をあわせて実施した。

第２節　歴史的環境

周辺の遺跡について

第５図では上中丸遺跡周辺に分布する主な遺跡を示した。富士吉田市史では縄文時代早期から中・近世まで52遺跡があげられている。これまでに詳細な報告がなされた発掘調査については池之元遺跡･古屋敷遺跡･上暮地新屋敷遺跡とまだ少ない。遺跡の分布からは、御坂・道志両山地の山裾部の緩斜面や河川に沿う狭小な台地上に点在し、平坦地となっている市内中心部が土石流や溶岩で厚く覆われているため、遺跡の実態は

山梨県
釜無川
笛吹川
桂川
上中丸遺跡
富士山
富士吉田市
0
20km
山梨県


大月市
笛吹市
都留市
東八代郡
芦川村
西桂町
上中丸遺跡
富士河口湖町
富士吉田市
鳴沢村
南都留郡
富士山
富士宮市
駿東郡
御殿場市
0
10km
(1:20万)

第４図　遺跡の位置

まだ十分に明らかにされていない状況といえる。なお、池之元遺跡や古屋敷遺跡といった山裾部の斜面に形成された遺跡では、ほぼ縄文時代早期～中世までの長い期間継続する傾向がみられ、同地域の中心的な集落を担ってきたことが窺える。

本遺跡周辺では、剣丸尾第１溶岩流および檜丸尾第１溶岩流から外れた位置において遺跡が確認されている。さらに北側の西桂町・都留市では、猿橋溶岩及び桂溶岩により形成された溶岩台地上に縄文時代から中近世までの多数の遺跡が確認されている。なお、本遺跡では今回の調査で富士山の火山活動による直接的な影響を受けた地域においても、縄文時代中期末～中近世までの期間に富士火山の活動によって断続的に土地利用されてきた状況を確認した。以下、周辺における遺跡について、各時代ごとにまとめておく。

縄文時代

富士吉田市内においては縄文時代早期・前期の遺構・遺物が確認されている。早期では池之元遺跡や上暮地新屋敷遺跡をはじめ、市内11遺跡（５・９・10・13・24・25・27・28・39以下同）において遺構・遺物の報告がされている。富士北麓は、県内においても縄文早期の遺跡が多数確認される地域であり、なかでも上暮地新屋敷遺跡では打越式のまとまった資料が検出された希少な事例として知られている。前期では古屋敷Ａ遺跡、御輿休場遺跡（5）で小竪穴、土坑などが検出されているが、竪穴住居跡は確認されていない。

今回の調査で確認した縄文時代中期後半以降では、御輿休場遺跡、奥薄久保遺跡（9）、古屋敷Ａ遺跡、長日向遺跡（13）、池之元遺跡、干草場遺跡（27）、西沢遺跡（28）、大佐須遺跡（37）、上暮地新屋敷遺跡と、遺物の出土事例は多いが、前期と同様に竪穴住居跡は確認されておらず、集落分布の検討も課題のひとつとなっている。なお、後期では池之元遺跡で堀之内２式の敷石住居跡など集落跡が確認される他、干草場口遺跡（26）、西沢遺跡、道祐遺跡（30）、古屋敷Ａ遺跡などで遺物が出土している。

弥生時代

本遺跡では、「苅谷原・柳坪式」に比定する弥生時代前期後葉の遺構・遺物を検出した。県内における同時期の調査事例としては、北杜市長坂町柳坪遺跡、韮崎市宮ノ前遺跡があり、郡内においては富士河口湖町宝司塚遺跡、同島原遺跡などが知られている。近年では都留市天正寺遺跡、同玉川金山遺跡があげられるが、遺構・遺物ともに未だ希少で、同段階における住居形態についての検討など、課題が多いといえる。なお、詳細な時期は明確ではないが、古屋敷Ａ遺跡、山神戸遺跡（12）、池之元遺跡、西沢遺跡、上暮地新屋敷遺跡で遺物が出土している。

古墳時代

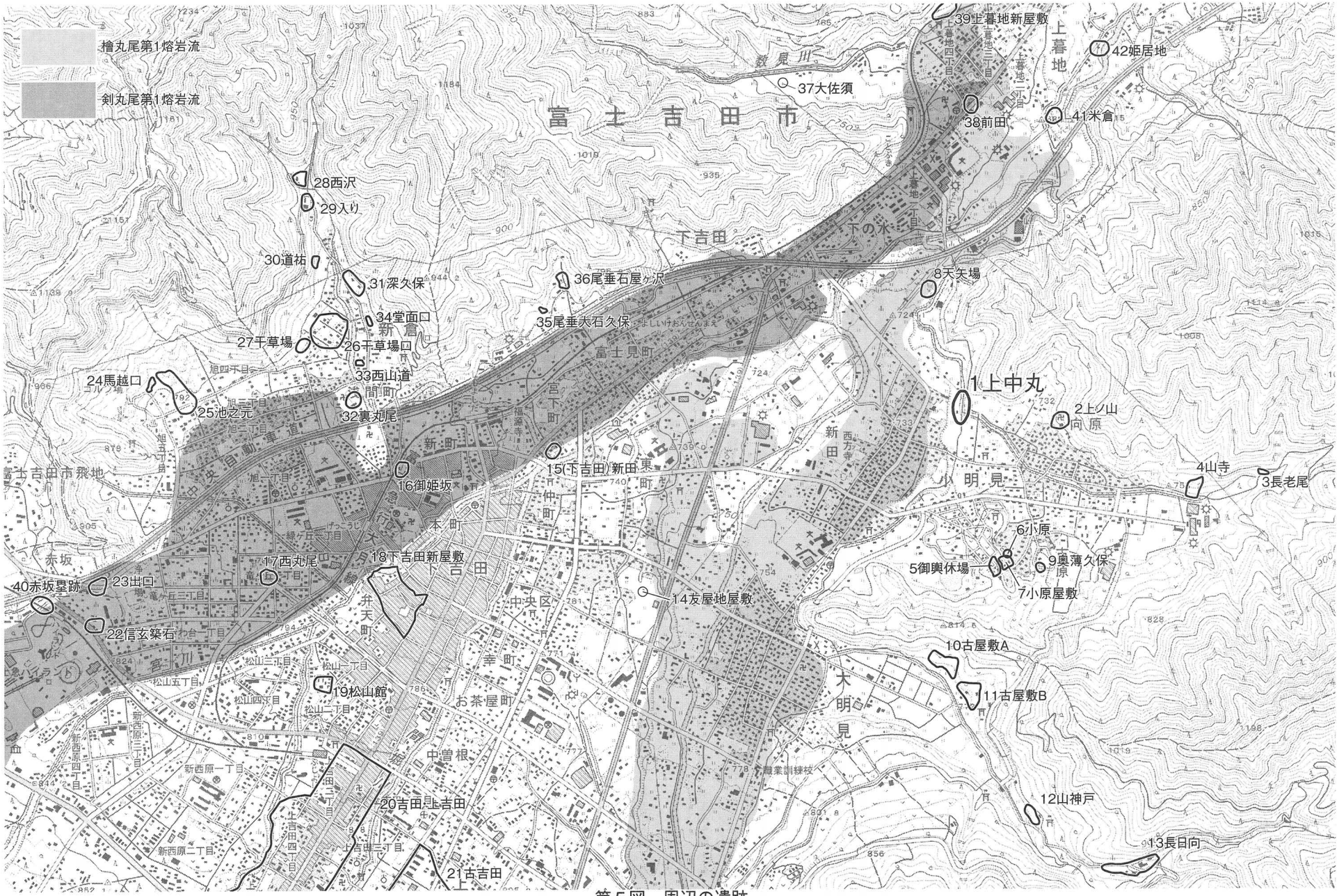
調査区西側にある檜丸尾第１熔岩流が流出した時期にあたり、本遺跡では人為的な痕跡を確認することはできなかった。周辺では、天矢場遺跡（8）、池之元遺跡で遺物が出土している他、古屋敷Ａ遺跡においても古墳時代前期のＳ字甕が収集されている。

平安時代

主に10世紀の遺構・遺物を検出した。奈良・平安時代には、甲斐国府から東海道へ続く官道が通された地域にあたり、富士北麓地域には平安時代の遺跡が多数確認されている。市域西部の山裾地帯では、墨書土器や鉄製の錠などが出土した池之元遺跡をはじめ、西沢遺跡、入り遺跡（29）、西山道遺跡（33）などの遺跡があり、剣丸尾熔岩流上にも御姫坂遺跡（16）、西丸尾遺跡（17）出口遺跡（23）などが展開する。おそらくは官道設置に伴って展開した集落様相を示していると考えられる。また、本遺跡を含む市域東部から北の地域でも、檜丸尾第１熔岩流の流出以降再び生活の痕跡がみられ、上暮地新屋敷遺跡、上ノ山遺跡（2）、前田遺跡（38）、長日向遺跡のほか、古屋敷Ｂ遺跡においては鍛冶を示す鉄滓が検出されている。

中世・近世

中近世では、寺院・富士山信仰に関わる宿・城館跡などの遺跡がある。西方寺の旧跡である長老尾遺跡(3)･山寺遺跡のほか、小原遺跡（6）、小原屋敷（7）、友屋地屋敷（14）、新田遺跡（15）、下吉田新屋敷（18）、松山館（19）、吉田・上吉田（20）、古吉田遺跡（21）などがある。なお、鎌倉街道に沿って富士河口湖町との境にある信玄築石（22）は、富士河口湖町側では赤坂塁跡と呼称されている。


檜丸尾第1熔岩流
剣丸尾第1熔岩流
富士吉田市
数見川
上暮地
下吉田
下の氷
富士見町
新倉
宮下町
新町
仲町
本町
大明見
小明見
新田
西方寺
中央区
幸町
お茶屋町
中曽根
弁天町
赤坂
富士吉田市飛地
1上中丸
2上ノ山
向原
3長老尾
4山寺
5御輿休場
6小原
7小原屋敷
8天矢場
9奥薄久保
10古屋敷A
11古屋敷B
12山神戸
13長日向
14友屋地屋敷
15(下吉田)新田東
16御姫坂
17西丸尾
18下吉田新屋敷
19松山館
20吉田上吉田
21古吉田
22信玄築石
23出口
24馬越口
25池之元
26千草場口
27千草場
28西沢
29入り
30道祐
31深久保
32裏丸尾
33西山道
34堂面口
35尾垂大石久保
36尾垂石屋ヶ沢
37大佐須
38前田
39上暮地新屋敷
40赤坂墓跡
41米倉
42姫居地

第５図　周辺の遺跡

表３　周辺遺跡一覧

番号	市町村名	遺跡名	時代	種別	旧村名	所在地	その他
1	富士吉田市	上中丸遺跡	縄文(中～後)/弥生/平安/中世	散布地	富士吉田市	小明見字上中丸	富士吉田市史掲載26
2	富士吉田市	上ノ山遺跡	平安	散布地	富士吉田市	小明見字上ノ山	富士吉田市史掲載27
3	富士吉田市	長老尾遺跡	中世	散布地	富士吉田市	小明見字炭焼沢	富士吉田市史掲載29
4	富士吉田市	山寺遺跡	縄文(早)/平安/中世	散布地	富士吉田市	小明見字山寺	富士吉田市史掲載28
5	富士吉田市	御輿休場遺跡	縄文(早～中)	散布地	富士吉田市	小明見字御輿休場	富士吉田市史掲載30
6	富士吉田市	小原遺跡	中世/近世	散布地	富士吉田市	小明見字小原	富士吉田市史掲載32
7	富士吉田市	小原屋敷	中世/近世	散布地	富士吉田市	小明見字小原	富士吉田市史掲載33
8	富士吉田市	天矢場遺跡	古墳	散布地	富士吉田市	小明見字天矢場	富士吉田市史掲載25
9	富士吉田市	奥薄久保遺跡	縄文(早～前)	散布地	富士吉田市	小明見字奥薄久保	富士吉田市史掲載31
10	富士吉田市	古屋敷Ａ遺跡	縄文(早～後)/弥生/平安/中世/近世	城館跡	富士吉田市	大明見字古屋敷(柏木氏所有地)	富士吉田市史掲載34 『古屋敷遺跡』1990 富士吉田市誌編さん室
11	富士吉田市	古屋敷Ｂ遺跡	縄文/平安/中世	集落跡	富士吉田市	大明見字古屋敷	富士吉田市史掲載35 古屋敷遺跡』1990 富士吉田市誌編さん室
12	富士吉田市	山神戸遺跡	縄文(後)/弥生/平安	集落跡	富士吉田市	大明見字山神戸	富士吉田市史掲載36
13	富士吉田市	長日向遺跡	縄文(前～後)/平安	散布地	富士吉田市	大明見字長日向	富士吉田市史掲載37
14	富士吉田市	友屋地屋敷	中世/近世	散布地	富士吉田市	下吉田字友屋敷	富士吉田市史掲載41
15	富士吉田市	(下吉田)新田遺跡	平安/中世/近世	集落跡	富士吉田市	下吉田字新田	富士吉田市史掲載40
16	富士吉田市	御姫坂遺跡	平安	散布地	富士吉田市	下吉田字御姫坂	富士吉田市史掲載11
17	富士吉田市	西丸尾遺跡	平安	散布地	富士吉田市	竜ヶ丘	富士吉田市史掲載23
18	富士吉田市	下吉田新屋敷	中世	散布地	富士吉田市	下吉田字新屋敷前	富士吉田市史掲載42
19	富士吉田市	松山館	中世	城館跡	富士吉田市	松山字芝原	富士吉田市史掲載43
20	富士吉田市	吉田・上吉田	中世/近世	宿	富士吉田市	上吉田	富士吉田市史掲載45
21	富士吉田市	古吉田遺跡	中世	宿	富士吉田市	上吉田字古吉田	富士吉田市史掲載44
22	富士吉田市	信玄築石	中世	城館跡	富士吉田市	松山	富士吉田市史掲載46 富士河口湖町『赤坂墓跡』と同
23	富士吉田市	出口遺跡	平安	散布地	富士吉田市	新倉字出口	富士吉田市史掲載24
24	富士吉田市	馬越口遺跡	縄文(早)	散布地	富士吉田市	新倉字馬越口	富士吉田市史掲載22
25	富士吉田市	池之元遺跡	縄文(早～後)/弥生/古墳/平安/中世	集落跡	富士吉田市	新倉字池之元	富士吉田市史掲載21 『池之元遺跡』1997 富士吉田市誌編さん室
26	富士吉田市	千草場口遺跡	縄文(早～中)	散布地	富士吉田市	新倉字千草場	富士吉田市史掲載18
27	富士吉田市	千草場遺跡	縄文(早)/中世	散布地	富士吉田市	新倉字千草場	富士吉田市史掲載19
28	富士吉田市	西沢遺跡	縄文(早～後)/弥生/古墳/平安	集落跡	富士吉田市	新倉字西沢	富士吉田市史掲載12
29	富士吉田市	入り遺跡	平安	散布地	富士吉田市	新倉字入り	富士吉田市史掲載13
30	富士吉田市	道祐遺跡	縄文(後)	散布地	富士吉田市	新倉字道祐	富士吉田市史掲載14
31	富士吉田市	深久保遺跡	縄文/中世	散布地	富士吉田市	新倉字深久保	富士吉田市史掲載15
32	富士吉田市	裏丸尾遺跡	縄文	散布地	富士吉田市	新倉字裏丸尾	富士吉田市史掲載20
33	富士吉田市	西山道遺跡	平安	散布地	富士吉田市	新倉字西山道	富士吉田市史掲載17
34	富士吉田市	堂面口遺跡	縄文	散布地	富士吉田市	新倉字堂面口	富士吉田市史掲載16
35	富士吉田市	尾垂大石久保遺跡	縄文	散布地	富士吉田市	下吉田字尾垂大石久保	富士吉田市史掲載10
36	富士吉田市	尾垂石屋ヶ沢遺跡	平安	散布地	富士吉田市	下吉田字尾垂石屋ヶ沢	富士吉田市史掲載9
37	富士吉田市	大佐須遺跡	縄文(中)	-	富士吉田市	上暮地字大佐須	富士吉田市史掲載7
38	富士吉田市	前田遺跡	平安	散布地	富士吉田市	上暮地字前田	富士吉田市史掲載6
39	富士吉田市	上暮地新屋敷遺跡	縄文(早～中)/弥生/平安	散布地	富士吉田市	上暮地字寺ノ入	富士吉田市史掲載5 『上暮地新屋敷遺跡』2011 富士吉田市教育委員会
40	富士河口湖町	赤坂墓跡	中世	城館跡	河口湖町	船津	富士吉田市『信玄築石』と同
41	西桂町	米倉遺跡		散布地	西桂町	小沼字米倉	
42	西桂町	姫居地遺跡		散布地	西桂町	小沼字姫居地	

第３章　調査成果

今回の調査で発見した遺構・遺物は、縄文時代中期末竪穴住居跡１軒、土坑６基、弥生時代の住居跡と思われる遺構２軒、平安時代の竪穴住居跡２軒を検出した。出土した遺物については、縄文土器・弥生土器・土師器･石器･古銭などが出土し、プラスチックコンテナ（59×38×30cm）約８箱分、総重量は約43kgを量った（表９）。

以下、時代ごとに各遺構について述べるが、 なお、各遺構に関する図版・写真については、遺構名のあとに【遺構図 / 遺物図 / 写真】、出土遺物については〔　〕を付して示した。その他、遺構・遺物に関する一覧を表４～９に掲載した。

第１節　各調査区の遺構確認面と時期について

今回の調査は、富士山の火山活動と遺跡の密接な関連が窺える事例のひとつとなった。既に層序の時期については第１章第４節で表したが、ここでは改めて調査区ごとの調査経過とあわせ、遺構確認面の層位と時期について触れておきたい。

Ａ区【第６図 / 第29図 / 図版３・４】

Ａ区では３段階の面的確認を行った。重機による１回目の掘削は、上層部は旧河道の厚い堆積土であり、基８層上部まで掘り下げた。河川の最終的な埋没時期ははっきりしないが、土層断面の観察では平安～縄文時代晩期の層まで削平されており、遺物もほとんど出土しなかった。状況から旧河道により削平されたものと思われる。次段階は火砕サージ推定層（〈８a〉）およびH19年度の調査区底面を目安に、出土遺物に注視しながら掘り下げたが、同面においても遺構・遺物は確認できなかった。しかし、この段階で東壁面で上層から落ち込む状況が確認でき、さらに下層を確認するためにサブトレを設定して掘り下げを実施した。

重機による３回目の掘削では、硬いサージ推定層を除去し、Ｃ区で遺物が確認された基10層で平面確認を行った。これにより調査区南端ではピットと平安時代の遺物が混在する掘り込み状の砂礫堆積、調査区中央よりやや北で縄文土器が混在する砂礫堆積を確認した。これらが人為的な掘り込みであるのか、または水流による自然堆積であったのか明確にすることはできなかったが、同区においても基11層段階に遺物が混在していることがわかった。なお、Ｂ・Ｃ区の調査が進展してさらに下層で縄文時代中期後葉の遺構の存在が明らかとなったが、これ以上の掘削は崩落の危険があると判断し、同面で調査を終了した。なお、調査区北側で検出したPit86・87については、性格については明確ではないものの、同区西側に隣接する平成19年度調査南区における遺構分布の傾向に沿っており、旧流路付近に沿った樹木等の根痕であった可能性が窺えた。

出土遺物はすべて小片であるが、縄文時代の土器〔１～11〕、平安時代の土師器片〔12～15〕が出土し、上層からは陶器の擂鉢〔16〕、古銭〔350〕などが混在した。

Ｂ区【第７・８図 /第30図/ 図版４～６】

Ｂ区では、表土剥ぎの段階で調査区の大半が旧河道面であることが判明した。Ａ区と類似して旧流路に削平されて弥生時代以降の遺構確認面がなかったことから、東西区画では主に埋没時期と河床面を確認することを目的に調査を進めた。

南北区画ではＣ区とほぼ同様に掘り下げ、基３層の面において流路左岸の範囲を確認した。その後、北端部では基11層まで掘り下げを行った。遺構は確認できなかったものの、基10層でSX1の加曽利E4式土器と同個体の土器片が出土した。

東西区画においては、旧河道の堆積状況を確認した。詳細については後述するが、出土遺物と土層観察から、調査区内において少なくとも縄文、弥生、平安末～中世の、３回の流路変移があったと推定した。Ａ区同様に崩落の危険のため、掘削については、２層目の火砕サージ推定層にあたる基12層下まで一部深堀を行

い、基13～16層と推定する層まで確認した。

C区【第９・10図／－／図版７～15】

C区では平安時代、弥生時代、縄文時代中期後葉（２面）の４段階の遺構確認を行い、最終面までの深さは、約３m50cmに至った。南北に長いC区では、檜丸尾第１溶岩流などの富士火山による堆積物や大沢川の影響で、複雑な堆積状況がみられた。表土の除去後、人力による精査によって、平安時代にあたる基-2層、と弥生時代にあたる基３層で遺構精査を行った。中央より北側の水田となっていた範囲では、表層から約20cmほどでスコリア面となり、弥生時代の遺構確認面も耕作によって掘削されていた。

C区第１面とした平安時代の遺構確認面である基-2層は、今回の調査区においてはC区の南端から約10mの範囲のみで確認でき、その北側は檜丸尾第１熔岩流の影響から、同層は堆積しなかったもしくは流路変移によって削平されていたと推定した。同面では竪穴建物跡であるSI1を検出した。同じ平安時代の遺構としたSI4は、弥生時代の層まで削平されていた水田跡部分で検出した。この遺構の検出については、掘り方が深く下部だけが残った、もしくは平安時代には既に何らかの理由で同面近くまで削平されていたことなどが考えられる。なお、水田と宅地の境にあたる調査区中央の溝では、建物取り壊しの際に埋まった瓦礫の他、溶岩を用いた石積みが確認でき、溝の南側（宅地側）からは寛永通宝などが出土していることから、同敷地の地割りは近世段階まで遡る可能性も窺える。

第２面とした基３層では、弥生時代の遺構確認を行った。明確な掘り込みは確認できなかったが、遺物が集中的に分布かする２箇所で焼土の堆積がみられたことから、住居跡と推定してそれぞれをSI2、SI3とした。但し、共に上面からの撹乱が著しく、また複数のピットを検出したが柱穴と断定できるものがなかったことなど、住居跡と断定できる要素としては十分とはいえず、今後も検討が必要である。

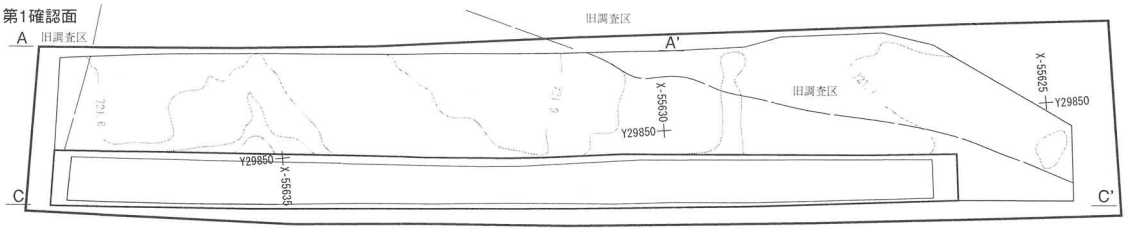
次段階の確認面までは、調査成果から約80cmほどあることが推定されていたため、大型の重機を用いて１層目の火砕サージ推定層（基8a層）を目安に掘り下げを行い、基10層で遺構確認を行った。基９層については、縄文時代後期～中期末頃の包含層である可能性があったことから、人力によって掘り下げを試みたが、遺構・遺物は確認できなかった。第３面とした基10層の段階では、ピット以外に明確な遺構は確認できず、縄文時代中期後葉（加曽利E4式）の土器が出土したSX1以外、出土遺物もわずかであった。調査区中央より北側で複数のピットを検出したが、多くは不整形であり木根跡と思われる。なお、遺物や遺構プランが確認できず重機で掘削してしまったが、調査区東面で縄文時代晩期頃にあたる基４層から掘り込まれた土坑状の断面（写真図版15-12）が確認できた。その他、調査区内からの出土量はわずかであったが、縄文時代後期の遺物が出土しており、同時期段階の遺構も存在していたことが考えられる。

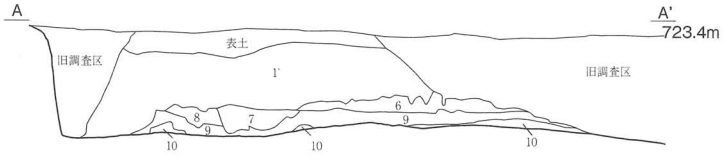
第４面はSX3の検出面であり、複数のピットが検出された調査区北側の掘り下げを行った。調査区東壁面の層序観察から基11層の砂礫堆積層の境目を確認し、サブトレを設定して掘り下げたところ、曽利Ⅴ式段階を主とする遺物が出土した。竪穴住居跡等の可能性を考慮しつつ調査を進めたが、人為的な掘削は認められず、性格不明遺構（SX3）とした。同遺構は土層観察から、２層目の火砕サージ推定層（基12層）が途切れた基15層の上に堆積しており、粒子の細かい砂質土中に遺物が包含していた。また、流水の痕跡があったことから、水場等であった可能性も考えられる。

第５面は基16層上面にあたり、今回の調査における最終の遺構確認面とした。同面では縄文時代中期後葉の曽利Ⅱ式段階の土坑（SK2）、曽利Ⅳ式段階と推定する竪穴住居跡（SI5）等を検出し、また上層面では確認できなかった、曽利Ⅴ式段階の土坑（SK1・4・6）も確認できた。

なお、今回の調査地点では、基15層までは安定した平坦な堆積状況であり、基11層の段階において河川流路や火山堆積の影響によって起伏が生じた痕跡が確認できた。この時期が同地域の土地様相が変化する画期であった可能性も考えられよう。

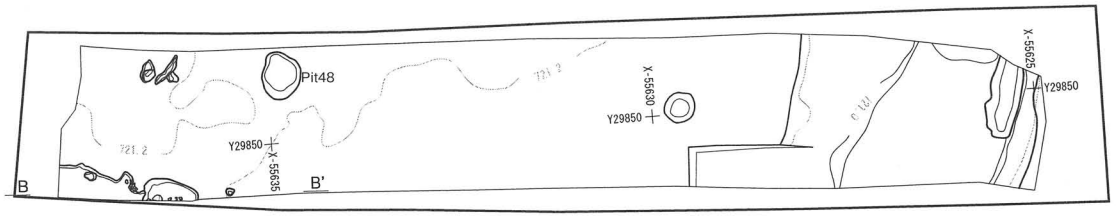
第1確認面

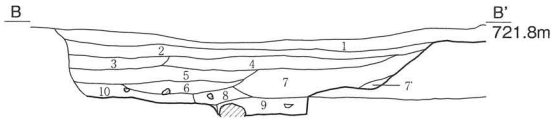




1　10YR3/4 暗褐　しまり弱。径1cm台の礫少混。
2　10YR3/4 暗褐　しまりやや弱。径5mm大の礫少混。
3　10YR3/3 暗褐　しまりやや強。径5mm大の礫多混。
4　7.5YR2/2 黒褐　しまり強。黄褐色土粒混。褐色土粒(焼土?)含。
5　砂礫層　粒子細かい。5':径5mm大の礫混。
6　7.5YR2/1 黒　径5mm～1cm大の礫混。褐色粒子(焼土?)含。しまり強。
7　10YR3/3 暗褐　しまりやや弱。炭化粒少含。粒子やや粗。
8　"10YR2/2 黒褐+10YR3/3 暗褐"　混土。しまりやや強。焼土粒少含。粒子粗。
9　10YR2/2 黒褐　しまり強。褐色粒子(焼土?)含。上層の6層よりも粒子細かい。
10　7.5YR2/2 黒褐　しまり強。径1cm台の礫混。砂礫層。

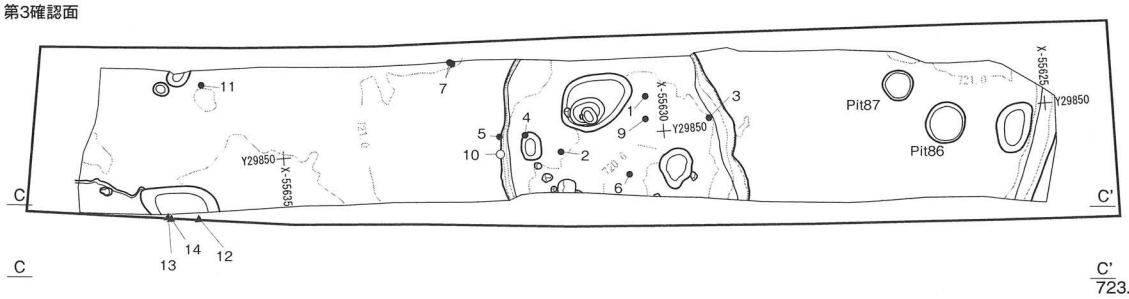
第2確認面

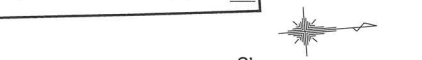


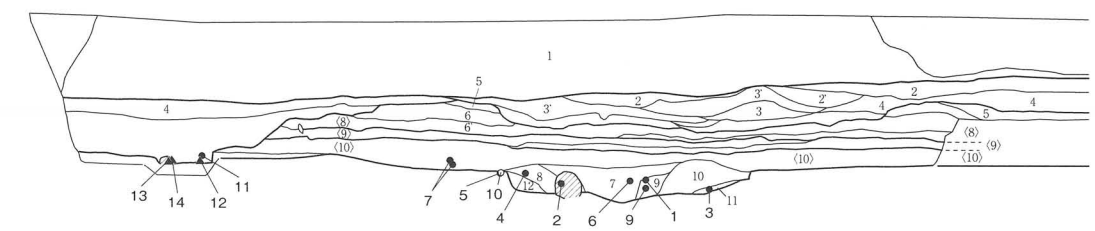


1　10YR3/3 暗褐　粘質。炭化粒少含。径1cm大の礫混。
2　10YR3/3 暗褐　粘質。径1～3cm大の礫少混。砂粒多含。
3　2.5Y3/2 黒褐　砂利層。径2cm大の礫混。径0.5cm大のスコリア混。
4　10YR2/3 黒褐　炭化粒少含。径2～3cm大の礫含。やや粘質。
5　10YR2/3 黒褐　炭化粒多含。径0.5～3cm大の礫多混。砂粒多含。
6　10YR3/3 暗褐　やや粘質。径20cm大の礫含。砂粒少含。サビ少含。
7　10YR3/3 暗褐　径2～3cm大の礫混。サビ多含。炭化粒少含。
8　砂礫層　径5～8cm大の礫混。
9　10YR3/3 暗褐　径2～5cm大の礫多混。下部に径0.5～2cm大のスコリア混。水流による互層堆積。
10　10YR2/2 黒褐　鉄分多含。硬化。砂粒のみで礫含まず。下層との間にともに硬化する黒色層あり。

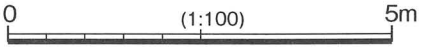
第3確認面







1　10YR3/4 暗褐　しまり弱。径1cm台の礫少混。河道上部堆積土。
2　10YR3/4 暗褐　しまりやや弱。径5mm大の礫少混。2':多含。埋没直前河床面か。
3　砂礫層　粒子細かい。3':径5mm大の礫混。
4　10YR3/3 暗褐　しまりやや強。径5mm大の礫多混。
5　7.5YR2/2 黒褐　しまり強。黄褐色土粒混。褐色土粒(焼土?)含。〈8〉
6　10YR3/3 暗褐　火砕サージ推定層上面の石を含まない層。砂粒多含。6：火砕サージ推定層堆積〈8〉
7　10YR3/3 暗褐　径2～5cm大の礫多混。下部に径0.5～2cm大のスコリア混。互層堆積。〈11?〉
8　砂礫層　径10～20cm大の礫主体。径50cm大の礫混。〈11?〉
9　10YR2/3 黒褐　互層。砂粒多含。〈11?〉
10　砂利層　互層。径0.5～0.8cm大のスコリア混。〈11?〉
11　10YR3/3 暗褐　砂層。互層。〈11〉
12　砂礫層　鉄分多含。硬化。径0.5～1cm大のスコリア混。〈11〉



第6図　A区全体図

B区 旧河道

流路変遷推定図

中世～平安末

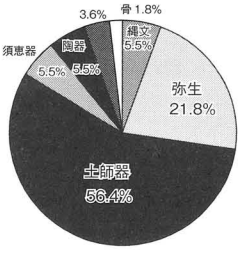
平安末～弥生

縄文時代

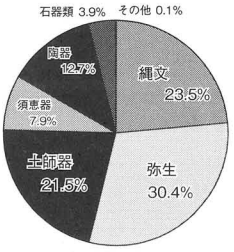
● 縄文　■ 須恵器
○ 弥生　□ 陶磁器
△ 石器　☆ 骨
▲ 土師器　◎ 炭化物

表４　Ｂ区旧河道　出土遺物表

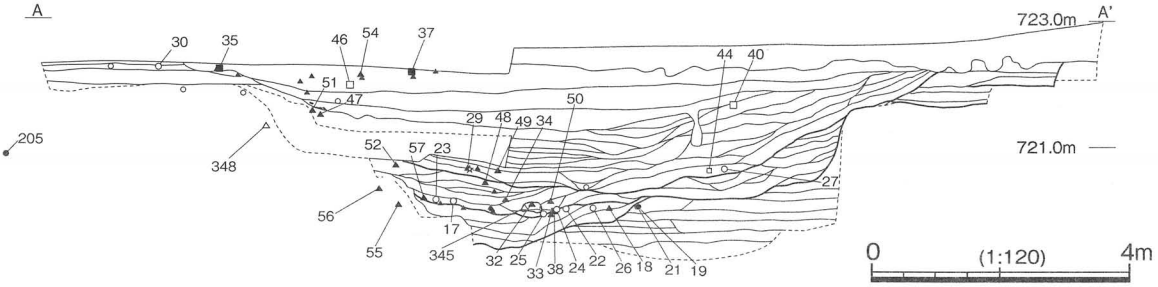
	縄文	弥生	土師器	須恵器	陶器	石器類	その他	計
総出土量(g)	32,197	6,680	745	199	368	2,655	515	43,359
B区出土量(g)	492	636	451	166	266	82	2	2,095
B区取上点数	3	12	31	3	3	2	1	55



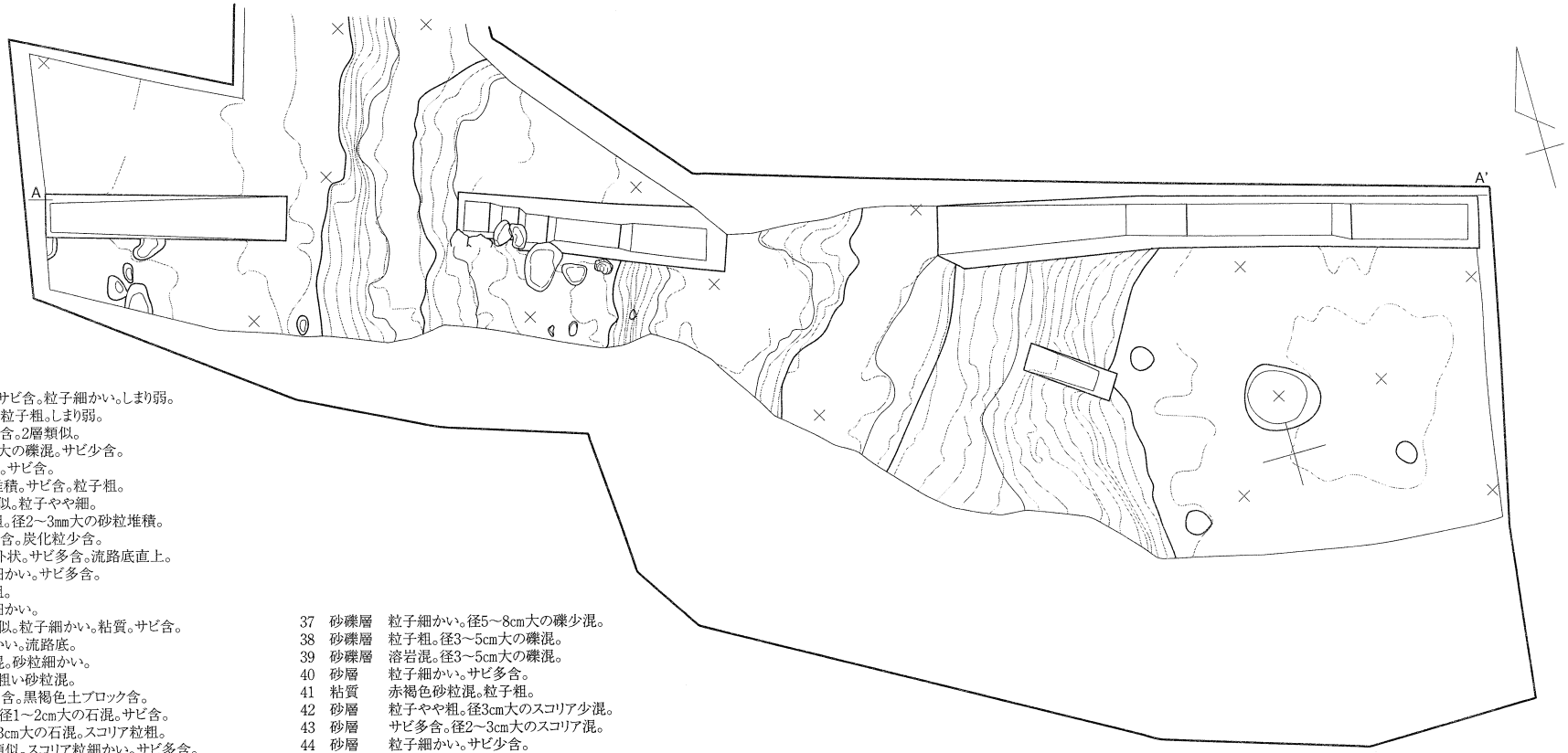
B区内 遺物取上点数比率



B区内 遺物出土量比率

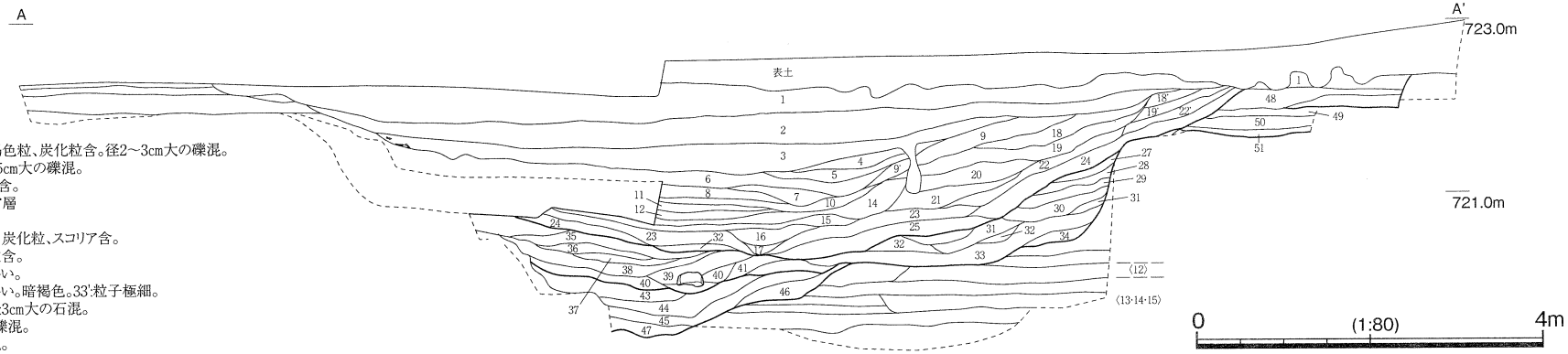


第７図　Ｂ区全体図



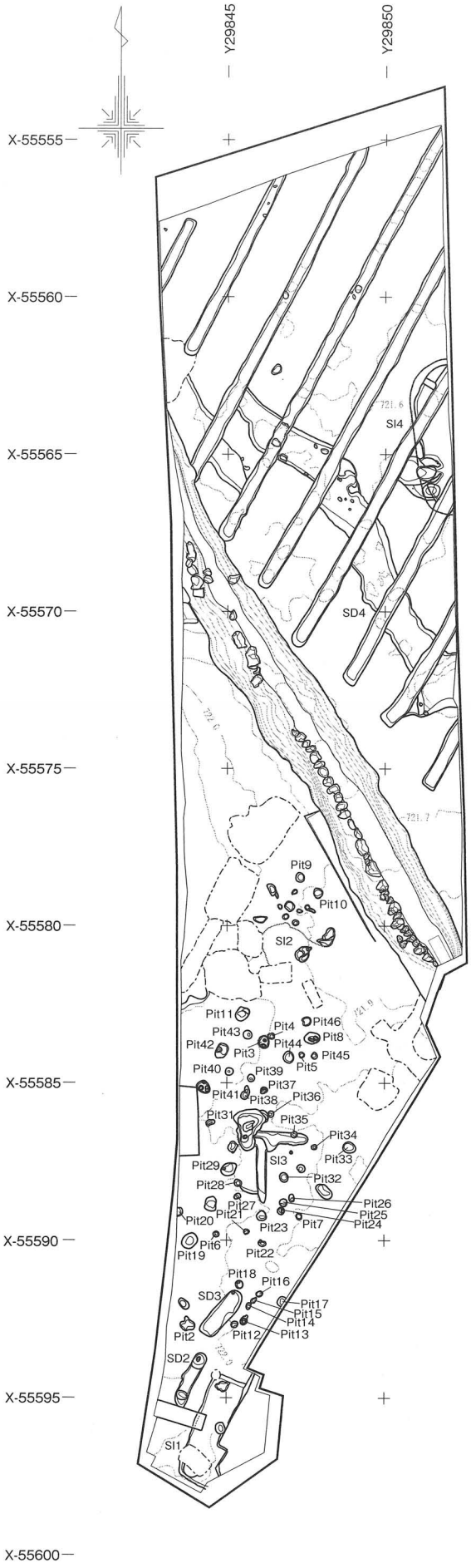
B区旧河道
1　10YR3/3 暗褐　粘質。サビ含。粒子細かい。しまり弱。
2　10YR3/3 暗褐　1層より粒子粗。しまり弱。
3　10YR3/3 暗褐　サビ多含。2層類似。
4　10YR3/3 暗褐　径4cm大の礫混。サビ少含。
5　10YR3/3 暗褐　礫無し。サビ含。
6　10YR3/3 暗褐　砂粒堆積。サビ含。粒子粗。
7　10YR3/3 暗褐　6層類似。粒子やや細。
8　10YR3/3 暗褐　粒子粗。径2～3mm大の砂粒堆積。
9　10YR3/4 暗褐　サビ多含。炭化粒少含。
10　10YR4/2 灰黄褐　シルト状。サビ多含。流路底直上。
11　10YR3/3 暗褐　粒子細かい。サビ多含。
12　10YR3/3 暗褐　粒子粗。
13　10YR3/3 暗褐　粒子細かい。
14　10YR3/3 暗褐　9層類似。粒子細かい。粘質。サビ含。
15　砂層　砂層。粒子細かい。流路底。
16　砂礫層　径5cm大の礫混。砂粒細かい。
17　砂礫層　径2～3mm大の粗い砂粒混。
18　10YR3/4 暗褐　サビ多含。黒褐色土ブロック含。
19　10YR4/3 にぶい黄褐　径1～2cm大の石混。サビ含。
20　10YR3/4 暗褐　径2～3cm大の石混。スコリア粒粗。
21　10YR3/4 暗褐　20層類似。スコリア粒細かい。サビ多含。
22　砂層　粒子細かい。暗褐色。炭化粒含。
23　砂礫層　暗褐色。径3～8cm大の礫混。
24　砂礫層　黒褐色。

37　砂礫層　粒子細かい。径5～8cm大の礫少混。
38　砂礫層　粒子粗。径3～5cm大の礫混。
39　砂礫層　溶岩混。径3～5cm大の礫混。
40　砂層　粒子細かい。サビ多含。
41　粘質　赤褐色砂粒混。粒子粗。
42　砂層　粒子やや粗。径3cm大のスコリア少混。
43　砂層　サビ多含。径2～3cm大のスコリア混。
44　砂層　粒子細かい。サビ少含。
45　砂層　粒子粗。径1～3cm大のスコリア混。サビ多含。
46　砂層　粒子細かい。
47　砂礫層　黒褐色スコリア混。

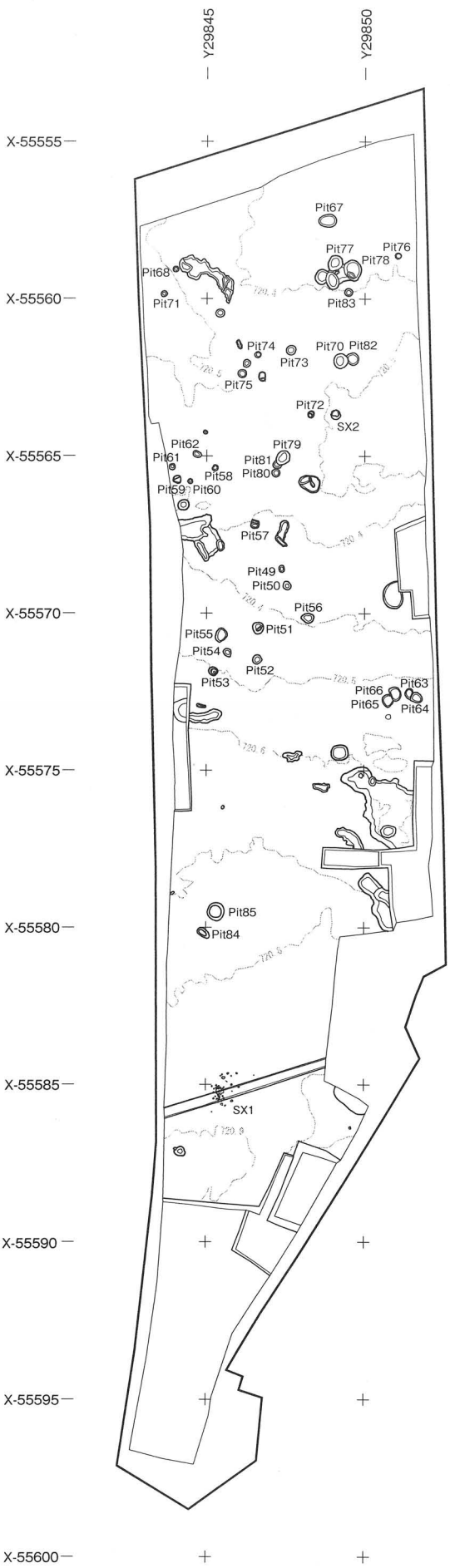


25　10YR3/4 暗褐　粘質。褐色粒、炭化粒含。径2～3cm大の礫混。
26　10YR4/4 褐　粘質。径5cm大の礫混。
27　暗褐色。サビ多含。
28　暗褐色。スコリア層
29　スコリア層。
30　黒褐色砂質土。炭化粒、スコリア含。
31　砂質土。炭化粒含。
32　砂層　砂層。粒子細かい。
33　砂層　砂層。粒子細かい。暗褐色。33':粒子極細。
34　砂礫層　黒褐砂礫層。径3cm大の石混。
35　砂礫層　径3～5cm大の礫混。
36　砂層　径3cm大の礫混。

第８図　Ｂ区旧河道



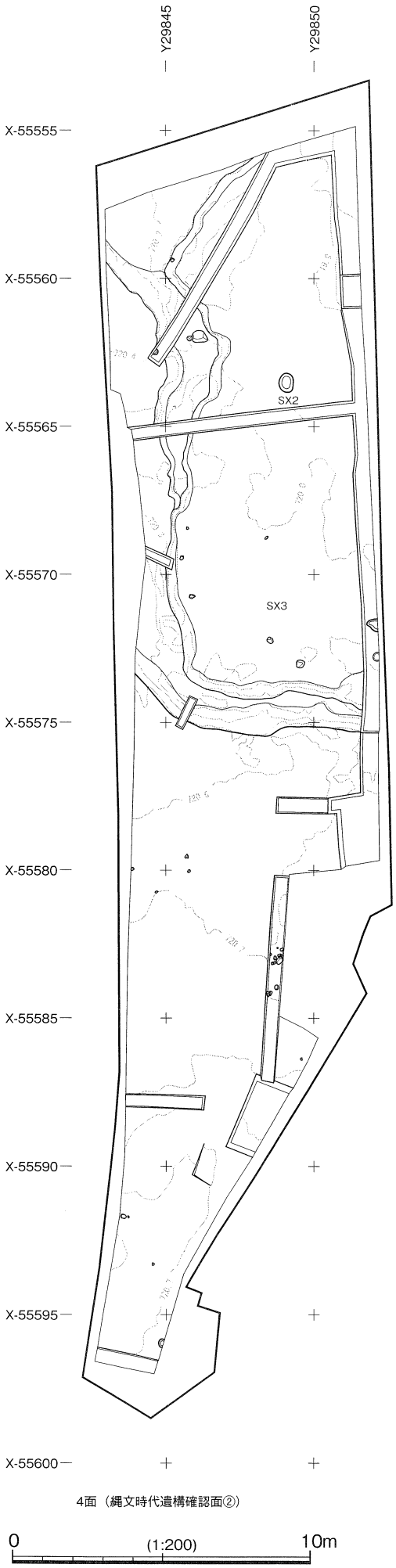
1・2面（平安・弥生時代遺構確認面）



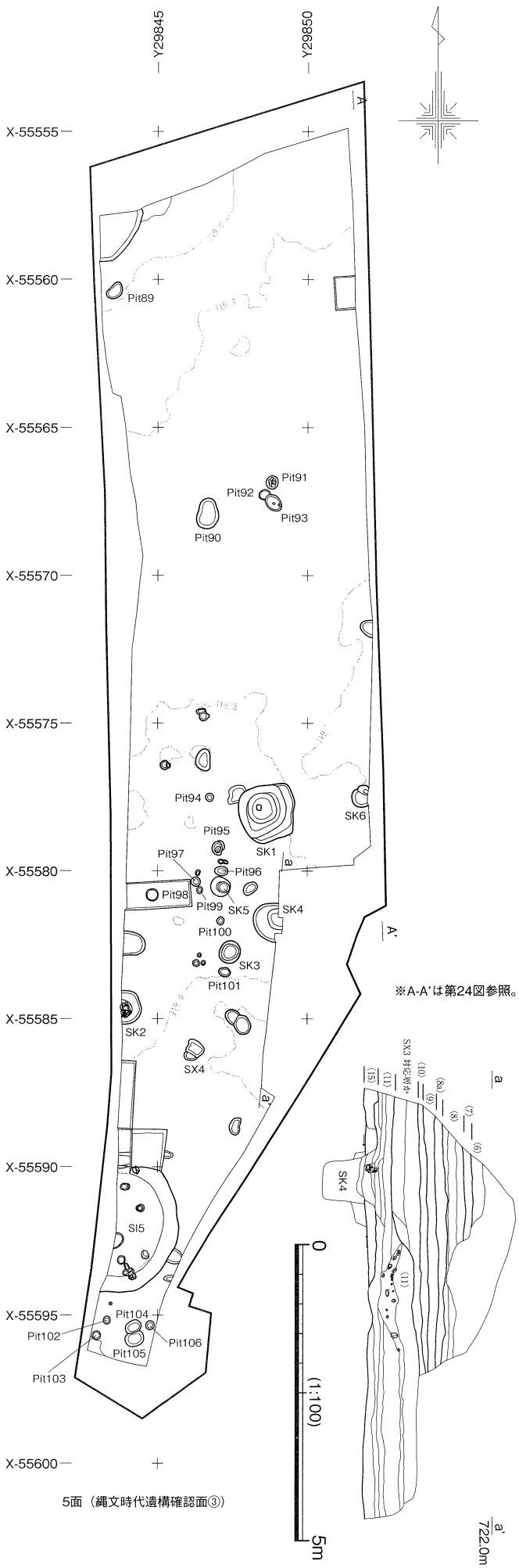
3面（縄文時代遺構確認面①）

0 (1:200) 10m

第９図　Ｃ区全体図①



4面（縄文時代遺構確認面②）



※A-A'は第24図参照。

5面（縄文時代遺構確認面③）

第10図　C区全体図②

第２節　発見した遺構と遺物

（１）平安時代の遺構・遺物

平安時代の遺構としては、SI1、SI4 を検出し、Ｂ区旧河道からも同時代の遺物が出土している。その他、SI1 と同面において溝１条（SD1）を確認したが、工事に伴って取り壊した建物基礎の痕跡と断定した。

SI１【第11図/第31図/ 図版９・18】

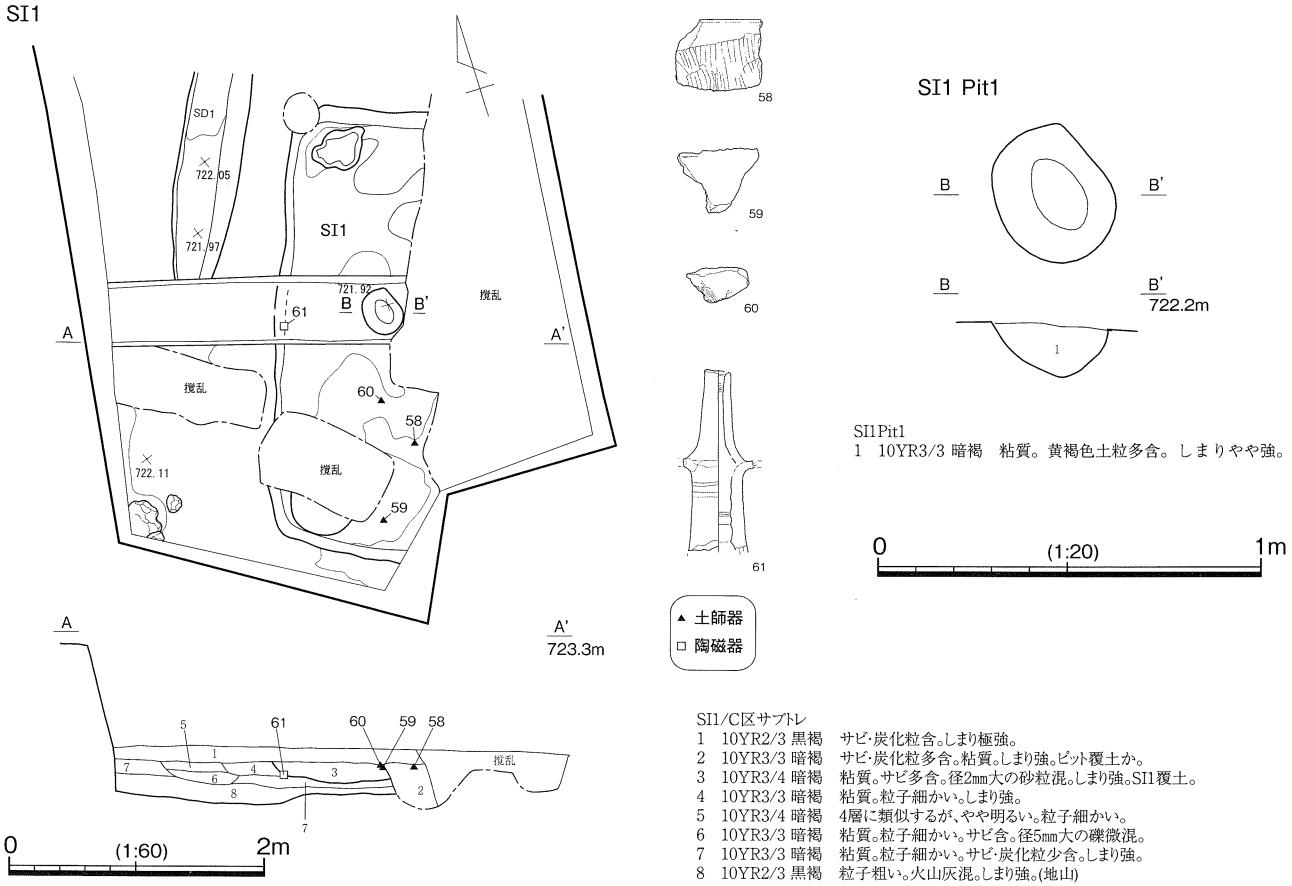
Ｃ区南端で検出した。方形を呈すと推定したが、遺構の東半分は撹乱で壊され、検出範囲で南北 3.57m、東西 1.25m を測った。覆土は褐色土粒（サビ）を多く含み、黄色味が強い。検出範囲ではカマド等の施設は確認できず、サブトレにより上部を削平してしまったが、ピット１基（Pit1）を検出した。

出土遺物は少なく、土師器甕片〔58 ～ 60〕と灰釉陶器の浄瓶〔61〕が出土した。浄瓶は頸部のみで、環台部分（鍔状の突帯部）は打ち欠きされており、破片は検出できなかった。遺構年代については明確ではないが、伴出した土師器片の年代から、10世紀頃と推定しておく。

SI４【第12図/第34図/ 図版 11・20】

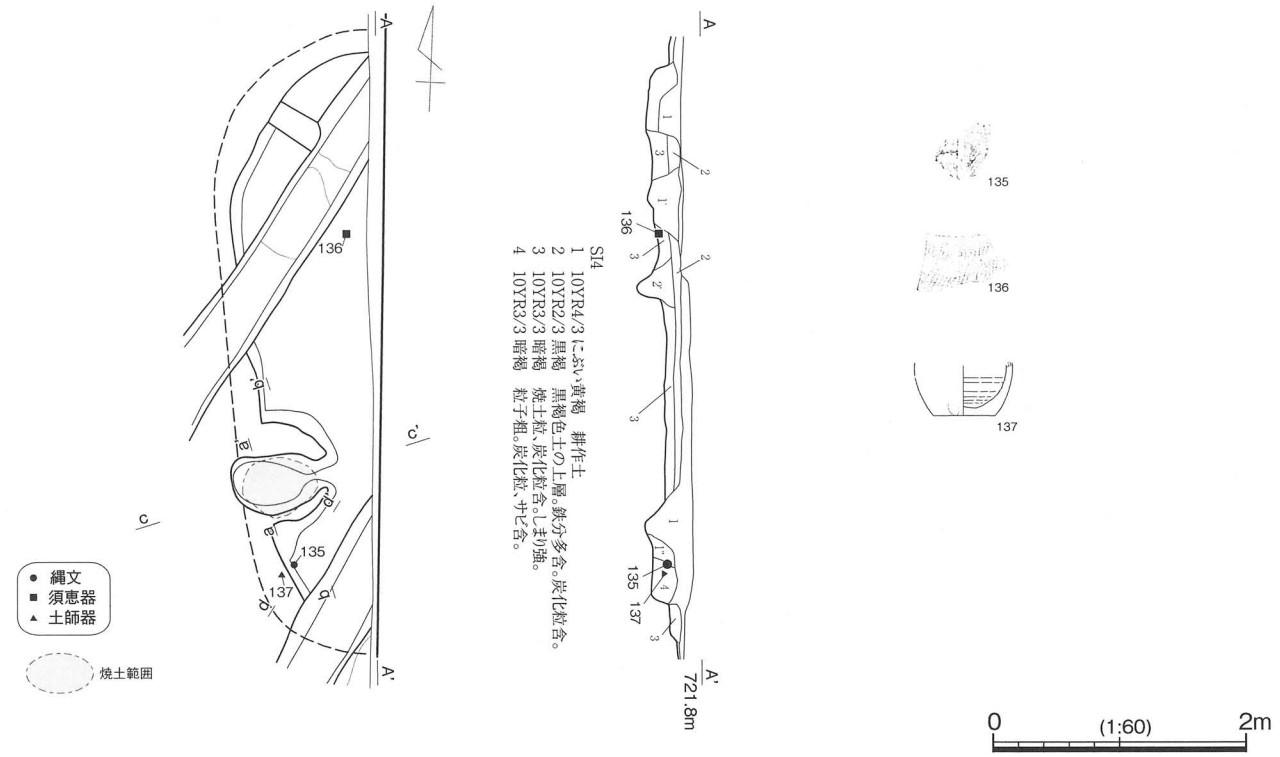
Ｃ区中央よりやや北側の東端で、方形と推定する竪穴建物跡の西側半分を検出した。西壁の中央よりやや南側にカマドが造られていた。上部は水田耕作により削平されてしまって煙道等は確認できなかったが、袖部の一部と多量に焼土の堆積があった。また、遺構確認時には焼土とともに黄褐色土の撹乱が重複している状況が確認でき、撹乱底面から加曽利Ｅ式の土器片〔135〕が出土した。カマドの左側（南側）の袖脇にあたる部分では、ピット１基（Pit47）を確認した。遺構からの出土遺物はわずかで、この Pit47 の上面から出土した土師器小型壺〔137〕と、遺構内の北側から出土した須恵器片〔136〕のほか、先述した縄文土器〔135〕の３点のみであった。

その他、住居跡の掘り方や壁面等は明確ではなく、火山灰土壌の性質によるものなのか、または壁面を整えた痕跡なのかはっきりしなかったが、遺構周辺に沿って土色の違いがあり、図中ではその範囲を破線で示



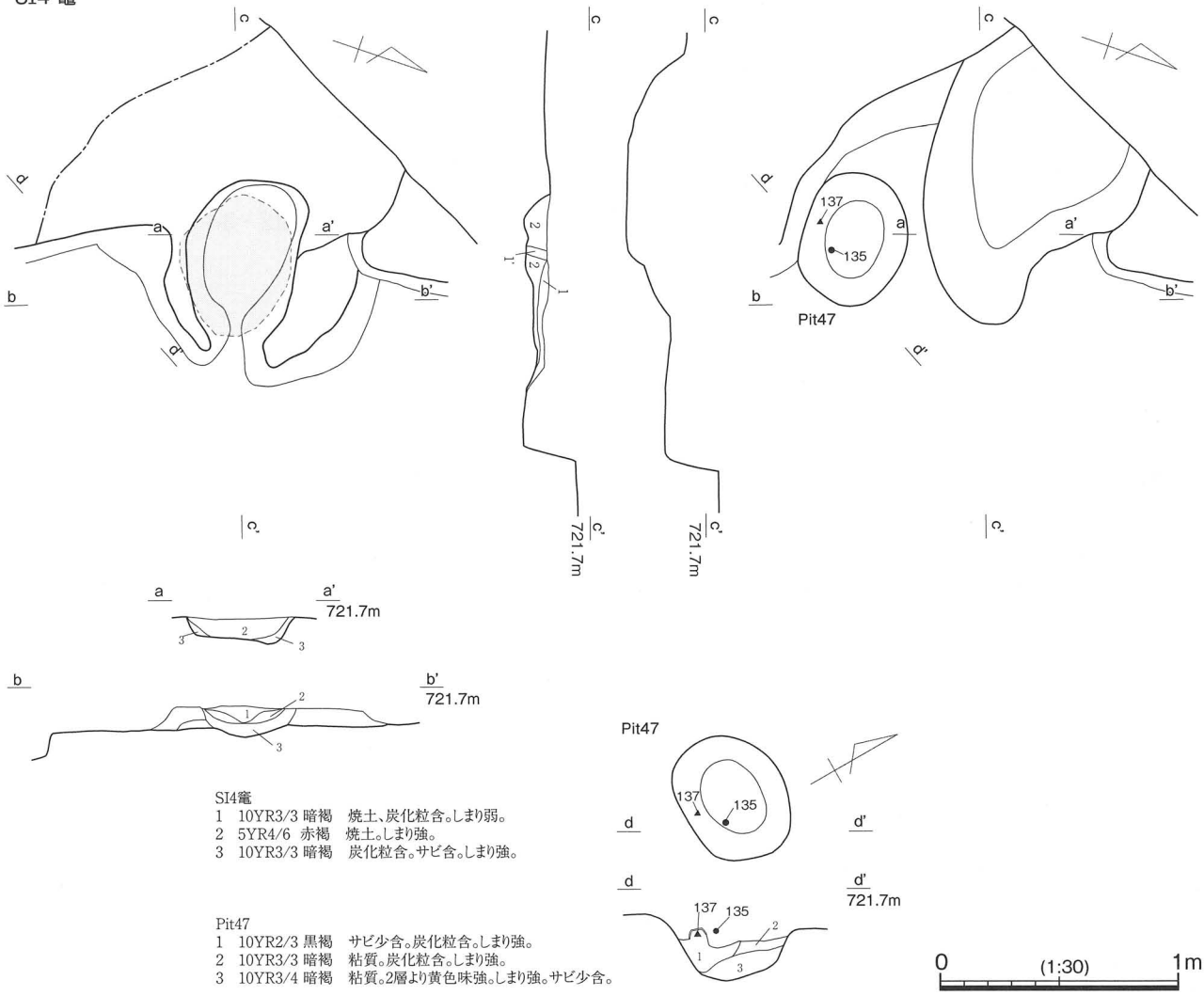
第11図　SI1

SI4



SI4 竈

SI4 竈 掘り方



SI4竈
1 10YR3/3 暗褐 焼土、炭化粒含。しまり弱。
2 5YR4/6 赤褐 焼土。しまり強。
3 10YR3/3 暗褐 炭化粒含。サビ含。しまり強。

Pit47
1 10YR2/3 黒褐 サビ少含。炭化粒含。しまり強。
2 10YR3/3 暗褐 粘質。炭化粒含。しまり強。
3 10YR3/4 暗褐 粘質。2層より黄色味強。しまり強。サビ少含。

第12図 SI4

した。なお、本遺構は調査前は水田があった場所に位置しており、耕作によって遺構平安時代にあたる基-2面が削平されていた状態で、遺構底面近くのみが残存していた状況であった。SI1付近の堆積状況から比較すると、基-2層からSI2を確認した基4層までの深さは40cmほどの差であったが、やや掘り込みの深い竪穴住居跡であった、もしくは熔岩流による土地様相の変化によって構築された時期には既にある程度のレベルまで削平されていたなどの可能性も考えられる。

平安時代の出土遺物について

古代の出土遺物量については、出土遺物全体の重量比では約２％で、各時代につくられる一個体の重量差はあるものの、取上げ点数の割合でもおよそ６％と少なかった（表14）。調査区内で流路が確認されていることから、主たる居住域からは離れた、集落の端部に位置していた可能性が窺えた。

今回検出したこの段階の遺物は、いずれも小片であったが、年代が判別できる資料のなかでは、Ｂ区旧河道から出土した土師器坏〔50〕が最も古く、山梨県史資料編２掲載の奈良・平安時代編年のⅣ～Ⅴ期段階にあたり、９世紀頃に比定した。流路堆積土内からの出土のため、表面は摩耗していたものの、線刻がある底部及び側面にはヘラ削りや磨きの痕跡が確認でき、内面は見込み部及び体部には暗文が施されている。その他の土師器坏類では、主に10世紀代の甲斐型土器および甲斐型終末段階の遺物〔14・51～53・341〕があり、底部は回転糸切痕をそのまま残し、ヘラ削りを用いない成形のもの〔14〕や11・12世紀頃に比定される底部が厚いもの〔56〕や高台坏〔57〕などが出土した。甕類では口縁部〔15・47・48・58〕、羽釜〔13〕などが出土している。いずれも小片であったが、甕や羽釜といった煮炊具が混在している状況から、本遺跡南側に集落が存在した可能性が窺える。また、灰釉陶器片も混在しており、四耳壺などの壺や小甕片〔39～41〕、坏・椀〔42・43〕、浄瓶〔61〕の出土がみられた。

（２）弥生時代の遺構・遺物

山梨県においては、弥生時代の遺跡が発見された事例は少なく、第２章第２節で述べたとおり、とくに前期後葉の遺構・遺物の出土事例は希少である。今回の調査では遺物が集中したＣ区の２箇所において、その範囲の中央付近に焼土の堆積が確認できた。これを炉と推定し、住居跡としてSI2・３の調査を実施した。

竪穴住居跡

SI２【第13～15図/第31～33図/ 図版10・18・19】

Ｃ区中央やや南で検出した。直径約3.5mの範囲で遺物が集中的に出土し、その中心近くで焼土の堆積が確認できたことから、住居跡として調査を進めた。Ｃ区中央の排水溝となっていた溝に接しており、さらに調査前にあった建物基礎等の影響で上層からの撹乱が著しく、遺存状況が悪かった。また、床面や掘り方も明確ではなく、いくつかのピットは検出できたものの、遺構範囲の推定はできなかった。

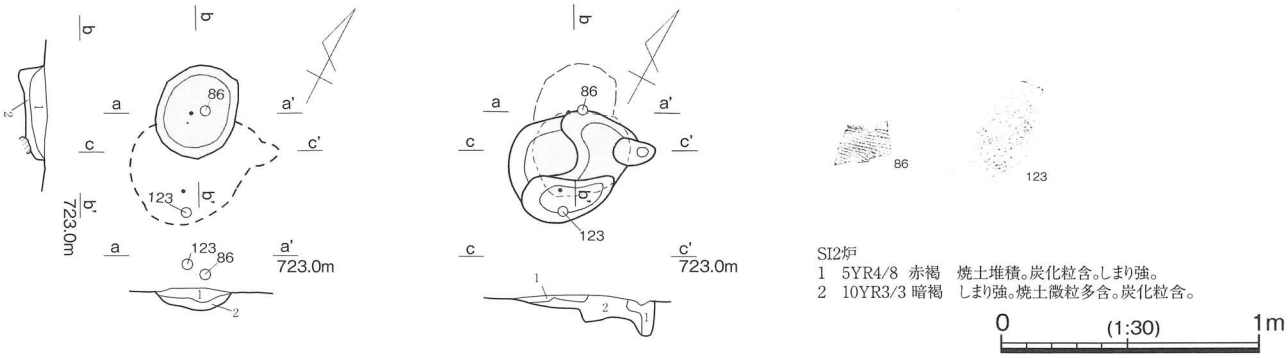
出土遺物は〔62～128〕が出土した。出土位置については、撹乱によりレベルが変わってしまった部分も多くみられ、近世の古銭〔349〕なども混在した。

焼土堆積については上部と下部で位置が異なる状況が確認でき、遺構の重複もしくは造り替え等、２段階の時期差が示される可能性が窺えた。また、遺構規模の推定は困難であったが、焼土内およびその周辺では、炭化したオニグルミなどの種子類が検出されている。焼土は上層、下層ともに採取し、乾燥させた後に計量してフローテーションを実施した。検出した炭化物については種実同定を行い、焼土中から栽培種のアワ、ヒエ？、キビなどが確認された。この分析調査の成果については第４章に掲載した。

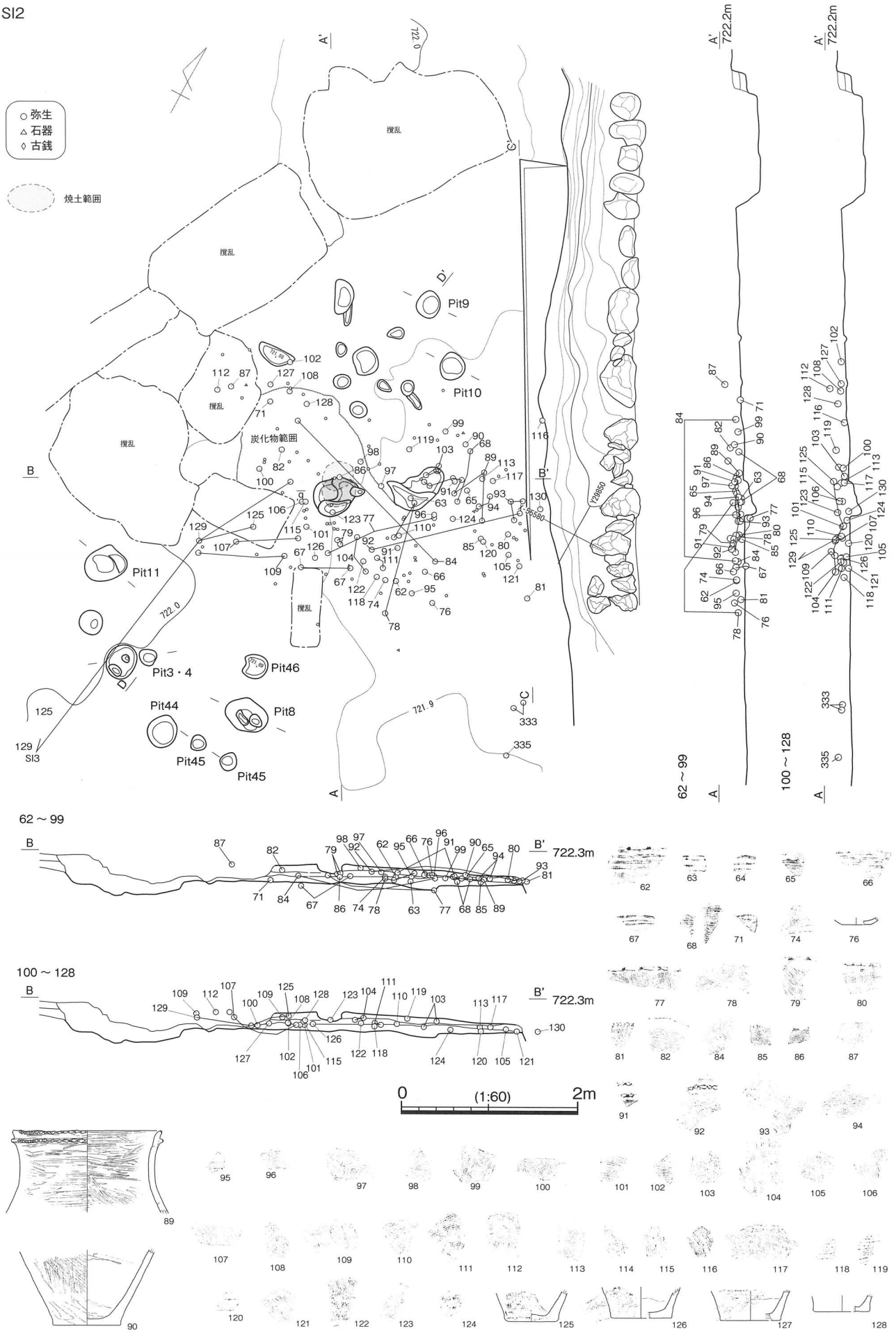
SI３【第16図/第34図/ 図版10・20】

Ｃ区南側の西壁際で検出した。SI2と同様、遺物が集中的に出土する範囲の中央付近で焼土堆積を検出し、周囲にピットが確認できたことから住居跡として調査を進めた。

SI2 炉

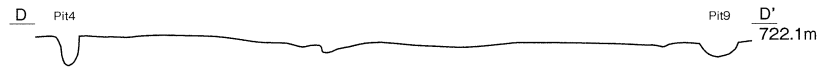


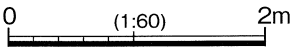
第13図 SI2①

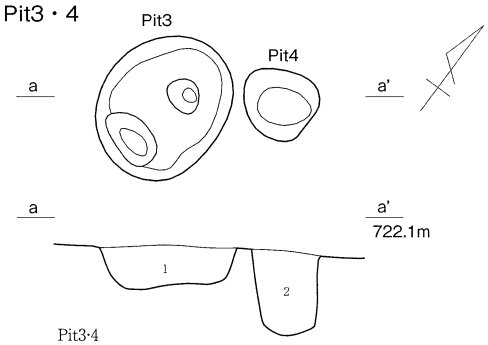

SI2
○ 弥生
△ 石器
◊ 古銭
焼土範囲
撹乱
炭化物範囲
Pit9
Pit10
Pit11
Pit3・4
Pit46
Pit44
Pit8
Pit45
SI3
722.0
721.9
722.3m
62～99
100～128
0
(1:60)
2m

第14図　SI2②

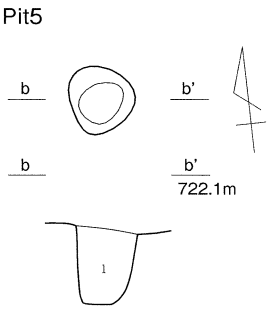
SI2



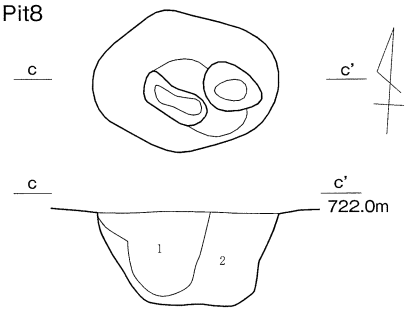




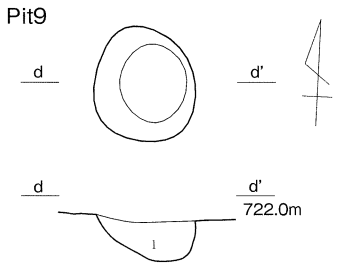
Pit3·4
1　10YR3/3 暗褐　サビ·炭化粒·焼土少含。しまり強。
2　10YR3/3 暗褐　1層類似。やや粘質。



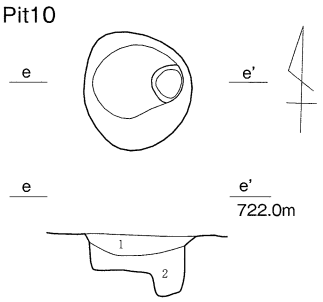
Pit5
1　10YR3/3 暗褐
サビ·炭化粒·焼土少含。しまり強。やや粘質。



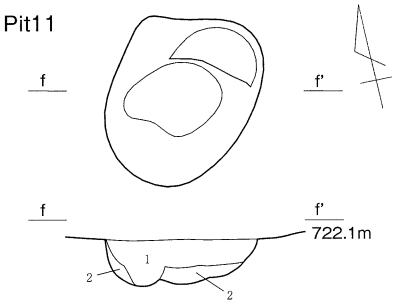
Pit8
1　10YR3/3 暗褐　サビ含。炭化粒少含。粘質。
2　10YR2/3 黒褐　サビ、炭化粒含。しまり強。
黄褐色土がまだらに混。



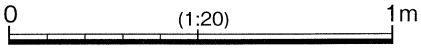
Pit9
1　10YR3/2 黒褐　しまり強。粒子細かい。サビ含。



Pit10
1　10YR3/3 暗褐　しまり弱。サビ少含。
2　10YR3/2 黒褐　しまり強。サビ少含。炭化粒含。



Pit11
1　10YR3/3 暗褐　炭化粒少含。粘質。しまり強。



第15図　SI2③

SI2 同様に上層からの撹乱が入り、しかも遺構の中央付近にかかっていたためか、出土遺物量はSI2の半分ほどであった。平面観察では明確な遺構の範囲や掘り方を判断することが出来ず、検出したピットもほとんどが不整形で浅く、柱穴と断定できるものはなかった。遺構範囲については、約６ｍと推定し、図中において破線で示した。これについては調査区西壁の観察において土層に僅かな変化が確認でき、これを覆土として検出したピットの位置から推定している。出土遺物は、条痕文による器面調整土器片〔129 ～ 134〕、黒曜石製の石鏃〔343・344〕が出土した。遺構年代については、SI2 より後出するものと考えられる。

弥生時代の出土遺物について

発見した遺物は山梨県内では希少な弥生時代前期後葉の資料であり、そのほとんどが器面調整の条痕に貝殻ではなく、粗いハケ状またはクシ状の工具が使用される中部型条痕文土器に位置づけられるものであった。

同時代の土器編年については、中山誠二氏により、縄文晩期の終末と考えられてきた氷Ｉ式の段階を弥生０期、東日本に定型化した前方後方墳・前方後円墳が登場する直前の段階を６期としてその変遷を扱い、さらに他地域の対比を明確にするため小期の細分をされている（中山 1993)。今回の資料については、中山氏編年のおよそ弥生０期から２期の段階に位置づけられるものと比定した。また前述した通り、同時代の遺物は遺構外からの出土はほとんどなく、遺構単位でまとまって出土する傾向があり、年代順には SI2、SI3、そして流路の覆土中からの出土であったがＢ区旧河道の順に位置付けることができた。以下、調整痕の特徴と比定する時期について触れておきたい。

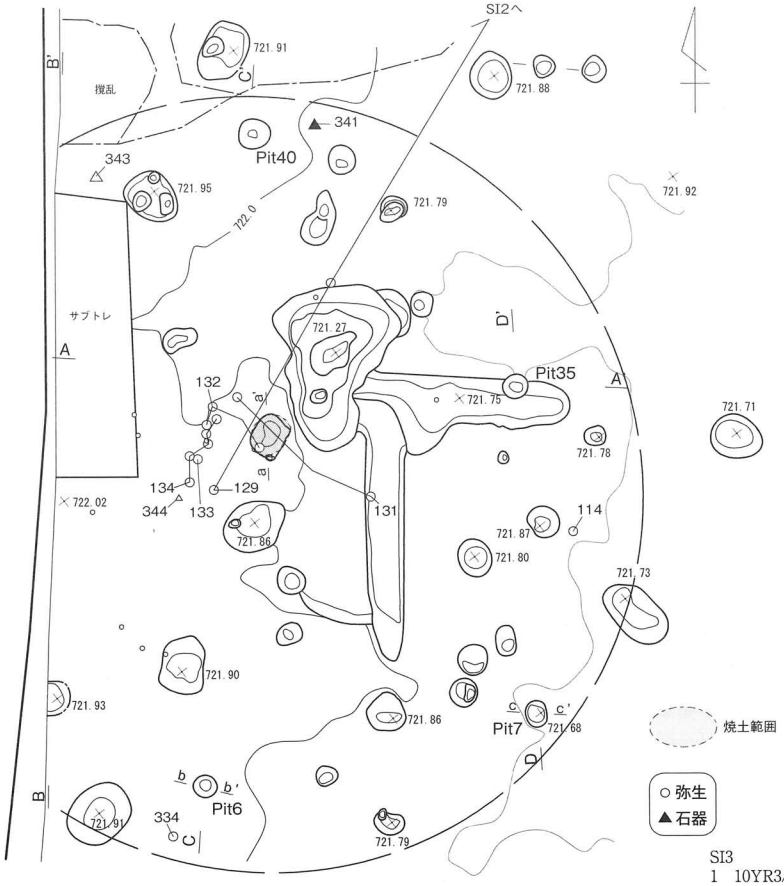
SI2・3 出土の遺物については、弥生０－(3)期～１期あたりに比定され、氷Ｉ式から継続する要素としてあげられる深鉢口縁端部につけられる山形小突起、甕口縁下の幅広の平行沈線文などがみられる。浅鉢または甕の口縁端部に口外帯もしくは口外帯風の長円形の刻みを施したもの〔62・63・77・79・80〕、口縁下に平行沈線文があるもの〔64 ～ 67･69･70〕を弥生0－(3)期段階、甕の口縁端部に山形小突起をもつもの〔72〕や広口壺〔89〕、SI3 出土の甕〔129 ～ 134〕などが弥生１期段階としてあげられる。Ｂ区旧流路出土の遺物については、竹管背面による横走矢羽根状沈線文があるもの〔29〕や、装飾的につけられた縦方向と横方向の条痕文がある丸子式に比定する〔30〕など、弥生２期段階に比定する遺物が出土した。

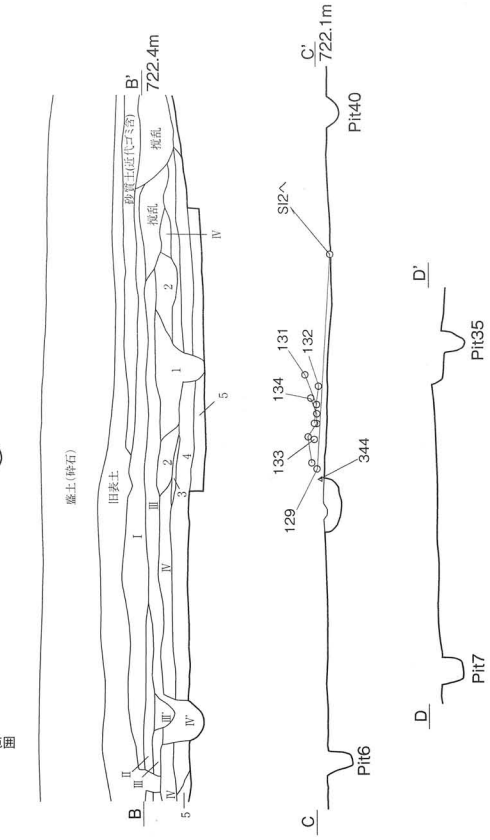
口外帯をもつ土器では、単斜方向の条痕文が施されているもの〔79〕や外面がナデ調整されて無文となっているもの〔80〕などがみられた他、口外帯に代わって細かい刻みを施したもの〔81〕なども出土している。コブ状突起をもつ〔62〕や口外帯風の長円形の刻みがある〔63〕などは、前段階にみられた口縁下に網状浮線文が形骸化して幅広の沈線となったものとして捉えられる。なお、弥生0－(3)期段階とした遺物はほとんどが小片であったが、器面をミガキ調整した鉢もしくは甕類であることや、口縁がやや外反しながら開く形状のものが多いことが特徴としてあげられる。内湾する形状のものについては、外面を条痕文によって調整した浅鉢〔82・83〕があり、口縁下部に無文帯は氷Ｉ式の要素を繋いだものと思われる。同じく弥生１期段階に比定した SI3 出土の甕〔129〕についても、口縁部は刻みが施されているが口縁下から肩部あたりまでをナデ調整して無文帯としている。また、弥生１期に比定する遺物のなかで特徴的な資料としては、広口壺で指頭押圧した断面三角形の突帯を２条めぐらしたもの〔89～92〕がある。設楽博己氏が注目した「在地形突文壺」にあたる遺物であり、弥生０－(3)期より散見され、中部高地・東海東部・武蔵・相模・西部関東地方、北陸地方までの広い分布が指摘されている。今回出土した遺物については、口縁部が外反する器形から弥生1－(1)期と比定したが、器面の条痕文は横方向または斜方向に不均一な調整が施されている。

条痕文による器面調整については、鉢類は横～斜方向、甕類は単斜方向にかきあげたものが多くみられた。なお、Ｂ区河道出土の甕〔27〕のような、弥生1－(2)期以降に顕著となる装飾的な要素の強い条痕文を施したものは、SI2・SI3 ともに出土しなかった。

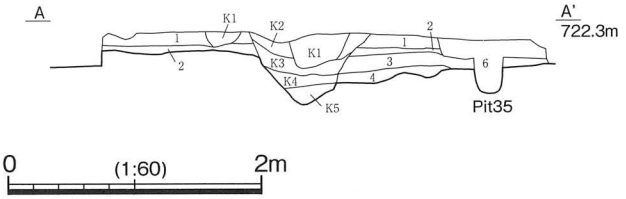
その他、詳細な時期の比定は難しいが、小甕もしくは小壺の肩部片でカキ目状にひかれた４条の沈線の間に刺突文を施したもの〔73〕、ミニチュアサイズで口縁部の刻み目と口縁下部に無文帯があり、横方向の条痕文があるもの〔28〕、波状口縁で外面をミガキ調整したもの〔75〕などが出土している。

SI3

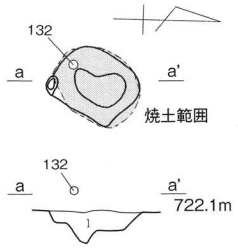




SI3
1 10YR3/4 暗褐 サビ、炭化粒多含。遺構覆土。遺物包含。しまり強。
2 10YR3/3 暗褐 炭化粒多含。しまり強。
3 10YR2/3 黒褐 炭化粒、サビ含。
4 10YR2/3 黒褐 3層より黒色味強。サビ含まない。遺構覆土。
5 10YR2/3 黒褐 サビ、炭化粒少含。しまり強。
K1 10YR3/4 暗褐 しまりやや弱。サビ少含。
K2 10YR3/4 暗褐 K1より砂粒多含。炭化粒、サビ少含。
K3 7.5YR2/2 黒褐 褐色粒(焼土?)多含。スコリア混。しまり強。
K4 10YR2/2 黒褐 スコリア層。上下層の混層か。しまり強。
K5 10YR3/3 暗褐 スコリア層。しまりやや弱。上層より黄色味強。
Ⅰ 10YR3/3 暗褐 しまり強。サビ、炭化粒含。平安期層。
Ⅱ 10YR2/2 黒褐 赤褐色ブロック、サビブロック含。しまり極強。Ⅱ'下層との混層。
Ⅲ 10YR3/3 暗褐 径2～3cm大の礫混。Ⅱ層がブロック状に混。
Ⅳ 10YR3/3 暗褐 炭化粒少含。弥生期層。



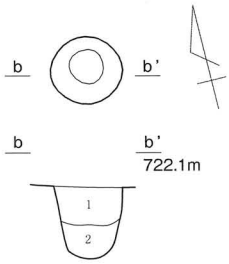
SI3 炉



SI3炉
1 10YR3/3 暗褐
炭化粒多含。焼土少含。しまりやや弱。

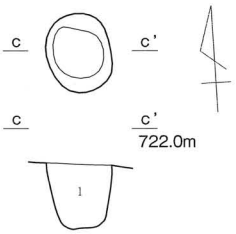
0 (1:30) 1m

Pit6



Pit6
1 10YR3/4 暗褐 サビ、炭化粒少含。粘質。
2 10YR3/2 黒褐 砂粒多含。

Pit7



Pit7
1 10YR3/3 暗褐 サビ、炭化粒含。砂粒含。しまり強。

0 (1:20) 1m

第16図 SI3

（3） 縄文時代の遺構・遺物

平成19年度調査時に確認した縄文時代中期末の包含層の他、今回の調査では同時期に比定する竪穴住居跡、曽利Ⅱ式の土坑を検出し、同遺跡および同市における初事例となった。検出した遺構は、上層からSX1、SX2・3、SK1・4・6、SI5、SK2の他、時期は不明であるがSK3・5、SX4、ピットなどを発見した。

竪穴住居跡

SI５【第17図/第34図/ 図版11・20】

Ｃ区南端の西壁際、地表面からの深さ約3.5mの面で検出した。遺構の西側半分は調査区外に広がっており、北側は不整形の土坑状の掘り込みと重複していた。平面形状は円形を呈すものと推定し、検出範囲では、南北約4.27m、東西約2.12ｍ、確認面からの深さは90cmを測った。調査区内では炉を確認することはできなかったが、遺構中央付近の基16層にあたる埋没土中で焼土の堆積が確認された。また、覆土中からは住居の構築材と考えられる炭化物を採取し、年代測定を実施している（第４章）。はっきりした貼り床などは確認できなかったものの、床面は非常に硬く締まった土層となっていた。なお、検出したピット６基のうち３基は深さ50cm前後と他に比べて深く、柱穴の可能性が窺えた。また、土圧による影響なのか、床面だけでなく柱穴内の覆土も極めて固く締まっていた。床面直上近くでは、住居構築材と推定する炭化材（クリ）を検出した。

遺構の断面観察（調査区西壁面）では、基13～15層までのスコリアのレンズ状堆積がみられた。基15層としたスコリア層直下からは、曽利Ⅳ式古段階の遺物〔138～144〕が出土した。前述のとおり、基16層では焼土の堆積が確認でき、さらに小片であったが土器片の出土も確認された。その他、曽利Ⅱ式段階の遺物〔145〕も１点のみ出土したが、掘り方または北側の撹乱等による混ざり込みと考えられる。

竪穴住居跡の年代については、床面や柱穴内などからの出土遺物がなく明確ではない。堆積状況を考慮すると、同遺構は曽利Ⅳ式段階までには廃絶し、埋没過程での２次的利用がされた後、火山灰の降下によって埋没したと推定できる。なお、富士火山との関連については、少なくとも多量に降り注いだ火山灰は竪穴の埋没段階に降下したものであり、住居廃絶の直接的な要因ではなかったことが窺える。また、焼土堆積については、住施設の廃絶後しばらく時間が経過してから、この場所が何らかの目的で利用された痕跡とみられ、おそらくは曽利Ⅳ式段階頃にあたるものと推定される。

土坑

SK1【第18図/第35図/ 図版12・20】

Ｃ区中央より南で検出した。地山層がはっきりせず、掘りすぎてしまった部分もあった。規模は長径2.18ｍ、短径２ｍ、深さは断面観察による計測で35cmを測った。確認面ではSI5と同じく、遺構プラン周辺にスコリアがみられたが、堆積量的に遺構内にレンズ状堆積したというよりは、遺構掘削時に上層の基15層より崩れ込んだスコリアと推定された。

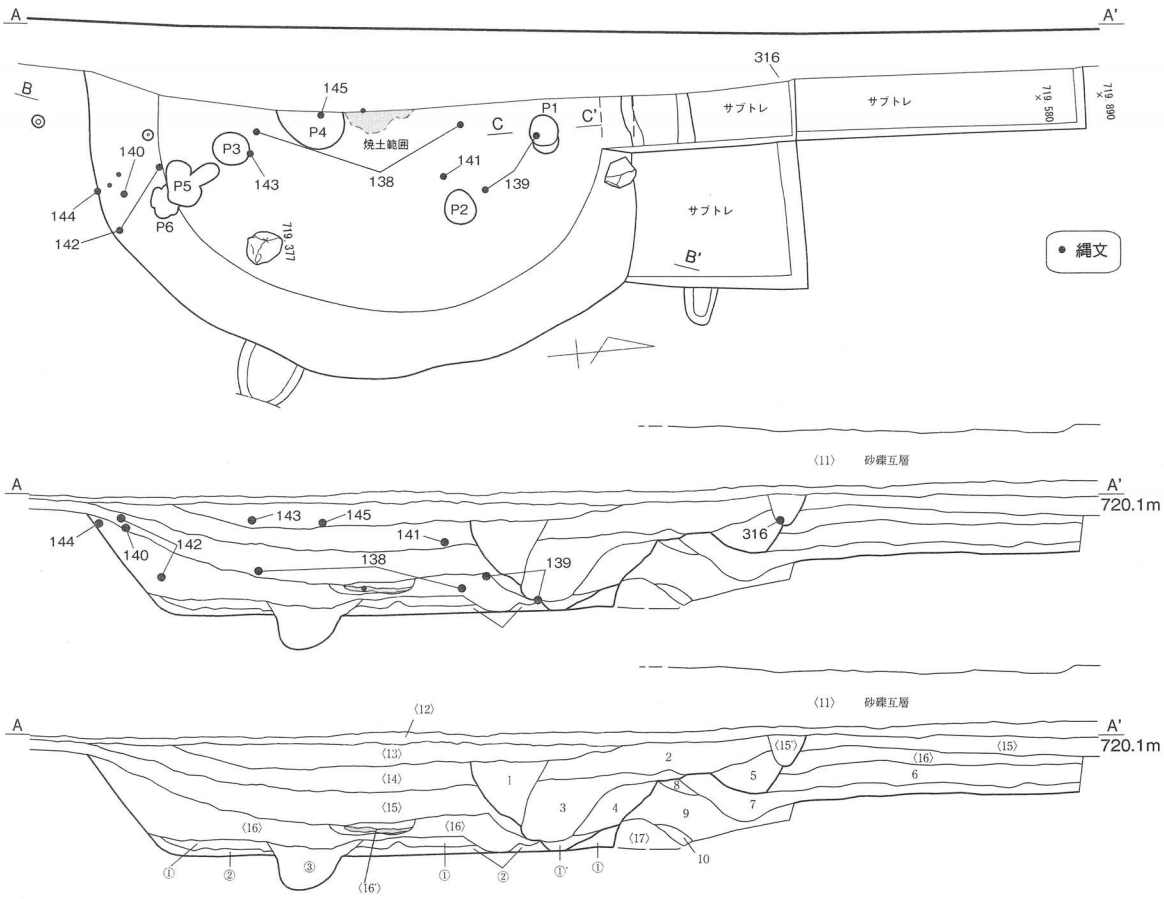
出土遺物は曽利Ⅴ式段階にあたり、曽利Ⅴ式に比定する深鉢〔146～154･156〕、加曽利Ｅ式の小甕〔155〕などのほか、SK2周辺で出土した遺物と接合する曽利Ⅱ式段階に比定する深鉢〔163〕などが出土している。

SK2【第18図/ 第36・37図 / 図版12・13・21】

西壁際で検出した。調査区外へ続くため形状は明確ではないが、検出範囲では約113cm、確認面からの深さ67cmを測り、円形を呈すものと推定する。土層観察ではSI5･SK1と異なり、遺構上面は基15層で覆われ、時期差は明確であった。なお、SK1同様に地山層がはっきりせず、遺構確認面である基16層部分が段状に掘り込まれるかたちとなったが、断面観察からは遺構を掘削した影響で土壌の色調が変化しただけで、掘り方等ではなかった可能性も考えられた。

性格については、焼礫と焼土・炭化物が多量に出土しており、屋外炉の可能性も窺えた。遺物は曽利Ⅱ式段階とする土器〔164～180〕が、礫の間や遺構側面に張りつくようなかたちで出土した。

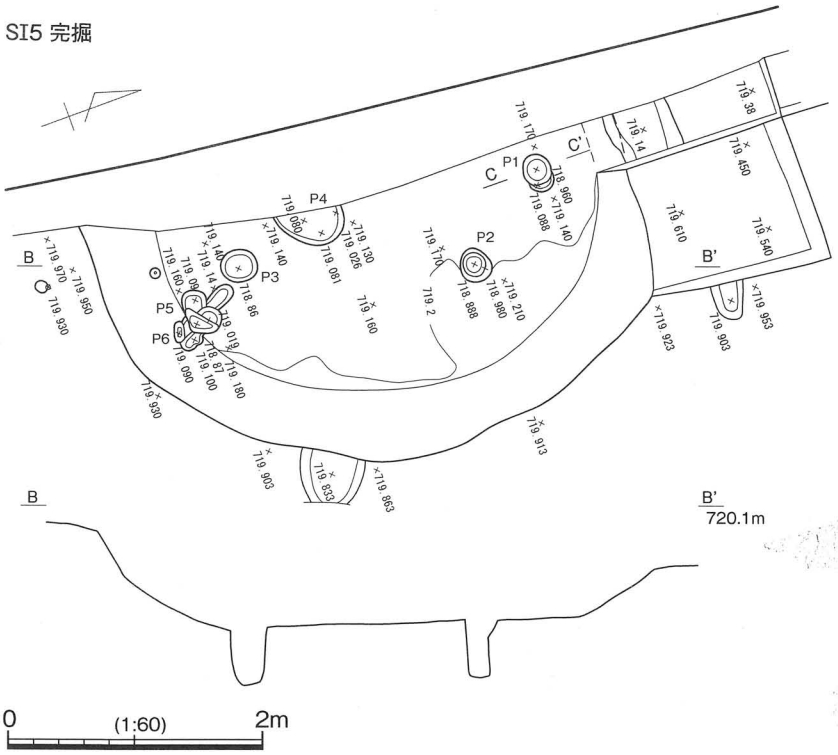
SI5



SI5覆土
① 10YR2/2 黒褐+10YR3/3 暗褐　床直上。炭化粒多含。①':上層との混土。
② 10YR3/3 暗褐　床面か。しまり強。炭化粒少含。
③ 10YR3/2 黒褐　粘質。しまり極強。
〈12〉10YR3/3 暗褐　火砕サージ推定層。焼土・炭化粒含。スコリア丸粒混。
〈13〉10YR3/3 暗褐　1～2.5cm大のスコリア混。大粒。炭化物多含。
〈14〉10YR2/1 黒　径0.5cm大のスコリア混。粘質土少含。炭化粒含。住居内堆積土。
〈15〉10YR2/1 黒+10YR3/3 暗褐　径0.5～0.8cm大の黒色スコリア、径0.1～0.3cm大の黄褐色スコリア混。住居内堆積土。
〈16〉10YR3/1 黒褐　炭化粒多含。住居内堆積土。〈16'〉:10YR4/6褐 埋没後利用の火床か。遺物出土。
〈17〉10YR3/3 暗褐　粒子細かい。径0.5cm大のスコリア微含。

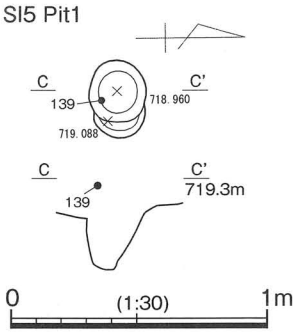
SI5北端撹乱及びサブトレ
1 10YR2/2 黒褐　径4cm大の礫含。径0.5～1cm大のスコリア混。炭化粒含。粘質。土坑状堆積土。
2 10YR2/1 黒　基本層14類似。スコリア層に粘質土が多混。土坑状堆積土。
3 10YR2/2 黒褐　黄褐色土粒、炭化粒含。1層より黄色味強。土坑状堆積土。
4 10YR2/2 黒褐+10YR3/3 暗褐　3層と基本層17層の混層。1cm大の炭化物多含。
5 10YR2/1 黒　炭化粒少含。径0.5～0.8cm大のスコリア含。
6 10YR2/3 黒褐　径1cm大のスコリア含。炭化粒少含。
7 10YR2/3 黒褐　6層類似。やや黄色味強。
8 10YR2/1 黒　粘質。
9 10YR2/3 黒褐　7(6)層類似。黄色味強。
10 10YR2/2 黒褐　径0.5～0.8cm大のスコリアがブロック状に堆積。

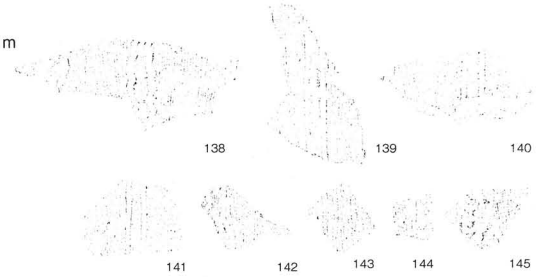
SI5 完掘



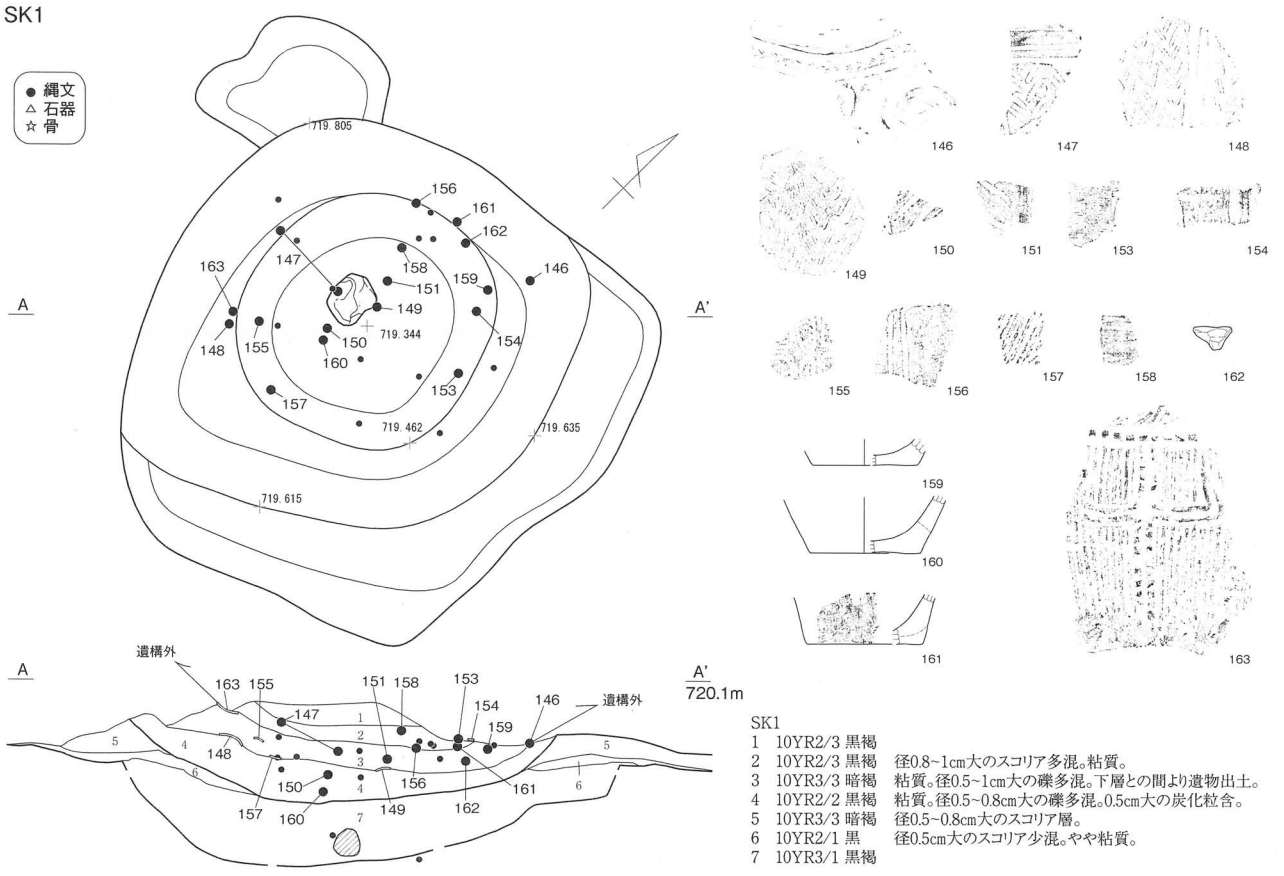
SI5 ピット覆土
P1　7.5YR2/2 黒褐　炭化粒多含。
P2　7.5YR2/2 黒褐　炭化粒多含。やや砂質。
P3　7.5YR2/2 黒褐　粒子細かく、粘性有り。炭化粒小含。
P4　10YR3/2 黒褐　粘質。しまり極強。
P5·6　7.5YR2/2 黒褐　炭化粒多含。

SI5 Pit1



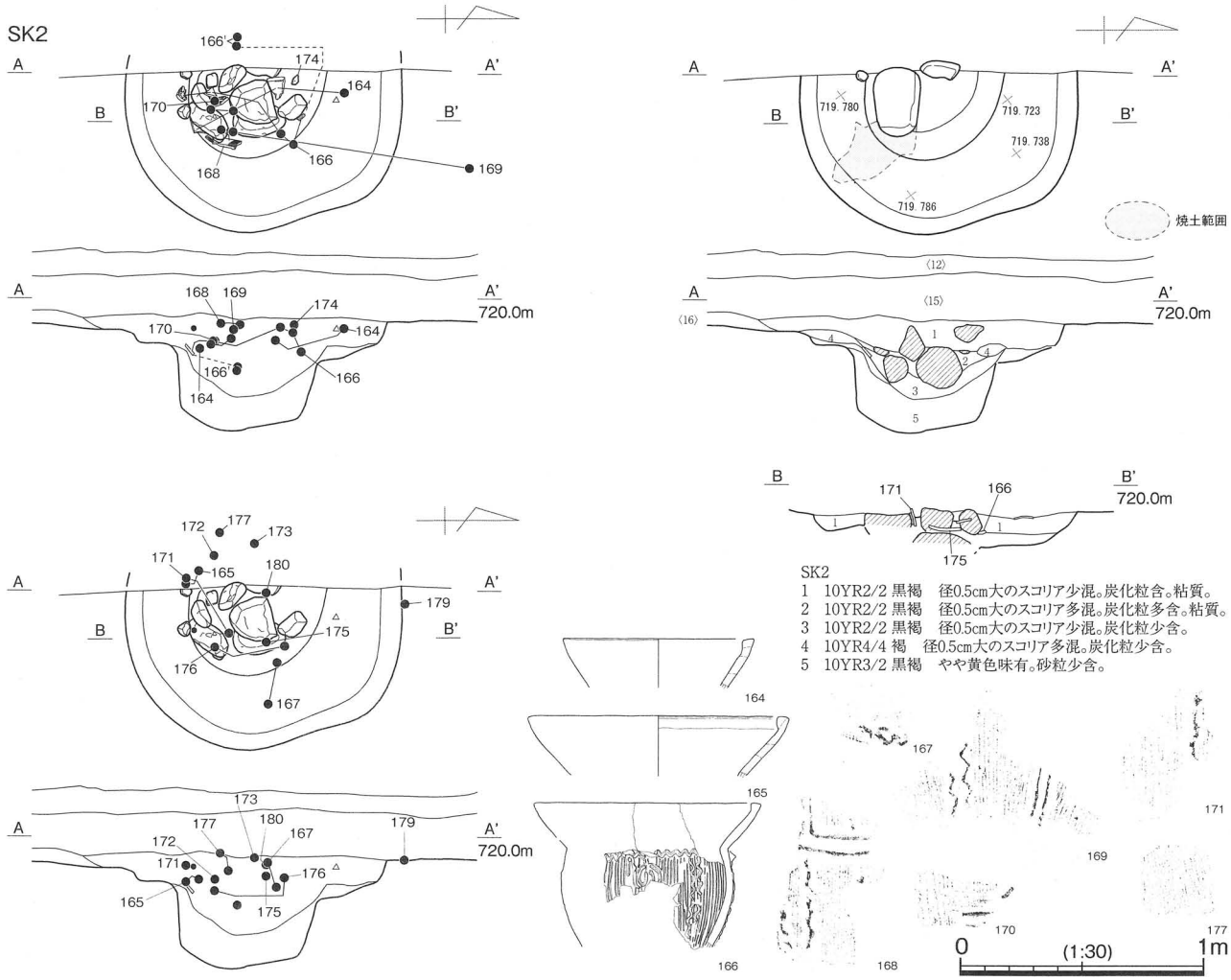


第17図　SI5



SK1

1 10YR2/3 黒褐
2 10YR2/3 黒褐　径0.8~1cm大のスコリア多混。粘質。
3 10YR3/3 暗褐　粘質。径0.5~1cm大の礫多混。下層との間より遺物出土。
4 10YR2/2 黒褐　粘質。径0.5~0.8cm大の礫多混。0.5cm大の炭化粒含。
5 10YR3/3 暗褐　径0.5~0.8cm大のスコリア層。
6 10YR2/1 黒　径0.5cm大のスコリア少混。やや粘質。
7 10YR3/1 黒褐



SK2

1 10YR2/2 黒褐　径0.5cm大のスコリア少混。炭化粒含。粘質。
2 10YR2/2 黒褐　径0.5cm大のスコリア多混。炭化粒多含。粘質。
3 10YR2/2 黒褐　径0.5cm大のスコリア少混。炭化粒少含。
4 10YR4/4 褐　径0.5cm大のスコリア多混。炭化粒少含。
5 10YR3/2 黒褐　やや黄色味有。砂粒少含。

0 (1:30) 1m

第18図　SK1・2

SK3【第19図/ー/図版13】

長径77cm、短径68cmの円形を呈し、確認面からの深さ67cmを測った。底面はほぼ平で、柱痕や抜痕等は確認できなかった。SK5、SX4と直線上に並んでいるが、性格は不明である。出土遺物はなかった。

SK4【第19図/第37図/図版13・21】

調査区東壁際で検出した。遺構の東側は調査区外へ広がっており、検出した範囲では、径132cm、確認面からの深さは70cmを測った。断面観察から、SK1と同様に上層から掘り込まれた遺構であると断定した。またSK2と同様に、確認面の基16層部分が段状に掘り込まれるかたちになったが、基16層上面が遺構を掘削した影響で周辺の土壌の色調が変化した可能性が考えられる。

最も特徴的であったのは、埋め立てた土坑の上面に、深鉢を口径で1/4程度の大きさにした土器片〔181〕を伏せて置き、その脇に礫を並べ、獣骨の混った黄褐色の粘土で覆った状況を確認した。断面観察では、粘土層はマウンド状に盛られた状況ではなく、覆土のうちの1層とみられた。なお、上層と下層で別遺構が重複している可能性も検討したが、下層からも同時期の土器片が出土し、骨片も検出されていることから、同一の遺構と判断した。出土遺物については曽利V式の土器〔182～194〕が出土した。

SK5【第19図/ー/図版13】

長径66cm、短径63cmの円形を呈し、確認面からの深さ59cmを測った。SK3とほぼ同規模であり、掘立柱建物等の可能性も検討したが、調査区内では検出できなかった。出土遺物はなく、詳細な時期は不明である。

SK6【第19図/第37図/図版13・22】

調査区東壁際で検出した。確認できた範囲では径75.9cm、確認面からの深さ18.2cmを測り、円形を呈すものと推定した。SK1と同様に、東壁面の観察から上層の基15層上面からの掘り込みであることが確認でき、さらに基12層の火砕サージ推定層の堆積もみられた。出土遺物はいずれも小片であったが、曽利V式古段階の土器〔195～201〕が出土した。

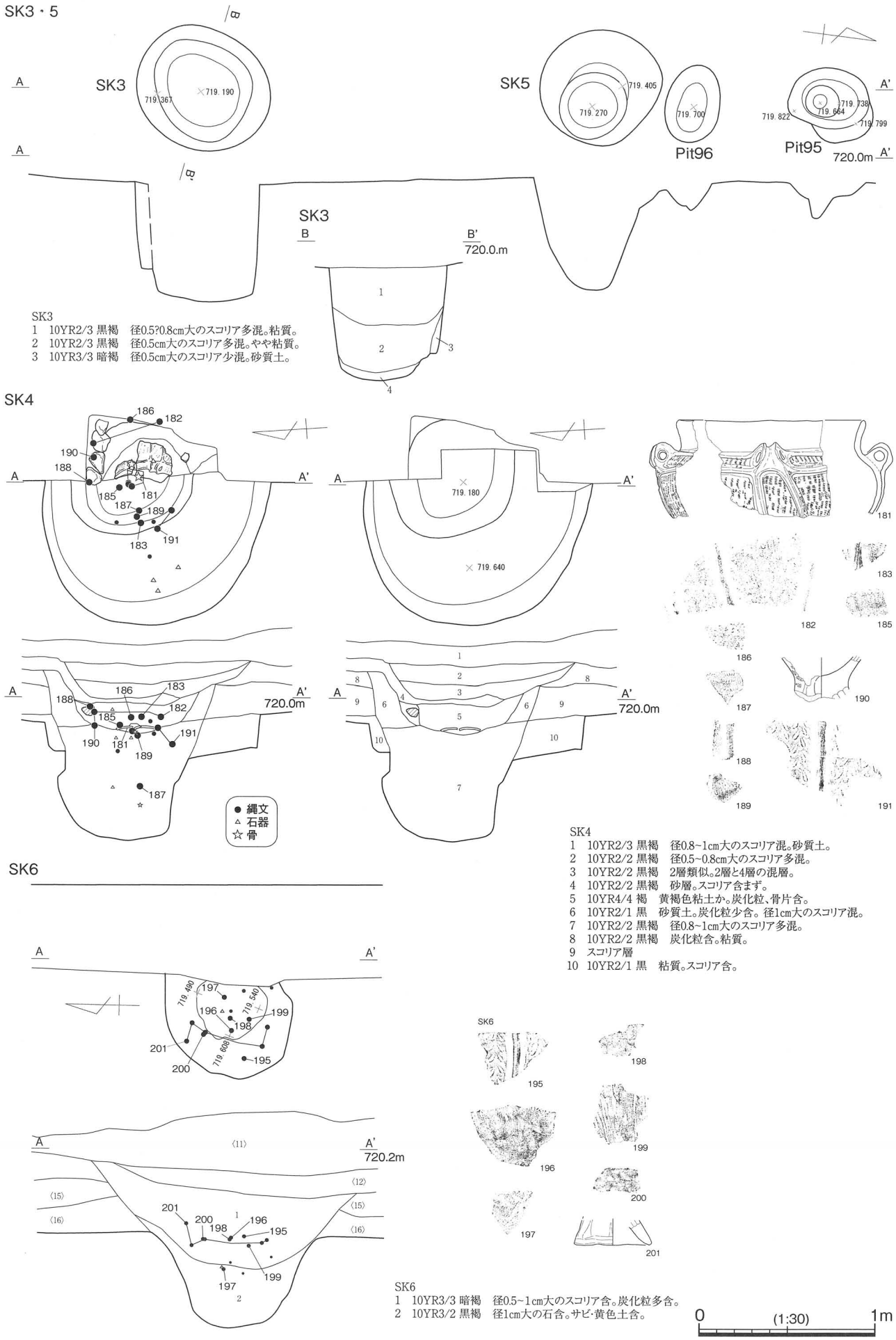
表5　検出遺構一覧(竪穴住居跡・土坑)

遺構名	位置	平面形状	時期	遺物	長径（m）	短径（m）	深さ（m）
SI1	C区	方形か	平安	○	3.57	[1.25]	0.21
SI2	C区	円形か	弥生	○	—	—	0.17
SI3	C区	円形か	弥生	○	(5.80)	—	0.20
SI4	C区	方形か	平安	○	(5.00)	—	0.20
SI5	C区	円形か	縄文	○	[4.27]	[2.12]	0.90
SK1	C区	不整形	縄文	○	2.19	2.00	0.35
SK2	C区	円形か	縄文	○	1.13	[0.67]	0.41
SK3	C区	楕円形	縄文	—	0.77	0.68	0.67
SK4	C区	円形か	縄文	○	1.32	[0.78]	0.70
SK5	C区	不整円形	縄文	—	0.66	0.63	0.59
SK6	C区	円形か	縄文	○	0.759	[0.511]	0.182

ピット【第20～22図/ー/ー】

今回の調査ではSI5以外に柱穴と断定できるものはなかったが、それ以外では計106基を検出した（表6）。特徴として覆土はほぼ1層であり、底面の整ったものは少なく、平面形状も不整形なものが多くみられた。

周辺調査の事例では、本遺跡よりも北に立地する上暮地新屋敷遺跡において検出された217基の土坑のうち、降灰や火砕流によって燃えた木根の痕跡を焼木痕として報告されている。同報告では掘り込み面がスコリア直下であること、覆土上層に炭化物を多量に含むこと、遺物を伴わないこと、形状が不定形で底面に凹凸があり、分布に規則性がないことを共通点としてあげている。今回の調査で検出したピットは、焼木痕に比べて規模は小さく、覆土中に炭化物が明確に混在するものはなかった。しかしこれらの相違点は、当時の環境や植生、また降灰もしくは土石流などの埋没状況などの違いによるものとも考えることができ、土地様相の違いを考える上で重要な検討材料として捉えられよう。



SK3
1　10YR2/3 黒褐　径0.5?0.8cm大のスコリア多混。粘質。
2　10YR2/3 黒褐　径0.5cm大のスコリア多混。やや粘質。
3　10YR3/3 暗褐　径0.5cm大のスコリア少混。砂質土。

SK4
1　10YR2/3 黒褐　径0.8~1cm大のスコリア混。砂質土。
2　10YR2/2 黒褐　径0.5~0.8cm大のスコリア多混。
3　10YR2/2 黒褐　2層類似。2層と4層の混層。
4　10YR2/2 黒褐　砂層。スコリア含まず。
5　10YR4/4 褐　黄褐色粘土か。炭化粒、骨片含。
6　10YR2/1 黒　砂質土。炭化粒少含。径1cm大のスコリア混。
7　10YR2/2 黒褐　径0.8~1cm大のスコリア多混。
8　10YR2/2 黒褐　炭化粒含。粘質。
9　スコリア層
10　10YR2/1 黒　粘質。スコリア含。

SK6
1　10YR3/3 暗褐　径0.5~1cm大のスコリア含。炭化粒多含。
2　10YR3/2 黒褐　径1cm大の石含。サビ・黄色土含。

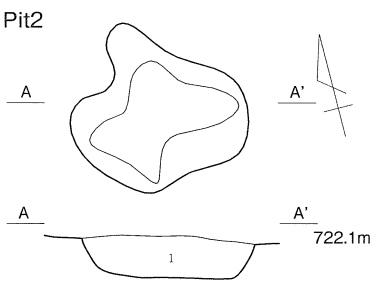
0　(1:30)　1m

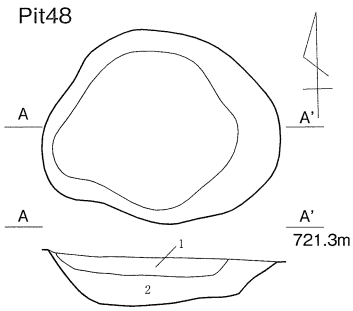
第19図　SK3~6、Pit95・96

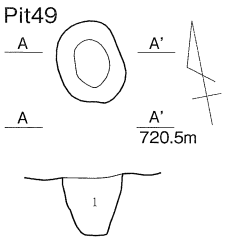
表６　検出遺構一覧（ピット）

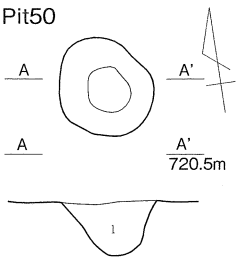
遺構名	位置	平面形状	時期	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
Pit1	C区SI1	円形	平安	34.5	28.0	13.5
Pit2	C区	不整形	平安か	46.5	38.7	10.0
Pit3	C区	楕円形	—	39.9	32.8	11.0
Pit4	C区	不整円形	—	19.7	18.4	22.0
Pit5	C区	円形	—	17.5	16.4	21.0
Pit6	C区	円形	弥生か	18.8	17.5	19.0
Pit7	C区	楕円形	弥生か	20.7	16.4	16.8
Pit8	C区	不整楕円形	—	49.1	36.4	25.0
Pit9	C区	不整円形	—	31.2	27.0	10.0
Pit10	C区	不整円形	—	30.8	28.1	16.0
Pit11	C区	不整楕円形	—	46.0	36.8	12.0
Pit12	C区	楕円形	—	22.8	19.9	13.5
Pit13	C区	不整楕円形	—	33.2	21.0	11.5
Pit14	C区	楕円形	—	21.3	13.9	4.5
Pit15	C区	不整楕円形	—	22.2	12.7	5.0
Pit16	C区	楕円形	—	21.6	16.4	8.5
Pit17	C区	円形か	—	31.6	[19.8]	10.0
Pit18	C区	円形	—	25.2	15.7	11.0
Pit19	C区	楕円形	—	53.3	16.3	13.5
Pit20	C区	—	—	27.0	29.8	7.5
Pit21	C区	不整円形	—	16.9	21.4	8.0
Pit22	C区	不整楕円形	—	24.3	23.6	11.0
Pit23	C区	不整円形	—	30.1	15.8	11.5
Pit24	C区	円形	—	22.4	15.6	16.3
Pit25	C区	円形	—	24.8	21.6	10.3
Pit26	C区	楕円形	—	23.7	39.2	11.8
Pit27	C区	楕円形	—	21.4	25.4	12.3
Pit28	C区	不整円形	—	23.5	21.6	13.8
Pit29	C区	不整楕円形	—	52.8	39.2	14.8
Pit30	C区	不整形	—	31.6	25.4	10.6
Pit31	C区	不整楕円形	—	28.6	16.2	10.9
Pit32	C区	楕円形	—	30.1	26.3	10.8
Pit33	C区	楕円形	—	41.2	34.1	11.0
Pit34	C区	不整円形	—	16.9	14.7	11.0
Pit35	C区	円形	—	19.5	18.6	13.6
Pit36	C区	不整円形	—	19.5	16.7	9.0
Pit37	C区	不整形	—	22.4	19.8	10.9
Pit38	C区	不整形	—	43.0	21.5	11.5
Pit39	C区	円形	—	22.9	21.3	13.0
Pit40	C区	円形	弥生か	25.3	23.5	11.0
Pit41	C区	楕円形	—	43.9	34.7	11.6
Pit42	C区	不整楕円形	—	49.4	34.1	18.0
Pit43	C区	円形	弥生	28.1	26.5	10.5
Pit44	C区	楕円形	弥生	38.3	33.2	8.5
Pit45	C区	楕円形	弥生	21.3	18.8	9.5
Pit46	C区	不整形	弥生	27.9	25.1	6.5
Pit47	C区SI4	楕円形	平安	54.0	42.0	16.0
Pit48	C区	不整楕円形	縄文	62.3	50.8	13.0
Pit49	C区	楕円形	縄文	22.0	16.7	16.4
Pit50	C区	不整円形	縄文	27.2	23.6	13.6
Pit51	C区	楕円形	縄文	35.9	33.9	13.6
Pit52	C区	不整楕円形	縄文	28.4	27.2	14.0
Pit53	C区	円形	縄文	27.8	25.5	13.4

遺構名	位置	平面形状	時期	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
Pit54	C区	不整楕円形	縄文	28.3	23.0	32.8
Pit55	C区	不整楕円形	縄文	41.7	33.8	9.0
Pit56	C区	不整楕円形	縄文	38.2	31.3	12.0
Pit57	C区	不整形	縄文	25.5	24.9	9.1
Pit58	C区	不整円形	縄文	18.9	17.4	7.2
Pit59	C区	不整円形	縄文	26.0	24.9	14.5
Pit60	C区	円形	縄文	15.2	14.6	8.0
Pit61	C区	不整円形	縄文	18.8	18.4	5.6
Pit62	C区	不整楕円形	縄文	27.2	18.7	6.8
Pit63	C区	不整楕円形	縄文	33.9	24.4	9.0
Pit64	C区	不整楕円形	縄文	35.6	29.4	11.0
Pit65	C区	不整楕円形	縄文	40.4	34.6	7.2
Pit66	C区	不整楕円形	縄文	44.0	33.3	8.0
Pit67	C区	楕円形	縄文	56.4	40.0	8.4
Pit68	C区	円形	縄文	18.0	17.9	11.6
Pit69	C区	円形	縄文	26.9	24.4	8.5
Pit70	C区	円形	縄文	47.7	44.5	8.7
Pit71	C区	円形	縄文	19.7	17.3	8.7
Pit72	C区	楕円形	縄文	22.1	18.9	13.0
Pit73	C区	円形	縄文	30.5	28.5	13.0
Pit74	C区	円形	縄文	20.1	18.4	7.2
Pit75	C区	円形	縄文	27.2	25.3	11.2
Pit76	C区	円形	縄文	18.7	18.4	8.0
Pit77	C区	不整楕円形	縄文	51.9	41.7	11.4
Pit78	C区	不整楕円形	縄文	66.8	54.5	14.8
Pit79	C区	楕円形	縄文	48.3	39.9	24.8
Pit80	C区	円形	縄文	25.7	24.1	14.0
Pit81	C区	—	縄文	28.4	-28.0	19.6
Pit82	C区	円形か?	縄文	40.2	38.9	5.6
Pit83	C区	円形	縄文	24.2	23.9	4.8
Pit84	C区	楕円形	縄文	43.1	23.9	9.9
Pit85	C区	円形	縄文	58.0	53.5	13.8
Pit86	C区	円形	縄文	54.4	49.2	7.2
Pit87	C区	円形	縄文	40.0	39.2	4.8
Pit88	C区	—	縄文	69.7	[38.6]	30.5
Pit89	C区	不整楕円形	縄文	62.5	41.0	13.0
Pit90	C区	不整楕円形	縄文	102.7	70.7	25.2
Pit91	C区	楕円形	縄文	44.9	39.3	44.2
Pit92	C区	円形か?	縄文	38.1	33.9	17.1
Pit93	C区	楕円形	縄文	63.6	46.0	16.2
Pit94	C区	円形	縄文	27.5	26.9	11.0
Pit95	C区	不整形	縄文	49.1	36.9	19.0
Pit96	C区	楕円形	縄文	44.5	30.6	13.0
Pit97	C区	円形	縄文	31.3	30.6	7.0
Pit98	C区	円形	縄文	40.9	40.0	9.0
Pit99	C区	楕円形	縄文	23.6	18.1	9.0
Pit100	C区	楕円形	縄文	27.0	23.0	11.0
Pit101	C区	楕円形	縄文	38.7	29.8	19.0
Pit102	C区	楕円形	縄文	26.6	23.6	5.5
Pit103	C区	円形	縄文	28.1	27.5	5.5
Pit104	C区	楕円形か?	縄文	56.1	[38.9]	10.1
Pit105	C区	楕円形か?	縄文	63.7	[45.6]	9.1
Pit106	C区	円形	縄文	30.1	28.5	7.1







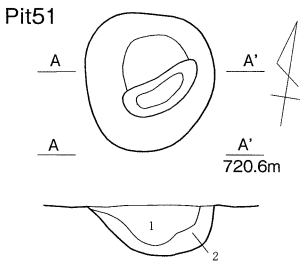


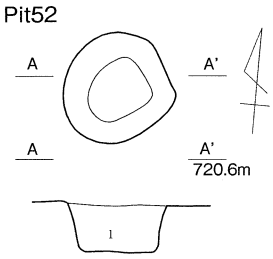
Pit2
1　10YR3/3 暗褐　しまり強。黄褐色土粒多含。

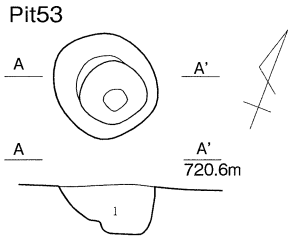
Pit48(A区)
1　10YR3/3 暗褐　しまり強。2層より黒色味強。径1～2cm大礫少混。
2　10YR3/3 暗褐　褐色土ブロック多含。径2～3cm大の礫混。

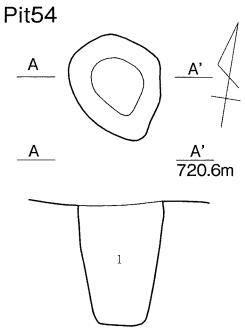
Pit49
1　10YR2/3 黒褐　径0.5～1cm大のスコリア含。やや粘質。

Pit50
1　10YR2/3 黒褐　径0.5～1cm大のスコリア含。やや粘質。







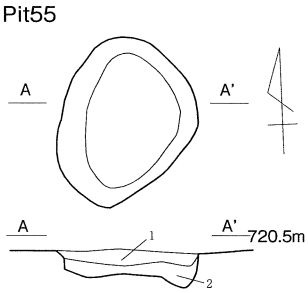


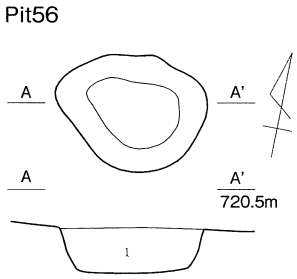
Pit51
1　10YR2/3 黒褐　径0.5cm大のスコリア含。砂質土。

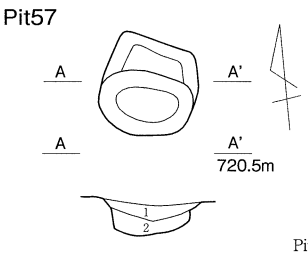
Pit52
1　10YR3/3 暗褐　砂質土。礫含まず。

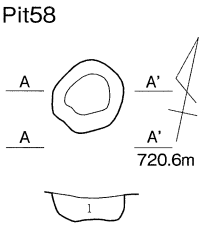
Pit53
1　10YR3/3 暗褐　径0.5～2cm大のスコリア含。砂質土。

Pit54
1　10YR2/2 黒褐　径0.5～2cm大のスコリア含。砂質土。







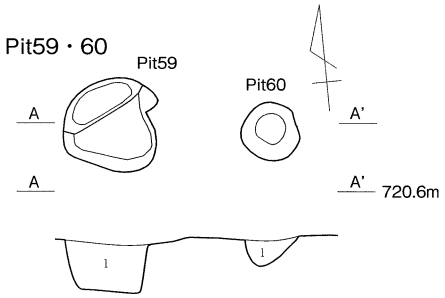


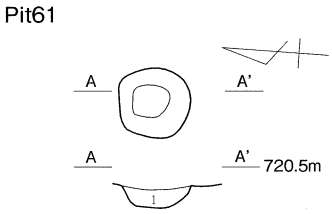
Pit58
1　10YR3/3 暗褐　やや砂質。礫含まず。

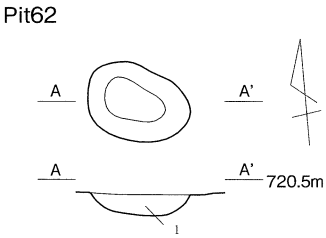
Pit55
1　10YR3/3 暗褐　径0.5cm大のスコリア含。やや粘質。
2　10YR3/4 暗褐　礫含まず。やや粘質。

Pit56
1　10YR3/3 暗褐　砂質土。しまり強。

Pit57
1　10YR3/3 暗褐　径5mm大の礫混。しまり強。
2　10YR3/4 暗褐　径5mm大の礫混。しまり強。







Pit59
1　10YR3/3 暗褐　径5mm大の礫混。しまり強。
Pit60
1　10YR3/3 暗褐　径5mm大の礫混。しまり強。

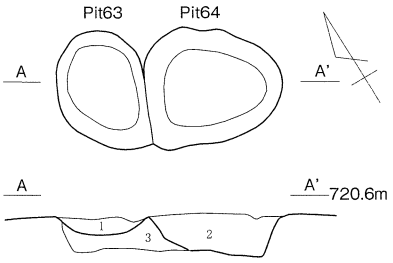
Pit61
1　10YR3/3 暗褐　やや砂質。礫含まず。

Pit62
1　10YR3/3 暗褐　径5mm大の礫混。しまり強。

0　(1:20)　1m

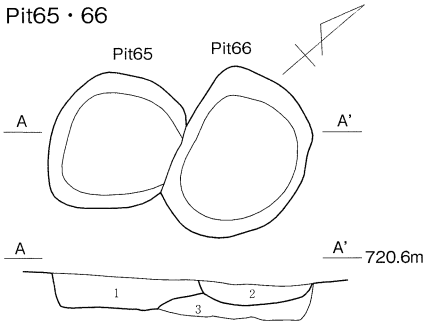
第20図　ピット①

Pit63・64



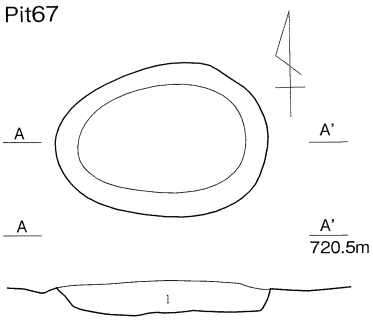
Pit63·64
1　10YR3/3 暗褐　径5mm大の礫混。しまり強。Pit63覆土。
2　10YR3/3 暗褐　径5mm大の礫混。しまり強。Pit64覆土。
3　地山。

Pit65・66



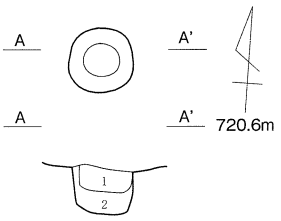
Pit65·66
1　10YR3/3 暗褐　径5mm大の礫混。しまり強。Pit65覆土。
2　10YR3/3 暗褐　径5mm大の礫混。しまり強。Pit66覆土。
3　地山。

Pit67



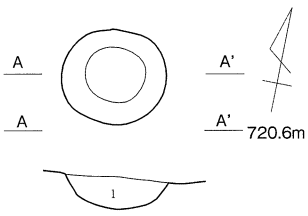
Pit67
1　10YR3/3 暗褐　径5mm大の礫混。しまり強。

Pit68



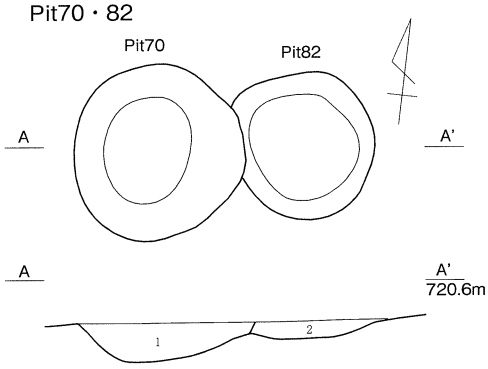
Pit68
1　10YR3/3 暗褐　砂質土。サビ含。径5mm大の礫少混。

Pit69



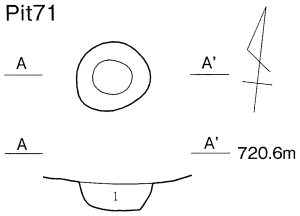
Pit69
1　10YR2/3 黒褐　やや粘質。
　径5mm大の礫、径3cm大の溶岩混。

Pit70・82



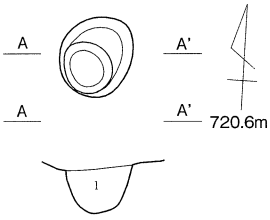
Pit70·82
1　10YR3/4 暗褐　径0.5～3cm大の礫混。砂粒多含。しまり強。Pit70覆土。
2　10YR3/3 暗褐　砂質土。粒子細かい。しまり強。Pit82覆土。

Pit71



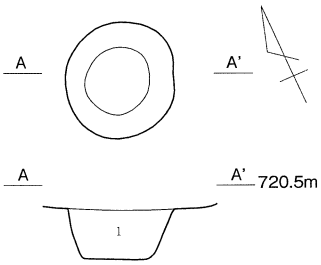
Pit71
1　10YR3/4 暗褐　径0.5～3cm大の礫混。しまり強。

Pit72



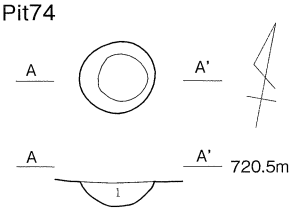
Pit72
1　10YR2/3 黒褐　砂質土。しまりやや弱。
　径0.5～1cm大の礫少含。

Pit73



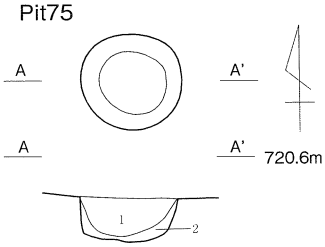
Pit73
1　10YR3/3 暗褐　径0.5～1cm大の礫多混。しまり強。

Pit74



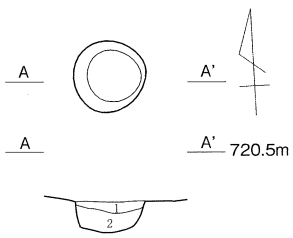
Pit74
1　10YR2/2 黒褐

Pit75



Pit75
1　10YR3/3 暗褐　砂質土。
　径0.5～3cm大の礫少含。

Pit76

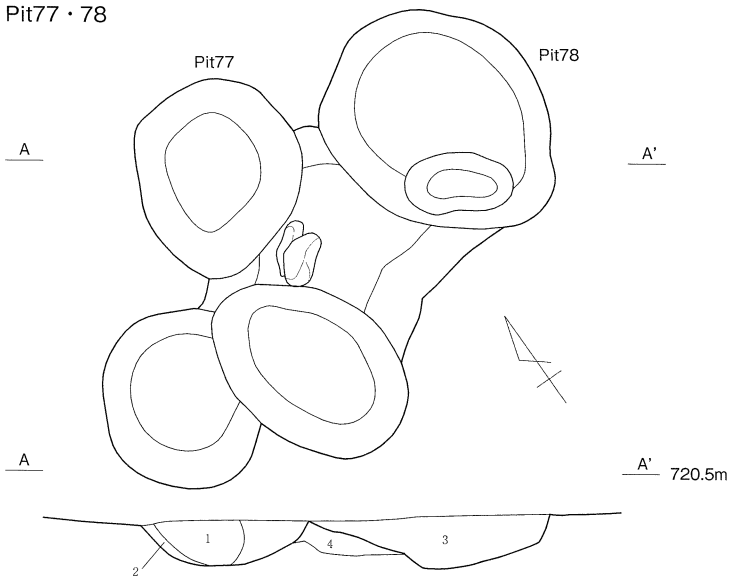


Pit76
1　10YR3/3 暗褐　砂質土。径0.5cm大の礫少含。
2　10YR3/3 暗褐　砂層。しまり強。

0　(1:20)　1m

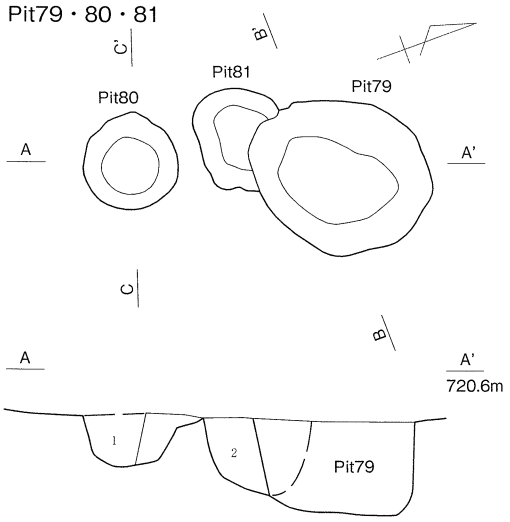
第21図　ピット②

Pit77・78



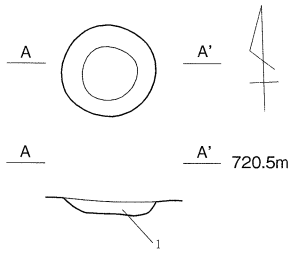
Pit77·78
1　10YR3/3 暗褐　砂質土。径0.5cm大の礫多混。Pit77覆土。
2　10YR2/3 黒褐　炭化粒多含。径0.5～3cm大の礫混。Pit77覆土。
3　10YR3/3 暗褐　砂質土。径0.5～2cm大の礫少混。しまり強。炭化粒含。Pit·78覆土。
4　10YR2/3 黒褐　砂質土。径0.5cm大の礫少混。地山。

Pit79・80・81

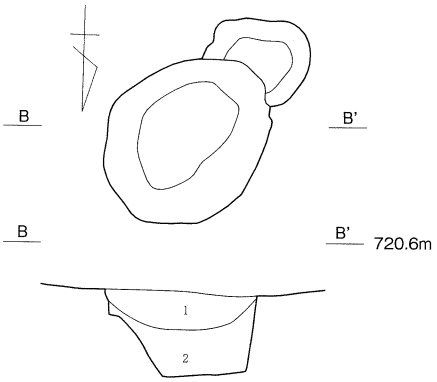


P80·81
1　10YR2/2 黒褐　径0.8cm大の礫含。やや粘質。Pit80覆土。
2　10YR3/4 暗褐　砂質土。しまりやや弱。径0.5cm大の礫混。Pit81覆土。

Pit83

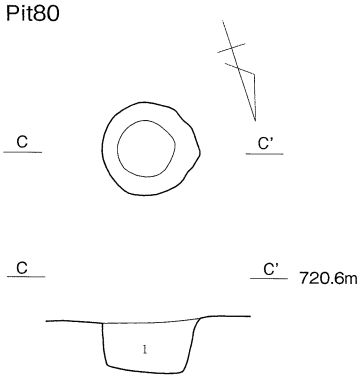


Pit79



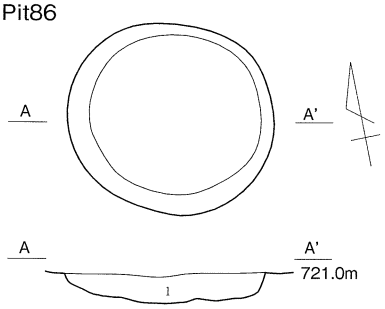
Pit79
1　10YR2/2 黒褐　やや粘質。径0.5～2cm大の礫混。

Pit80



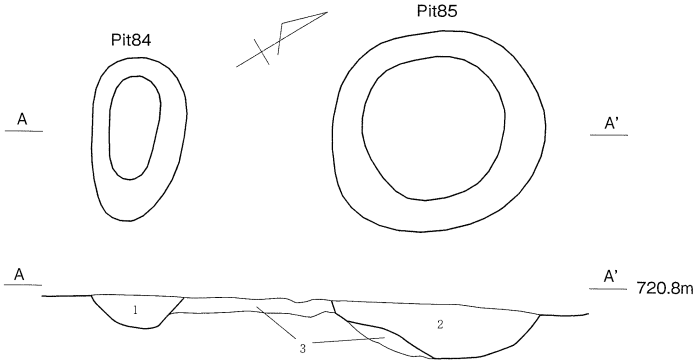
Pit80
1　10YR3/3 暗褐　やや粘質。径0.5cm大の礫少混。

Pit86



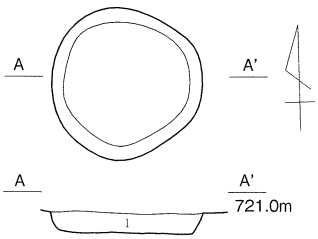
Pit86
1　10YR3/4 暗褐　径0.5cm大の礫混。砂粒粗。

Pit84・85



Pit84
1　10YR3/3 暗褐　Pit84覆土。
2　10YR3/4 暗褐　砂礫層。径4cm大の礫少含。砂粒粗。しまり強。Pit85覆土。
3　地山。

Pit87



Pit87
1　10YR3/4 暗褐　径0.5cm大の礫混。砂粒粗。

0　(1:20)　1m

第22図　ピット③

不明遺構

SX1【第23図/第38図/ 図版13・22】

C区南側、基10層で確認した。加曽利E4式の土器〔202〕とその周辺に同固体と推定する細かい土器片が散在していた。性格については不明であるが、調査時の観察で剥離した破片が周囲に散在していたことから、河川による流れ込みとは異なり、その場所で何らかの目的で使われたものである可能性が窺えた。

出土した土器は口縁から胴部までの破片であり、口径では1/4ほどの大きさであった。内側を上向きにして置かれ、炭化物等は目立たないものの、土器自体も被熱により剥離した痕跡がみられた。

調査範囲内では同型式の土器は相対的に少なく、同一個体と推定するB区〔205〕、遺構外〔325〕以外に目立った出土はなく、すべて加曽利E4式に比定するものであった。

SX2【第23図/第38図/ 図版14・22】

C区北側において、ほぼ完形に近い土器が埋もれていた土坑状の掘り込みをSX3内で検出した。

この土器については、加曽利E式系の有溝小把手土器に類するもので、複節縄文を施文したU字状の縄文帯と、渦巻状のモチーフがみられる。平成19年度の調査では、土器内に磨製石斧と黒曜石を入れて埋納したデポ遺構が検出されており、検出した段階にこれに類似する遺構の可能性を考慮して、SX2とした。

土器上面は基11層の砂粒に覆われており、非常に硬く締まった土層の下で確認した。土器周辺は長径64cm、短径48cmほどの不整形の窪地となっていた。しかし流水の影響を受けており、人為的に掘られたものであるか、はっきりしなかった。また土器周辺では流水による南側から北側への砂粒の動きがみられ、土器内部からの出土物もなく、砂粒が充填していたのみであった（図版14－2・6）。

これらの状況から、土器がこの場所で使用されたものなのかは明確ではないが、最終的には自然埋没したものと推定した。なお、土器内の堆積土（砂）は取上げて計量し、フローテーションを試みたが特に内容物は確認できなかった。その他、周辺からは土製円盤〔207〕（SX3）が出土している。

SX3【第24・25図 /第38～42図/ 図版14・15・22～26】

C区北側で確認した。旧流路による堆積の一部と思われ、砂層部分より遺物が多量に出土した。住居跡・水場・土器捨て場なとを想定し、人為的な痕跡の有無について注視しながら調査した。

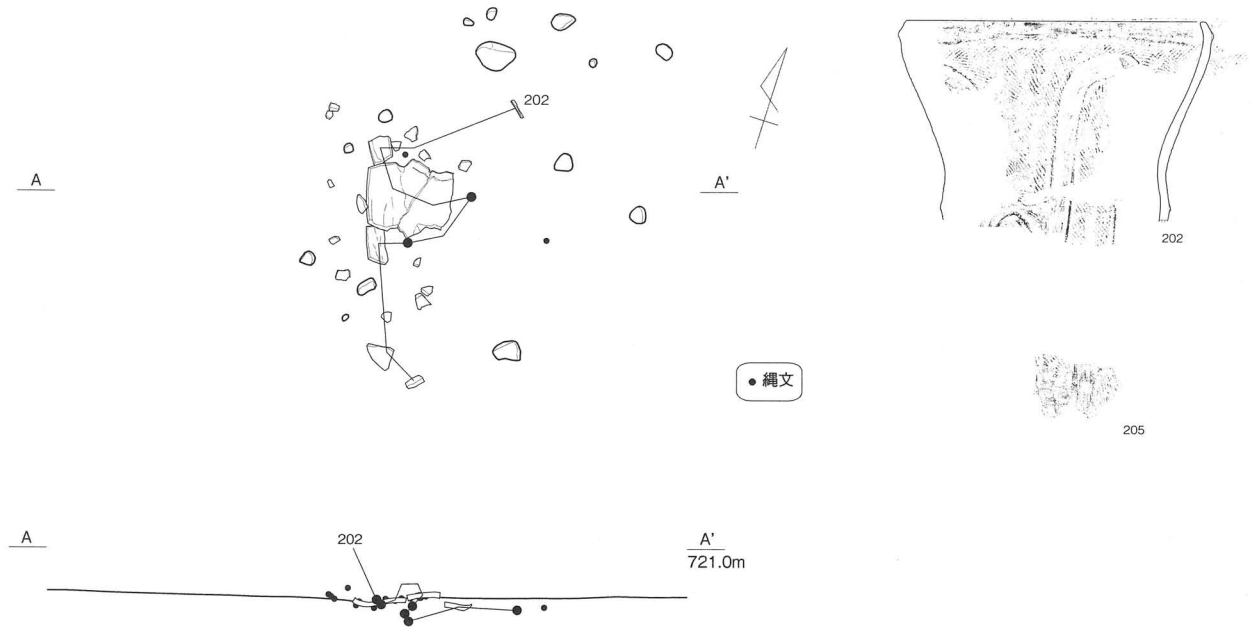
土層観察では、SX3とした覆土は基15層の上に堆積した砂質土で、主に曽利V式期を包含する層であった。上杉氏のご教示により、基12層がSX3部分では途切れ、部分的な堆積となっている状況を確認した。また同層が途切れている部分から遺物が多数出土する傾向があり、SX2もこの一部にあたることから、水流による影響を受けた堆積であると推定した。

その他、上層の基11層の砂質土や礫層が入り込んでいる状況から、雪代などの土石流が覆い被っていることが推定された。同層については、遺物を含む砂質土に切り込まれている状況もみられ、不安定な土壌であったと考えられる。また、B区旧河道等の河川堆積と異なり、一定のレベルから遺物がまとまって出土しており、土器の断面が比較的摩耗していない遺物が出土している。但し、微量ではあったが、検出された礫は富士山系の石質だけではなく、大沢川によって運ばれた丹沢山地系の緑色凝灰岩～頁岩と推定する石も含まれていた。その他、周辺地域にはないチャート（図版15-7）なども検出した。遺物の分布では層序的なまとまりはみられたが、平面的には不明瞭で人為的な痕跡がみられなかったことから、水場や土器捨て場に近い性格と推定した。但し、遺物の接合関係はあまりなく、大半は小片なものが多くみられた。出土遺物は、曽利V式期を中心とする土器片〔207～305〕などが多数出土した。

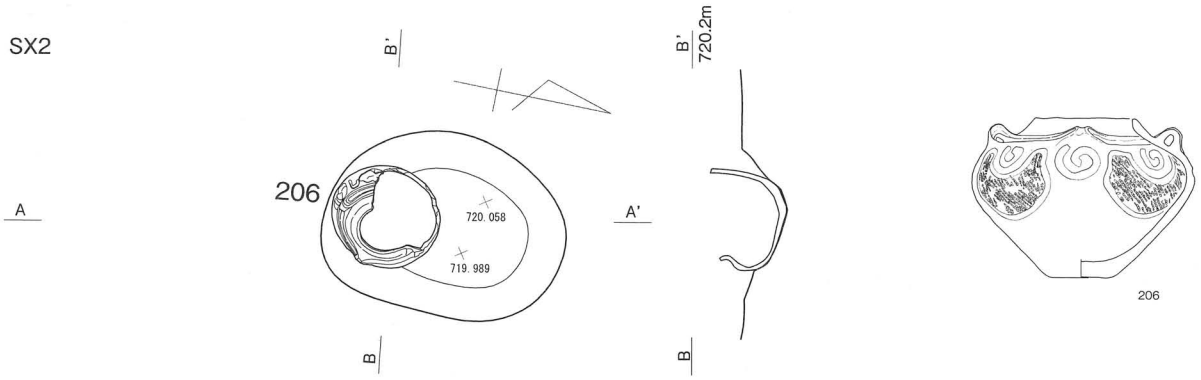
SX4【第23図/ － / －】

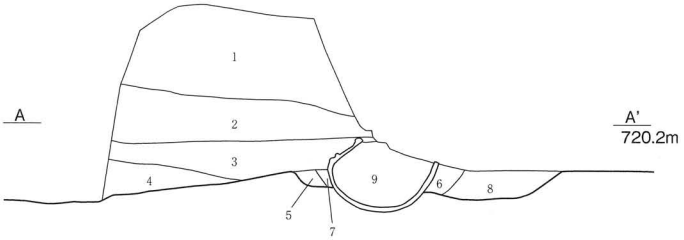
C区南端で確認した。炭化物を含み、不整形で縦70cm、横53cm深さ8cmを測った。人為的な痕跡はみられず、窪地に上面のスコリア層が堆積しており、木根跡等の可能性が窺えた。

SX1

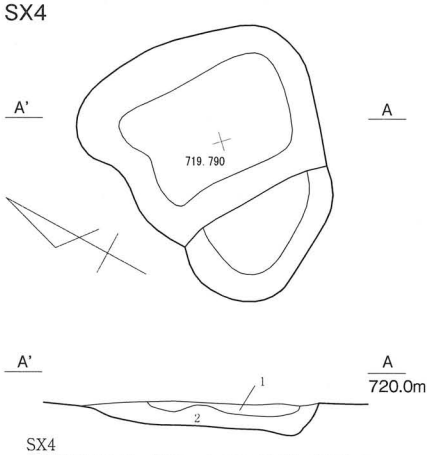


SX2





SX4



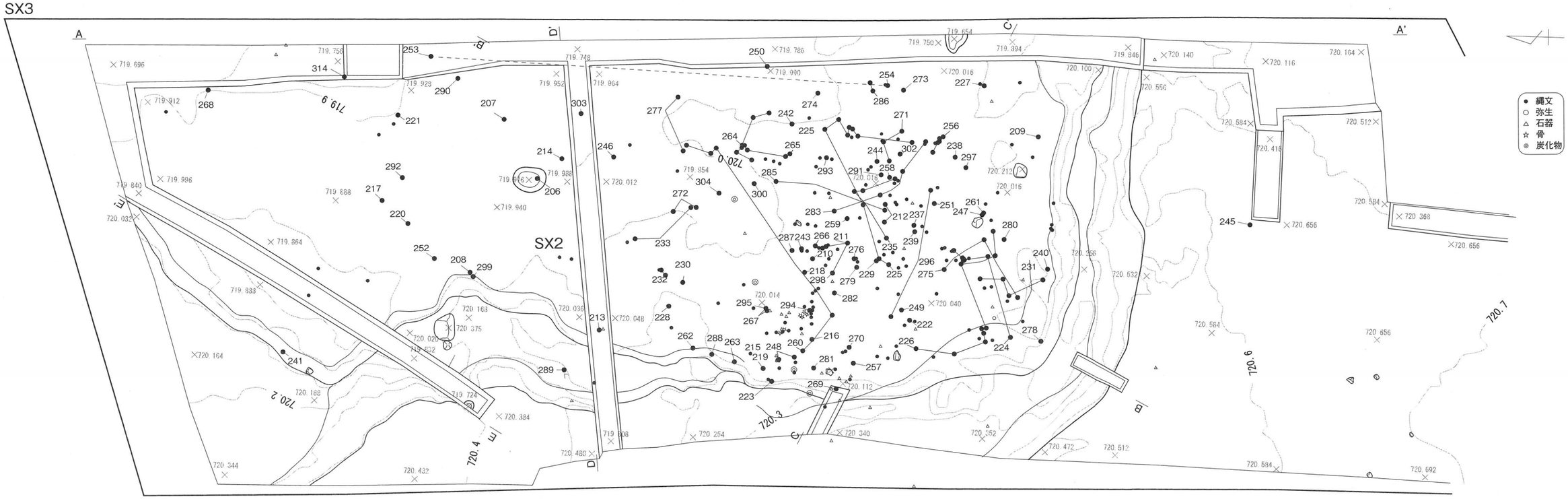
SX2
1　10YR3/4 暗褐　砂質土。径0.5～1cm大のスコリア混。
2　10YR2/3 黒褐　砂質土。互層。スコリアほとんど含まず。
3　10YR2/3 黒褐　砂質土。互層。スコリア少混。
4　7.5YR3/3 暗褐　径1cm大のスコリア多混。
5　10YR3/4 暗褐　砂粒多含。7層との混層。
6　10YR3/3 暗褐　スコリア微含。砂質土。
7　10YR3/3 暗褐　径0.3～0.5cm大のスコリア多混。
8　10YR2/3 黒褐　径0.5～0.8cm大のスコリア混。砂質土。
9　10YR2/2 黒褐　砂層。粒子細かい。土器内堆積砂。

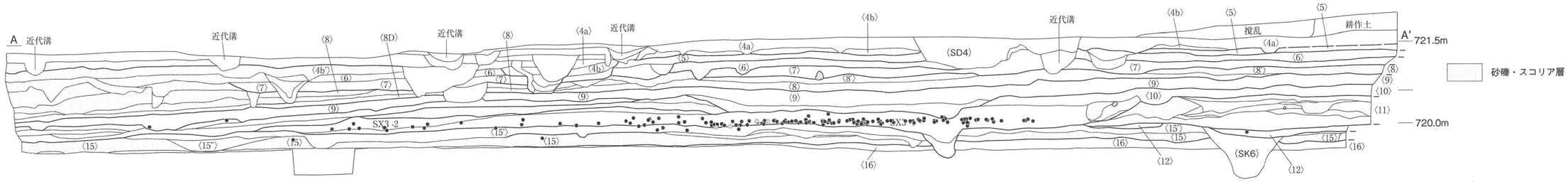
SX4
1　10YR4/6 褐　径0.5cm大のスコリア混。炭化物含。
2　10YR2/1 黒　径1cm大のスコリア混。

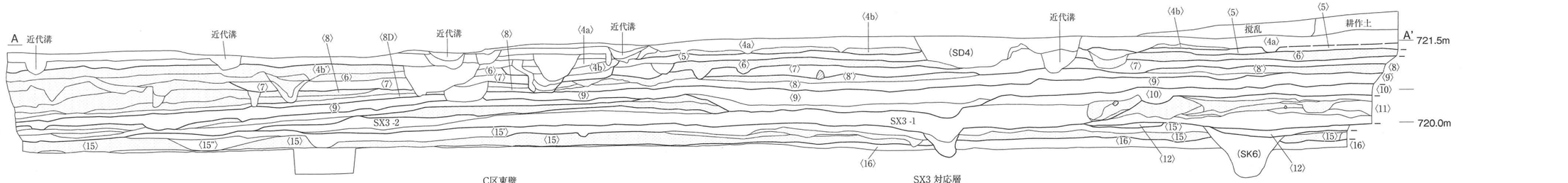
0　(1:20)　1m

第23図　SX1・2・4

SX3







C区東壁

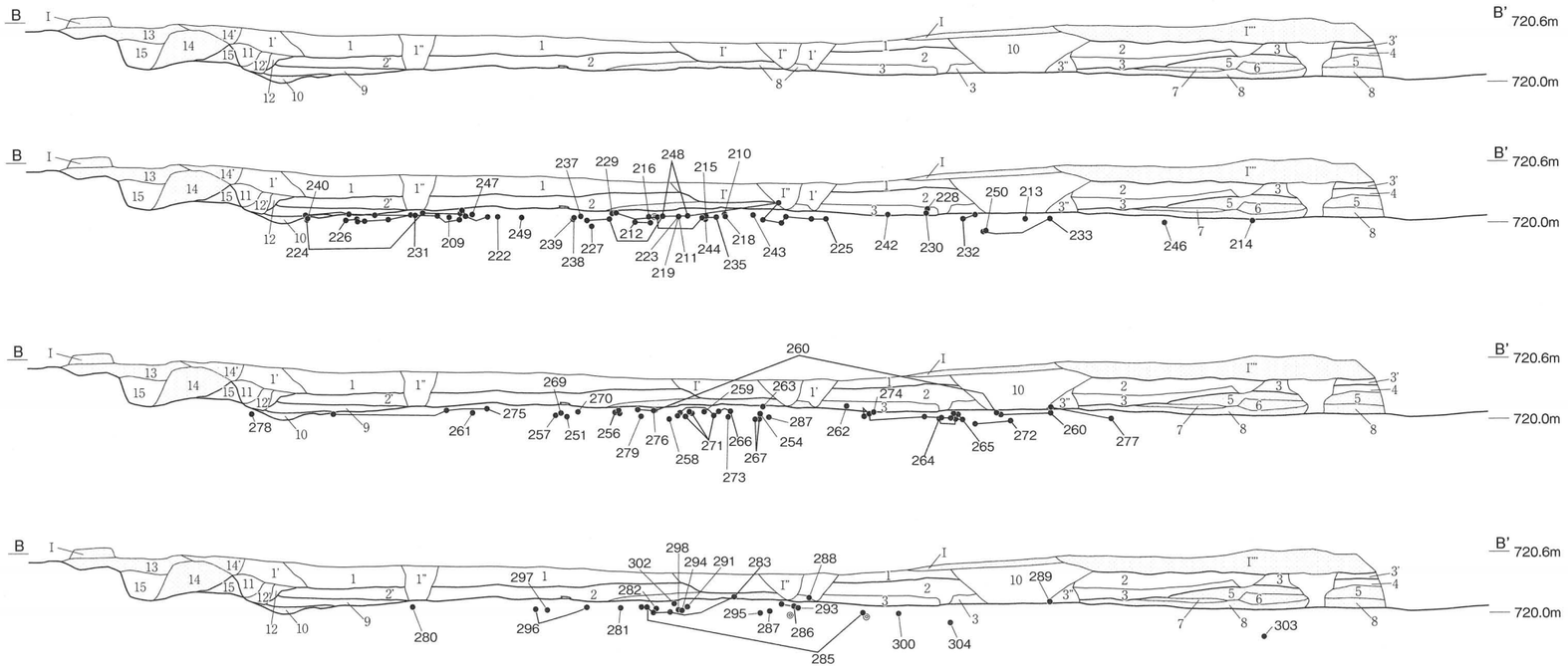
〈4a〉 10YR3/1 黒褐　径1～4mm大のスコリア混。縄文晩期層。
〈4b〉 10YR3/1 黒褐　大室スコリアの上部堆積層。
〈5〉 10YR2/1 黒　粘質。下部の大室スコリア混。
〈6〉 10YR3/3 暗褐　忍野スコリア層。角張った大粒で、径0.5～1cm大。
〈7〉 10YR2/2 黒褐　径0.5～0.8cm大のスコリア混。丸粒多。
〈8〉 10YR3/3 暗褐　火砕サージ推定層。炭化粒含。粒子細かい。しまり極強。
　〈8'〉 砂層　しまり強。径2～3cm大のスコリア混。丸粒多。
〈9〉 10YR3/2 黒褐　径1cm大のスコリア混。スコリアは上層に少混、下層に多混。
〈10〉 10YR3/4 暗褐　径0.5～0.8cm大のスコリア混。スコリア粒やや丸。炭化粒含。
〈12〉 10YR3/3 暗褐　火砕サージ推定層。焼土・炭化粒含。スコリア丸粒混。
〈13〉 10YR3/3 暗褐　1～2.5cm大のスコリア混。大粒。炭化物多含。
〈15〉 10YR2/1 黒+10YR3/3 暗褐　径0.5～0.8cm大の黒色スコリア、径0.1～0.3cm大の黄褐色スコリア混。
　〈15'〉:10YR2/1 黒　径0.5cm大のスコリア混。粘質土少含。炭化粒含。〈15"〉:やや黒色味強。
〈16〉 10YR3/1 黒褐　炭化粒多含。

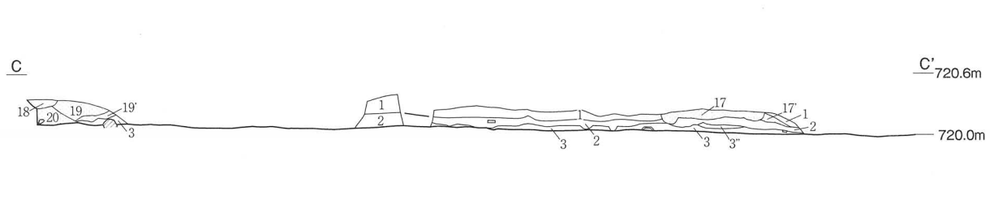
SX3 対応層

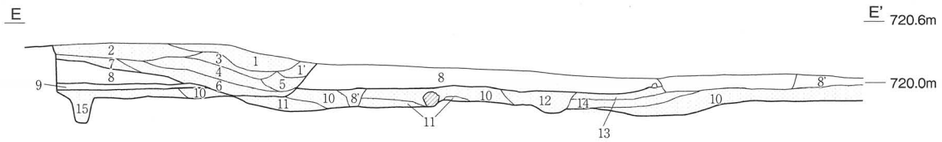
1　10YR3/2 黒褐　砂粒と径0.2cm大のスコリアが互層堆積。
2　10YR3/2 黒褐　径0.2～0.8cm大のスコリア多混。部分的に砂粒・砂層と互層堆積。

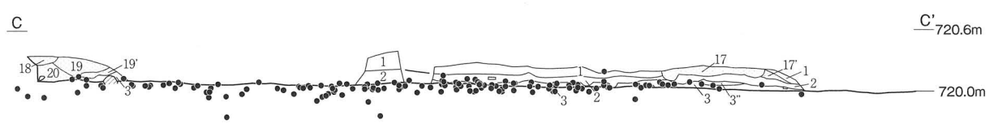
(1:80)　4m

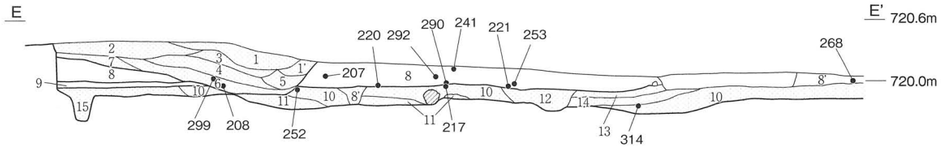
第24図　SX3①

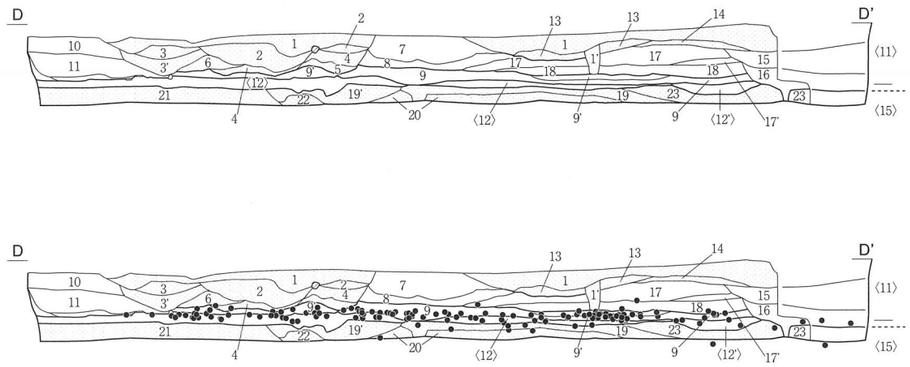












C区　B-B' C-C'

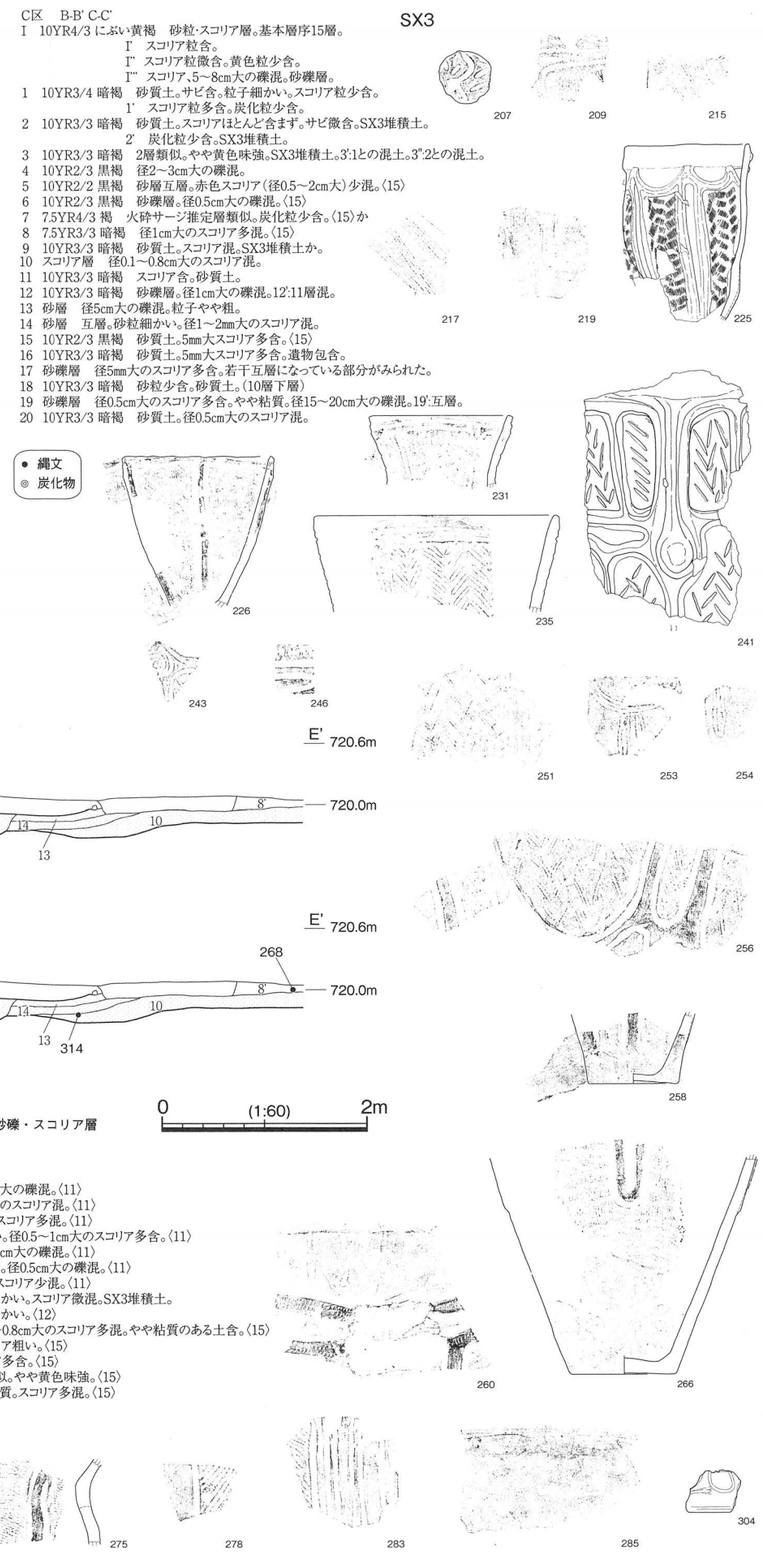
I　10YR4/3 にぶい黄褐　砂粒・スコリア層。基本層序15層。
　　I'　スコリア粒含。
　　I''　スコリア粒微含。黄色粒少含。
　　I'''　スコリア、5～8cm大の礫混。砂礫層。
1　10YR3/4 暗褐　砂質土。サビ含。粒子細かい。スコリア粒少含。
　　1'　スコリア粒多含。炭化粒少含。
2　10YR3/3 暗褐　砂質土。スコリアほとんど含まず。サビ微含。SX3堆積土。
　　2'　炭化粒少含。SX3堆積土。
3　10YR3/3 暗褐　2層類似。やや黄色味強。SX3堆積土。3':1との混土。3'':2との混土。
4　10YR2/3 黒褐　径2～3cm大の礫混。
5　10YR2/2 黒褐　砂層互層。赤色スコリア（径0.5～2cm大）少混。〈15〉
6　10YR2/3 黒褐　砂礫層。径0.5cm大の礫混。〈15〉
7　7.5YR4/3 褐　火砕サージ推定層類似。炭化粒少含。〈15〉か
8　7.5YR3/3 暗褐　径1cm大のスコリア多混。〈15〉
9　10YR3/3 暗褐　砂質土。スコリア混。SX3堆積土か。
10　スコリア層　径0.1～0.8cm大のスコリア混。
11　10YR3/3 暗褐　スコリア含。砂質土。
12　10YR3/3 暗褐　砂礫層。径1cm大の礫混。12':11層混。
13　砂層　径5cm大の礫混。粒子やや粗。
14　砂層　互層。砂粒細かい。径1～2mm大のスコリア混。
15　10YR2/3 黒褐　砂質土。5mm大スコリア多含。〈15〉
16　10YR3/3 暗褐　砂質土。5mm大スコリア多含。遺物包含。
17　砂礫層　径5mm大のスコリア多含。若干互層になっている部分がみられた。
18　10YR3/3 暗褐　砂粒少含。砂質土。（10層下層）
19　砂礫層　径0.5cm大のスコリア多含。やや粘質。径15～20cm大の礫混。19':互層。
20　10YR3/3 暗褐　砂質土。径0.5cm大のスコリア混。

C区 D-D'

1　10YR4/4 褐　5～8cm大の礫混。砂礫層。〈11〉
2　砂礫層　互層。2':1層との混層。〈11〉
3　砂礫層　互層。径5cm大の礫混。溶岩・砂利層。3':径0.5cm大のスコリア多含。互層。
4　砂礫層　径0.5～3cm大のスコリア多含。
5　砂礫層　径5cm大の礫混。
6　砂礫層　径0.5～1cm大のスコリア含。スコリアがやや玉状（角がとれている）。
7　10YR3/3 暗褐　10類似。スコリア含。〈11〉
8　7.5YR3/3 暗褐　径1cm大のスコリア多混。〈11〉
9　10YR3/3 暗褐　褐色粒子、サビ、スコリア含。9':砂粒・炭化粒少含。SX3堆積土。
10　10YR3/3 暗褐　褐色粒子、サビ含。径0.5～1cm大のスコリア多含。〈11〉
11　10YR3/4 暗褐　砂質土。スコリア微混。〈11〉
13　砂礫層　径4cm大の礫混。〈11〉
14　10YR3/4 暗褐　砂質土。スコリア含まず。〈11〉
15　10YR3/3 暗褐　径0.5cm大のスコリア混。褐色粒少混。〈11〉
16　10YR3/3 暗褐　径0.5cm大のスコリア多混。褐色粒多混。〈11〉。
17　10YR3/3 暗褐　砂質土。スコリア含まず。〈11〉
18　10YR2/2 黒褐　砂質土。互層。スコリア少混。〈11〉
19　黒褐色スコリア層　下層の20層との間に黄褐色スコリア層〈15〉。
20　暗褐色スコリア層　〈15〉。
21　スコリア層　〈15〉。
22　10YR2/2 黒褐　径0.5cm大のスコリア多混。〈15〉。
23　10YR3/3 暗褐　スコリア含。〈15〉。

C区 E-E'

1　黄褐色砂礫層　径0.5cm大の礫混。〈11〉
2　黄褐色砂層　径0.5cm大のスコリア混。〈11〉
3　砂礫層　径2～3cm大のスコリア多混。〈11〉
4　砂礫層　互層。砂粒粗い。径0.5～1cm大のスコリア多含。〈11〉
5　10YR3/3 暗褐　径5～8cm大の礫混。〈11〉
6　10YR3/2 黒褐　砂礫層。径0.5cm大の礫混。〈11〉
7　10YR3/3 暗褐　砂層。スコリア少混。〈11〉
8　10YR3/3 暗褐　粒子細かい。スコリア微混。SX3堆積土。
9　10YR3/3 暗褐　粒子細かい。〈12〉
10　10YR2/3 黒褐　径0.5～0.8cm大のスコリア多混。やや粘質のある土含。〈15〉
11　暗褐色スコリア層　スコリア粗い。〈15〉
12　10YR3/3 暗褐　スコリア多含。〈15〉
13　10YR3/4 暗褐　3層類似。やや黄色味強。〈15〉
14　10YR3/3 暗褐　やや粘質。スコリア多混。〈15〉



第25図　SX3②

縄文時代の出土遺物について

今回の調査で出土した同時代の遺物は、一個体の重さの違いはあるものの、出土した遺物の重量比では全体の79.8%、取上点数でも 61.6%と最も多かった。主に縄文時代中期後半にあたる曽利Ⅱ～Ⅴ期段階までの遺物が出土し、僅かであったが縄文時代後期の遺物〔327～329〕が出土している。

曽利式土器の時期については、今福利恵氏の編年（今福 2011）を参照して分類を試みた。なお、今福氏は、甲府盆地及びその周辺を中心として隆帯による施文技法の変化から編年を再検討し（第50図）、曽利Ⅱ式・Ⅳ式についてはそれぞれ古段階と新段階、曽利Ⅴ式については古段階・中段階・新段階と細分されている。今回出土した遺物の大半が破片資料であったことや、筆者の浅学のため詳細な位置づけが不十分なところもあり、この点についてはご叱正を頂戴し、今後の検討のなかで修正していくことにしたい。また、第 26 図で示したように、本調査区では厚く堆積した火山灰により、時期ごとに遺物の出土レベルが異なる状況が認めらた。縄文時代についても、火山灰層によって、土器型式を一定の時間枠のなかで位置づけられる可能性がある。詳細は総括で述べることにし、ここでは編年ごとに文様等の特徴に触れておくことにする。

曽利Ⅱ式段階

曽利Ⅱ式の遺物としては、基15層下で検出した SK2 出土の遺物の他、掘削時の混入と思われる SI5 の〔145〕や SK1 の〔163〕、遺構外からはＣ区北側のサブトレで検出した〔314〕などがある。主な文様としては、半截竹管による条線を地文とし、粘土紐の貼付による頸部文様帯および胴部懸垂文としての隆線や波状隆線、胴部に３本の隆線からなる隆帯で施文したＪ字状もしくは渦巻状のモチーフなどがみられた。なお、SK2 出土の〔166・167〕は、口縁部は無文で頸部に〔167〕は２段、〔166〕は１段の波状隆線があり、後者には隆線による渦巻文と、２本の隆線による波状懸垂文を施している。また、２本単位もしくは縁取り状に施文した隆線が〔163・168〕などにみられる。同時期には蕨手状に延びるモチーフなどが知られるが、〔163〕では胴部の最大径となる高さの位置に懸垂文から横方向に延び、上方向へ鋭角に曲げられている。また、〔163〕は口縁部に斜行条線が施され、頸部にある１段の隆線と胴部の２本の懸垂文には半截竹管による刻みがある。〔145・314〕についても懸垂文上に半截竹管による押引を施しており、曽利Ⅰ期段階の要素がみられることから、他よりも古手の様相にあたるものと比定した。

曽利Ⅳ式段階

調査区全体の出土量からは少ないが、SI5 内に堆積した基15層直下から〔138～144〕、SX3 から綾杉状の条線と蛇行沈線がみられる〔208～211、214～224〕が出土した。SI5 の遺物は胴部破片のみで、地文の縦位条線上に沈線による２本単位の懸垂文と波状沈線文を施しており曽利Ⅳ式古段階に比定した。SX3 出土の特徴的なものでは、口縁部内側が受け口状を呈しているもの〔209〕、時期は明確ではないが、長くやや深めに施文した櫛描条線があるもの〔216・217〕などが出土した。

曽利Ⅴ式段階

SX3 出土資料をはじめ、縄文時代の出土遺物の大半がこの段階に位置付けられたが、小片が多く時期の比定が難しいところもあった。しかし前述のとおり、同一層からの出土であるため、一定の時間枠のなかに位置づけられる点では良好な資料といえる。なお、比較的器形が判別できる資料もあり、バラエティに富んだ文様構成をみることができた。

出土資料の特徴としては、隆帯による区画の有無で文様の施文に違いをもつ点などがあげられる。まず、この段階の特徴的な遺物として、隆帯によるつなぎ弧文に２本単位で縦位区画する〔225〕、口縁部文様帯を省略して縦位の低隆帯を施す〔226〕があげられる。これらは隆帯とともに、隆帯脇を幅広の沈線が沿って縦コ字状の区画を持つ。区画内には櫛描条線を充填するが、〔225〕については口縁部の文様から前段階の要素が残り、〔212・213〕についても若干肥厚帯口縁部のモチーフを残しているものと思われる。

隆帯の有無からみると、隆帯をもつものでは１本もしくは２本の隆帯によって渦巻文〔146〕や窓枠区画〔241〕、縦位、Ｈ字状・Ｕ字状の隆帯〔228～230・247・256～269・271・272〕がある。いずれも隆帯脇を指

ナデによる幅広の沈線が沿っている。SK4 出土の遺物〔181〕については、口縁部は無文で肩部の把手を繋ぐ窓枠状の隆帯、およびその脇に沿う幅広の沈線により横位の楕円形もしくは方形の区画がめぐっており、把手の下から延びる２本の隆帯によって縦位の区画をなしている。区画内は櫛歯刺突、櫛描条線、ハの字文などを充填している。なお、曽利Ⅳ・Ⅴ式段階ともに口縁部の隆帯が省略されて横位沈線および沈線区画となるもの〔147・148・208～211・231・235 ～ 238・247・249〕が出土した。

その他、特徴的な遺物としては、台付土器〔190・201〕、波状口縁で沈線による渦巻文・区画文・ハの字文を施すもの〔242・243〕、地文は無文で２本の沈線による弧線文がめぐるもの〔253・254〕などが出土している。

加曽利Ｅ式

出土量的は少ないが、曽利Ⅴ式段階の遺物とともに出土している。SX1、SX2 とした土器出土地点では、ともに加曽利式土器が出土した。SX1 の〔202～205〕はキャリパー形の深鉢で加曽利 E4 式に比定する。今回の出土遺物のなかでも法量が最も大きい土器であり、また確認した縄文時代中期末の層位では最も高い位置から出土した。縄文地文で口縁下に横位で１本、胴部に逆Ｕ字状に２本の山形の低隆帯を施し、その間を磨り消しを施している。SX2 の〔206〕については、加曽利Ｅ式系の有溝小把手土器に類するもので、複節縄文を施文したＵ字状の縄文帯と、渦巻状のモチーフを施している。

このほか、地文に縄文を用いた遺物は、〔274～284・324・325〕などがある。なお加曽利式の特徴以外に、縄文を施しているが、２本の隆線や波状隆線のある〔324〕や、櫛歯刺突とともに隆帯状に縄文を施す〔326〕など、曽利式などの影響がみられる遺物が出土している。

縄文時代後期

ごくわずかだが、磨り消し縄文が施された称名寺式の土器片〔327～329〕が出土している。基８層内の砂礫層からの出土で、土石流等により混入したものと思われる。

（４） その他の遺構

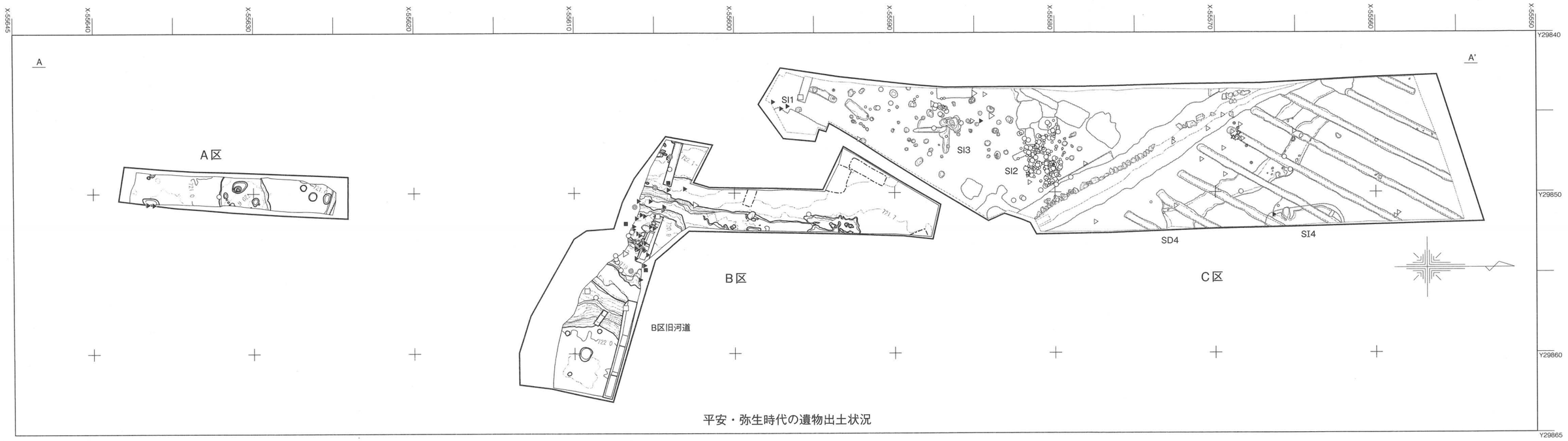
旧河道【第７・８図 /第30図 / 図版４～６】

今回の調査区では、各調査区において流路の痕跡を確認した。今日では小佐野川と大沢川の合流点は護岸工事によって固定されているが、檜丸尾第１溶岩流の流出をはじめ、降灰や洪水の影響を受けて時代によって流路が移り変わってきたことが堆積状況から窺えた。前述のとおり、堆積状況の観察から調査区内においては少なくとも３段階の流路変遷が窺え、平安時代の河床面を確認することができた。流路の方向や範囲については明確ではなかったが、堆積状況の観察から流路の変遷推定図を第７図中に示した。

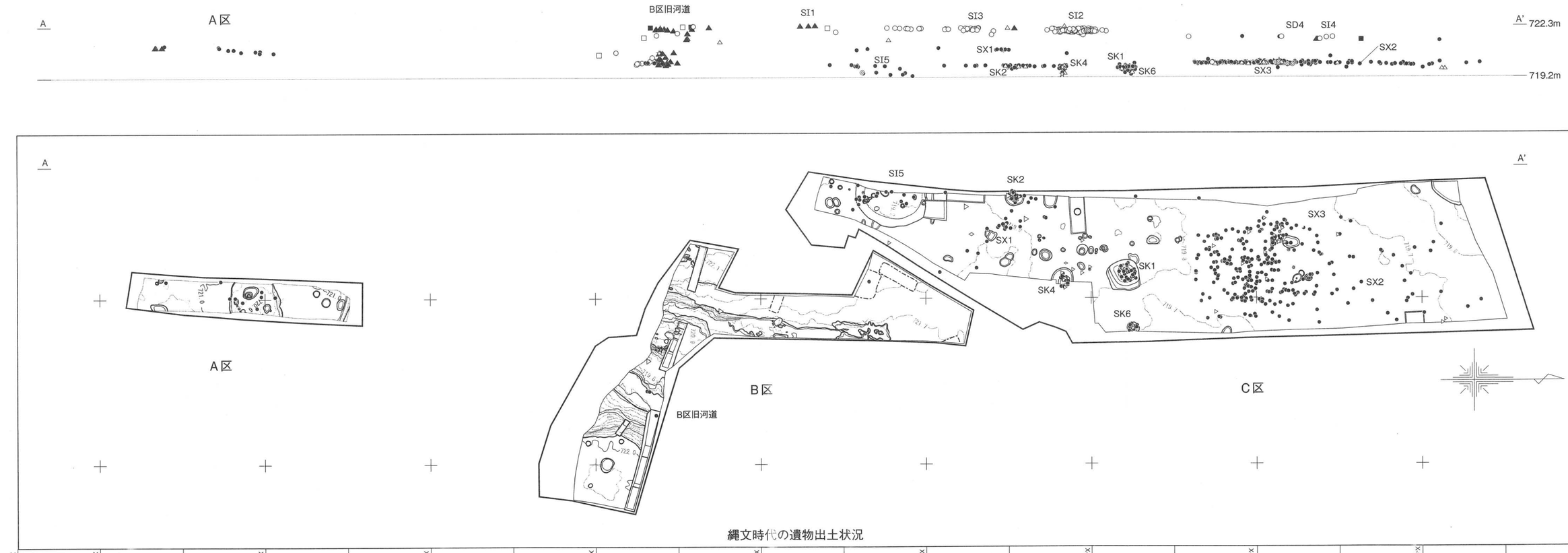
遺物の出土状況については、既に各時代ごとに述べたが、旧河道では弥生時代、平安時代の遺物が多数混在した。中でも平安期の遺物は、Ｂ区内取上点数の約 60％を占め、主に10世紀段階の遺物の混在が多く認められた。また、中世陶器片の〔46〕等の出土から、流路が最終的に埋没した年代は12世紀以降と推定される。なお、弥生期の河床面は平安期の流れで削平されて不明瞭であったが、縄文期にはさらに西側を北～北西方向に流れていたものと推定した。

Ｃ区近代溝【第28図/ － / 図版８】

Ｃ区北側に均等間隔で掘削された複数条の溝を検出した。１本の幅は約30cm程度で、確認面からの深さは約20cmを測った。溝内からはいくつか土器片が出土したが、いずれも耕作土中の混在と判断した。おそらくは機械を用いて直線的にほぼ一定の深さで掘られたもので、かつての耕作面からは30cm程の深さあったと推定される。稲作では、排水や土中の有毒ガスの除去を促す目的で行う溝切り（溝堀り）といった作業があるが、検出した溝ほど深い掘削は行わないという。同地点は以前より水田利用されてきた場所のため該当しないが、富士北麓の高冷な気候は稲作に向かず、水掛麦や水掛菜といった富士山の伏流水を利用する独自の栽培が行われた地域である。この遺構の性格は不明であるが、火山灰土で非常に水はけの良い土地のため、水田耕作に伴って何らかの土地改良をした痕跡と考えておく。



平安・弥生時代の遺物出土状況



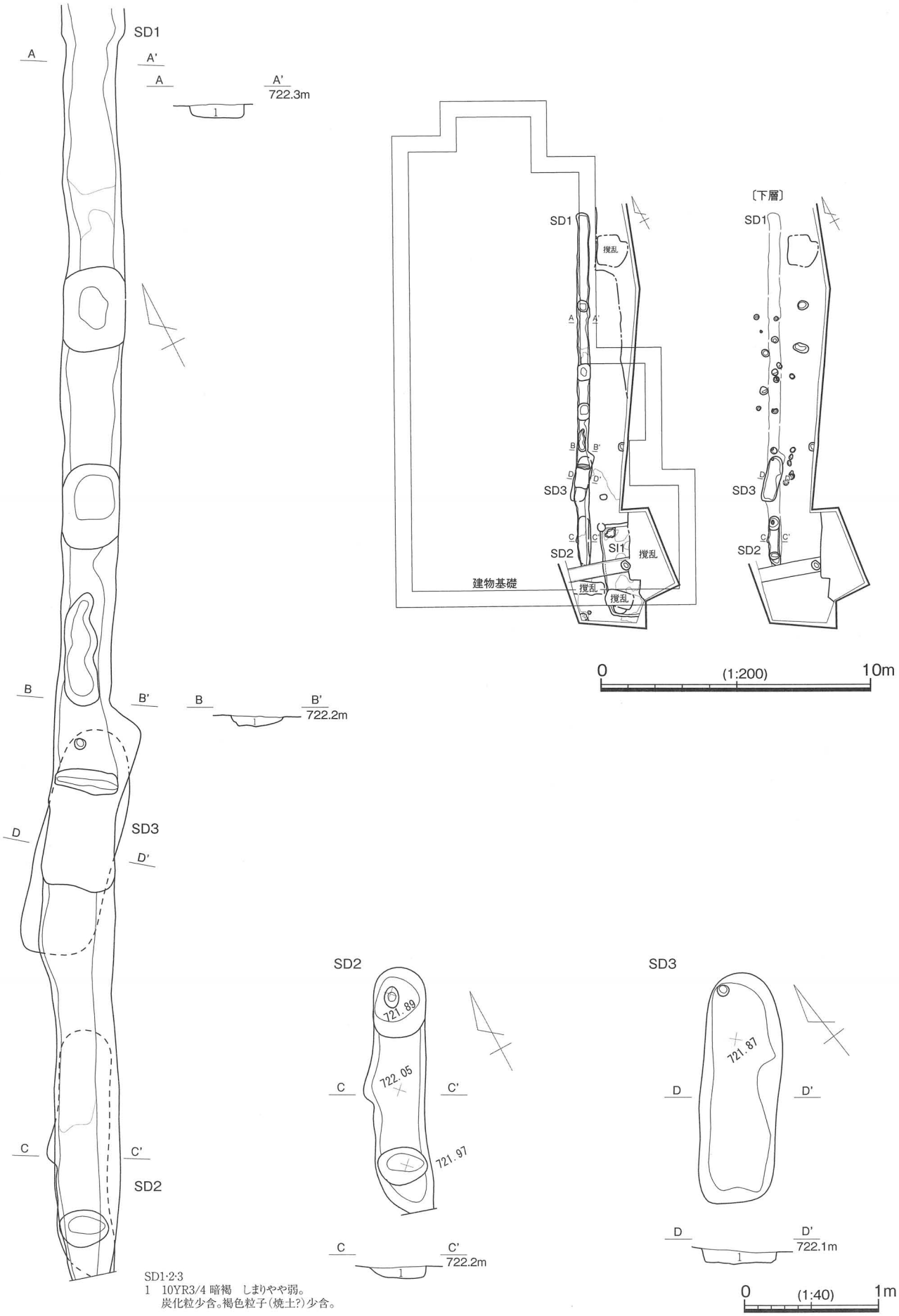
縄文時代の遺物出土状況

●縄 文 ○弥 生 △石 器 ▲土師器 ■須恵器 □陶磁器 ◊古 銭 ☆骨 ◎炭化物

0 (1:250) 10m

第26図　遺物出土状況図

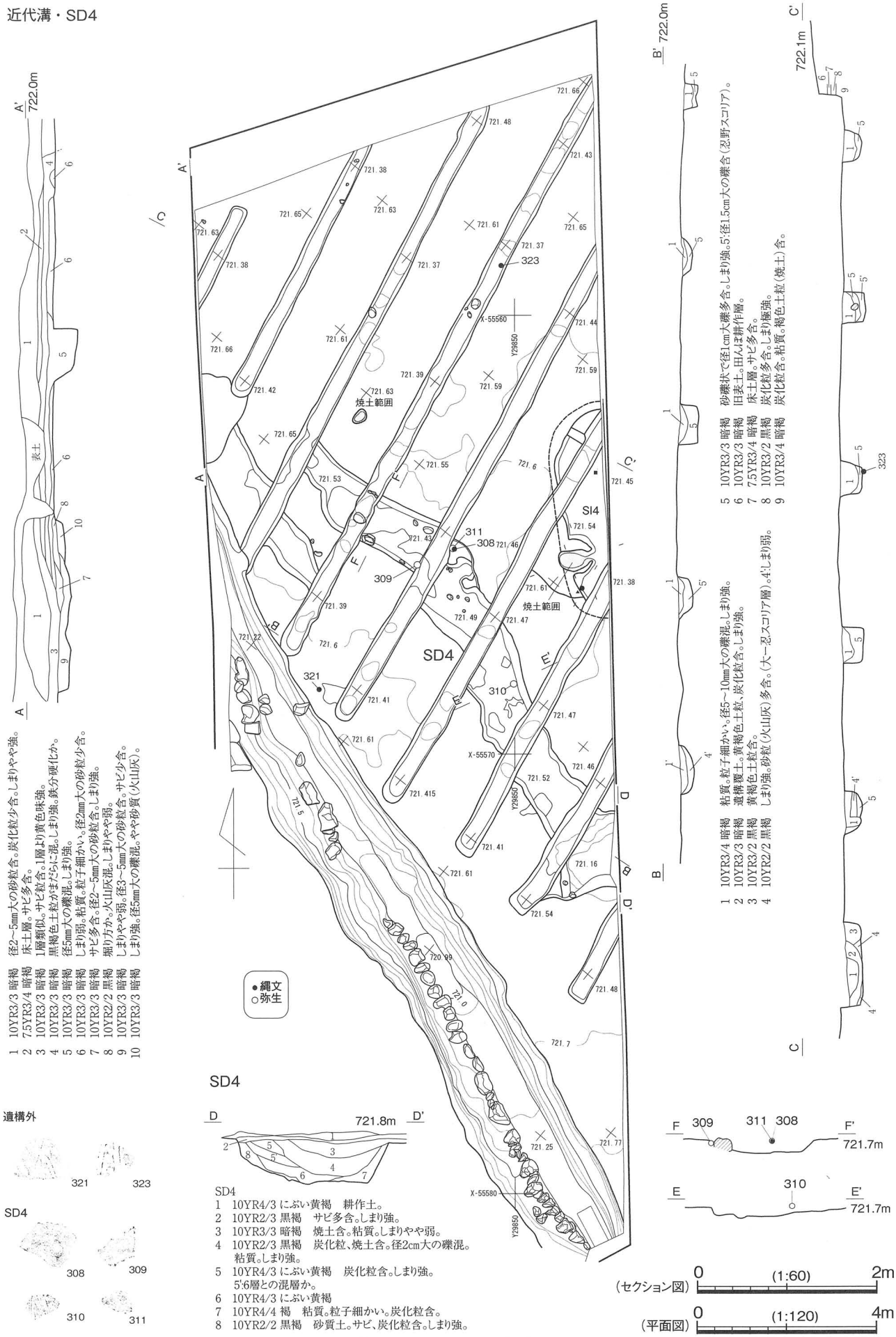
SD1・2・3



SD1·2·3
1　10YR3/4 暗褐　しまりやや弱。
　　炭化粒少含。褐色粒子(焼土?)少含。

第27図　SD1～3

近代溝・SD4



第28図　SD4・近代溝

表７　出土遺物観察表（土器・陶磁器類）

図	地点	掲載No.	種別	器種	時期	部位	内面／外面／底部	色調　内／外	胎　土	焼成	注記	実測No.	備考
29	A区	1	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階か	口縁	ナデ/ナデ,沈線/－	暗褐/黒褐	密，白・褐・黒色粒子,角閃石	良	324	1	
29	A区	2	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階か	口縁	ナデ/ナデ/－	黒	密，白・褐・黒色粒子,角閃石	良	326	2	
29	A区	3	縄文	深鉢	曽利Ⅳ段階	胴	ナデ/隆帯,条線/－	にぶい赤褐/褐灰～暗赤褐	密,白・黒色粒子	良	323	3	
29	A区	4	縄文	深鉢	曽利Ⅳ段階	胴	ナデ/一本低隆帯/－	にぶい黄	やや粗,白・黒色粒子	良	327	4	
29	A区	5	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/櫛歯条線/－	にぶい赤褐	密,白・黒色粒子,雲母	良	315	8	
29	A区	6	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/沈線による区画線,地文にハの字文/－	黄褐/黒褐	密,雲母,褐・黒・白色粒子	良	320	7	外面スス
29	A区	7	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/ハの字文,隆帯,沈線/－	にぶい黄褐	密,黒・白色粒子	良	316,317	5	
29	A区	8	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/ハの字文/－	にぶい黄橙/黒褐	密,黒・白・褐色粒子	良	319	6	
29	A区	9	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/ナデ,無文/－	黒褐	やや粗,白・黒色粒子	良	325	9	
29	A区	10	縄文	深鉢か	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/ナデ/－	褐	密,黒・白色粒子	良	314	10	
29	A区	11	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/縄文,沈線,ナデ/－	明黄褐/褐灰～にぶい黄	密,黒・白色粒子	良	308	11	
29	A区	12	土師	甕	平安	口縁	ナデ/ナデ,ケズリ/－	にぶい赤褐	密,白・黒色粒子	良	309	14	種子分析試料
29	A区	13	土師	羽釜	平安	鍔	ケズリ/ナデ/－	にぶい赤褐	密,白・黒・褐色粒子	良	306	15	
29	A区	14	土師	坏	平安	底	回転ナデ/－/回転糸切り	橙～にぶい黄橙/にぶい黄褐	密,褐色粒子	良	303	13	
29	A区	15	平安	甕	平安	口縁	ナデ/ナデ/－	黒褐	密,白・黒色粒子	良	上中Ａ区砂礫	12	
29	A区	16	近世	擂鉢	近世,近代	胴	櫛目,回転ナデ/回転ナデ/－	赤褐/にぶい赤褐	密	良	上中Ａ区ＳＤ１	16	
30	B区旧河道	17	縄文か	深鉢	曽利Ⅳ段階	口縁	ナデ/隆帯,ナデ/－	にぶい褐～灰褐	やや粗,白・黒色粒子	良	158	22	摩耗している
30	B区旧河道	18	縄文か	深鉢	曽利Ⅴ段階	口縁	ナデ/ナデ/－	にぶい赤褐	密,白・黒・赤色粒子	良	152	21	
30	B区旧河道	19	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/ハの字文,沈線/－	明赤褐～黒/赤褐～黒	密,白・黒色粒子	良	265	18	
30	B区旧河道	20	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/ハの字文,沈線/－	にぶい黄橙～黒褐/黄褐～にぶい褐	密,白・黒色粒子	良	Ｂ区	19	
30	B区旧河道	21	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/縄文,沈線/－	黒/黒褐～褐	密,白色粒子	良	264	20	
30	B区旧河道	22	弥生	甕壺	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	明赤褐/にぶい赤褐	やや粗,白・灰色粒子,雲母	良	173	24	
30	B区旧河道	23	弥生	深鉢	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	にぶい褐/褐	密,白・黒色粒子	良	159	28	
30	B区旧河道	24	弥生	甕壺	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	暗褐/黒褐	密,白・黒色粒子	良	174	29	
30	B区旧河道	25	弥生	甕	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	にぶい赤褐/にぶい褐～黒褐	密,白・黒色粒子	良	181	32	
30	B区旧河道	26	弥生	甕壺	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	黒褐/にぶい赤褐	密,白・黒・褐色粒子	良	172	30	
30	B区旧河道	27	弥生	壺	弥生	胴	ナデ/縦方向の羽状条痕/－	黒/灰黄褐～黒褐	密,白色粒子,雲母	良	150	31	
30	B区旧河道	28	弥生	甕,ミニチュアか	弥生	頸	ナデ/刻み,条痕文/－	黒褐	密,白・黒色粒子	良	Ｂ区	34	口縁,二方向からの刻み
30	B区旧河道	29	弥生	甕	弥生	胴	ナデ/竹管背面による横走羽状沈線文/－	明赤褐	密,黒・白色粒子	良	170	33	
30	B区旧河道	30	弥生	壺	弥生	胴	ナデ/横条痕文,縦条痕文,丸子式/－	暗褐	密,白・黒・赤色粒子	良	6	35	丸子式
30	B区旧河道	31	弥生	甕壺	弥生	胴	ナデ/ナデ/－	にぶい赤褐/暗褐～黒褐	密,白・黒色粒子	良	Ｂ区カワ	23	外面スス付着,種子痕あり 種子分析試料KNM06
30	B区旧河道	32	弥生	深鉢	弥生	胴	ナデ/ナデ横方向調整/－	褐	密,白・黒色粒子	良	175	27	
30	B区旧河道	33	弥生	深鉢	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	灰黄褐/にぶい黄褐～褐灰	密,白・黒色粒子	良	184	25	摩耗している,二次被熱か
30	B区旧河道	34	弥生	深鉢	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	黒褐/黄灰	密,白・黒色粒子	良	183	26	摩耗している
30	B区旧河道	35	須恵	甕	古代	胴	ナデ/櫛描波状文,ナデ/－	黄灰	密,白色粒子	良	1	36	
30	B区旧河道	36	須恵	甕	古代	胴	ナデ/タタキ/－	黒褐	密,白色粒子	良	Ｂ区カワ	37	両面摩耗している
30	B区旧河道	37	須恵	甕	古代	胴	ナデ/ナデ/－	黄灰/にぶい黄褐	密,白色粒子,チャート	良	3	38	
30	B区旧河道	38	須恵	坏	古代	口縁	回転ナデ/回転ナデ/－	灰/黄灰	密,白色粒子	良	185	40	
30	B区旧河道	39	灰釉陶器	壺	平安	胴	回転ナデ/回転ナデ,釉/－	黄灰　釉：灰オリーブ	密,白・黒色粒子	良	Ｂ区カワ	41	
30	B区旧河道	40	灰釉陶器	壺	平安	胴	回転ナデ/回転ナデ,釉/－	灰　釉：暗オリーブ	密,白・黒色粒子	良	84	42	
30	B区旧河道	41	灰釉陶器	壺	平安	胴	回転ナデ/回転ナデ,釉/－	灰　釉：灰オリーブ	密,白・黒色粒子	良	Ｂ区カワ	43	
30	B区旧河道	42	灰釉陶器	小壺か	平安	底	回転ナデ,釉/回転ナデ,釉/回転糸切り	灰白　釉：オリーブ灰	密,白色粒子	良	Ｂ区	46	
30	B区旧河道	43	灰釉陶器	碗	平安	口縁	回転ナデ,釉/回転ナデ,釉/－	黄灰　釉：灰白	密,白色粒子	良	Ｂ区	45	
30	B区旧河道	44	灰釉陶器	壺	平安	胴	回転ナデ/回転ナデ,回転ヘラケズリ/－	黄灰	密,白色粒子	良	91	39	
30	B区旧河道	45	灰釉陶器	壺	平安	胴	回転ナデ/回転ナデ,釉/－	黄灰/暗灰黄	密,白・黒色粒子	良	Ｂ区	44	
30	B区旧河道	46	陶器	甕	平安	胴～底	ナデ/ハケメ/－	にぶい赤褐～灰黄褐/にぶい赤褐～灰褐	密,白・黒色粒子	良	43	58	
30	B区旧河道	47	土師	甕	平安	口縁	ハケメ/ハケメ/－	にぶい赤褐	密,白・黒色粒子	良	90	56	
30	B区旧河道	48	土師	甕	平安	口縁	回転ナデ/回転ナデ,ハケメ/－	褐	密,白・黒色粒子,雲母	良	177	57	
30	B区旧河道	49	土師	坏（壺か）	平安	胴	回転ナデ/回転ナデ/－	橙	密,白・黒色粒子,雲母	良	166	50	
30	B区旧河道	50	土師	坏	平安	底	回転ナデ/ケズリ/線刻	橙/明赤褐	密,白・黒色粒子	良	153	48	摩耗している
30	B区旧河道	51	土師	坏	平安	口縁	ナデ/ナデ/－	橙～灰褐	密,白・黒色粒子	良	89	52	表面剥離,被熱
30	B区旧河道	52	土師	坏	平安	口縁	回転ナデ/回転ナデ/－	明赤褐	密,赤色粒子	良	171	47	燈火痕
30	B区旧河道	53	土師	坏	平安	口縁	回転ナデ/回転ナデ/－	橙	密,赤色粒子	良	Ｂ区カワ	49	
30	B区旧河道	54	土師	皿	平安	胴～底	ナデ/手持ちヘラケズリ/－	橙	密,赤色粒子	良	2	53	
30	B区旧河道	55	土師	坏	平安	底	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	明赤褐/橙	密,赤・白色粒子	良	164	51	
30	B区旧河道	56	土師	坏	平安	底	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	橙	密,赤・黒・白色粒子	良	162	55	

図	地点	掲載No.	種別	器種	時期	部位	内面／外面／底部	色調　内／外	胎　土	焼成	注記	実測No.	備考
30	B区旧河道	57	土師	高台坏	平安	底	ナデ/回転ナデ/回転ナデ,回転糸切り	黒褐/橙	密,白・黒・赤色粒子	良	160	54	黒色土器
31	SI1	58	土師	甕	平安	口縁	ハケメ/ナデ,ハケメ/－	にぶい赤褐	密,白・黒粒子,雲母	良	82	61	
31	SI1	59	土師	壺	平安	胴	ハケメ/ナデ/－	にぶい赤褐	密,白・黒・赤色粒子,雲母	良	81	62	
31	SI1	60	土師	壺	平安	胴	ハケメ/ナデ,ハケメ/－	黒褐	密,白・赤・黒色粒子,雲母	良	83	63	
31	SI1	61	陶器	浄瓶	平安	口～頸	回転ナデ/回転ナデ/－	灰	密,白色粒子,黒色粒子	良	12	64	口縁（鍔部分）打ち欠きか
31	SI2	62	弥生	甕	弥生	口縁	ナデ,ミガキ/瘤状突起をもつ口外帯,沈線4条,ミガキ/－	にぶい黄橙	密,白・赤・黒色粒子,小礫,雲母	良	110	80	
31	SI2	63	弥生	浅鉢	弥生	口縁	ヘラ状工具によるナデ/口外帯風の長円形の刻み,浮線文,ナデ/－	黄灰/浅黄	やや密,白・黒色粒子,雲母,小礫	良	102	77	
31	SI2	64	弥生	甕	弥生	口縁	ナデ/山形小突起,ナデ,浮線文/－	にぶい黄橙	やや粗,白・黒・赤色粒子,雲母,小礫	良	SI2	84	
31	SI2	65	弥生	甕	弥生	口縁	ナデ,ミガキ/口外帯,沈線文,ミガキ/－	灰黄褐	密,白・赤・黒色粒子,小礫,雲母	良	55	78	
31	SI2	66	弥生	甕	弥生	口縁	ミガキ/ミガキ,横位沈線4条/－	にぶい赤褐	密,白色粒子,雲母,黒色粒子	良	188,SI2カクラン	65	種子分析試料KNM01
31	SI2	67	弥生	浅鉢	弥生	口縁	ナデ,ミガキ/沈線2条,ミガキ/－	にぶい橙～灰褐	密,白・黒色粒子,雲母	良	112,241	76	
31	SI2	68	弥生	甕	弥生	胴	ナデ,ミガキ/棒状工具による条痕文,沈線文,ミガキ/－	にぶい赤褐/灰褐～黒	密,白・黒・赤色粒子,雲母	良	92,96,SI2カクラン	73	
31	SI2	69	弥生	甕	弥生	胴	ナデ/ナデ,沈線文/－	にぶい橙～明褐	密,白・黒・赤色粒子,雲母,小礫	良	SI2	85	
31	SI2	70	弥生	甕,壺か	弥生	胴	ナデ/沈線文,ナデ,形該化した平行浮線文/－	灰白	やや粗,白・黒色粒子,雲母	良	C区中央	105	
31	SI2	71	弥生	甕	弥生	口縁	ナデ,ミガキ/ナデ,ヘラケズリか/－	にぶい褐/灰褐	やや粗,白・赤・黒色粒子,小礫,雲母	良	237	79	
31	SI2	72	弥生	深鉢か甕	弥生	口縁	ナデ,ミガキ/山形小突起,ナデ,条痕文/－	にぶい橙	密,白色粒子多・黒色粒子,小礫,雲母	良	SI2	81	
31	SI2	73	弥生	甕	弥生	肩	ナデ/ナデ,条痕文,刺突文/－	灰黄褐/にぶい黄橙	密,白・黒・赤色粒子,雲母,小礫	良	234	133	
31	SI2	74	弥生	甕	弥生	胴	ヘラ状工具によるナデ/ナデ/－	褐	密,白色粒子多,黒・赤色粒子,雲母	良	224	99	
31	SI2	75	弥生	甕	弥生	口縁	ナデ,ミガキ/山形小突起,ナデ,ミガキ/－	灰黄褐～黒褐	密,白・黒色粒子,雲母	良	SI2	82	
31	SI2	76	弥生	甕	弥生	胴～底	ナデ,ミガキ/ナデ,ミガキ/ナデ,線刻/－	にぶい黄褐	密,白・黒・赤色粒子,雲母	良	187	83	
31	SI2	77	弥生	甕	弥生	口縁	ナデ/口外帯風の長円形の刻み,条痕文/－	にぶい黄褐/灰黄褐～黒褐	密,白色粒子多,黒・赤色粒子,雲母	良	263,221	71	
31	SI2	78	弥生	甕	弥生	胴	ヘラ状工具によるナデ/条痕文/－	にぶい褐	やや密,白色粒子多,黒・赤色粒子,雲母	良	57,225,233	75	外面黒変
31	SI2	79	弥生	甕	弥生	口縁	ナデ,指頭痕/口外帯風の長円形の刻み,条痕文/－	灰褐～黒褐	密,白色粒子,雲母	良	113,220	72	スス付着
31	SI2	80	弥生	甕	弥生	口縁	ナデ/口外帯風の長円形の刻み,ナデ（繊維束を利用した工具か）/－	明黄褐/にぶい黄褐	やや粗,白色粒子多,黒・赤色粒子,雲母,小礫	良	48	70	スス付着
31	SI2	81	弥生	甕	弥生	口縁	ナデ/竹管状工具による刺突刻み,縦方向の条痕文/－	にぶい黄橙～にぶい黄褐	密,白色粒子多,赤・黒色粒子,雲母	良	195	69	
31	SI2	82	弥生	浅鉢	弥生	口縁	ナデ,ミガキ/ケズリか,無文帯,条痕文/－	にぶい黄褐	密,白・赤・黒色粒子,小礫,雲母	良	73	86	
31	SI2	83	弥生	浅鉢	弥生	口縁	ナデ,ミガキ/ケズリか,無文帯,条痕文/－	にぶい黄橙～にぶい黄褐	密,白・赤・黒色粒子,小礫,雲母	良	SI2カクラン	87	82と同体か
31	SI2	84	弥生	浅鉢	弥生	胴	ナデ,ミガキ/条痕文/－	にぶい黄橙～にぶい黄褐	密,白・黒・赤色粒子,小礫	良	191,229	88	82,83と同体か
31	SI2	85	弥生	甕	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	にぶい褐	密,白・黒色粒子,雲母	良	246	74	外面黒変
31	SI2	86	弥生	甕	弥生	口縁	ナデ,ミガキ/条痕文/－	褐/灰黄褐	密,白・赤・黒色粒子	良	106	89	波状口縁か
31	SI2	87	弥生	甕	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	にぶい黄褐/にぶい黄褐～灰黄褐	やや粗,白色粒子多,赤・黒色粒子,雲母	良	74	111	
31	SI2	88	弥生	甕	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	褐/黒褐	密,白・赤・黒色粒子,雲母	良	SI2	90	
32	SI2	89	弥生	広口壺	弥生	口～胴	横方向の条痕文/半截竹管による断面三角形の突帯,横方向の条痕文/－	にぶい橙/にぶい赤褐～黒褐	密,白・黒色粒子,雲母	良	22,47,56,94,100,101,192	67	90と同一か 種子分析試料KNM05
32	SI2	90	弥生	広口壺か	弥生	胴～底	ナデ/条痕文,ナデ/網代痕	にぶい黄褐～にぶい褐/にぶい黄橙～黒褐	密,白・黒色粒子,雲母	良	49,75,200	68	89と同一か 種子分析試料KNM04
32	SI2	91	弥生	広口壺	弥生	口縁	ヘラ状工具によるナデ/半截竹管による刻み,条痕文/－	にぶい黄橙/にぶい橙	密,白・黒色粒子	良	54	93	種子分析試料
32	SI2	92	弥生	広口壺	弥生	胴	ナデ/条痕文,断面三角形の突帯半截竹管による刻み/－	にぶい黄橙/にぶい黄橙	やや粗,白・黒色粒子	良	95	91	
32	SI2	93	弥生	広口壺	弥生	胴	ヘラ状工具によるナデ/条痕文/－	にぶい黄橙/にぶい黄橙	やや粗,白・黒・赤色粒子,雲母	良	59,201	97	
32	SI2	94	弥生	広口壺	弥生	胴	ナデ,条痕文/横方向条痕文/－	黄褐/にぶい黄褐～褐灰	密,白・黒色粒子,雲母	良	50:51	95	
32	SI2	95	弥生	甕	弥生	胴	ナデ/ナデ,条痕文/－	にぶい黄	密,白色粒子多,黒色粒子	良	189	102	
32	SI2	96	弥生	広口壺	弥生	胴	ナデ・条痕文/条痕文/－	橙/にぶい黄橙	密,白・黒色粒子,雲母	良	60	100	
32	SI2	97	弥生	広口壺	弥生	胴	ヘラ状工具によるナデ/条痕文/－	にぶい黄～黄褐	やや粗,白色粒子,小礫,雲母	良	104	92	
32	SI2	98	弥生	広口壺	弥生	胴	ヘラ状工具によるナデ/条痕文/－	黄褐/明黄褐	やや粗,白色粒子多,黒・赤色粒子,雲母	良	66	96	
32	SI2	99	弥生	甕	弥生	胴	ナデ・ミガキ/条痕文/－	明黄褐	やや粗,白色粒子多,黒・赤色粒子,雲母	良	98	109	
32	SI2	100	弥生	甕	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	にぶい褐/にぶい黄橙	やや粗,白色粒子多,黒・赤色粒子,雲母	良	124	108	
32	SI2	101	弥生	甕	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	にぶい黄橙	密,白・黒色粒子,雲母,小礫	良	117	124	
32	SI2	102	弥生	甕	弥生	胴	ナデ,条痕文/条痕文/－	にぶい黄橙	密,白・黒色粒子多,赤色粒子,雲母	良	128	101	
32	SI2	103	弥生	甕	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	灰黄褐/にぶい褐	やや粗,白色粒子多,黒・赤色粒子,雲母	良	19,207	118	
32	SI2	104	弥生	甕	弥生	胴	ヘラ状工具によるナデ/条痕文/－	黒/にぶい黄褐	密,白・黒・赤色粒子,小礫,雲母	良	17,61 SI2カクラン	119	
32	SI2	105	弥生	甕	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	灰黄褐/にぶい黄橙	密,白色粒子多,黒・赤色粒子,雲母,小礫	良	197	120	内外面スス付着
33	SI2	106	弥生	甕	弥生	胴	ナデ,ミガキ/条痕文/－	赤褐/にぶい黄褐	密,白・黒・赤色粒子,雲母	良	123	113	
33	SI2	107	弥生	甕	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	にぶい黄褐/黒褐	やや粗,白色粒子多,黒色粒子,雲母	良	116,131	110	
33	SI2	108	弥生	深鉢	弥生	胴	ナデ,ミガキ/条痕文/－	褐/にぶい黄褐	やや粗,白色粒子多,黒・赤色粒子,雲母	良	126	116	
33	SI2	109	弥生	深鉢	弥生	胴	ナデ,ミガキ/条痕文/－	にぶい黄橙/にぶい黄褐～黒褐	やや粗,白色粒子多・黒・赤色粒子,小礫,雲母	良	115,132	114	外面スス
33	SI2	110	弥生	甕	弥生	胴	ヘラ状工具によるナデ/条痕文/－	暗灰黄	やや粗,白・黒・赤色粒子,雲母	良	232	115	外面スス
33	SI2	111	弥生	甕	弥生	胴	ヘラ状工具によるナデ/条痕文/－	黄褐/にぶい褐	密,白色粒子多,赤・黒色粒子,雲母	良	108,109	122	
33	SI2	112	弥生	深鉢	弥生	胴	ナデ,ミガキ/縦方向の条痕文/－	褐灰～黒褐/にぶい黄橙～黄褐	やや粗,白・赤・黒色粒子,雲母	良	130	117	
33	SI2	113	弥生	甕	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	黄褐/にぶい黄橙	やや粗,白・黒・赤色粒子,小礫,雲母	良	93	112	

図	地点	掲載No.	種別	器種	時期	部位	内面／外面／底部	色調　内／外	胎　土	焼成	注記	実測No.	備考
33	SI2	114	弥生	甕	弥生	胴	ヘラ状工具によるナデ/条痕文/－	にぶい黄橙/ にぶい黄	密，白色粒子多,黒・赤色粒子,雲母,小礫	良	34	121	内面スス
33	SI2	115	弥生	甕	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	黒/にぶい黄橙	やや粗，白・赤・黒色粒子,雲母,小礫	良	121	125	
33	SI2	116	弥生	甕	弥生	胴	ヘラ状工具によるナデ/条痕文/－	にぶい黄褐	密，白色粒子多,赤・黒色粒子,小礫多,雲母	良	24	123	
33	SI2	117	弥生	甕	弥生	胴	ヘラ状工具によるナデ/条痕文/－	にぶい黄/明黄褐	やや粗，白色粒子多,小礫,雲母	良	52	126	
33	SI2	118	弥生	甕	弥生	胴	ヘラ状工具によるナデ/沈線文/－	明赤褐	やや粗，白・黒色粒子,1mm位の礫多,雲母,白色角粒	良	222	106	
33	SI2	119	弥生	甕	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	橙/にぶい赤褐	やや粗，黒色粒子多,白色粒子,小礫多,雲母	良	69	107	
33	SI2	120	弥生	甕	弥生	胴	ナデ/ナデ,条痕文/－	浅黄橙/淡黄	やや粗，白・赤・黒色粒子,雲母	良	247	103	
33	SI2	121	弥生	甕	弥生	胴	ナデ,指頭痕/条痕文,沈線文/－	にぶい黄橙	やや粗，白・赤・黒色粒子,雲母,小礫	良	254	104	
33	SI2	122	弥生	甕	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	にぶい黄橙/浅黄橙	やや粗，白・赤・黒色粒子,小礫,雲母	良	111,SI2	127	
33	SI2	123	弥生	甕	弥生	胴	ナデ/ナデ/－	赤褐/灰黄褐～黒褐	密，白・黒・赤色粒子,雲母,小礫	良	215	129	
33	SI2	124	弥生	浅鉢	弥生	胴	ナデ,ミガキ/ナデ,ミガキ/－	にぶい黄橙	密，白・黒・赤色粒子,雲母,小礫	良	204	128	
33	SI2	125	弥生	深鉢	弥生	胴～底	ナデ/縦方向の条痕文/網代痕	にぶい黄褐/黒	密,白・黒色粒子,雲母	良	72,76,134	66	内面スス　種子分析試料KNM03
33	SI2	126	弥生	甕	弥生	胴～底	ナデ/ナデ/木葉痕	にぶい黄橙	やや粗，白色粒子多,黒・赤色粒子,小礫,雲母	良	118	131	内面炭化物付着
33	SI2	127	弥生	甕	弥生	胴～底	ナデ/ナデ/ナデ	にぶい黄橙	やや粗，白色粒子多,赤・黒色粒子,小礫,雲母	良	129	130	内面スス
33	SI2	128	弥生	甕	弥生	胴～底	ナデ/ナデ/ナデ	にぶい黄橙	やや粗，白色粒子多,黒・赤色粒子,雲母,小礫	良	125	132	
34	SI3	129	弥生	甕	弥生	口～胴	ナデ/竹管状工具による刻み,無文帯,横方向の条痕文,縦方向の条痕文/－	にぶい赤褐～黒褐/ 褐～黒	密，白・黒色粒子,雲母,褐色粒子	良	134,143,178, SI3カクラン,SD1	134	
34	SI3	130	弥生	甕	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	褐/ にぶい黄褐～黒褐	密,白・黒色粒子,雲母	良	23	142	
34	SI3	131	弥生	甕	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	黄褐～黒褐/黒褐	やや粗，白・黒色粒子,角閃石	良	86,87	140	
34	SI3	132	弥生	甕	弥生	胴	ナデ,ミガキ/条痕文/－	黒褐～黒/ にぶい黄褐～黒褐	密,白・褐・黒色粒子	良	135,136,138, SI3	139	
34	SI3	133	弥生	甕	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	にぶい黄褐～黒褐/ にぶい褐	密,白色粒子,雲母,黒色粒子	良	141	141	
34	SI3	134	弥生	甕	弥生	胴	ナデ,ミガキ/条痕文/－	暗褐～黒/ にぶい黄褐～黒褐	密,白・褐・黒色粒子	良	88,137,139,140 ,142,SI3	138	
34	SI4	135	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/縄文/－	にぶい赤褐/ にぶい褐	密,白・黒色粒子,雲母	良	262	145	
34	SI4	136	須恵	壺	平安か	胴	ナデ/ナデ,タタキ/－	暗灰	密,白・褐色粒子	良	258	147	
34	SI4	137	土師	小壺	平安	胴～底	回転ナデ/回転ナデ,指頭痕/回転糸切痕か	橙/橙～黒褐	密,白・黒・赤色粒子	良	268	146	底部摩耗
34	SI5	138	縄文	深鉢	曽利Ⅳ段階	胴	ナデ/条線,沈線/－	にぶい黄褐～黒褐	やや粗，白色粒子,雲母,黒・褐色粒子	良	743,768	148	両面スス
34	SI5	139	縄文	深鉢	曽利Ⅳ段階	胴	ナデ/条線,沈線/－	褐～黒褐/ にぶい黄褐～黒褐	やや粗，白色粒子,雲母,黒・褐色粒子	良	766,767	151	外面スス
34	SI5	140	縄文	深鉢	曽利Ⅳ段階	胴	ナデ/条線,沈線/－	にぶい褐～黒/ にぶい赤褐	やや粗，白色粒子,雲母,黒・褐色粒子	良	661	149	外面スス
34	SI5	141	縄文	深鉢	曽利Ⅳ段階	胴	ナデ/条線,沈線/－	にぶい褐～黒	やや粗，白色粒子,雲母,黒・褐色粒子	良	742	150	外面スス
34	SI5	142	縄文	深鉢	曽利Ⅳ段階	胴	ナデ/条線,沈線/－	にぶい黄～黒褐/ 灰黄褐～褐灰	やや粗，白色粒子,雲母,黒・褐色粒子	良	657,744	153	二次被熱
34	SI5	143	縄文	深鉢	曽利Ⅳ段階	胴	ナデ/条線,沈線/－	にぶい黄橙	やや粗，白色粒子,雲母,黒色粒子	良	662,C区	152	二次被熱
34	SI5	144	縄文	深鉢	曽利Ⅳ段階	胴	ナデ/条線,沈線/－	にぶい褐～黒/ にぶい褐	密,白・黒色粒子	良	658	154	内面スス
34	SI5	145	縄文	深鉢	曽利Ⅳ段階	胴	ナデ/条線,隆帯,半截竹管による押圧/－	暗褐～黒褐/ にぶい黄褐	やや粗，雲母,白・黒・褐色粒子	良	663	155	
35	SK1	146	縄文	壺	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/隆帯,横方向のハの字文,渦巻文/－	にぶい黄褐～灰黄褐/灰褐～黒褐	密,白・黒・褐色粒子,雲母	良	578,704	157	
35	SK1	147	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	口縁	ナデ/ハの字文,沈線,ナデ/－	暗赤褐/明赤褐	緻密,黒・白色粒子	良	710,712	160	
35	SK1	148	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/ハの字文,沈線/－	黄褐～黒褐/ 明赤褐～灰褐	密,白色粒子,雲母,黒色粒子	良	714	158	
35	SK1	149	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/ハの字文,沈線/－	黒褐/褐～黒褐	密,白・黒・褐色粒子,雲母	良	722	159	外面スス付着
35	SK1	150	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/沈線,ハの字文/－	明赤褐/黒褐	密,白・黒色粒子	良	701	166	
35	SK1	151	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/沈線,ハの字文,隆帯,8類/－	黒褐/赤褐	密,白・赤・黒色粒子,雲母	良	723	165	
35	SK1	152	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/ナデ,沈線,ハの字文/－	黒褐	密,白・黒色粒子,雲母	良	711	364	種子分析試料KNM02 内面スス付着
35	SK1	153	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/櫛歯状刺突文（横方向の櫛歯状条線）/－	黒	密,白・褐・黒色粒子	良	695	162	
35	SK1	154	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/櫛歯状刺突文,隆帯/－	灰黄褐/黒褐	密,雲母,白・黒・褐色粒子	良	707	163	
35	SK1	155	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/沈線(区画線),すり消し縄文/－	黒/ にぶい赤褐～黒褐	密,白・黒・褐色粒子,雲母	良	705	164	内外スス
35	SK1	156	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/沈線/－	黒/灰褐	密,白・黒・褐色粒子,雲母	良	727	161	内外スス
35	SK1	157	縄文	深鉢	曽利Ⅳ段階	胴	ナデ/条線/－	褐灰～灰黄褐/ にぶい褐	密,黒・白色粒子	良	700	167	
35	SK1	158	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	口縁	ナデ/ナデ/－	にぶい黄褐～褐灰/ 明赤褐～黒褐	密,白・黒・褐色粒子,雲母	良	709	168	摩耗している
35	SK1	159	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	底	ナデ/ナデ/ナデ	明赤褐～にぶい赤褐	密,白・黒色粒子,雲母	良	706	171	
35	SK1	160	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴～底	ナデ/ナデ/網代痕	にぶい黄橙～黒褐/ にぶい黄褐	密,白・黒色粒子	良	702	169	底に灰付着
35	SK1	161	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	底	ナデ/ナデ,綾杉状条線か/ナデ	にぶい赤褐～にぶい褐/灰褐	密,白・赤・黒色粒子,雲母	良	726	170	底に灰付着
35	SK1	162	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	突起部	ナデ/ナデ/－	にぶい黄褐～明赤褐	密,白・黒色粒子,雲母	良	724	172	
35	SK1	163	縄文	条線小壺	曽利Ⅳ段階	頸～胴	ナデ/沈線,頸部,斜位沈線,隆線上に半截竹管による刻み,胴部,横方向に2本の隆線（刻みなし）,端部は上向きに尖っている,縦方向の条線/－	にぶい褐～黒/ にぶい赤褐	密,白色粒子	良	703,780,781	156	
36	SK2	164	縄文	深鉢	曽利Ⅱ段階	口縁	ナデ/ナデ/－	赤褐～にぶい褐	やや粗，白・赤・黒色粒子,小礫	良	682,772,774	174	
36	SK2	165	縄文	深鉢	曽利Ⅱ段階	口縁	ナデ/ナデ/－	赤褐～にぶい黄橙/ 橙	密，白色粒子多,黒・赤色粒子,雲母,小礫	良	788,789	180	
36	SK2	166	縄文	深鉢	曽利Ⅱ段階	口縁～胴	ナデ/条線,波状隆線/－	赤褐～にぶい褐	やや粗，白色粒子多,黒・赤色粒子,小礫,雲母	良	681,684,770, 773,775	175・ 177	
36	SK2	167	縄文	深鉢	曽利Ⅱ段階	頸	ナデ/ナデ,無文,交差する波状隆帯,条線/－	にぶい黄橙/橙	やや密，白・赤・黒色粒子多,雲母,小礫	良	680,735	183	
36	SK2	168	縄文	深鉢	曽利Ⅱ段階	胴	ナデ/条線,隆帯,波状隆線/－	橙～にぶい橙/ 橙～にぶい黄橙	やや密，白・赤・黒色粒子多,雲母,小礫	良	678,676	182・ 185	

図	地点	掲載No.	種別	器種	時期	部位	内面／外面／底部	色調　内／外	胎　土	焼成	注記	実測No.	備考
36	SK2	169	縄文	深鉢	曽利Ⅱ段階	胴	ナデ/条線,隆帯,ナデ/－	にぶい黄橙/赤褐～にぶい赤褐	やや粗，白・黒色粒子多,赤色粒子,小礫	良	686,733,737,776	178	
36	SK2	170	縄文	深鉢	曽利Ⅱ段階	胴	ナデ/条線,隆帯,隆線脇ナデ/－	浅黄橙/明赤褐	やや粗，白色粒子多,黒・赤色粒子,雲母,小礫	良	771	181	
36	SK2	171	縄文	深鉢	曽利Ⅱ段階	胴	ナデ/条線,波状隆線(摩耗)/－	褐/にぶい赤褐	やや粗，白・黒・赤色粒子,小礫多,雲母	良	732,787	186	
36	SK2	172	縄文	深鉢	曽利Ⅱ段階	胴	ナデ/隆帯,条線,波状隆線/－	にぶい褐～褐/にぶい赤褐	やや粗，白・黒・赤色粒子,小礫多,雲母	良	790	188	
36	SK2	173	縄文	深鉢	曽利Ⅱ段階	胴	ナデ/隆帯,条線/－	にぶい黄褐/にぶい赤褐	やや粗，白・黒色粒子,小礫多,雲母	良	793	192	
36	SK2	174	縄文	深鉢	曽利Ⅱ段階	胴	ナデ/隆帯,条線/－	にぶい褐～明褐/にぶい赤褐	やや粗，白・黒・赤色粒子,小礫多,雲母	良	679	190	
37	SK2	175	縄文	深鉢	曽利Ⅱ段階	胴	ナデ/条線/－	にぶい褐～明褐/にぶい赤褐	やや粗，白・黒・赤色粒子,小礫多,雲母	良	734	191	
37	SK2	176	縄文	深鉢	曽利Ⅱ段階	胴	ナデ/条線/－	にぶい黄褐/にぶい赤褐	やや粗，白・黒色粒子,小礫多,雲母	良	736,777	187	
37	SK2	177	縄文	深鉢	曽利Ⅱ段階	胴	ナデ/条線/－	にぶい黄橙/明黄褐	やや密，白・黒色粒子多,赤色粒子,雲母,小礫	良	792	184	
37	SK2	178	縄文	深鉢	曽利Ⅱ段階	胴	ナデ/条線/－	黒/暗褐	やや粗，白・黒色粒子,小礫多,雲母	良	688	189	内面スス
37	SK2	179	縄文	深鉢	曽利Ⅱ段階	胴	ナデ/条線/－	にぶい黄褐/にぶい赤褐	やや粗，白・黒色粒子,小礫多,雲母	良	683	193	
37	SK2	180	縄文	深鉢	曽利Ⅱ段階か	胴	ナデ/ナデ/－	にぶい赤褐/橙	やや粗，白・黒色粒子多,赤色粒子,小礫,雲母	良	677	179	
37	SK4	181	縄文	甕	曽利Ⅴ段階	口～胴	ナデ/口縁無文,把手間を窓枠状にし,胴部にも縦方向に2本の隆線で区画。横位の櫛歯刺突文で充填。横位櫛歯刺突文/－	赤～橙	やや粗，白色粒子多,黒・赤色粒子,雲母,小礫	良	747,748,750,SK4	194	195と同一
37	SK4	182	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/横方向の櫛歯刺突文,隆帯/－	にぶい黄橙～黒褐/赤褐～にぶい橙	やや粗，白色粒子多,黒・赤色粒子,雲母,小礫	良	796,798	201・209	被熱 外面所々剥離している
37	SK4	183	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/櫛歯刺突文,隆帯/－	にぶい黄橙～明黄褐	密，白色粒子多,黒・赤色粒子,雲母	良	746	204	
37	SK4	184	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/櫛歯刺突文,隆帯/－	橙～明褐	密，白・黒色粒子,雲母,小礫	良	SK4	205	多面摩耗
37	SK4	185	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/櫛歯状刺突文/－	橙～にぶい黄橙/にぶい黄橙	密，白・黒・赤色粒子,雲母	良	717	199	
37	SK4	186	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/櫛歯刺突文/－	にぶい褐～明褐/明赤褐	やや密，白・黒色粒子,雲母,小礫	良	797	206	多面摩耗
37	SK4	187	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/横方向の櫛歯刺突文/－	橙/明赤褐	密，白色粒子多,黒・赤色粒子,雲母,小礫	良	739	202	
37	SK4	188	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/櫛歯刺突文,隆帯,櫛描条線,/－	にぶい黄橙/にぶい黄褐	やや密，白・黒色粒子,小礫	良	751	208	
37	SK4	189	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/櫛描条線,又は櫛歯刺突文/－	にぶい黄橙/にぶい黄橙～にぶい黄褐	密，白・黒・赤色粒子,雲母,小礫	良	718	198	
37	SK4	190	縄文	台付鉢か	曽利Ⅴ段階	底	ナデ/ナデ,櫛歯状刺突文/ナデ	灰黄褐/明褐～褐灰	やや密，白・黒・赤色粒子,雲母	良	795	200	
37	SK4	191	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/ハの字文,隆帯/－	オリーブ褐～黄灰/黒褐	密，白色粒子多,黒・赤色粒子,雲母,小礫	良	721,738,SK4	196	
37	SK4	192	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/ハの字文/－	黄褐/淡黄	やや粗，赤色粒子多,白色粒子,雲母,小礫	良	SK4	197	
37	SK4	193	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階か	口縁	ナデ/ナデ/－	橙～明褐	密，白・黒・赤色粒子,雲母	良	SK4	203	
37	SK4	194	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階か	口縁	ナデ/ナデ/－	明赤褐	密，白・黒色粒子	良	SK4	207	
37	SK6	195	縄文	浅鉢か	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/ハの字文,隆帯/－	暗オリーブ褐/黒褐	密，雲母,白・赤・黒色粒子	良	754	213	
37	SK6	196	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/櫛描条線,ナデ/－	灰黄褐～褐灰/にぶい黄褐～にぶい褐	密，白・黒色粒子	良	756	216	
37	SK6	197	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/櫛歯刺突文,/－	赤褐～黒/にぶい赤褐	やや粗，白・黒・赤色粒子,雲母	不良	761	218	
37	SK6	198	縄文	台付土器	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/ナデ/－	にぶい黄褐	やや粗，白・黒色粒子	良	755	219	
37	SK6	199	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/ナデ,沈線/－	黒褐/にぶい黄橙	やや粗，白・黒色粒子	良	745	212	
37	SK6	200	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/ナデ/－	灰黄褐/にぶい褐	密，白・黒色粒子,雲母	良	758	217	
37	SK6	201	縄文	台付土器	曽利Ⅴ段階	脚	ナデ/ナデ/－	にぶい黄褐～にぶい赤褐	密，白・黒・赤色粒子,雲母	良	752,753,757,759,760	214・215	
38	SX1	202	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	口～胴	ナデ/微隆起線文,摩消縄文/－	明黄褐	やや粗，白・黒色粒子	良	271,272,275,281,282,291,296,301	222	加曽利E４式
38	SX1	203	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	口縁	ナデ/ナデ,摩消縄文/－	明黄褐	密，白・黒色粒子	良	B区P	223	加曽利E４式
38	SX1	204	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/縄文,ナデ,/－	明黄褐	密，白・黒色粒子	良	B区P	224	加曽利E４式
38	SX1	205	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/微隆起線文,縄文,ナデ/－	橙	密，白・黒色粒子	良	B区P	225	加曽利E４式
38	SX2	206	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	口～底	ナデ/縄文,沈線,ナデ,把手/－	褐	密，白・黒・赤色粒子,雲母	良	649	226	
38	SX3	207	縄文	土製円盤	曽利Ⅴ段階	－	ナデ/波状沈線,竹管背面による短波線(ハの字文か)/－	褐/暗赤褐	密，白・黒色粒子	良	591	234	長5.1,幅4.9,厚1.3(cm),磨滅
38	SX3	208	縄文	深鉢	曽利Ⅳ～Ⅴ段階	口～胴	ヘラ状工具によるナデ/沈線,蛇行沈線,楕円形区画,半截竹管による綾杉文/－	赤褐/にぶい赤褐	密，白・黒・赤色粒子,雲母	良	642	277	
38	SX3	209	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	口縁	ナデ/横位沈線,沈線区画,櫛描条線/－	にぶい黄褐～橙	密，白・黒色粒子,雲母	良	401	294	受口状の口縁
38	SX3	210	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	口縁	ヘラ状工具によるナデ/沈線,櫛描条線によるハの字文/－	褐/黒褐	密，白・黒・赤色粒子,雲母	良	530	260	
38	SX3	211	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	口縁	ナデ/沈線,櫛描条線によるハの字文/－	黒褐	密，白・黒色粒子,雲母	良	615	278	
38	SX3	212	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	口縁	ナデ/縄文or櫛歯刺突/－	にぶい黄褐～明褐/にぶい黄褐～にぶい赤褐	密，白・黒色粒子,雲母	良	426,428	292	213と同一か
38	SX3	213	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	口縁	ナデ/横位沈線,沈線区画/－	褐灰～にぶい黄褐/灰～にぶい黄褐	密，白・黒色粒子,雲母	良	575	293	212と同一か
38	SX3	214	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/蛇行沈線,沈線,半截竹管による綾杉文/－	赤褐	密，白・黒・赤色粒子,雲母	良	597	285	
38	SX3	215	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/櫛描条線による綾杉文,波状沈線/－	黒褐	密，白・黒・赤色粒子,雲母	良	523	279	外面及び断面にスス付着
39	SX3	216	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/櫛描条線/－	にぶい褐/黒	密，白・黒・赤色粒子,雲母	良	516	287	217と同一
39	SX3	217	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/矢羽状の櫛描条線/－	にぶい黄褐/黒	密，白・黒・赤色粒子,雲母	良	639	286	216と同一,外面黒変
39	SX3	218	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/櫛描条線/－	橙	密，白・黒・赤色粒子,雲母	良	531	288	
39	SX3	219	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/沈線,櫛描条線/－	黒/橙	密，白・黒色粒子,雲母	良	525	291	内面スス付着
39	SX3	220	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/沈線,縦位沈線,低隆帯/－	黒褐/褐～黒褐	密，雲母,白・黒・褐色粒子	良	640	301	内面黒変
39	SX3	221	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/縦位沈線/－	黒褐/灰黄褐	密，白・黒色粒子	良	646	303	内面黒変
39	SX3	222	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/沈線,櫛描条線による綾杉文,沈線区画/－	暗赤褐/赤褐	密，白・黒色粒子	良	555	281	内面スス,224と同一か
39	SX3	223	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	底～胴	ナデ/沈線,櫛描条線/網代痕	暗赤褐/橙	やや粗，白・黒・赤色粒子,雲母	良	525	321	内面スス

図	地点	掲載No.	種別	器種	時期	部位	内面／外面／底部	色調　内／外	胎　土	焼成	注記	実測No.	備考
39	SX3	224	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/沈線,櫛描条線による綾杉文/－	褐	密,白・黒色粒子	良	369,378,383,577,579,629	280	222と同一か,外面スス
39	SX3	225	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	口～胴	ナデ/ナデ,隆帯,櫛歯刺突文,連孤文,つなぎ弧文と胴部を区画する縦方向の隆線が接続。縦コの字状の区画を櫛描線で充填する。/－	明褐,黒褐	密,白・黒色粒子,雲母	良	410,450,451,453~456,610,623,627	227	
39	SX3	226	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	口～胴	ナデ/ナデ,沈線,隆帯,櫛描条線/－	橙,暗赤褐	やや粗,白・黒・赤色粒子,雲母	不良	370,371,379,550,600~603,605,C区	228	内面炭化物付着
39	SX3	227	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/櫛描条線/－	黒褐/灰褐	密,白・黒色粒子,雲母	良	586	289	側面スス付着
39	SX3	228	縄文	鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/縦位の櫛描条線,隆帯/－	にぶい黄褐/黒	粗,白・黒・赤色粒子,雲母	不良	494	284	内外面黒色(塗彩か)
39	SX3	229	縄文	鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/隆帯,沈線/－	暗褐/明赤褐	密,白・黒・赤色粒子,雲母	やや不良	609	290	摩耗著しい,外面スス
39	SX3	230	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	－/隆帯,ヘラ状工具による幅広のハの字状文/－	褐/橙	密,白・黒色粒子	良	493	266	内面スス黒変
39	SX3	231	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	口縁～胴	ナデ/沈線,ヘラ状工具の刺突によるハの字文,横位沈線,逆U字形区/－	暗赤灰/赤褐	粗,白・黒色粒子,雲母	良	358,361,362,375	258	内面炭化物付着
39	SX3	232	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/ヘラ状工具による幅広のハの字文,沈線/－	黒褐/赤褐	密,白・黒・赤色粒子	良	491,492	273	内面炭化物付着
39	SX3	233	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	－/ヘラ状工具による幅広のハの字状文/－	にぶい黄橙	密,白・黒・赤色粒子	良	487,490	265	
39	SX3	234	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ヘラ状工具によるナデ/ヘラ状工具による幅広のハの字文,沈線/－	灰褐/赤褐	密,白・黒色粒子	良	C区	267	
40	SX3	235	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	口縁～胴	ナデ/横位沈線,沈線区画文,竹管背面によるハの字文/－	褐/暗赤褐	密,白色粒子	良	417,430,435,436	256	口縁にスス,外面スス,236と同一か
40	SX3	236	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	口縁～胴	ナデ/沈線,竹管背面によるハの字文/－	暗赤褐/暗赤灰	密,白・黒色粒子	良	上中	257	外面スス,235同一か
40	SX3	237	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	－/ヘラ状工具によるハの字文,竹管背面による縦位沈線	にぶい黄褐/赤褐	密,白・黒色粒子	やや良	589	264	
40	SX3	238	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ヘラ状工具によるナデ/竹管背面によるハの字文,沈線/－	黒褐/明赤褐	密,白色粒子	良	588	262	内面スス付着
40	SX3	239	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/ハの字文,竹管背面による沈線/－	にぶい黄褐	密,白・黒・赤色粒子,雲母	良	389	271	
40	SX3	240	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/沈線,ハの字文/－	黒/赤褐	密,白・黒色粒子,雲母	不良	363	275	内面炭化物付着,黒変
40	SX3	241	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/方形区画文が把手に接続　区画内にハの字文　円形区画（渦巻き文省略か）/－	明黄褐	密,白・黒・赤色粒子	良	648	229	
40	SX3	242	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	口縁	ナデ/沈線,渦巻文,横位沈線,沈線区画/－	黒褐/にぶい赤褐～黒褐	密,白・黒・褐色粒子,雲母	良	459	296	波状口縁,内面スス付着
40	SX3	243	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	口縁	ナデ/沈線,渦巻文,口縁に沿う横位沈線,沈線区画,ハの字文か/－	黒褐/暗褐～黒褐	密,白・黒色粒子,雲母	良	527	297	波状口縁
40	SX3	244	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	口縁	ナデ/沈線区画	明褐/明赤褐	密,白・黒色粒子,雲母	良	439	298	
40	SX3	245	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	口縁	ナデ/沈線,横位区画か/－	黒褐/黒	密,白・黒・褐色粒子,雲母	良	708	299	外面黒変
40	SX3	246	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	口縁	ナデ/刻み,竹管背面で調整された沈線/－	にぶい赤褐	緻密,白・黒色粒子	良	485	295	
40	SX3	247	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	口縁～胴	ヘラ状工具によるナデ/横位低隆帯,沈線,工具による幅細のややみだれたハの字文,縦位隆帯による区画/－	褐/にぶい黄橙	やや粗,白・黒色粒子	良	398	259	外面スス
40	SX3	248	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ヘラ状工具によるナデ/工具による幅細のハの字文,沈線/－	赤褐	密,白・黒色粒子	良	518,521	270	
40	SX3	249	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	口縁	ヘラ状工具によるナデ/沈線,ヘラ状工具による細いみだれたハの字文/－	暗褐/黒褐	密,白・黒色粒子,雲母	良	557	261	
40	SX3	250	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	口縁～胴	ヘラ状工具によるナデ/工具による幅細のハの字(綾杉状)文/－	黒	密,白・黒色粒子,雲母	やや良	340	272	内外黒変
40	SX3	251	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/ハの字文,沈線,縦位低隆帯/－	暗褐/明赤褐	密,白・黒・赤色粒子	良	391	263	
40	SX3	252	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/工具による幅細のハの字文/－	暗赤褐	粗,白・黒色粒子	良	641	268	
40	SX3	253	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	口縁～胴	ナデ/2本の沈線区画,縦位沈線/－	黒/にぶい赤褐～黒	密,白・黒色粒子,雲母	良	635	302´	254と同一,内面スス付着
40	SX3	254	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/沈線,/－	にぶい赤褐	密,白・黒色粒子,雲母	良	446	302	253と同一
40	SX3	255	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/ややみだれたハの字文/－	オリーブ黒/にぶい黄橙	密,白・黒色粒子	良	C区	274	
41	SX3	256	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/隆帯,半截竹管によるハの字文,沈線/－	赤褐	密,白・黒・赤色粒子,雲母	良	404,406,407,593,594	230	ハの字ややまばら,外面スス付着
41	SX3	257	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/隆帯,沈線,半截竹管によるハの字文/－	明褐	やや密,白・黒・赤色粒子	良	624	269	256と同一か
41	SX3	258	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴～底	ナデ/隆帯,沈線/網代痕	明褐	密,白色粒子・雲母	良	421	233	
41	SX3	259	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/隆帯,沈線/－	黄褐	密,白・黒色粒子,雲母	良	434	283	
41	SX3	260	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	口縁～胴	ナデ/ナデ,刺突文,隆帯上に縦方向の櫛歯刺突文/－	黒褐	密,白・赤色粒子,雲母	良	476,477,478,517,539	235	内外のナデ　ミガキに近い,黒変か
41	SX3	261	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/隆帯,櫛歯刺突文/－	暗赤褐	やや粗,白・黒・赤色粒子,雲母	不良	397	251	
41	SX3	262	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/隆帯,縦方向の櫛歯刺突文/－	橙	密,白・黒色粒子	良	496	250	
41	SX3	263	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/隆帯,縦方向の櫛歯刺突文(櫛描条線)/－	にぶい黄橙/明赤褐	やや密,白・黒色粒子	良	502	249	262と同一か,
41	SX3	264	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/隆帯,縦方向の櫛歯刺突文/－	黒褐/明赤褐	やや粗,白・黒・赤色粒子,雲母	良	473,474,482	246	内面黒変
41	SX3	265	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/隆帯,縦方向の櫛歯刺突文/－	にぶい赤褐/黒褐	やや粗,白・黒・赤色粒子,雲母	良	446,467,479,480,481,483,484	245	内外黒変
41	SX3	266	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴～底	ナデ/隆帯,縦方向の櫛描条線/網代痕,ナデ/－	明褐/にぶい黄褐	やや粗,白・黒色粒子	良	534,615,618,619,628	232・248	内面炭化物付着
41	SX3	267	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/隆帯,櫛歯刺突によるハの字文/－	暗灰黄/黒褐	密,白色粒子	良	501,572	253	
41	SX3	268	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/櫛歯刺突によるハの字文,隆帯/－	明黄褐/黒褐	密,白・赤色粒子	良	581	254	
41	SX3	269	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/隆帯,縦方向の櫛歯刺突文/－	黒褐/黒	粗,白・黒・赤色粒子,雲母	不良	544	252	
41	SX3	270	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/櫛歯刺突によるハの字(綾杉状)文/－	赤褐	粗,白・黒色粒子,雲母	不良	541	255	外面赤色味強
41	SX3	271	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/隆帯,横(～斜め)方向の櫛歯刺突文/－	黄褐/暗赤褐	やや粗,白・黒色粒子,雲母	不良	412,416,443	247	外面黒変,摩耗している
41	SX3	272	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/ナデ,隆帯/－	にぶい赤褐/黒	密,白色粒子,雲母	良	486,488	244	外面黒変
42	SX3	273	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/把手,隆帯,櫛歯刺突文/－	明赤褐	粗,白・黒・赤色粒子	不良	445	310	
42	SX3	274	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/隆帯,縄文/－	橙/黒褐	密,白・黒色粒子	良	457	319	加曽利E4式
42	SX3	275	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/縄文,隆帯,沈線/－	暗褐/赤褐	密,白・黒・赤色粒子	良	359,372,381	231	内面スス汚れ　加曽利E4式
42	SX3	276	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/把手,隆帯,縄文,沈線/－	暗赤褐/黒褐	密,白・黒色粒子	良	612	312	加曽利E式
42	SX3	277	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/隆帯,単節斜縄文,沈線/－	明赤褐/明赤褐～褐灰～赤褐	密,白・黒色粒子,雲母	良	475,583	304	加曽利E4式
42	SX3	278	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/単節斜縄文,竹管背面で調整した沈線/－	にぶい黄褐～褐/褐～黒褐	密,白・黒色粒子,雲母	良	354	305	加曽利E4式

図	地点	掲載No.	種別	器種	時期	部位	内面／外面／底部	色調　内／外	胎　土	焼成	注記	実測No.	備考
42	SX3	279	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/単節斜縄文/－	にぶい黄褐/灰褐～黒	密,白・黒色粒子,雲母	良	614	306	加曽利E式
42	SX3	280	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/ナデ,単節斜縄文/－	黒褐	密,白・黒・褐色粒子,雲母	良	368	307	加曽利E式
42	SX3	281	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/縄文/－	赤褐～褐/明赤褐～赤褐～にぶい黄褐	緻密,白・黒色粒子,雲母	良	576	308	縄目細・単節　加曽利E式
42	SX3	282	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/縄文/－	黄褐/にぶい褐～赤褐	密,白・黒色粒子,雲母	良	538	309	縄目太・単節,内面繊維痕有 加曽利E式
42	SX3	283	縄文	深鉢	曽利Ⅳ段階か	胴	ナデ/無節斜縄文R|2|,竹管背面による沈線/－	黄褐/にぶい褐～褐灰	密,白・黒・褐色粒子,雲母	良	341,409,415,425	300	外面黒変　加曽利E3式
42	SX3	284	縄文	小形鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/沈線,縄文,U字・逆U字状沈線区画/－	暗赤褐	密,白色粒子	良	C区P	282	内面炭化物付着　加曽利E式折衷
42	SX3	285	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階か	口縁～胴	ナデ/ナデ,無文/－	橙/暗赤褐	密,白色粒子,雲母	良	471,427	236	外面黒変
42	SX3	286	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階か	口縁～胴	ナデ/ナデ,無文/－	明褐/暗褐	密,白・黒・赤色粒子,雲母	良	448,449	237	
42	SX3	287	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階か	口縁～胴	ナデ/ナデ,無文/－	暗赤褐	密,白・黒色粒子	良	526	238	
42	SX3	288	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階か	口縁～胴	ナデ/ナデ/－	にぶい黄橙/黒	やや粗,白・黒・赤色粒子	やや良	497	239	外面黒変
42	SX3	289	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階か	口縁～胴	ナデ/ナデ/－	にぶい褐/暗灰黄	粗,白・黒色粒子,雲母	良	651	242	外面まだらにスス
42	SX3	290	縄文	深鉢か	曽利Ⅴ段階か	口縁～胴	ナデ/ナデ,無文,沈線/－	暗赤褐	密,白・赤・黒色粒子,雲母	良	647	240	内外黒変
42	SX3	291	縄文	深鉢か	曽利Ⅴ段階か	口縁～胴	ヘラ状工具によるナデ/ヘラ状工具によるナデ/－	暗オリーブ褐/明褐	密,白・黒・赤色粒子,雲母	良	438	276	内外黒変,外面摩耗
42	SX3	292	縄文	深鉢か	曽利Ⅴ段階か	口縁	ナデ/ナデ,無文,沈線/－	黒褐	密,白・赤色粒子,雲母	良	592	241	内面沈線状のキズか,内外黒変
42	SX3	293	縄文	深鉢か	曽利Ⅴ段階か	口縁～胴	ナデ/ナデ,ミガキ/－	明黄褐	密,白・黒・赤色粒子	良	461	243	
42	SX3	294	縄文	小形鉢	曽利Ⅴ段階か	口縁	ナデ/ナデ/－	にぶい黄橙	粗,白色粒子	不良	568	316	
42	SX3	295	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階か	口縁	ナデ/ナデ/－	黒褐	やや粗,白色粒子	良	501	317	
42	SX3	296	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階か	胴	ナデ/ナデ/－	にぶい黄褐/明赤褐	密,白・黒色粒子	やや不良	558,598	320	
42	SX3	297	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階か	底～胴	ヘラ状工具によるナデ/ヘラ状工具によるナデ/ナデ	橙	密,白・黒・赤色粒子,雲母	良	393	324	外面スス
42	SX3	298	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階か	底～胴	ナデ/ナデ/網代痕	黒褐/赤褐	密,白・黒・赤色粒子,雲母	良	534	323	内面黒変
42	SX3	299	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階か	底～胴	ナデ/ナデ/ナデ	極暗赤褐	密,白色粒子	良	643	325	内外黒変
42	SX3	300	縄文	浅鉢	曽利Ⅴ段階か	底～胴	ナデ/ナデ/ナデ	暗オリーブ褐/明赤褐	やや粗,白・黒色粒子	やや良	472	322	内外面スス
42	SX3	301	縄文	浅鉢	曽利Ⅴ段階か	胴	ナデ/沈線/－	黒褐	やや粗,白・黒色粒子,雲母	良	C区	318	
42	SX3	302	縄文	小形鉢	曽利Ⅴ段階か	口縁	ナデ/沈線,孔,ナデ/－	明褐	密,白・黒色粒子,雲母	良	414	315	
42	SX3	303	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階か	把手	ナデ/隆帯,沈線/－	にぶい赤褐	やや粗,白・黒色粒子	不良	634	311	
42	SX3	304	縄文	台付土器か	曽利Ⅴ段階	脚	ナデ/楕円区画沈線,ナデ/－	にぶい褐	密,白・黒色粒子	良	489	313	
42	SX3	305	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階か	把手	ナデ/縦方向ナデ(ケズリか)/－	黒褐/赤褐	密,白・黒色粒子,雲母	良	C区	314	
42	SD1	306	弥生	甕か	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	褐/黒	密,白色粒子	良	C区SD1	326	外面黒変
42	SD1	307	土師	坏	平安	底	回転ナデ/回転糸切痕/－	赤褐	密,白色粒子	良	C区SD2	327	
42	SD4	308	縄文	深鉢	弥生か	胴	ナデ/ナデ/－	赤褐～にぶい褐/にぶい褐	密,白・黒色粒子,雲母	良	266	328	
42	SD4	309	弥生	甕か	弥生	胴	ナデ,横方向のハケメ/条痕文,ナデ/－	褐/暗褐～黒褐	密,白・黒色粒子,雲母	良	29	329	
42	SD4	310	弥生	甕か	弥生	胴	ナデ/縦方向の条痕文/－	明褐/にぶい黄褐	密,白・黒色粒子	良	267	330	
42	SD4	311	弥生	甕か	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	黄褐/にぶい黄褐	密,白・黒色粒子	良	261	331	
43	遺構外	312	縄文	深鉢	曽利段階か	口縁～胴	ナデ/ナデ/－	褐	やや粗,白・黒・赤色粒子,雲母	良	782	332	
43	遺構外	313	縄文	深鉢	曽利段階か	口縁～胴	ナデ/ナデ/－	にぶい黄褐,褐	やや粗,雲母,黒・白色粒子	良	690	333	
43	遺構外	314	縄文	深鉢	曽利Ⅱ段階	胴	ナデ/半截竹管による条線,隆帯上半截竹管押引/－	黒褐/にぶい赤褐	やや粗,白・黒・赤色粒子,雲母	良	580	340	内面黒変
43	遺構外	315	縄文	深鉢	曽利Ⅱ段階か	胴	ナデ/隆線,横位か櫛描条線/－	明褐	やや粗,白・黒色粒子,雲母	良	672	343	
43	遺構外	316	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	口縁～胴	ナデ/横位沈線,(斜条線),渦巻文(ワラビ手文か)/－	灰黄褐	やや粗,黒・白色粒子,雲母	良	785	335	
43	遺構外	317	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ,ミガキ/斜位櫛歯刺突文,隆帯/－	黒褐/にぶい赤褐	やや粗,白・黒・赤色粒子,雲母	良	693	337	内面黒変
43	遺構外	318	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/縦位沈線,ヘラ状工具による刺突文か/－	黒褐/赤褐	やや粗,白・黒・赤色粒子,雲母	良	26	339	内面黒変,スス
43	遺構外	319	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/ハの字文/－	にぶい黄褐	やや粗,白・黒色粒子,雲母	良	332	346	
43	遺構外	320	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/ハの字文,沈線/－	黒	やや粗,白・黒色粒子,雲母	良	335	347	内面スス,内外面黒変
43	遺構外	321	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/櫛描条線によるハの字文/－	にぶい褐	やや粗,黒・白色粒子,雲母	良	259	353	
43	遺構外	322	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	把手か	ナデ/沈線,隆帯/－	にぶい黄褐	やや粗,白・黒・赤色粒子,雲母	良	338	348	
43	遺構外	323	縄文	深鉢	－	胴	ナデ/竹管による円形刺突文,竹管背面による沈線/－	黄褐	やや粗,白・黒色粒子,雲母	良	27	345	
43	遺構外	324	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/半截竹管によるナデ,調整した隆線文,単節斜縄文R|L2|,波状隆線/－	灰黄褐/暗赤褐	やや粗,白・黒色粒子,雲母	良	687,688	336	内面黒変
43	遺構外	325	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/隆帯,沈線,縄文地文/－	灰黄褐/黄褐	やや粗,白・黒色粒子,雲母	良	270	338	内面黒変
43	遺構外	326	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階	胴	ナデ/隆帯上に縄文,縦方向の櫛歯刺突文/－	黒/にぶい褐	やや粗,白・黒・赤色粒子,雲母	良	692	344	
43	遺構外	327	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階か	口縁～胴	ナデ/竹管背面による沈線,縄文,ナデ(磨消)/－	明褐	やや粗,黒・白・赤色粒子,雲母	良	652	334	
43	遺構外	328	縄文	深鉢	称名寺式段階	胴	ナデ/隆帯,沈線,縄文/－	褐	やや粗,白・黒色粒子,雲母	良	650	342	内面黒変
43	遺構外	329	縄文	浅鉢か	称名寺式段階	胴	ナデ/ナデ,縄文,沈線/－	にぶい赤褐	やや粗,白・黒・赤色粒子,雲母	良	表採	341	
43	遺構外	330	縄文	浅鉢か	－	－	ナデ/ナデ/－	褐	やや粗,白・黒色粒子,雲母	良	C区	352	
43	遺構外	331	弥生	甕	弥生	胴	ナデ/横方向の条痕文/－	にぶい褐/灰黄褐	やや粗,白・黒色粒子,雲母	良	7	355	外面スス
43	遺構外	332	弥生	甕	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	にぶい黄褐/灰黄褐	やや粗,白・黒色粒子,雲母	良	33	356	外面スス
43	遺構外	333	弥生	甕	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	にぶい黄褐	やや粗,白・黒色粒子,雲母	良	14,15	357	
43	遺構外	334	弥生	甕	弥生	胴	ナデ/条線/－	黄褐	やや粗,雲母,黒・白色粒子	良	9	358	
43	遺構外	335	弥生	甕	弥生	胴	ナデ/条痕文/－	にぶい黄褐	やや粗,白・黒・赤色粒子,雲母	良	13	354	
44	遺構外	336	縄文	浅鉢	曽利Ⅴ段階か	胴～底	ナデ/－/網代痕	赤褐/暗灰黄	やや粗,白・黒・赤色粒子,雲母	良	C区	360	内外面黒変,被熱

図	地点	掲載No.	種別	器種	時期	部位	内面／外面／底部	色調　内／外	胎　土	焼成	注記	実測No.	備考
44	遺構外	337	弥生	浅鉢	弥生	胴～底	ナデ/ナデ／木葉痕,条痕	赤褐/灰黄褐	やや粗,白・黒色粒子,雲母	良	80	359	外面スス
44	遺構外	338	縄文	浅鉢	曽利Ⅴ段階か	口～底	ナデ/ナデ/ナデ	黒褐/にぶい赤褐	やや粗,白・黒色粒子,雲母	良	C区	361	内面・底部黒変
44	遺構外	339	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階か	胴	ナデ/ナデ,ミガキ/－	黒褐/褐	粗,白・黒・赤色粒子,雲母	良	778	349	
44	遺構外	340	縄文	深鉢	曽利Ⅴ段階か	底	ナデ/ナデ/－	にぶい黄褐	粗,白・黒・赤色粒子,雲母	良	786	350	
44	遺構外	341	土師	坏	平安	口縁	ナデ/ナデ/－	橙	密,白・黒・赤色粒子	良	35	351	
44	遺構外	342	土製品	人形か	近世		ナデ/沈線/－	橙	密,白・黒色粒子,雲母	良	C区南側	362	

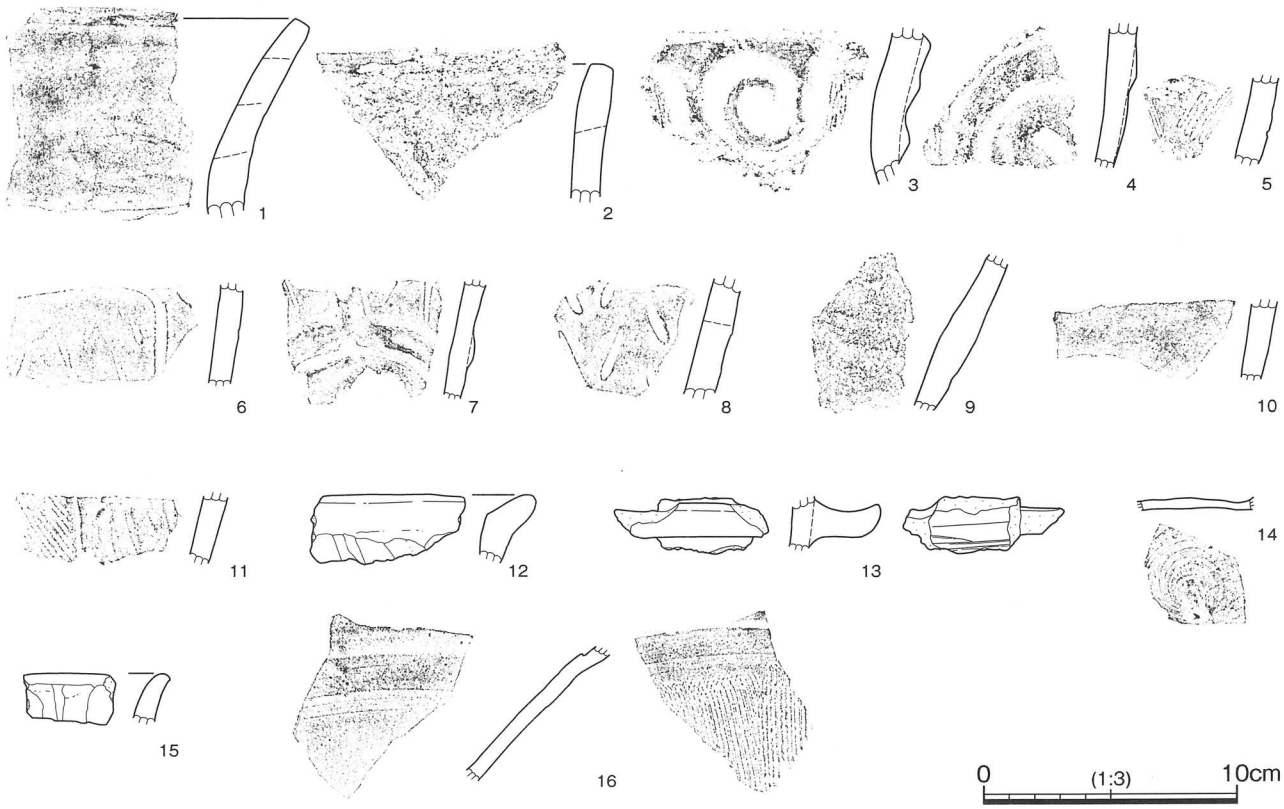
表８　出土遺物観察表（石器・石製品・古銭）

図	地点	No.	種別	器種	法量（cm）			重さ（g）	色調	材質	実測No.	注記	備考
					縦	横	厚さ						
44	SI3	343	石鏃	石器	3.1	1.45	0.4	1.58	黒	黒曜石	143	78	
44	SI3	344	石鏃	石器	2.4	1.6	0.5	1.58	黒透	黒曜石	144	149	
44	B区旧河道	345	石鏃	石器	2.5	1.45	0.25	0.3	黒透	黒曜石	59	157	
44	C区遺構外	346	磨石	石器	10.4	6.9	6.1	592.22	黒	砂岩	363	783	
44	A区	347	砥石か	石器	4.6	3.7	1.8	43	灰	玄武岩	17	328	
44	B区旧河道	348	砥石か	石器	7.5	5.3	1.9	82	暗灰黄	砂岩	60	163	砥石面は4
44	SI2撹乱	349	古銭	鉄製品	2.4	2.4	1.45	2.98	－	銅	1	11	
44	A区表土	350	古銭	鉄製品	2.3	2.3	1	2	－	銅	2	A区カクラン土	

表９　出土遺物計量表

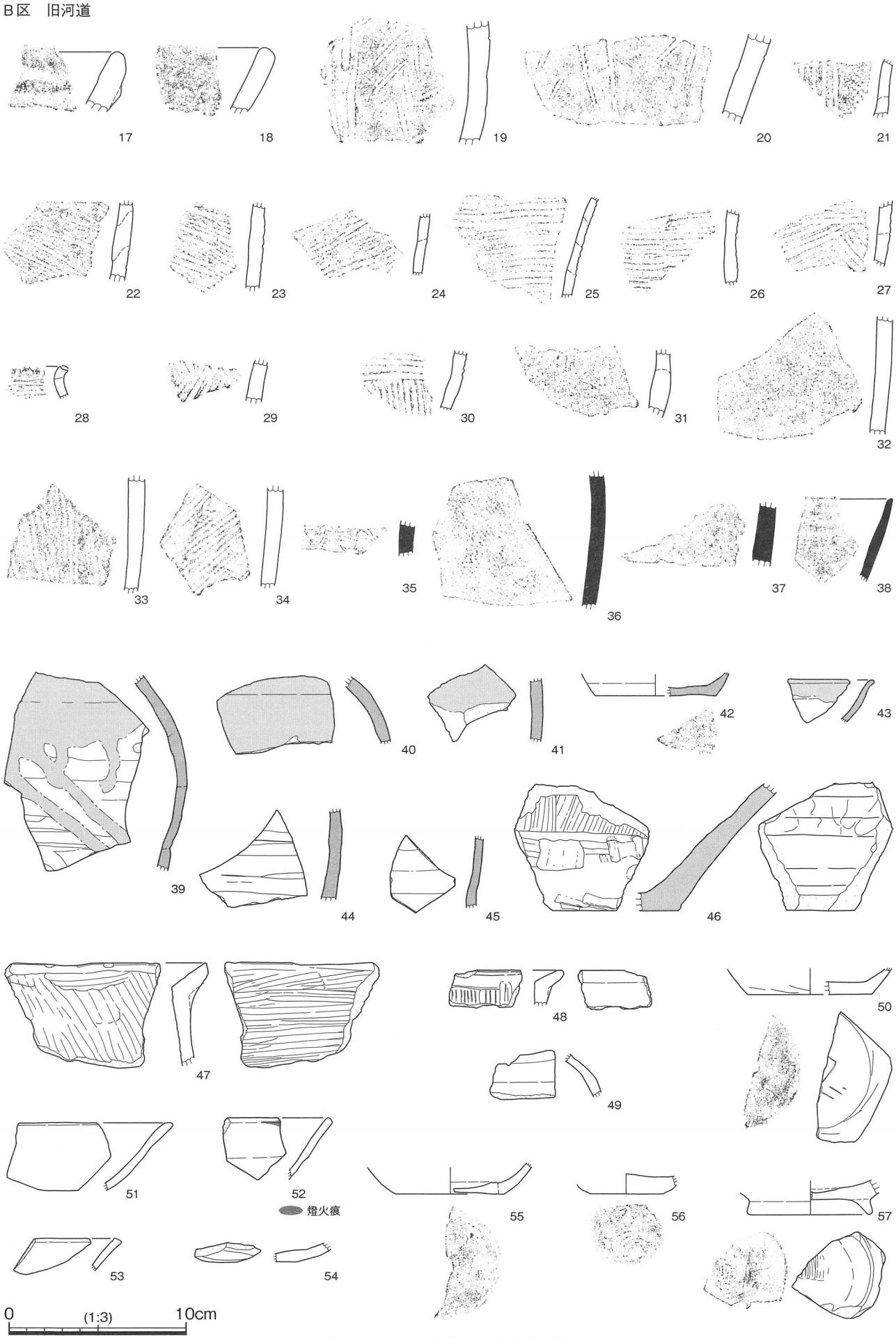
出土地	実測遺物							未実測遺物							小計			備考
	縄文(g)	弥生(g)	土師器(g)	須恵器(g)	陶器(g)	石器類(g)	その他(g)	縄文(g)	弥生(g)	土師器(g)	須恵器(g)	陶器(g)	石器類(g)	その他(g)	実測遺物	未実測遺物	遺構別合計	
A区	515	30	72	0	0	43	40	40	18	12	0	0	1	0	700	71	771	その他は近世擂鉢、古銭
B区	252	326	231	152	262	82	0	240	310	220	14	4	0	2	1,305	790	2,095	その他は磁器・石器（石鏃・砥石）
C区SI1	0	0	87	0	102	0	0	0	0	0	0	0	0	0	189	0	189	
C区SI2	0	1,800	0	0	0	0	3	0	1,570	0	0	0	39	0	1,803	1,609	3,412	その他は古銭など
C区SI3	0	1,000	40	0	0	3	0	0	190	0	0	0	1	0	1,043	191	1,234	
C区SI4	30	0	74	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	137	0	137	
C区SI5	470	0	0	0	0	0	0	60	0	0	0	0	0	0	470	60	530	
C区SK1	1,500	0	0	0	0	0	0	180	0	0	0	0	3	0	1,500	183	1,683	
C区SK2	3,200	0	0	0	0	0	0	130	0	0	0	0	18	0	3,200	148	3,348	
C区SK4	2,100	0	0	0	0	0	0	200	0	0	0	0	528	0	2,100	728	2,828	
C区SK6	400	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	29	0	400	39	439	
C区SD1	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	6	
C区SD2	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	7	
C区SD4	10	30	0	0	0	0	0	0	20	2	0	0	0	0	40	22	62	
C区SX1	1,580	0	0	0	0	0	0	30	0	0	0	0	29	0	1,580	59	1,639	
C区SX2	3,170	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	3,170	0	3,170	
C区SX3	12,200	0	0	0	0	0	0	2,880	0	0	0	0	459	0	12,200	3,339	15,539	
C区一括	2,200	500	0	0	0	592	0	800	880	0	0	0	828	470	3,292	2,978	6,270	
計	27,627	3,692	511	185	364	720	43	4,570	2,988	234	14	4	1,935	472	33,142	10,217	43,359	合計　43.359kg

A区



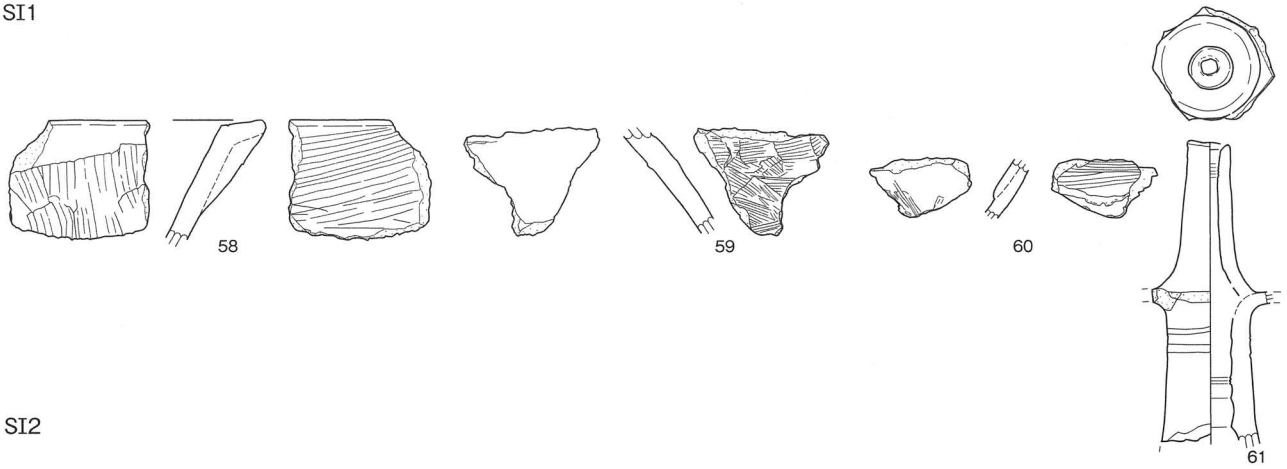
第29図　出土遺物〔A区〕

B区　旧河道



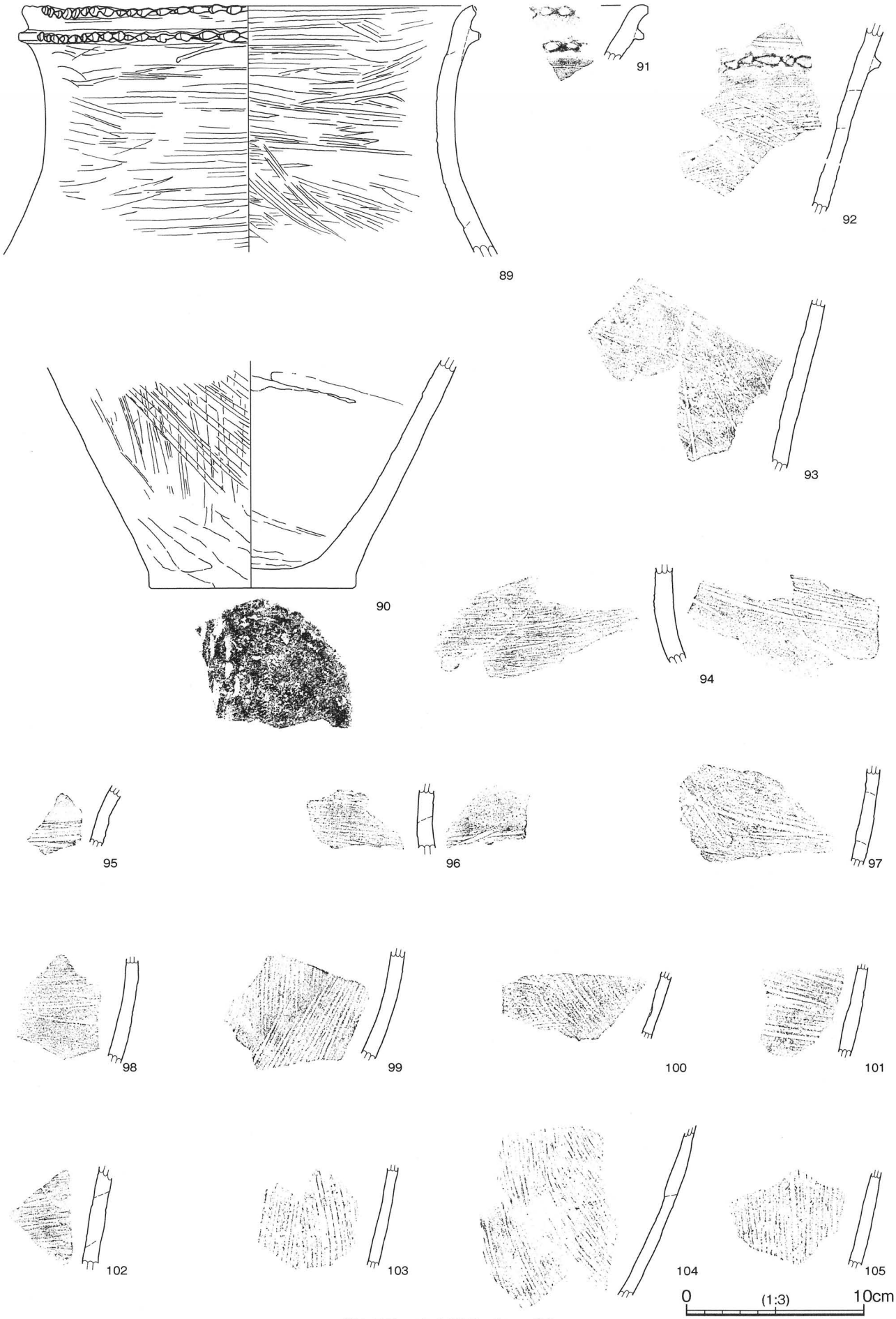
第30図　出土遺物〔B区旧河道〕

SI1

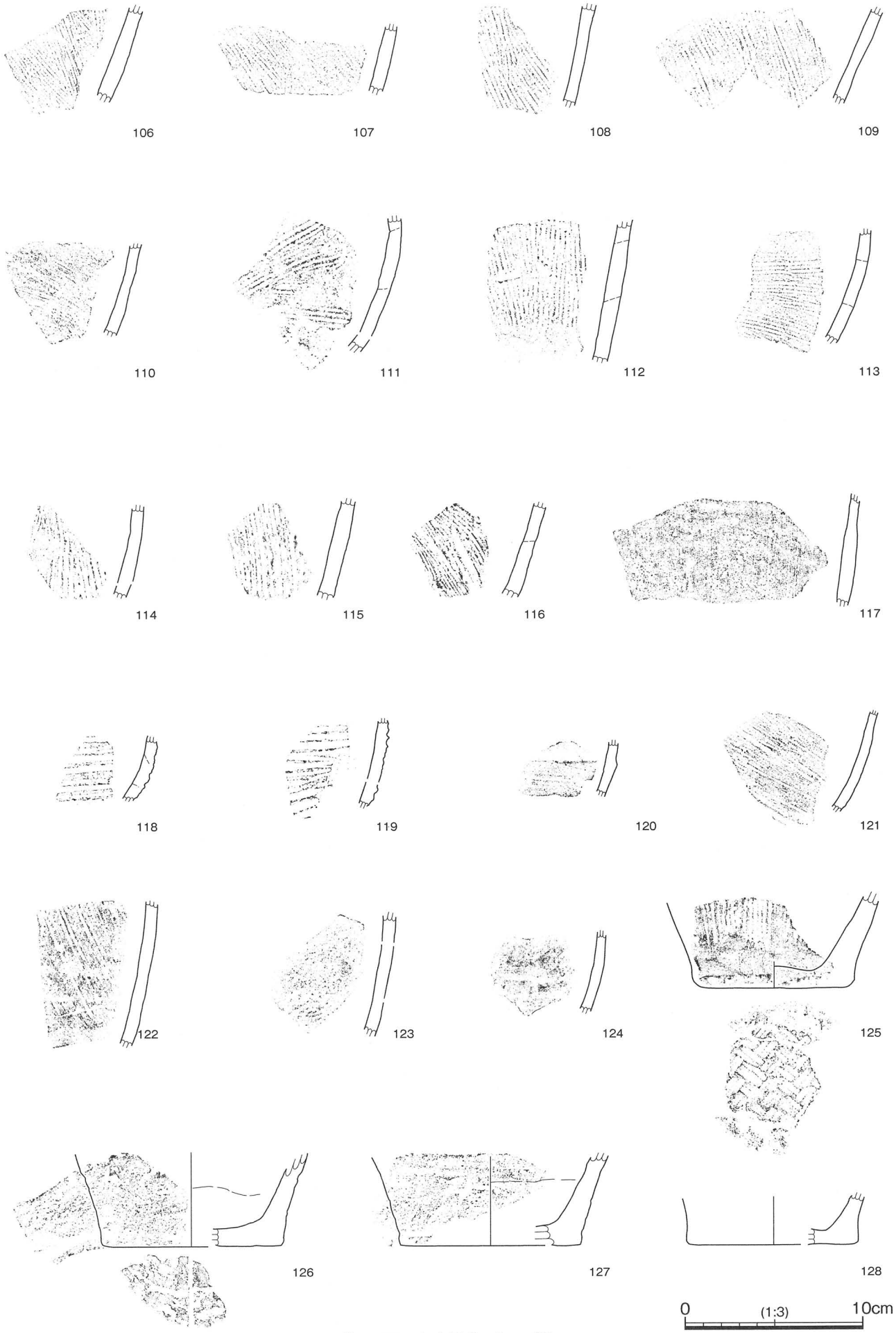


SI2

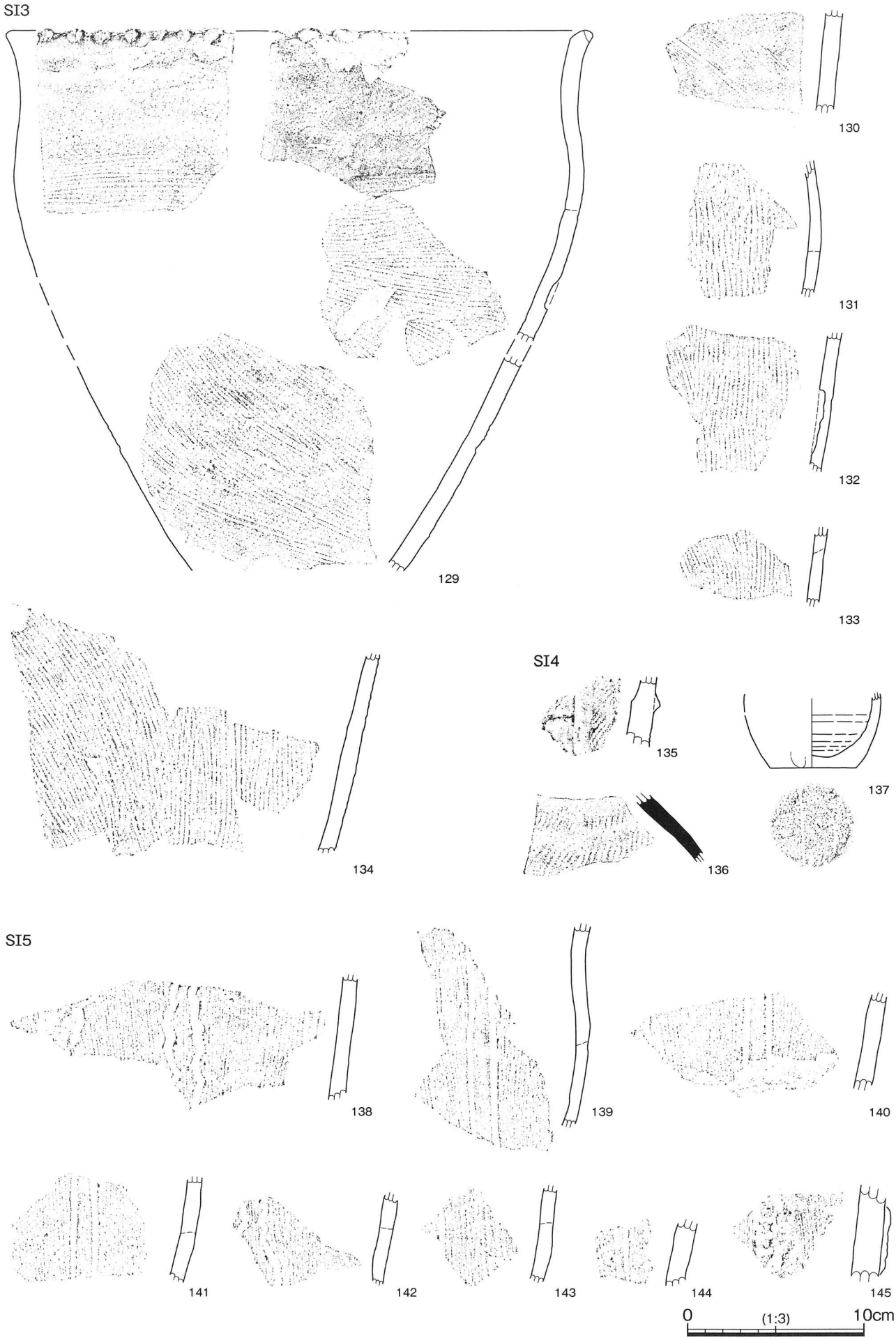
第31図　出土遺物〔SI1・SI2①〕



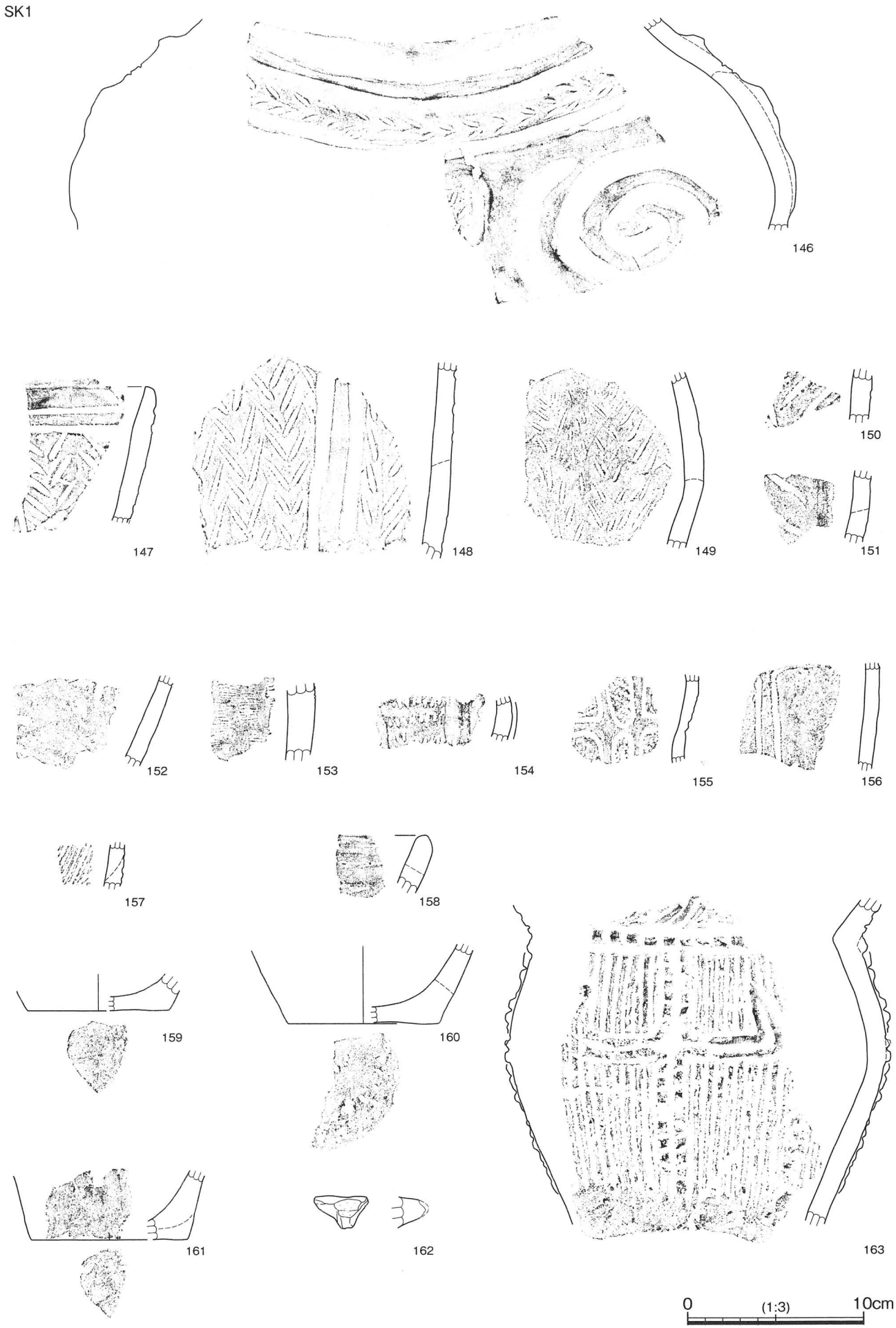
第32図　出土遺物〔SI2②〕



第33図　出土遺物〔SI2③〕

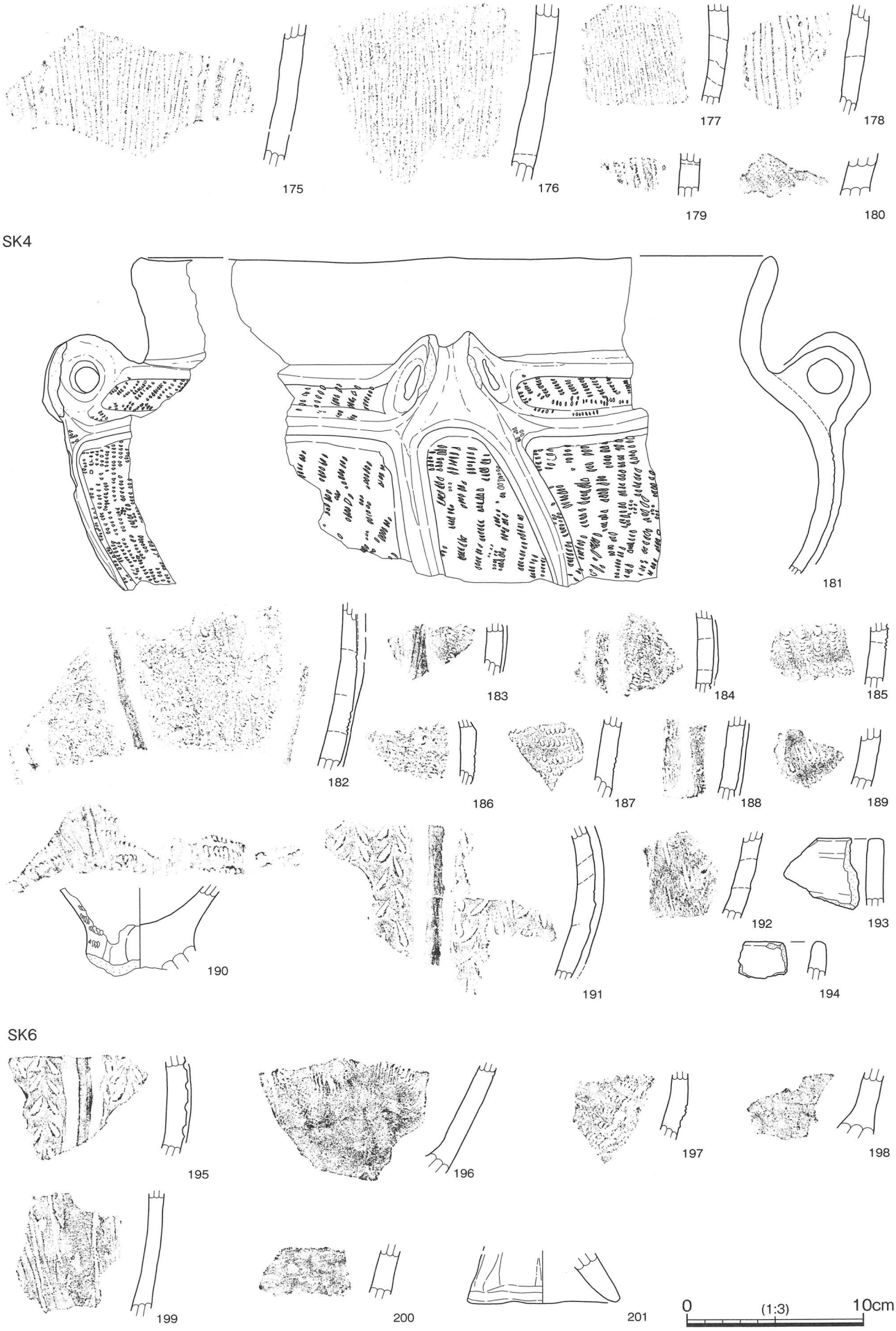


第34図　出土遺物〔SI3・SI4・SI5〕

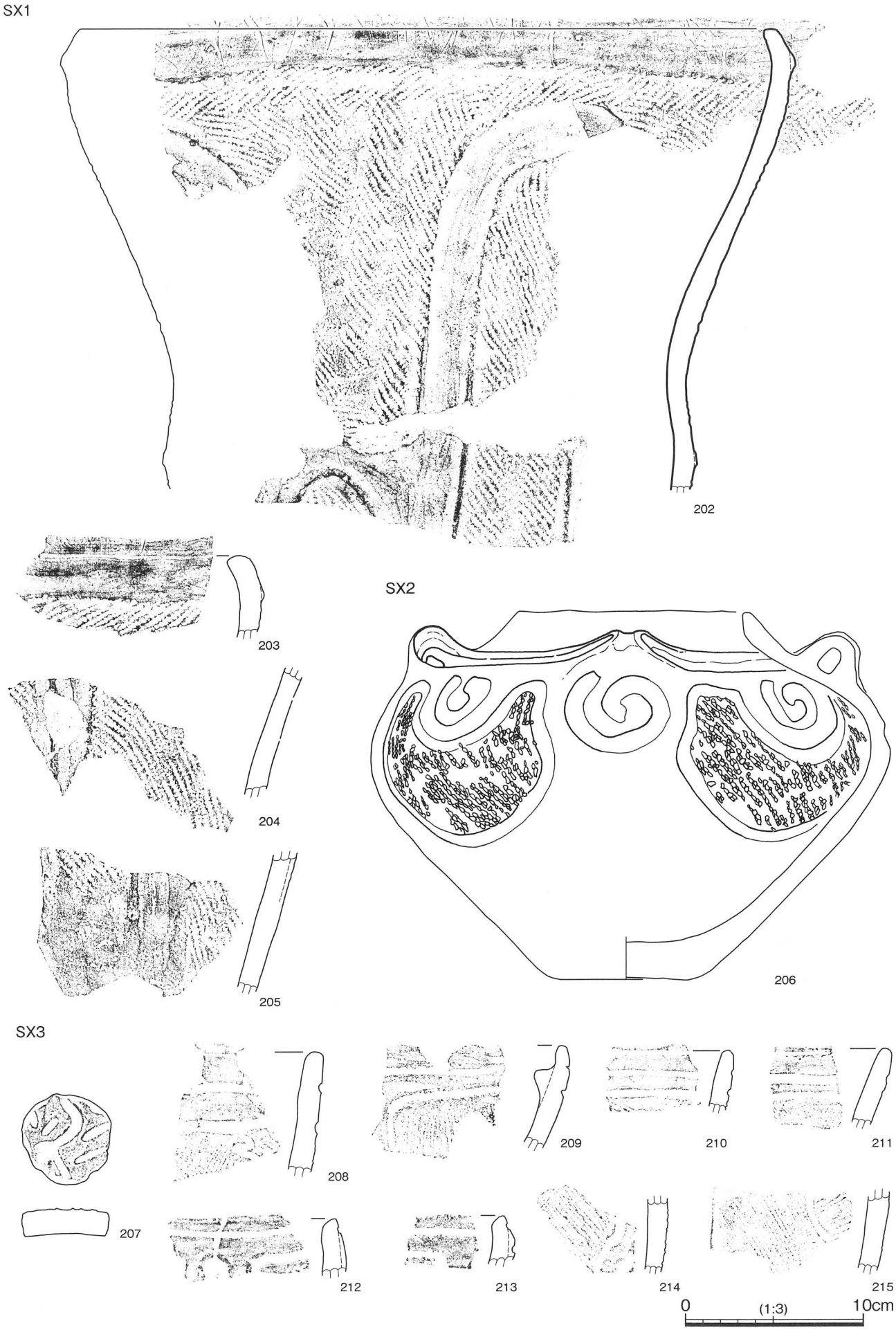


第35図　出土遺物〔SK1〕

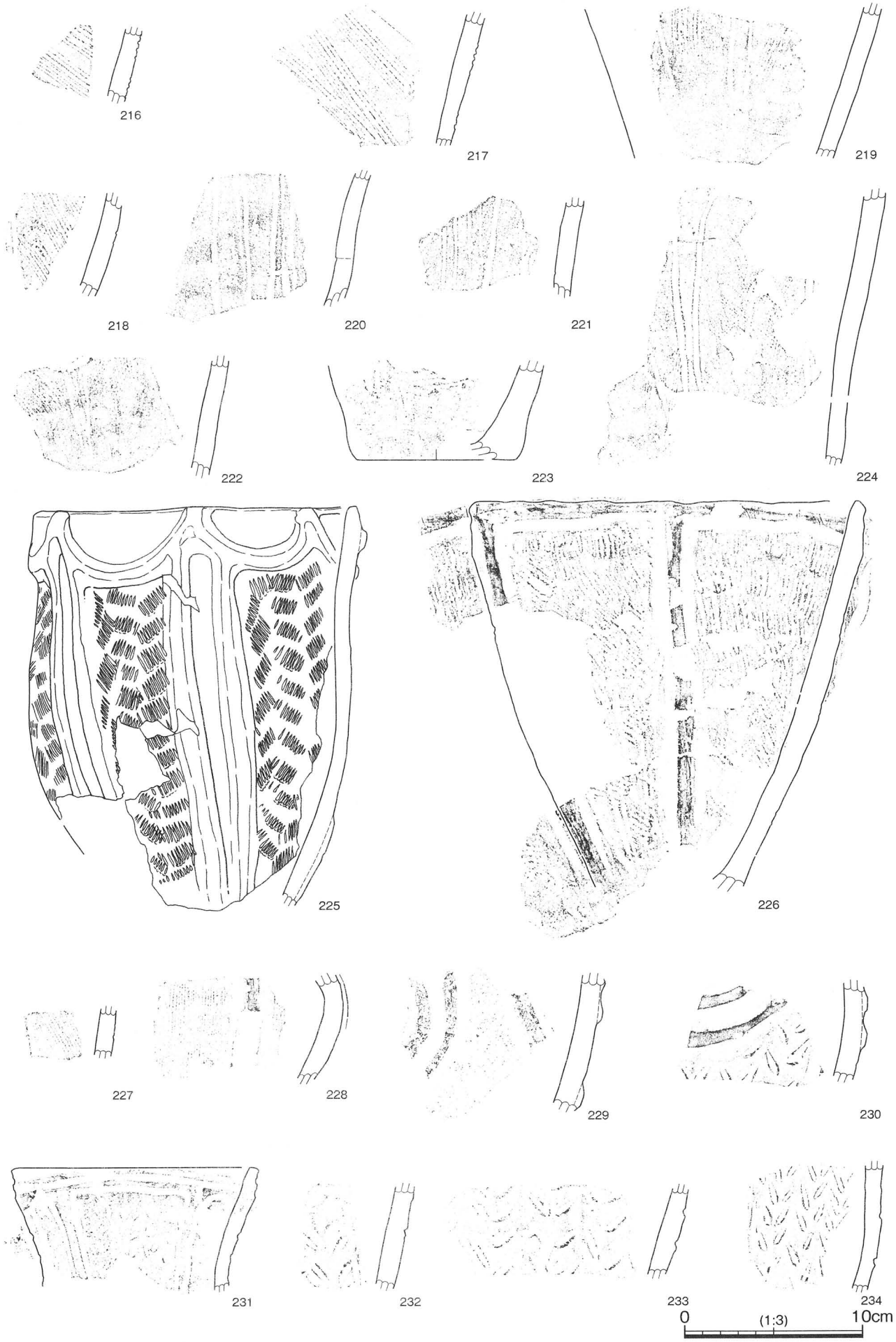
第36図　出土遺物〔SK2①〕



第37図　出土遺物〔SK2②・SK4・SK6〕

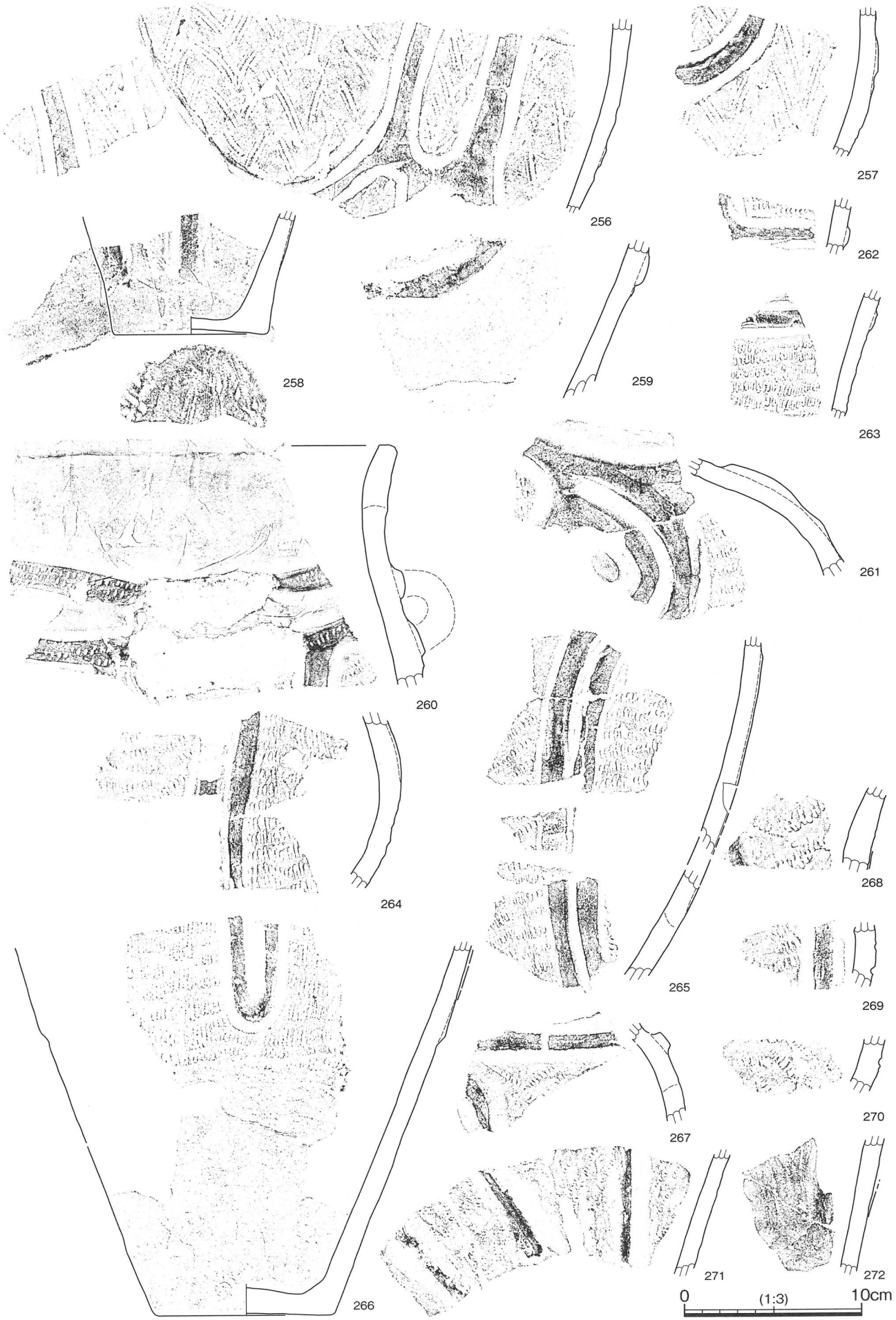


第38図　出土遺物〔SX1・SX2・SX3①〕

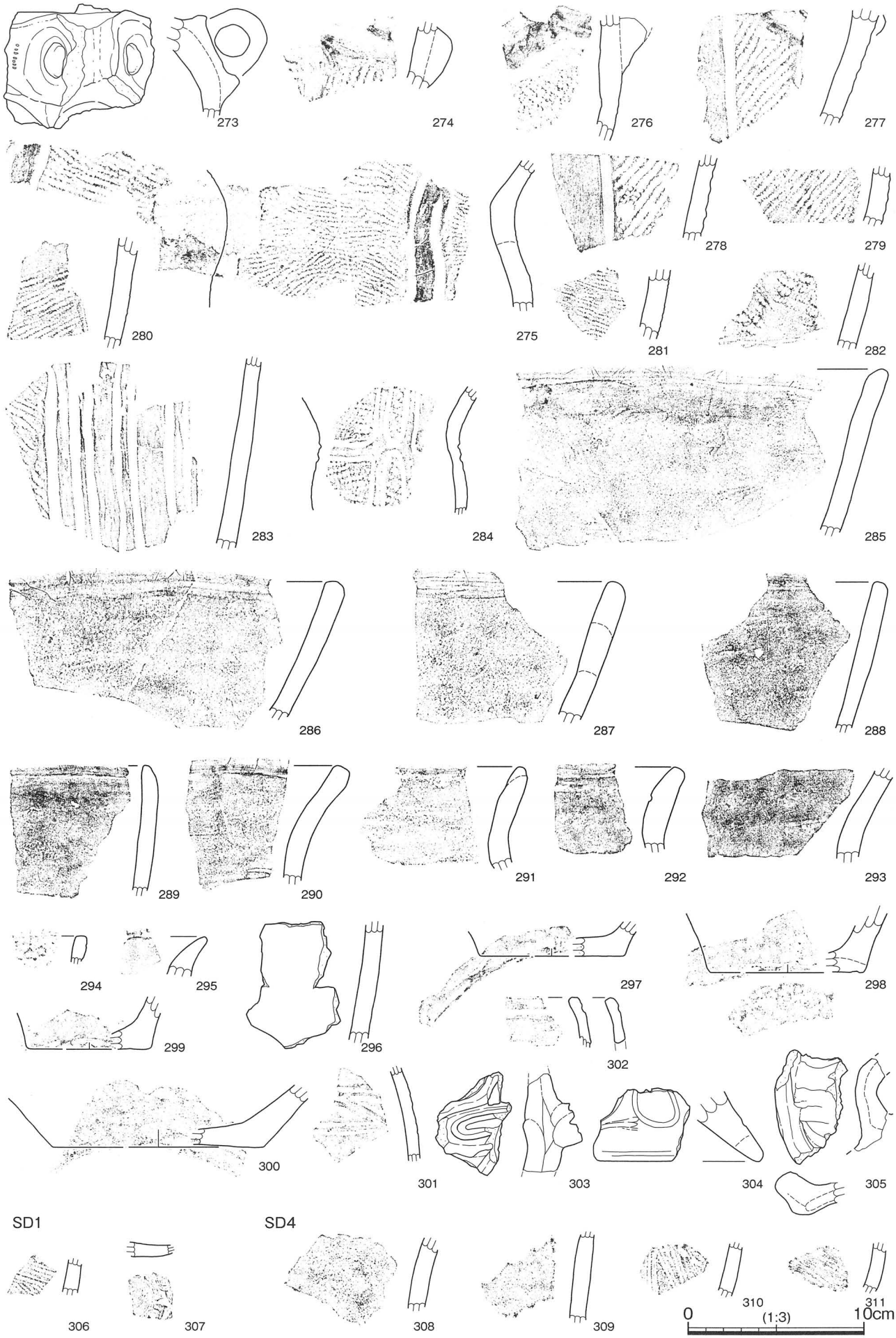


第39図　出土遺物〔SX3②〕

第40図　出土遺物〔SX3③〕

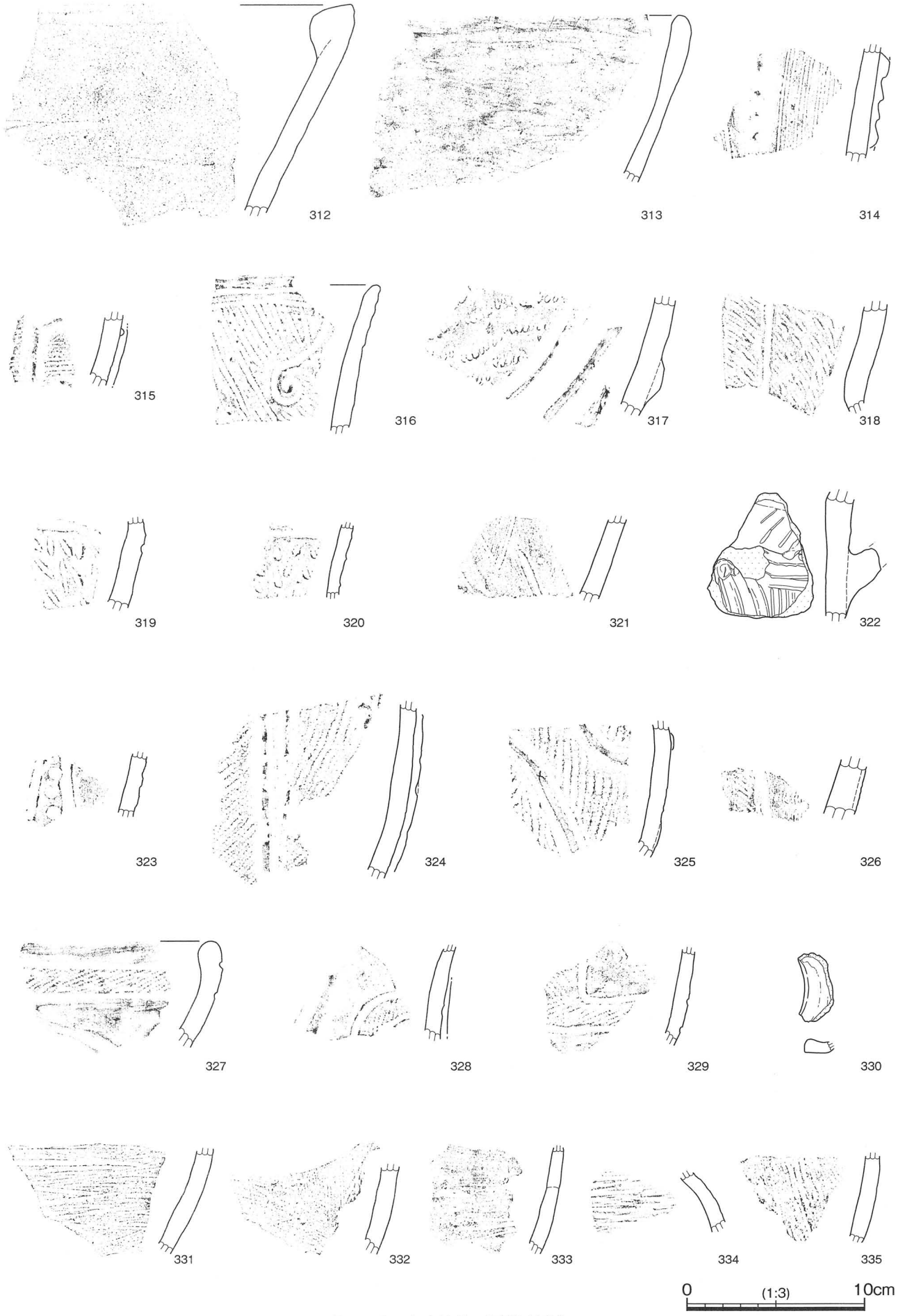


第41図　出土遺物〔SX3④〕

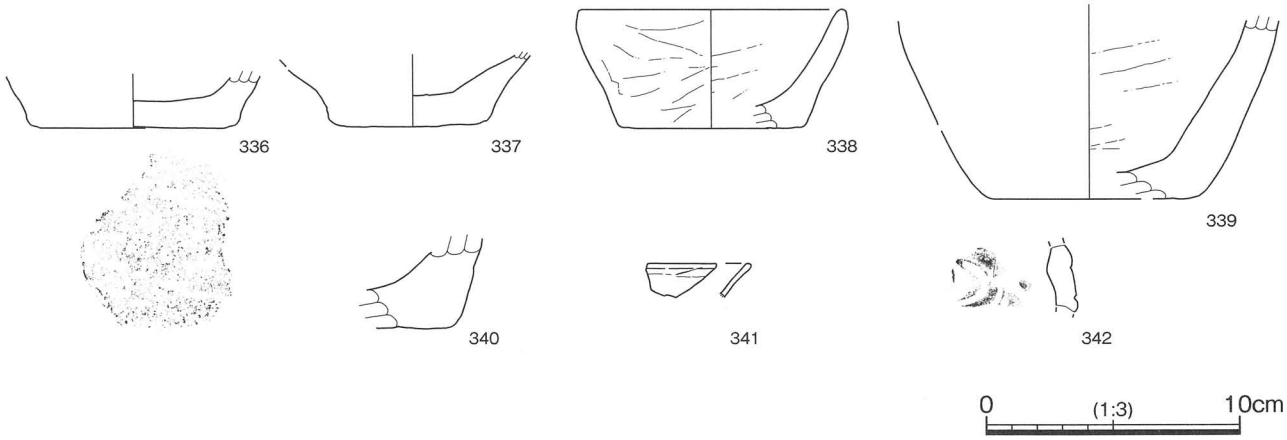


第42図　出土遺物〔SX3⑤、SD1・DS4〕

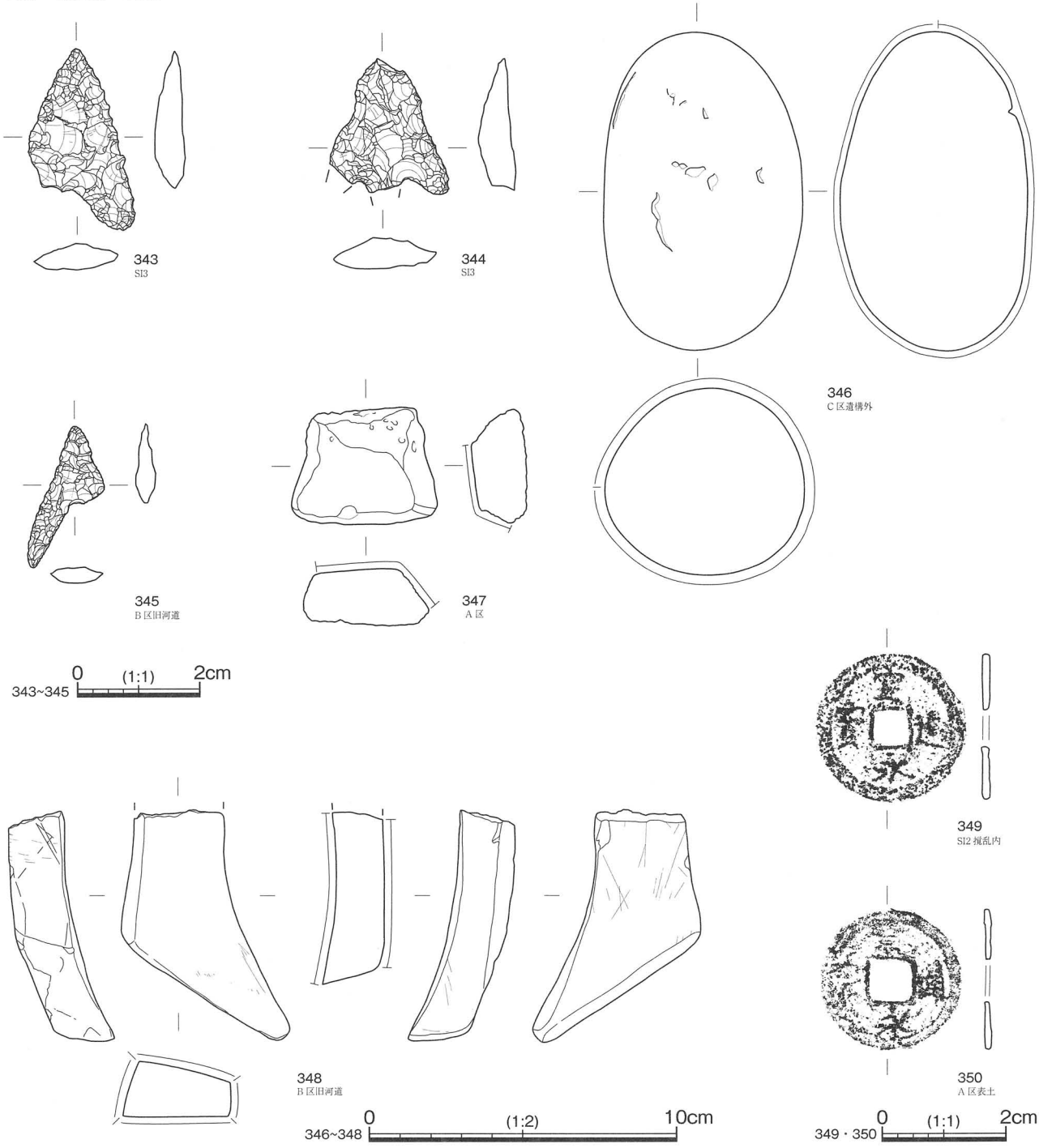
遺構外



第43図　出土遺物〔遺構外①〕



石器・石製品・古銭



第44図　出土遺物〔遺構外②、石器・石製品・古銭〕

第４章　上中丸遺跡出土炭化物自然科学分析報告

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

上中丸遺跡（山梨県富士吉田市小明見地内）は、吉村・平川（1982）によれば富士火山北麓に形成された山麓扇状地と丹沢山地より流下する河川が形成したと考えられる谷底平野に面した地点に位置する。なお、火山土地条件図（国土地理院,2003）には、この扇状地と山地とが面する部分は檜丸尾第１溶岩流の分布範囲として示されており、本遺跡はこの分布範囲に含まれる。上中丸遺跡では、発掘調査の結果、檜丸尾第１溶岩流より下位の堆積層より縄文時代中期、弥生時代前期、平安時代の各時期の遺構や遺物が確認されている。

本報告では、檜丸尾第１溶岩流および縄文時代の住居跡や土坑の年代、さらに縄文時代中期および弥生時代前期における植物利用の検討を目的として、自然科学分析調査を実施した。

Ⅰ．放射性炭素年代測定

1. 試料

測定に供した試料は、発掘調査時に採取された炭化材を含む炭化物および水洗選別により回収された炭化材など３点である。内訳は、檜丸尾第１溶岩直下 炭サンプル②が最大５㎜角程度の炭化物片、SI5 №769が高さ約10㎜×幅約10㎜×厚さ約５㎜の炭化材片、SK2 炭が約５㎜角程度の炭化材片からなる。これらの３試料については、同一試料より分割した炭化材（SI5）および一括で採取された炭化物・炭化材（檜丸尾第１溶岩直下、SK2）を対象として、試料の履歴（由来）に関わる情報を得るため、合わせて樹種同定を実施した。

2. 分析方法

試料に土壌や根などの目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後 HCl による炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOH による腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HCl によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理）。試料をバイコール管に入れ、１ｇの酸化銅（Ⅱ）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30分）850℃（２時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにて CO_2 を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製した CO_2 と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを 650℃で 10 時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径１㎜の孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。

測定機器は、3MV 小型タンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-Ⅱ）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に $^{13}C/^{12}C$ の測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}C$ を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0.0（Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}C の半減期 5,730±40年）を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、１年単位で表している。暦年

表10　放射性炭素年代測定および暦年較正結果

試料	測定年代 (yrBP)	δ13C (‰)	補正年代 (暦年較正用) (yrBP)	暦年較正結果		相対比	測定機関 CodeNo.
檜丸尾第1溶岩直下 炭サンプル②	1450±30	-27.03±0.57	1452±26	σ	cal AD 595 - cal AD 641	1.000	IAAA-113354
				2σ	cal AD 565 - cal AD 648	1.000	
SI5 No.769 炭化材(クリ)	4070±30	-28.56±0.49	4074±29	σ	cal BC 2,833 - cal BC 2,819	0.123	IAAA-113355
					cal BC 2,660 - cal BC 2,650	0.076	
					cal BC 2,634 - cal BC 2,571	0.721	
					cal BC 2,513 - cal BC 2,503	0.080	
				2σ	cal BC 2,853 - cal BC 2,812	0.140	
					cal BC 2,745 - cal BC 2,726	0.025	
					cal BC 2,696 - cal BC 2,563	0.712	
					cal BC 2,534 - cal BC 2,493	0.123	
SK2 炭 炭化材(クリ)	4170±30	-24.94±0.47	4174±28	σ	cal BC 2,877 - cal BC 2,856	0.184	IAAA-113356
					cal BC 2,812 - cal BC 2,747	0.584	
					cal BC 2,725 - cal BC 2,698	0.232	
				2σ	cal BC 2,883 - cal BC 2,835	0.213	
					cal BC 2,817 - cal BC 2,665	0.775	
					cal BC 2,646 - cal BC 2,638	0.012	

較正は、測定誤差σ、2σ（σは統計的に真の値が68%、2σは真の値が95%の確率で存在する範囲）双方の値を示す。また、表中の相対比とは、σ、2σの範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

3. 結果および考察

炭化材を含む炭化物試料の同位体効果による補正を行った測定結果（補正年代）は、檜丸尾第1溶岩直下 炭サンプル② 炭化物が1,450±30yrBP、SI5 No.769 炭化材が4,070±30yrBP、SK2 炭が4,170±30yrBPを示す。また、これらの試料の較正暦年代（測定誤差σ）は、檜丸尾第1溶岩直下 炭サンプル② 炭化物がcalAD 595-calAD 641、SI5 No.769 炭化材がcalBC 2,833-calBC 2,503、SK2 炭がcalBC 2,877-calBC 2,698である（表10）。

檜丸尾第1溶岩については、上杉ほか（1987）により、溶岩下位の焼けた黒色腐植土の放射性炭素年代測定から1,730±120yrBPという年代が得られているが、その後、高田ほか（2011）により、溶岩基底の炭化材の放射性炭素年代測定から1,510±40yrBP（calAD 530-calAD 610: σ、calAD 440-calAD 640:2σ）という年代も示されている。調査事例が少なく詳細な比較には至らないが、今回の結果は高田ほか（2011）と概ね同様の年代と言える。また、曽利式の土器が出土した住居跡（SI5）および土坑（SK2）の炭化材の較正暦年代は、小林（2008）の東日本の縄文土器の年代を参考とすると、ほぼ縄文時代中期後半頃に相当する。

なお、測定に供した試料の樹種同定の結果、SI5 No.769とSK2炭が落葉高木のクリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）、檜丸尾第1溶岩直下 炭サンプル② 炭化物は道管が認められたことから広葉樹と判断されたが、道管配列が観察できなかったため種類の特定には至らなかった。

Ⅱ. 炭化種実同定

1. 試料

試料は、弥生時代前期の遺物が出土した住居跡（C区SI2）と、曽利式期の土器を主体とする土器溜まり（C区SX3）から出土した炭化物である（表11）。炭化物試料は、焼土やピットなどの埋積物の水洗選別によって回収された炭化物を含む微細遺物および発掘調査時に取上げられた炭化物からなる。本分析では、上記した目的を踏まえ、炭化種実の抽出と同定を主体とし、試料観察の際に確認された未炭化の種実遺体や炭化材、昆虫類などについては、その有無を結果に併記した。

2. 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて炭化種実を拾い出す。炭化種実の同定は、現生標

本および石川（1994）、中山ほか（2000）などとの対照から実施し、結果を一覧表に示す。分析後は、種実遺体を容器に入れて保管する。

3. 結果

結果を表11に示す。全試料を通じて裸子植物１分類群（針葉樹のツガ）の針葉１個と、被子植物５分類群（広葉樹のオニグルミ、草本のアワ、ヒエ？、キビ、イネ科）の種実67個の、計68個が抽出・同定された。栽培種は、C区SI2焼土からアワの胚乳６個、ヒエ？の胚乳２個、キビの胚乳３個の、計11個が確認された。この他に、落葉高木のオニグルミの核の破片がC区SI2炭化物から43個、SX3から12個、SI2焼土から常緑高木のツガの針葉が１個、草本のイネ科の胚乳が１個確認された。以下に、確認された炭化した大型植物遺体の形態的特徴などを記す。

・ツガ（*Tsuga sieboldii* Carriere）　マツ科ツガ属

針葉は炭化しており黒色、完形ならば長さ0.8～2cm、最大幅は先端部近くで1.5～2.5mm程度の偏平な線形で、先端部は鈍頭またはわずかに凹頭。基部は楔形に細まり、長さ１～1.5mmの柄が葉に直角に曲がる。葉表面には中肋に沿って凹む溝があり、裏面の溝の両側に灰白色の気孔帯が配列する。破片は基部が確認され、残存長1.8mm、幅1mm。

・オニグルミ（*Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Miyabe et Kudo) Kitamura）　クルミ科クルミ属

核は炭化しており黒色。完形ならば、長さ３～４cm、径2.5～３cm程度の広卵体。頂部が尖り、１本の明瞭な縦の縫合線がある。破片の大きさは、最大2cm程度。核は硬く緻密で、表面には縦方向の浅い彫紋が走り、ごつごつしている。内部には子葉が入る２つの大きな窪みと隔壁がある。

・アワ（*Setaria italica* (L.) P.Beauv.）　イネ科エノコログサ属

胚乳は炭化しており黒色。長さ1.2～1.5mm、幅1.1～1.3mm、厚さ１mm程度の半偏球体で、腹面は平ら、背面は丸みがある。基部正中線上は、背面に長さ0.8mm、幅0.4mmの馬蹄形、腹面に径0.3mmの広倒卵形の胚の凹みがある。胚乳表面は粗面。

・ヒエ（*Echinochloa utilis* Ohwi et Yabuno）？　イネ科ヒエ属

胚乳は炭化しており黒色。長さ1.3mm、幅1.2mm、厚さ0.9mmの半偏球体。背面は丸みがあり腹面はやや平ら。基部正中線上は、背面に長さ1.0mm、幅0.7mmの馬蹄形、腹面に径0.3mm程度の半円形の胚の凹みがある。胚乳表面は粗面で微細な網目模様が縦列する。

・キビ（*Panicum miliaceum* L.）　イネ科キビ属

胚乳は炭化しており黒色。径1.8mm、厚さ1.3mmのやや偏平な広卵体。背面は丸みがあり、腹面は平ら。基部正中線上は、背面に長さ0.5mm、幅0.8mm、腹面に径0.4mmの半楕円形の胚の凹みがある。胚乳表面は粗面。なお、長さ1.5mm、幅0.8mmの細身で長さ１mm程度の胚の凹みがある胚乳をイネ科（Gramineae）としている。野生種に由来する可能性と、生育状態が不良なアワ、ヒエ、キビなどの栽培種に由来する可能性がある。

4. 考察

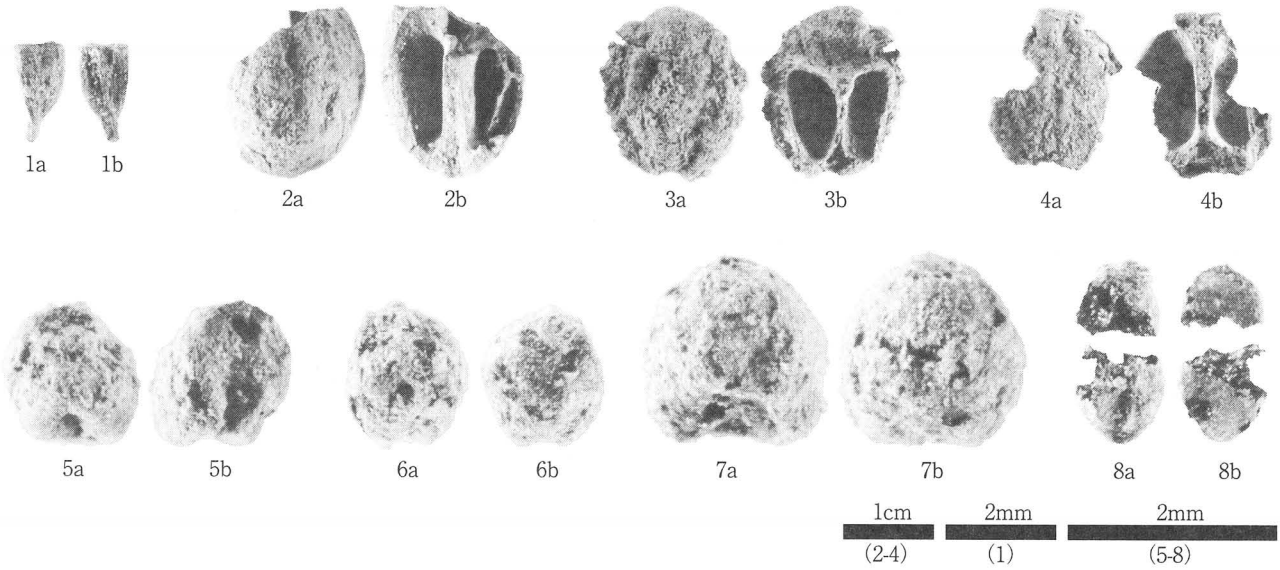
上中丸遺跡の住居跡や土器溜まりからは、アワ、ヒエ？、キビなどの栽培種のほか、木本のツガ、オニグルミおよび草本のイネ科などの炭化種実・葉が確認された。このうち、縄文時代中期後半の土器溜まり（SX3）と弥生時代前期とされる住居跡（SI2）より検出されたオニグルミは、川沿いなどの湿潤な肥沃地に生育する落葉高木である。また、オニグルミは、核内部の種子が生食可能であり、古くより植物質食料として利用されてきた有用植物である。本遺跡周辺では、上暮地新屋敷遺跡の縄文時代中期前葉の焼土跡や中期後葉の林地を構成した樹木痕と想定される土坑出土炭化材などにもオニグルミの核や炭化材が確認されており（パリノ・サーヴェイ株式会社,2011）、周辺域にオニグルミが生育していたことや、当該期における植物質食料としての利用が推定される。

SI2焼土跡より検出された栽培種のアワ、ヒエ？、キビは、いずれも可食部である胚乳が確認された。これらは、出土地点や確認された部位などから、食糧として利用された雑穀類と推定される。上述した上暮地新屋敷遺跡における栽培種の出土状況についてみると、平安時代の住居埋積物の水洗選別により回収された

表11　炭化種実同定結果

試料		仮No.*	分類群	部位	状態	個数	備考　（炭化種実以外）
C区SI2	焼土 上	1	アワ	胚乳	完形	3	炭化材
			キビ	胚乳	完形	1	
		2	ツガ	葉	破片（基部）	1	アカザ科種子（完形2,破片2）.
			イネ科	胚乳	完形	1	エノキグサ種子（完形2,破片1）.
	焼土 下	1	アワ	胚乳	完形	3	ケヤキ葉（1）.炭化材.巻貝類（1）.
			キビ	胚乳	完形	2	
		2	ヒエ？	胚乳	完形	2	炭化材.巻貝類（1）.昆虫類.
	No.206	-	-	-	-	-	種実確認されず.炭化材.
	炭化物一括 クルミ？	-	オニグルミ	核	破片	43	計2個体以上.炭化材.
C区SX3	No.344	-	オニグルミ	核	破片	4	炭化材
	炭化物 実	-	オニグルミ？	核	破片	8	炭化材

＊同一名称の試料を区別するため、試料確認の際に付した番号.



1.ツガ 葉（C区SI2;焼土 上）
2.オニグルミ 核（C区SI2;炭化物一括 クルミ?）
3.オニグルミ 核（C区SI2;炭化物一括 クルミ?）
4.オニグルミ 核（C区SI2;炭化物一括 クルミ?）
5.アワ 胚乳（C区SI2;焼土 上）
6.ヒエ? 胚乳（C区SI2;焼土 下）
7.キビ 胚乳（C区SI2;焼土 下）
8.イネ科 胚乳（C区SI2;焼土 上）

第45図　大型植物遺体

炭化物より、アワ（近似種）を主体として、イネ、ムギ類、キビ、マメ類が伴うという結果（パリノ・サーヴェイ株式会社 ,2011）が得られており、試料の時期や数量が異なるものの雑穀類が多いという点は共通する。今回の結果は、本地域における弥生時代の植物質食糧の利用を示す事例と言え、さらに試料の年代の検討や同様の調査事例の蓄積による評価・検討が期待される。また、この他に検出された針葉樹のツガは、丘陵～山地の尾根や痩せ地に生育する常緑高木であり、イネ科は明るく開けた場所に生育する人里植物であることから、周辺域の森林や調査区近辺に生育していた個体に由来すると考えられる。

引用文献

石川茂雄 ,1994, 原色日本植物種子写真図鑑 . 石川茂雄図鑑刊行委員会 ,328p.
小林謙一 ,2008, 縄文土器の年代（東日本）. 小林達雄先生古希記念企画　総覧　縄文土器 . 株式会社アム・プロモーション ,896-903.
国土地理院 ,2003, 火山土地条件図　富士山　1:50000.
中山至大・井之口希秀・南谷忠志 ,2000, 日本植物種子図鑑 . 東北大学出版会 ,642p.
パリノ・サーヴェイ株式会社 ,2011, 種実遺体と炭化材の同定 . 上暮地新屋敷遺跡－農業集落道建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－, 富士吉田市文化財調査報告書第 8 集 ,141-153.
高田　亮・石塚吉浩・中野　俊・山元孝広・小林　淳・鈴木雄介 ,2011, 噴火割れ目が語る富士火山の特徴と進化 . 荒牧重雄・藤井敏嗣・中田節也・宮地直道編　富士火山（改訂版）, 日本火山学会 ,183-202.
上杉　陽・堀内　真・宮地直道・古原隆夫 ,1987, 新富士火山最新期のテフラ - その細分と年代 -. 第四紀研究 ,26,59-68.
吉村　稔・平川一臣 ,1982, Ⅰ 地形分類図 . 土地分類基本調査　山中湖・秦野 , 山梨県企画管理局土地水対策課 ,13-20.

第５章　山梨県上中丸遺跡の植物圧痕の同定

山梨県立博物館　中　山　誠　二

１　分析資料

今回分析を行った資料は、山梨県富士吉田市上中丸遺跡から出土した土器で、KNM01・03～05がSI2、KNM02がSK1、KNM06がＢ区旧河道で出土している（第46図）。

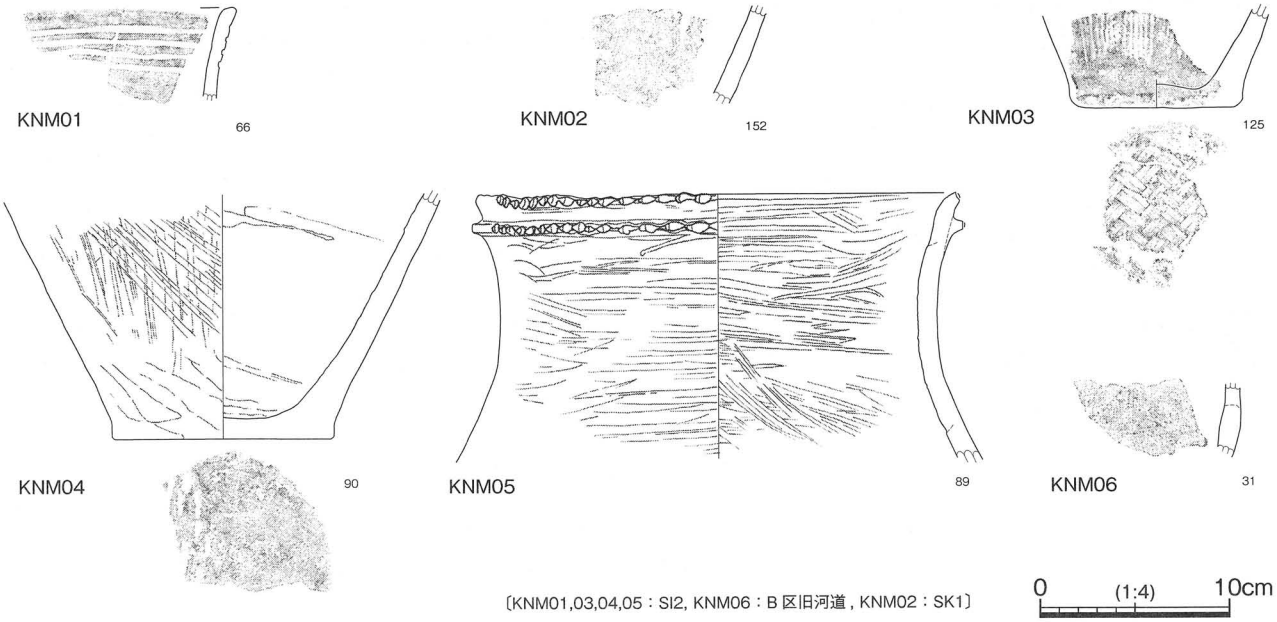
KNM01は、幅広の平行沈線を４条めぐらす口縁部片で、氷Ⅰ式にみられる多条浮線文が沈線文化し、型式変化したものと考えられる。KNM02・06は無紋の深鉢土器胴部片である。KNM03・04は条痕文を施す深鉢胴下半部から底部にかけての破片で、KNM03の底部には網代痕が認められる。KNM05は、指頭で刻みを入れた２条の突帯を口縁部にめぐらす広口壺で、胴部は条痕文を施している。これらの特徴から、弥生時代前期後葉の柳坪式に比定される条痕文土器と判断される。

２　分析手法

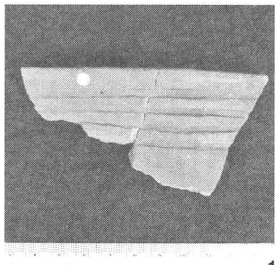
本調査では、縄文土器の表面に残された圧痕の凹部にシリコーン樹脂を流し込んで型取りし、そのレプリカを走査電子顕微鏡（SEM）で観察する「レプリカ法」と呼ばれる手法を用いる（丑野・田川　1991）。

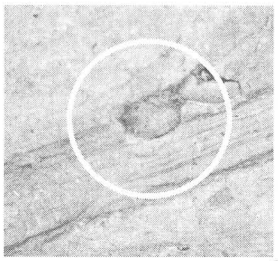
作業は、①圧痕をもつ土器試料の選定、②土器の洗浄、③資料化のため写真撮影、④圧痕部分の実体顕微鏡での観察、⑤圧痕部分に離型剤を塗布し、シリコーン樹脂の初期充填、⑥走査電子顕微鏡用の試料台に増粘剤を加えたシリコーンを載せ、初期充填を行った圧痕部分にかぶせ転写、⑦これを乾燥させ、圧痕レプリカを土器から離脱、⑧走査電子顕微鏡（ニコン製Quanta600）を用いて転写したレプリカ試料の表面観察、⑨現生試料との比較による植物の同定という手順で実施した。

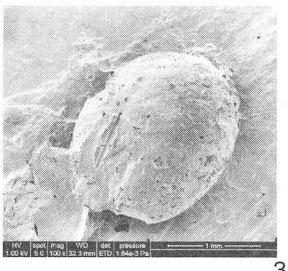
なお、離型剤にはアクリル樹脂（パラロイドＢ－72）をアセトンで薄めた５％溶液を用い、印象剤にはJMシリコンを使用した。

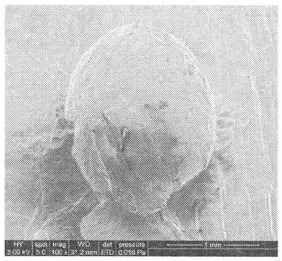


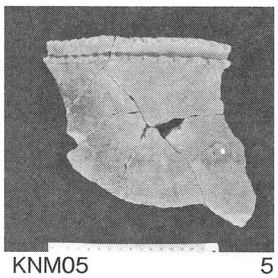
第46図　上中丸遺跡の圧痕土器

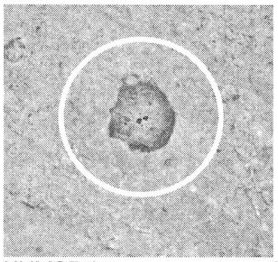

KNM01 1

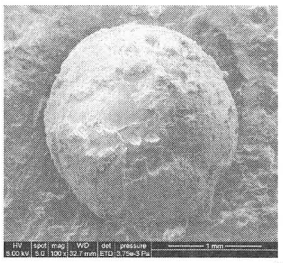

2

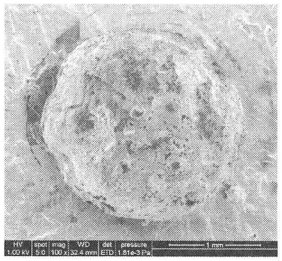

3

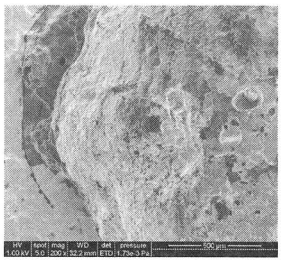

4

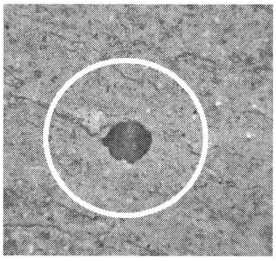

KNM05 5

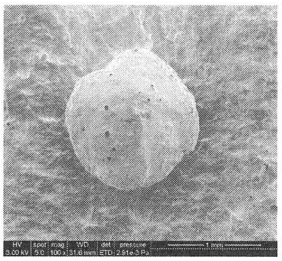

KNM05-1 6

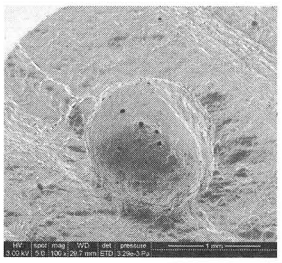

7

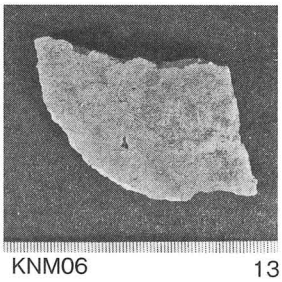

8

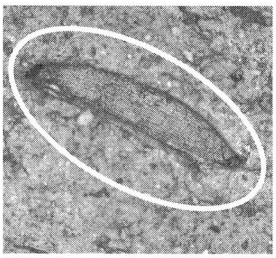

9

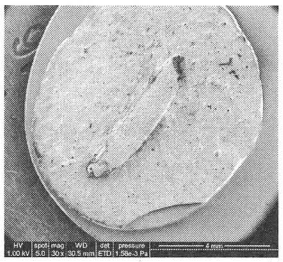

KNM05-2 10

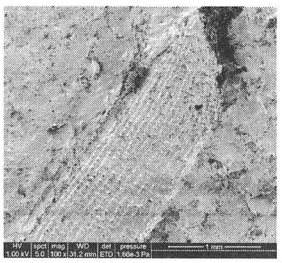

11

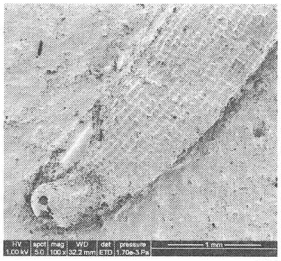

12

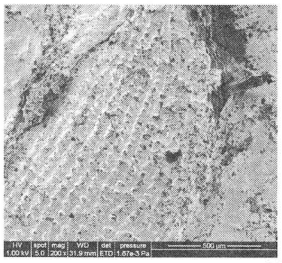

KNM06 13

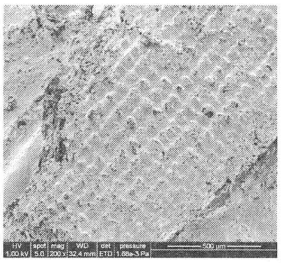

14

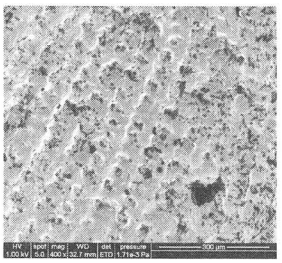

15


16


17


18


19


20

土器写真：1,5,13
圧痕実態顕微鏡写真：2,6,10,14
圧痕 SEM 画像：3,4,7-9,11,12,15-20

第47図　上中丸遺跡土器圧痕

表12　上中丸遺跡圧痕一覧

番号	試料名	遺構名	部位	時期	型式名	種子圧痕の有無	植物同定
1	KNM01	SI2	深鉢口縁部	弥生時代前期後葉	柳坪式	○	不明種
2	KNM02	SK1	深鉢胴部	弥生時代前期後葉？		×	
3	KNM03	SI2	深鉢胴下半部・底部	弥生時代前期後葉	柳坪式	×	
4	KNM04	SI2	深鉢胴下半部・底部	弥生時代前期後葉	柳坪式	×	
5	KNM05-1	SI2	広口壺口縁部	弥生時代前期後葉	柳坪式	○	キビ（*Panicum miliaceum*）
6	KNM05-2	SI2	広口壺口縁部	弥生時代前期後葉	柳坪式	○	アワ（*Setaria italica*）
7	KNM06	B区旧河道	深鉢胴部	弥生時代前期後葉？		○	イネ（*Oryza sativa*）

3　分析結果（表12・第47図）

KNM01　（第47図1～4）

種子圧痕は、土器の口縁部直下から検出された。圧痕の長さ1.9㎜、幅1.7㎜、厚さ1.2㎜で、曲線的な六角形を呈する。先端部は丸みをもつが、基部はやや尖り気味に突き出る。基部に胚とみられる楕円形の窪みが認められる。表面は平滑である。大きさ、形態的特徴はキビに類似するが、同定のカギとなる部位が認められないことから不明種とする。

KNM05-1　（第47図5～9）

土器の内外面から圧痕が2点検出された。

種子圧痕は、長さ2.2㎜、幅2.1㎜、厚さ1.9㎜で、曲線的な六角形を呈する。先端部は丸みをもつが、基部はやや尖り気味に突き出る。表面は平滑で、上部の内頴部分を覆う外頴部との段差がわずかに観察される。大きさ、形態的特徴からキビ（*Panicum miliaceum* L.）の有ふ果と判断される。

KNM05-2　（第47図5・10～12）

種子圧痕は、長さ1.5㎜、幅1.5㎜、厚さ1.4㎜で、全体に丸みを持ち、胚とみられる楕円形の窪みが中央部に認められる。大きさ、形態的特徴から脱稃した状態のアワ（*Setaria italica* Beauv.）の果実と判断した。

KNM06　（第47図13～20）

無紋の深鉢胴部片の内面に圧痕が認められた。

種子圧痕は、長さ5.3㎜、幅1.2㎜で、表皮に顆粒状突起列が明瞭に認められる。形状および表皮の特徴からイネ籾（*Oryza sativa* L.）の内頴部分と判断される。

4　小結

今回、上中丸遺跡の圧痕分析を行った土器は、甲斐地域では柳坪式と呼ばれる条痕文土器で弥生時代前期後葉に比定される。

分析の結果、キビ有ふ果1点、イネ籾1点およびアワ果実1点、不明種1点が検出された。上中丸遺跡が所在する山梨県内の東部地域では、ほぼ同時期の天正寺遺跡からイネ、アワ、キビの圧痕が確認されており（中山・網倉　2010）、当該地域において水稲農耕と雑穀の畠作農耕が混在していた可能性を示す資料と捉えることができる。

引用文献

丑野　毅・田川裕美　1991「レプリカ法による土器圧痕の観察」『考古学と自然科学』24　pp.13-35　日本文化財科学会
中山誠二・網倉邦生　2010「弥生時代初期のイネ・アワ・キビの圧痕－山梨県天正寺遺跡の事例」『山梨県立博物館研究紀要』第4集　pp.1-14　山梨県立博物館

第６章　総括

今回の調査では、平安時代の竪穴住居跡２軒、弥生時代の竪穴住居跡２軒、縄文時代の竪穴住居跡１軒、土坑６基と出土遺物約43kgを検出した。遺構検出数・遺物出土量とも多くはなかったが、これらは富士火山灰堆積層に覆われていた希少な事例であり、他地域よりも一定の時間幅のなかで捉えられる可能性をもった資料といえる。また、富士吉田市域でこれまで確認されていなかった縄文時代中期後半、弥生時代の遺構を発見したことで、同地域の遺跡分布について再度検討が必要であることを示唆する結果となった。

総括では今後の調査研究に備え、検出した遺構と遺物、周辺環境などについて、できる限りまとめておくことにしたい。

第１節　遺構の変遷と土器編年について

検出した遺構の層序については第１章第４節で記したが、ここでは堆積状況の観察から得た知見とともに、層序の堆積順に遺構の変遷について述べておく。縄文時代中期後半段階については曽利Ⅱ～Ⅴ式期までの遺構・遺物が検出されたことから、第48図で縦軸を層序、横軸を土器編年として主な遺物と各遺構の検出状況を示した。また図中の隅丸方形の区画は遺構を示し、層序がはっきりしない部分は破線とした。なお、土器編年の位置づけについては、先述のとおり今福 2011 を元に筆者が比定したものである。以下、編年順に遺構の埋没状況と出土遺物の関係についてを述べておく。

〔縄文時代〕

基16層：曽利Ⅱ式段階

本調査で検出した最も古い段階である曽利Ⅱ式段階の土坑（SK2）を基16層下部から検出した。SK2 では地文に条線を施し、２本の波状隆線と半截竹管内面で分割整形した３本の隆線からなる隆帯が見られた。土器資料では、SK1 と SK2 の近くから出土した破片が接合した〔163〕が最も古く、頸部隆帯と２本の隆帯による懸垂文など古段階に比定する要素がみられた。出土遺物から曽利Ⅱ式新段階と位置づけ、SK2 で検出した炭化物の年代測定では、補正年代で 4,170 ± 30yrBP、較正暦年代（測定誤差σ）は calBC 2,877-calBC 2,698 といった測定値が得られた（詳細は第４章掲載。以下同）。

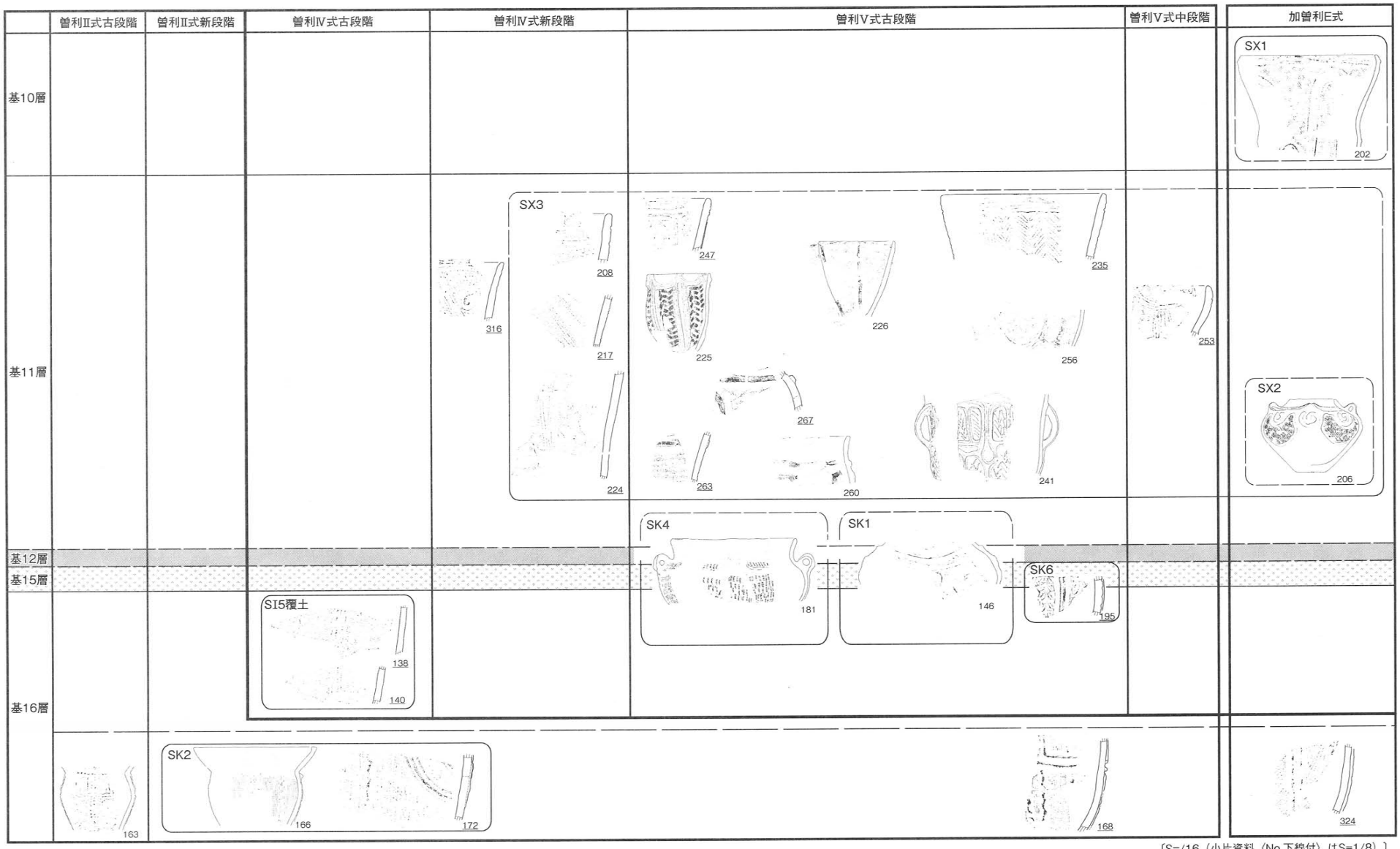
基16層：曽利Ⅳ式古段階

竪穴住居跡（SI5）を検出した。竪穴住居跡の年代を示す遺物がなく、SK2 とほぼ同面での確認であったが、覆土に基 13 ～ 15 層のスコリア層の堆積がみられたことから、この段階に比定した。

同遺構では住居廃棄後の埋没過程においても、何らかの目的で利用した痕跡と推定する焼土堆積が確認できた。覆土（基16層）中にみられたもので、用途は不明であるが土器片の出土も確認している。また、この覆土上面において、曽利Ⅳ式の土器を検出している。住居床面直上の堆積土（基16層内）からは住居の構築材と推定する炭化材（クリ）を検出し、補正年代で 4,070 ± 30yrBP、較正暦年代（測定誤差σ）は calBC 2,833-calBC 2,503 であった。なお、基15層に覆われていた状況から、次段階の遺構とは明確に時間差があることが認められ、テフラ分析においては、4300～4500年前頃と推定されていることから、年代についての相違はみられない。また、基16層以下はＣ区全面で比較的平坦な堆積状況であることが確認できた。この段階までは安定した土壌が広がっており、周辺に集落遺構が分布している可能性は十分に考えられる。

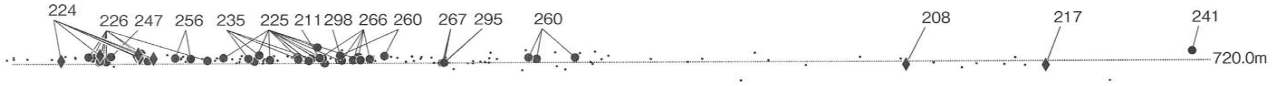
基15層上層：曽利Ⅴ式古段階

基15層のスコリアの上層から掘り込まれていた土坑（SK1・4・6）を検出した。編年では曽利Ⅴ式古段階に比定する遺物が出土している。基15層上面に堆積した基12層は、火砕サージ噴出物起源である可能性が指摘されていることから、周辺の様相に大きな変化を与えたことが推測される。但し、調査区内では基 12 層の堆積状況は疎らであり、同層に覆われていた状況が明確だったのは SK6 のみであった。なお、同段階の他の遺構については 11 層中からの掘り込みと判断した。基11層については場所により堆積の厚さが異なり、砂層や砂礫層が互層となるなどの状況から、雪代等の土石流堆積と推察した。状況からは基 15 層上面に降



〔S=/16（小片資料〈No.下線付〉はS=1/8）〕

SX3　遺物出土状況断面図（S-N　♦曽利Ⅳ式　●曽利Ⅴ式）



第48図　編年別土器出土状況図

灰したスコリア層の堆積が明確でないことも含め、この段階に土地様相の大きな変化があったと考えられる。なお、この境部分にあたっていたのが、次段階とするC区北側のSX3と考えられる。

基11層：曽利Ⅴ式段階（曽利Ⅳ式新段階～曽利Ⅴ式中段階）

基11層堆積の一部で、水の影響を受けていた部分と推定したSX3で、小佐野川や大沢川などの流れが流入していた状況が窺えた。編年では主に曽利Ⅴ式段階の遺物を包含しており、SX2などの加曽利E式の影響がみられる遺物も検出している。なお、小片で出土量も少なかったが、曽利Ⅳ式の特徴とされる蛇行沈線文や綾杉状の条線が施された遺物が混在した。出土状況については特段変化はみられず（第48図下）、別遺構から混入した可能性の他、曽利Ⅴ式段階に残った前段階の文様要素とも考えられる。また、曽利Ⅴ式古段階が主体であるが、２本単位の沈線による口縁部の弧線文と胴部の懸垂文のみでハの字文等が充填されない〔253・254〕なども出土しており、編年では曽利Ⅴ式中段階までと比定している。

基10層：加曽利E4式段階

SX3、基11層を埋める基10層から、加曽利E4式の土器が出土した（SX1）。文様は曽利Ⅴ式古段階に位置付けられる可能性もあるが、層序からSX3よりも後出する段階と比定しておく。なお、今回の調査では縄文時代中期末の痕跡は、基10層より上層では確認されなかった。

基８層：縄文時代後期

基11層と同じく、場所によって堆積の厚さが異なり、砂層や砂礫層が互層となっていた。遺物はほとんどなく、称名寺式の土器片が出土した。第３図②～④で示したように、調査区内で最も土地の起伏が大きく変化している層であり、緩やかに北斜する自然地形のなか③付近で起伏のピークがみられた。土層観察では均一な堆積ではないことは明らかで、流路等に沿って流入してきた土石流等の堆積と考えられる。なお、同層下部には火砕サージの可能性が高いとする堆積が確認されており、下層の基12層と同様でサージ堆積後の上層は堆積が乱れるというパターンが窺えた。その他、C区南側の同層堆積が薄い部分では、人頭大の礫や火山弾などが確認された。

基４層：縄文時代晩期

詳細な時期は明確ではないが、C区東壁の土層観察において、縄文時代晩期頃と推定する土坑状の掘り込みを確認した。覆土は黒褐色のスコリア層で、基４層面においては遺構プランの判別はできなかった。調査は試掘やH19年度の調査成果を元に進めたが、縄文時代中期段階の確認面までの掘り下げの際にも、遺物の出土は確認できなかった。同時期の遺構の性格を把握するためには、土色の変わる基５層または基６層段階において精査する必要があったといえ、今後の調査に期待したい。なお、平安時代の竪穴住居跡（SI4）も同層で確認しているが、上層からの掘削もしくは平安期には既に同面近くまで削平されていたと推定した。

〔弥生時代〕

基３層：弥生時代前期後葉

明確な掘り込みは確認できなかったが、弥生時代の遺物が集中した２か所を住居跡と推定した（SI2・3）。同層はC区北側においては水田もしくは流路の影響で削平されていたと推定する。

〔古墳時代〕

基０～１層：古墳時代

檜丸尾第１溶岩流の流出により影響を受けた基１層、および溶岩流下部にあたる細かく砕けた溶岩の堆積を確認した。基１層中から採取した炭化物の年代測定では、補正年代1,450±30yrBP、較正暦年代（測定誤差σ）calAD 595-calAD 641であった。

〔平安時代〕

基－２層：平安時代

遺物は少なかったが、10世紀頃に比定した竪穴住居跡（SI1・SI4）を検出した。土地の起伏が大きく、C区北側では掘削もしくは流路等により堆積しなかった可能性も窺えた。

第２節　検出した遺構・遺物の特徴について

（１）遺物の出土傾向

遺構・遺物に関しては第３章で触れてきたが、各遺構別の出土重量と遺物取り上げ点数をまとめ、各計測値、比率をそれぞれグラフで表した（表13・14）。調査時の遺物の取り上げ目安としては、土器類はおよそ500円硬貨大以上のものとし、「遺構くん」によって種別ごとに取り上げ、総点数は800点であった。

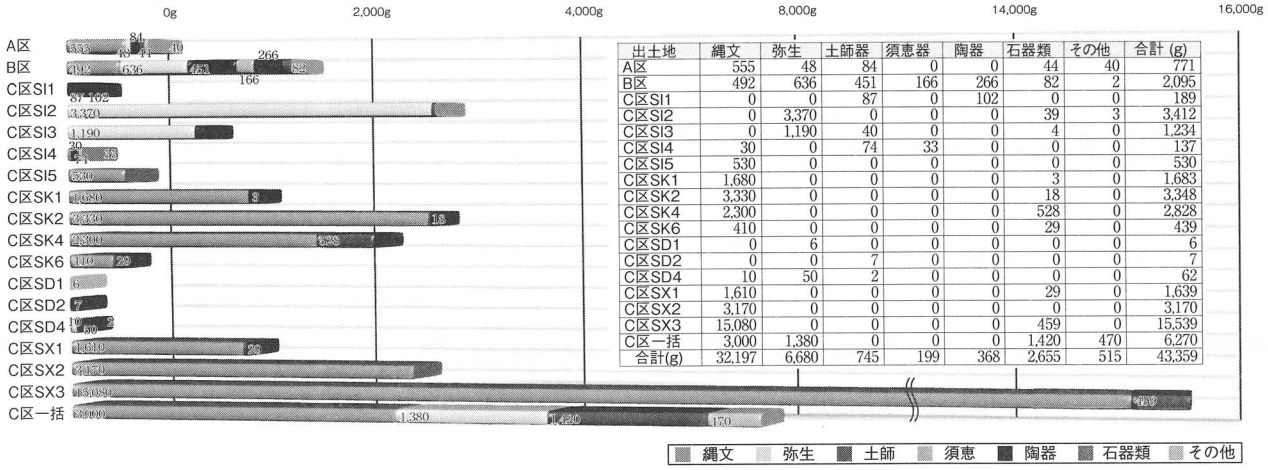
遺物の種別に関しては、整理作業の段階において、洗浄後の遺物をすべて観察し、種別・年代等の確認を実施した上で、各時期、種別ごとの総重量と比率をまとめた。

種別により一個体の重量は異なるが、今回の調査では取上点数においても縄文時代の遺物が最も多く出土しており、さらに総出土遺物重量の約半分がSX3から出土したものであった。弥生土器に関しては、撹乱等の影響で遺構外出土（C区一括）も多くなったが、調査時の初見ではほぼSI2・SI3の２箇所に分布が集中していた。また、表４でも示したが、B区ではほぼ旧河道からの出土で、土師器の出土量は全体の約60％を占めた。縄文時代から幾度かの流路変遷があったと推定したが、今回の調査で確認した範囲では、遺物の分布状況からも、檜丸尾第１溶岩流の流出以後に堆積した部分が大半であったことが窺えた。

今回の調査では石器の出土が際立って少なく、チャートなどの石材やサンプルとして取上げた自然石等をあわせても、取上点数の比率で、わずか4.8％であった。平成19年度調査でも同じ傾向であったことから、同遺跡の特徴のひとつといえよう。石器の石材としては、黒曜石、砂岩、玄武岩などが使用されていた（表８）。

その他、富士山周辺地域の特徴を示す資料として、基８層上面から玄武岩の火山弾が出土している。（巻頭図版２）。その形状から独鈷石等の石器と考えたが、人為的な加工痕はなく、紡錘状火山弾の特徴である細長いアーモンド状で縦長の溝がみられ、（図版28）土石流等により運ばれてきたものと判断した。

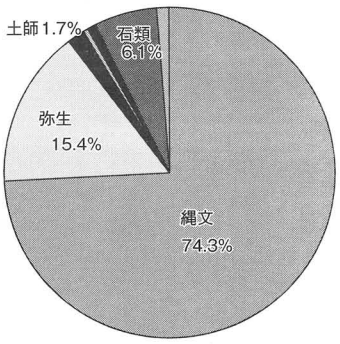
表13　各調査区・遺構別出土遺物重量一覧



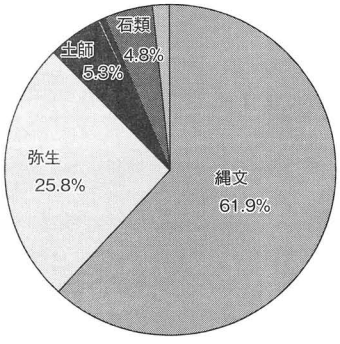
出土地	縄文	弥生	土師器	須恵器	陶器	石器類	その他	合計 (g)
A区	555	48	84	0	0	44	40	771
B区	492	636	451	166	266	82	2	2,095
C区SI1	0	0	87	0	102	0	0	189
C区SI2	0	3,370	0	0	0	39	3	3,412
C区SI3	0	1,190	40	0	0	4	0	1,234
C区SI4	30	0	74	33	0	0	0	137
C区SI5	530	0	0	0	0	0	0	530
C区SK1	1,680	0	0	0	0	3	0	1,683
C区SK2	3,330	0	0	0	0	18	0	3,348
C区SK4	2,300	0	0	0	0	528	0	2,828
C区SK6	410	0	0	0	0	29	0	439
C区SD1	0	6	0	0	0	0	0	6
C区SD2	0	0	7	0	0	0	0	7
C区SD4	10	50	2	0	0	0	0	62
C区SX1	1,610	0	0	0	0	29	0	1,639
C区SX2	3,170	0	0	0	0	0	0	3,170
C区SX3	15,080	0	0	0	0	459	0	15,539
C区一括	3,000	1,380	0	0	0	1,420	470	6,270
合計(g)	32,197	6,680	745	199	368	2,655	515	43,359

表14　出土遺物重量・取上点数比率一覧

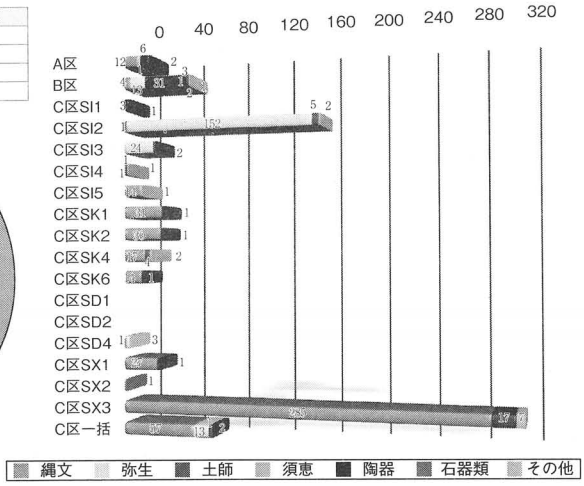
種　別	縄文土器	弥生土器	土師器	須恵器	陶器	石器等	古銭	炭化物	骨	計
遺物出土量(g)	32,197	6,680	745	199	368	2655	515			43,359
遺物出土量率	74.3%	15.4%	1.7%	0.5%	0.8%	6.1%	1.2%			100%
種別取上点数	495	206	42	2	4	38	1	6	6	800
種別取上率	61.9%	25.8%	5.3%	0.3%	0.5%	4.8%	0.1%	0.8%	0.8%	100%



〔調査区全体 遺物出土量率（種別）〕



〔調査区全体 遺物取上率（種別）〕



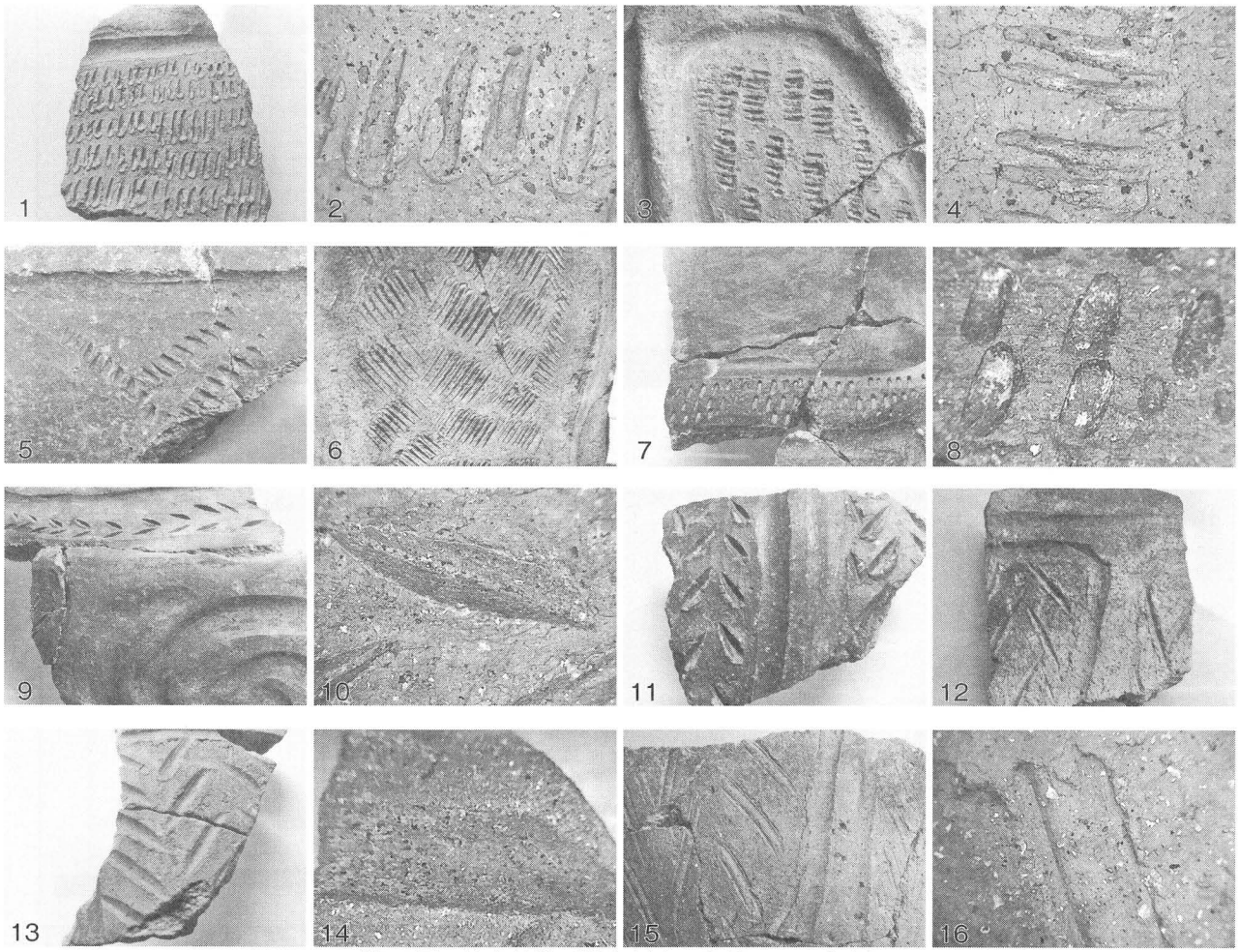
（2）浄瓶の出土について

SI1からは仏教関連の遺物とされる灰釉陶器製の浄瓶が出土した。頸部のみの出土であったが、出土遺物は金属器を模写したもので、ラッパ状に開く環台に円錐状の尖台部を載せて繋げたものである。県内では希少で、発掘調査事例では南アルプス市百々遺跡、笛吹市大原遺跡などが知られるが、いずれも小片である。出土した浄瓶は、鍔状の環台部分がすべて欠損しており、打ち欠き行為の痕跡と思われる。なんらかの祭祀行為に使用されたもので、立地的には富士火山に対するものと考えられるが、想像の域をでない。但し、調査区周辺には小明見富士浅間神社が鎮座し（第１図参照）、春祭りに行う御輿渡御は平安時代の面影を残すものとして伝承されている。立地的にも檜丸尾第１溶岩流と集落との境あたりに位置しており、古くから富士に関する地鎮祭祀などが行われていた可能性は十分考えらよう。今回の浄瓶の出土についても、このような土地柄に関連した資料と位置付けておきたい。

（3）曽利Ｖ式期の文様について

今回最も多く出土した資料となった曽利Ｖ式の土器については、甲府盆地よりむしろ富士北麓方面にかけて比較的多くの資料がみられると指摘されており（今福 2011）、なかでも特徴的であったのが櫛歯刺突・櫛歯条線を施文したものであった。これに関しては、静岡県富士宮市に所在する千居遺跡の報告で千居式土器と名付けた分類がされている。本調査では、今福氏編年を元に比定したため、千居式についての詳細には触れない。しかしハの字文も含め、富士山周辺地域で特徴的にみられる土器群とする視点は注目でき、同地域における土器様相を示すものと考えた。今回の資料は小片が多く、時期や形態が不明瞭な点もあったため、ここでは隆帯の観察と施文具・施文方法について若干の考察を行っておく。

まず、櫛歯刺突・櫛歯条線（第49図１～６）についてであるが、今回の報告では下図１、３のように充填する文様については刺突文として報告したが、細部の観察では半截竹管状の工具を２～３本ほど横に連ねて短い条線状に施文したものであった。竹管状工具の本数は異なるが、ハの字状に施文された５・６について

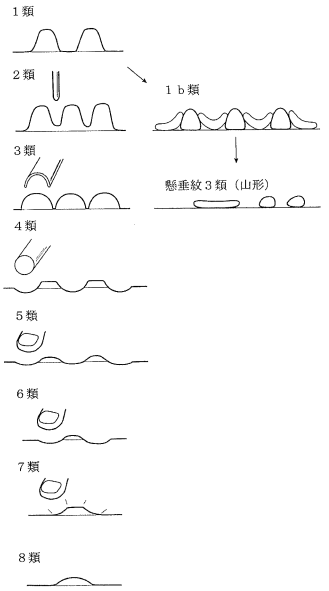


第49図　施文技法（櫛歯刺突・条線、ハの字文）

も同様で、条線の長短の違いによるものといえる。また、隆帯上にも刺突を施した〔260〕については、条線状に引かず、刺突面も平らなスタンプ状の施文がみられた（第49図７・８）。

隆帯施文技法については、１本隆帯の脇を指ナデした６類と、隆帯が断面台形状を呈し器面までナデが及ばない７類の両方がみられ、やや７類が少ない傾向はあったが、観察した調整痕との関連性は特に見出せなかった。但し、〔260〕と同じように、隆帯については隆帯上をヘラ等で平坦に調整し、６類同様に器面まで指ナデを施したものが観察できた（第49図９～12）。これらについては充填するハの字文をヘラ状工具で施文するものが多く出土している。また、隆帯が省略され、半截竹管背面による沈線による区画を施文したもの（13・14）は、当然ながら充填するハの字文も同じ工具によって施文しており、曽利Ⅳ式に比定した〔316〕についても同様であった。

その他、SX3では半截竹管による２本沈線で浅く施文するハの字文（第49図15～16）や、曽利Ⅴ中段階にみられる細くまばらなハの字文〔249～252〕、また曽利Ⅳ式に位置付けたが深く長い櫛歯条線を施したもの〔215～218〕なども出土した。



第50図　施文技法の分類
（今福2011より転載）

以上、火山灰により一定の時間幅のなかに収められた資料について述べた。但し、周辺遺跡との比較や地域性についての検討、特に加曽利Ｅ式についての検討が足りず、出土した資料の様相を十分に示すことができなかった。この点についても今後の課題とし、文様の構成や傾向について考察を重ねていくことにしたい。

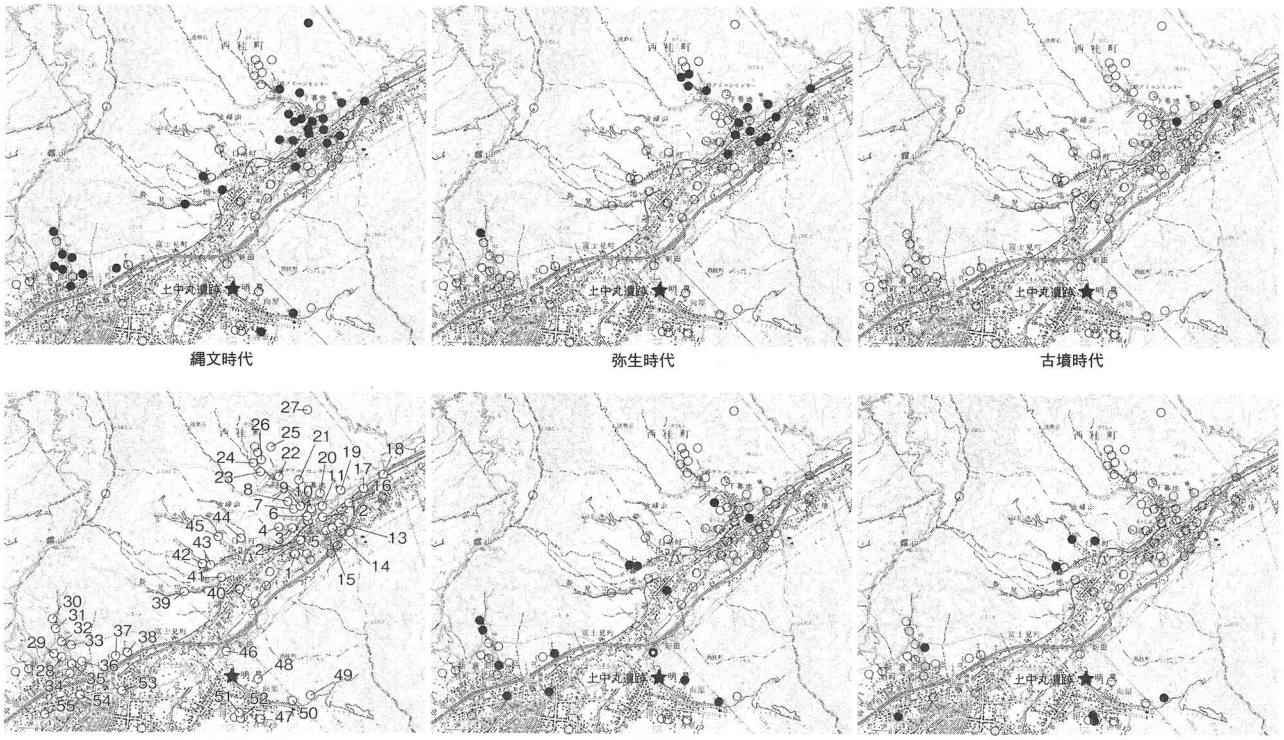
第３節　上中丸遺跡周辺における遺跡の変遷について

最後に、本調査の成果と周辺に分布する遺跡に関して、年代や遺構の分布、遺跡の変遷等について触れておくことにしたい。富士北麓地域における遺跡分布については、新津健氏により詳細にまとめられている（新津 2012）。このデータを元に、第51図では本遺跡周辺における遺跡の変遷を示した。富士吉田市域の遺跡分布に関しては、末木健氏により1985年に市史編さん事業の一環として実施した調査の報告がなされており、踏査で得た知見を詳細にまとめられている（末木 1985）。

末木氏の報告においては、縄文時代について前期から中期にかけて遺物は出土するものの、遺構は発見されていないとし、弥生時代についても調査による特別な成果はなかったと報告されている。但し、市域の北においては、西桂町・都留市周辺で縄文時代・弥生時代の遺跡が桂川流域の山裾などに分布し、遺構・遺物が確認されており、同地域においても集落遺構の存在は推定されていたと思われる。今回の調査では、地表面から約 3.5 mほど下層から中期末の遺構を検出した。検出した竪穴住居跡については、西桂町宮の前遺跡で検出した第３号住居址に堆積状況が類似している。なお、宮の前遺跡の報告書では出土した土器は曽利Ⅲ式とされているが、曽利Ⅳ式古段階に比定できるものと思われ、同時期に、同じような状態で埋没した遺構といえる。なお、富士吉田市史では溶岩流や河川によって削平されて流出した可能性も指摘しているが、遺構を検出した土層については比較的安定した土壌であったことが窺え、周辺地域でも同様に遺跡が遺存している可能性は高くなったといえる。

弥生時代についても、桂川流域で多く分布がみられていたが、今回の調査では前期後葉の遺物を伴う遺構を発見し、この地においても同時代に生活が営まれていたことが明らかとなった。但し、Ｂ区旧河道からの遺物の出土状況が示すように、土層観察からみた所見では、遺構を確認した弥生時代の層は（正確にはその下層であるが）、縄文時代中期末の層よりも起伏が大きく、河川や檜丸尾第１溶岩流の影響を直接的に受けていることが推定されるため、流出してしまっている可能性も高い。

さらに末木氏は奈良・平安時代について、古屋敷遺跡・池之元遺跡の平安住居が鍛冶工房である可能性を指摘し、この時期に活発化する山林原野の開発に伴って各地域ごとにおかれたと推定されている。本調査では溶岩流以外、古墳時代から９世紀までは明確な痕跡はなかったが、10世紀代に再び居住し、浄瓶等の特徴



〔西桂町〕1. 柳溝遺跡　2. 上町遺跡 3. 中野遺跡　4. 滝入遺跡 5. 上の海戸遺跡　6. 柿園遺跡 7. 宮の下遺跡　8. 四ッ入遺跡 9. 宮の前遺跡　10. 開途遺跡 11. 灰塚遺跡　12. 柿園溝上遺跡 13. 東海戸道下遺跡 14. 正縄ノ木遺跡 15. 内屋敷遺跡 16. 殿田遺跡 17. 四方内遺跡 18. 郷土遺跡 19. 尾尻遺跡 20. 矢花遺跡 21. 宮作遺跡 22. 大竹遺跡 23. 柿野遺跡 24. 休場遺跡 25. 城屋敷遺跡 26. 寺野遺跡 27. 論所遺跡
〔富士吉田市〕28. 干草場口遺跡 29. 干草場遺跡 30. 西沢遺跡 31. 入り遺跡 32. 道祐遺跡 33. 深久保遺跡 34. 裏丸尾遺跡 35. 西山道遺跡 36. 堂面口遺跡 37. 尾垂大石久保遺跡 38. 尾垂石屋ヶ沢遺跡 39. 大佐須遺跡 40. 前田遺跡 41. 上暮地新屋敷遺跡 42. 日影遺跡 43. 日影東遺跡 44. 寺ノ入遺跡 45. 殿ノ入遺跡 46. 天矢場遺跡 47. 奥薄久保遺跡 48. 上ノ山遺跡 49. 長老尾遺跡 50. 山寺遺跡 51. 小原遺跡 52. 小原屋敷 53. 新田遺跡 54. 御姫坂遺跡 55. 西丸尾遺跡

第51図　桂川流域遺跡分布図

的な遺物の出土もみられた。平安期の富士山周辺では、剣丸尾第１溶岩流、檜丸尾第２溶岩流などの下に埋もれた遺跡が推定される一方で、小明見富士浅間神社の存在も含め、溶岩流や河川の影響を考えた土地利用や祭祀行為が行われていた集落の存在も重要と考える。溶岩流に沿った土地で遺構が検出される上中丸遺跡の性格、位置付けなどについては、今後の課題として検討を重ねていくことにしたい。

おわりに

本書では今後の調査研究に繋げるため、調査時および整理報告作業で得た知見をできる限りまとめるように努めた。但し、考古学研究上の課題は多く、まだこれから周辺遺跡との比較検討をはじめる段階にある。本書をまとめるにあたっては、多くの方にご助言、ご協力を賜ったが、内容に反映しきれなかった部分に対しては、ご叱正を頂戴しながらさらに研究・検討を重ねていくことにしたい。本書が今後の調査研究および地域教育の一助として、活用して頂ければ幸いである。

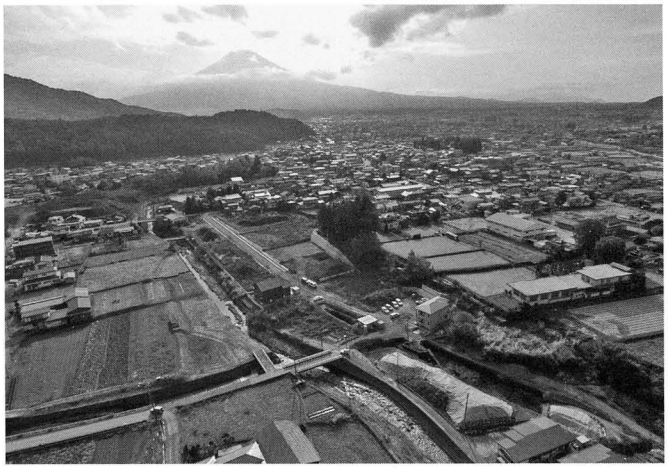
なお、本調査の成果は、発掘開始から本書刊行に至るまでご尽力いただいた富士吉田市、富士吉田市教育委員会をはじめ、半数が初現場という状況にも拘らず、厳しい暑さと慣れない作業に耐えながら調査をやり遂げていただいた発掘調査スタッフ、詳細な記録をまとめあげていただいた整理作業スタッフ、そして小明見・向原地区をはじめとする地元の皆様のご協力があってこそ成し得たものである。末筆となりましたが、ご協力いただきました関係機関、各位に対しまして、心より御礼申しあげます。

引用・参考文献

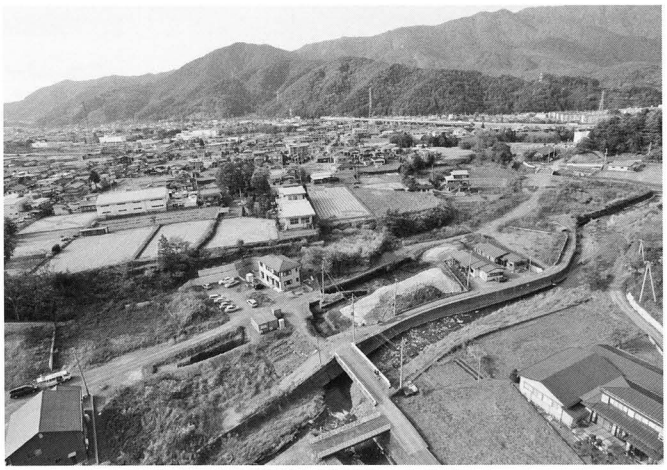
富士吉田市史編さん委員会　1990『富士吉田市史』史料編第１巻自然考古
富士吉田市教育委員会　2011『上暮地新屋敷遺跡』富士吉田市文化財調査報告書第８集
小林達雄編　2008『総覧　縄文土器』―小林達雄先生古希記念企画―『総覧　縄文土器』刊行委員会
今福利恵　2011『縄文土器の文様生成構造の研究』未完成考古学叢書８
中山誠二　1993「甲斐弥生土器編年の現状と課題―時間軸の設定―」『山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター研究紀要』第９集
末木　健　1987「富士吉田市内遺跡分布調査報告」『富士吉田市史研究』第２号．富士吉田市史編さん室
新津　健　2012『富士山』山梨県富士山総合学術調査研究報告書
西桂町教育委員会　1993『宮の前遺跡発掘調査報告』西桂町文化財シリーズ第15号

調査地点周辺景観、調査区空撮

1. 調査区全景（南から）



2. 周辺景観（北東から）



3. 周辺景観（南東から）

4. 調査前状況〈A区〉（南から）

5. 調査前状況〈B区〉（東から）

6. 調査前状況〈C区〉（南東から）

図版２

調査区状況

1. 檜丸尾第一溶岩流

2. 同左下層堆積状況

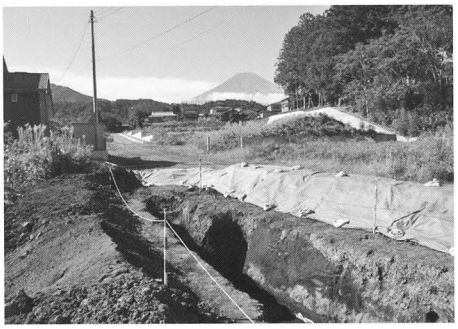
3. 檜丸尾第一溶岩流
東端部（南東から）

4. C区堆積状況
（北東から）

A区 調査状況

1. A区 第1確認面（東から）

2. A区 第2確認面（東から）



3. A区からみた富士山（北東から）

4. A区 第1精査面（北から）

5. 同左　堆積状況（北西から）

6. A区 近景（南から）

7. A区 第2精査面（南から）

8. 同左　堆積状況（北西から）

9. A区南東隅 堆積状況

10. 同左 遺物出土状況

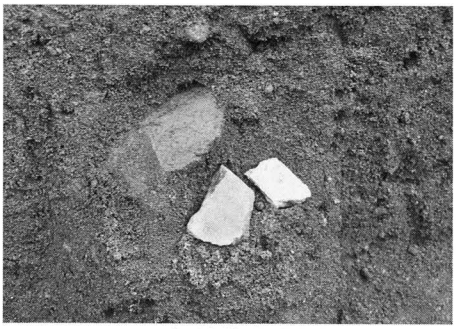
11. 同左〔13・14〕

図版 4

A区 調査状況

1. A区南東隅 遺物出土状況

2. A区 中央落ち込み確認状況



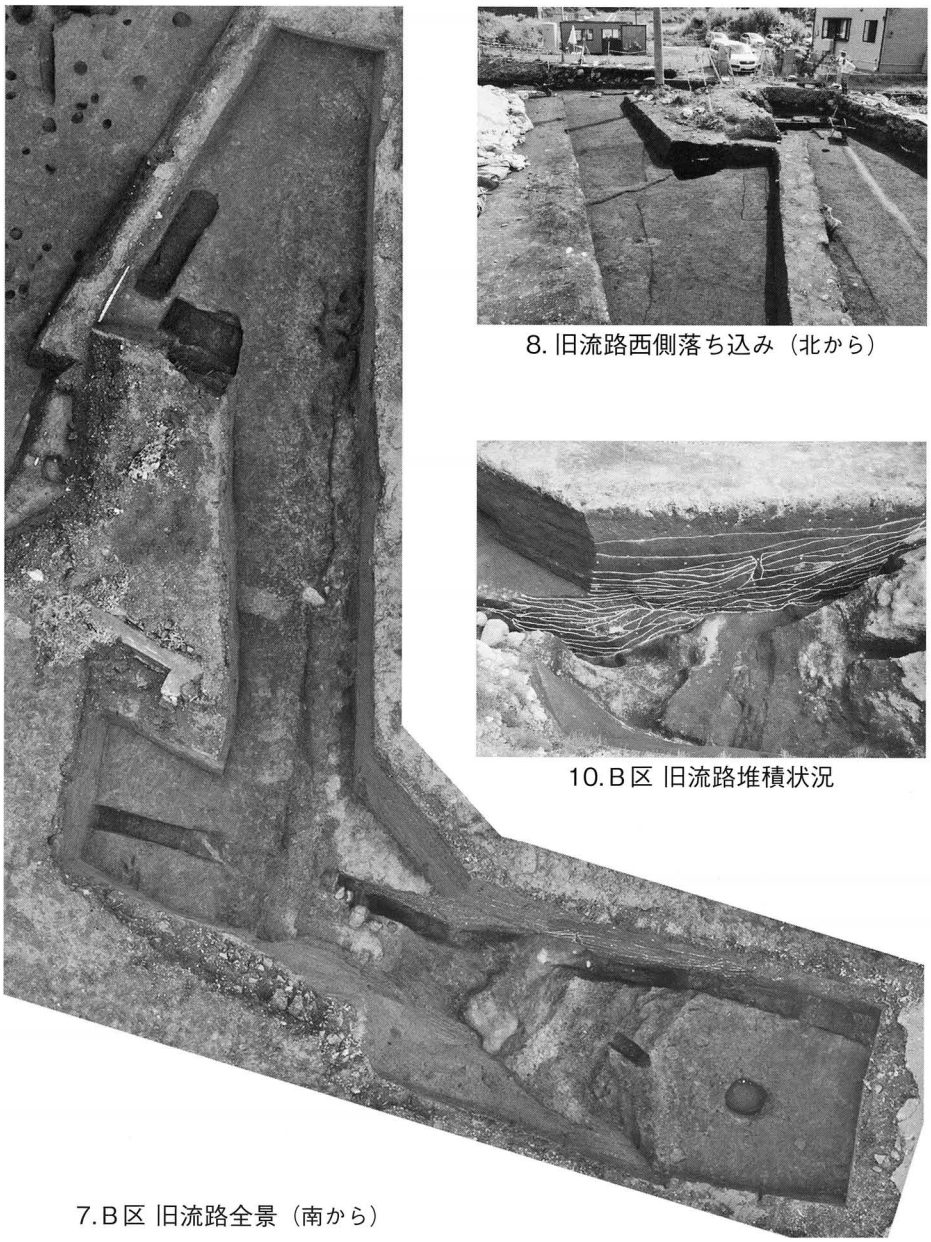
3. 同左 遺物出土状況

4. 同〔10〕

5. 同上　完掘状況（北東から）

6. 同　完掘状況（西から）

B区調査状況



7. B区 旧流路全景（南から）

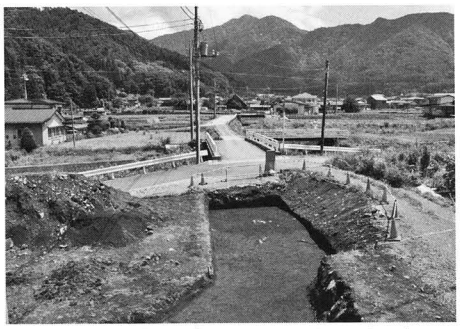
8. 旧流路西側落ち込み（北から）

9.SK4 完掘状況

10. B区 旧流路堆積状況

11. B区 旧流路　完掘

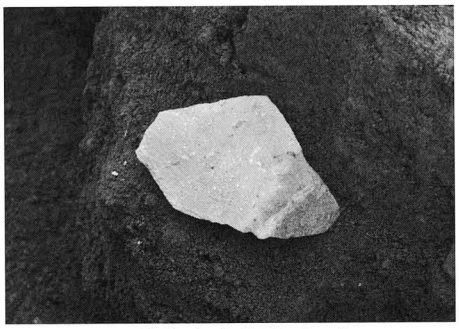
B区 遺構・遺物出土状況


1. B区 近景（西から・大沢川方面）

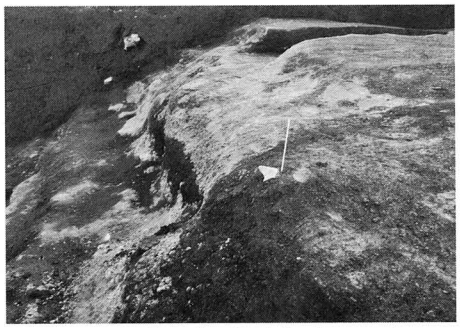
2. 調査風景

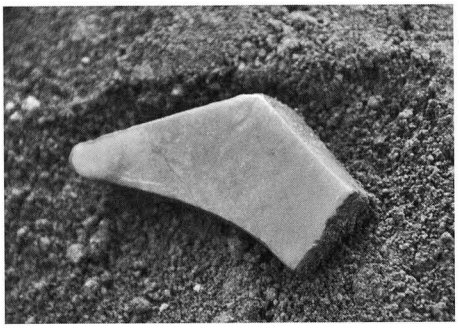
3. 旧流路 堆積状況（南西から）

4. 遺物出土状況（南東から）


5. 遺物出土状況〔46〕

6. 旧流路幅確認状況（南東から）


7. 旧流路左岸（西側）（北から）


8. 同左 遺物出土状況〔348〕

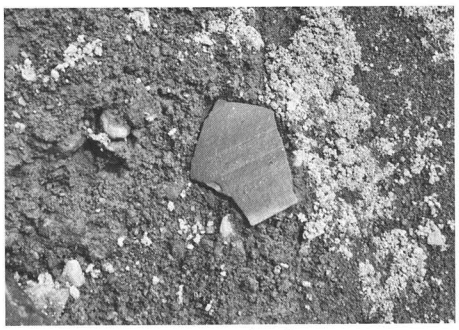
9. 流路内出土状況（東から）

10. 流路内遺物出土状況〔50〕

11. 同〔55〕

12. 同〔56〕

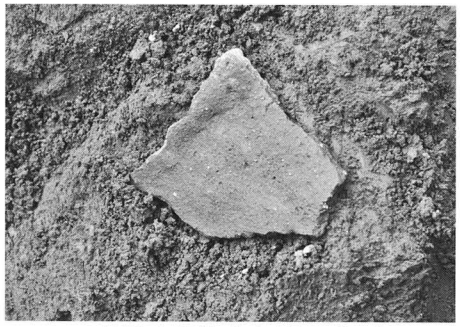
13. 同〔57〕


14. 同〔38〕

15. 同〔345〕

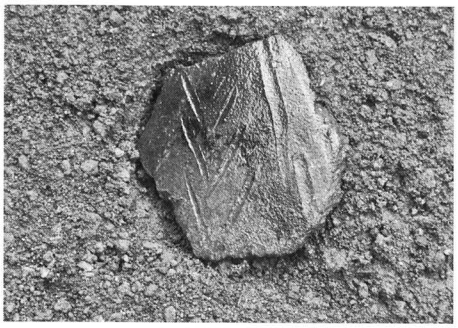
図版 6

B区 遺構・遺物出土状況

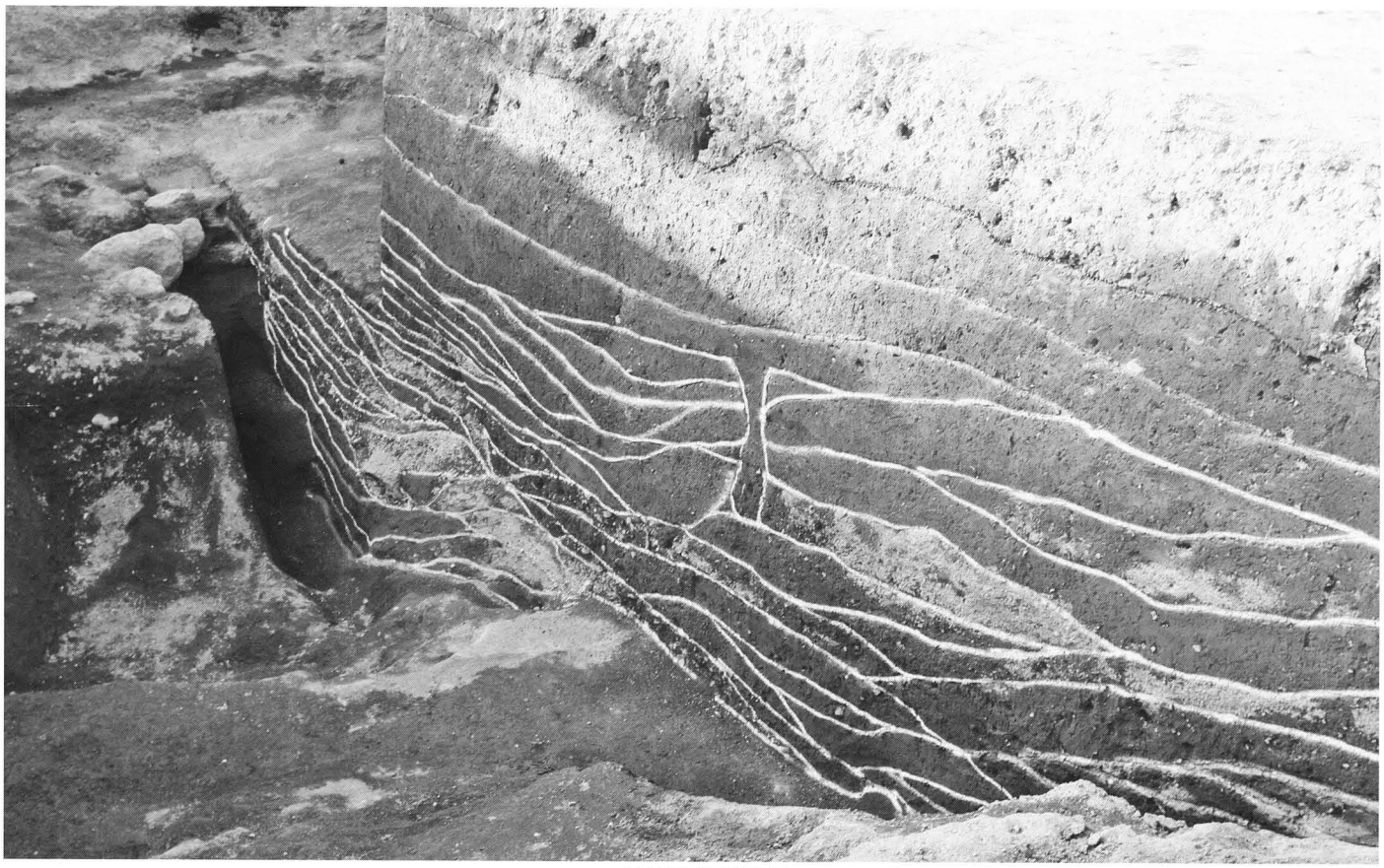


1. 流路内遺物出土状況〔25〕

2. 流路最下層遺物出土状況



3. 同左〔19〕



4. 旧流路堆積状況

5. 大沢川・小佐野川合流点（台風時状況）

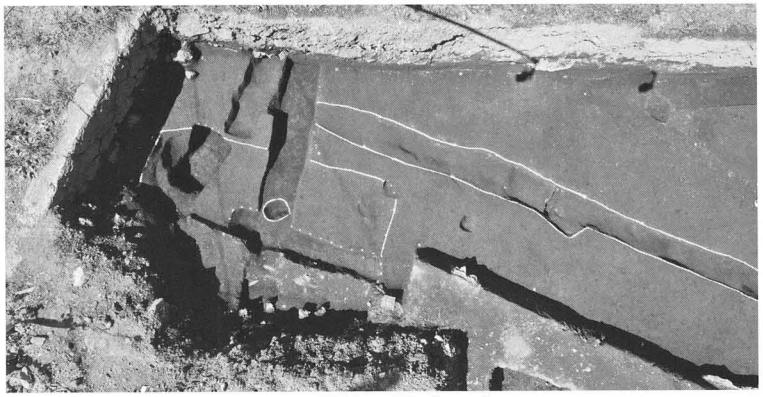
6. 台風による水没状況

7. 流路下層掘削

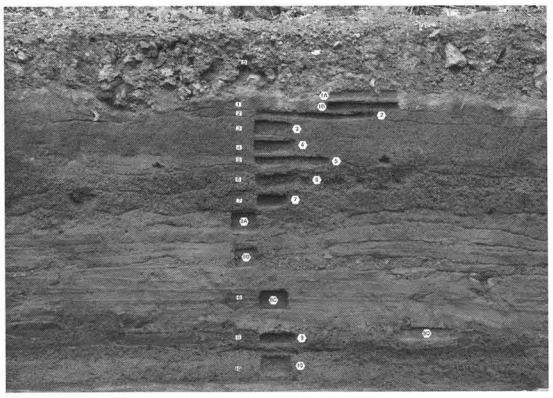
8. 流路下堆積状況

9. 流路下堆積状況

C区 調査状況



1.C区第１面（SI1）

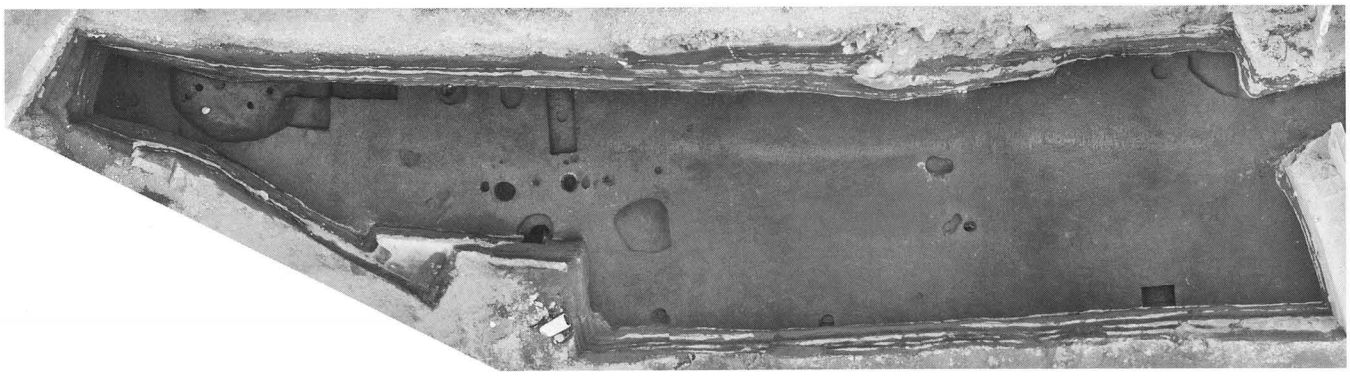


2.C区層序断面図

3.C区第２面（SI2・3・4、近代溝）

4.C区第３面（SX1、Pit）

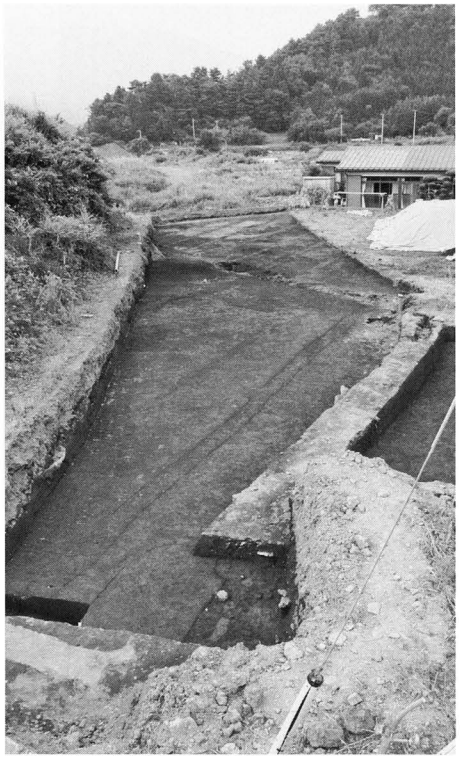
5.C区第４面（SX2・3）



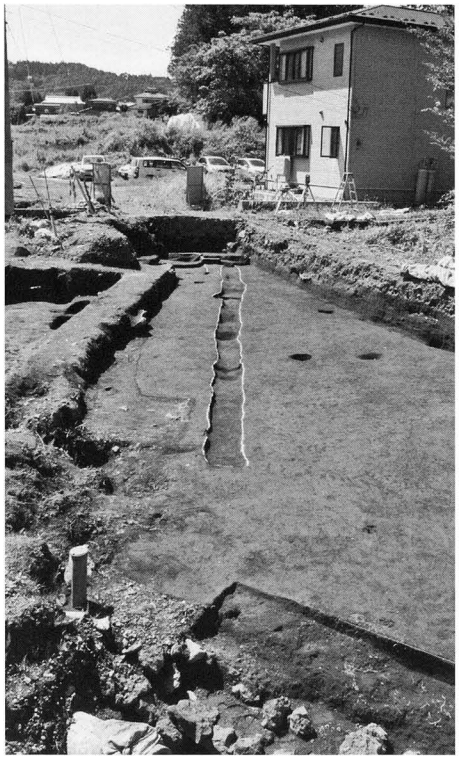
6.C区第５面（SI5、SK1 ～ 5、Pit）

図版８

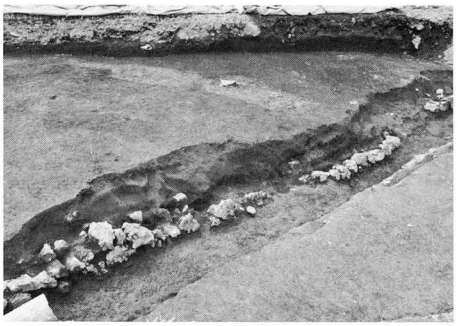
C区 調査状況



1. 表土剥ぎ後 全景（東から）

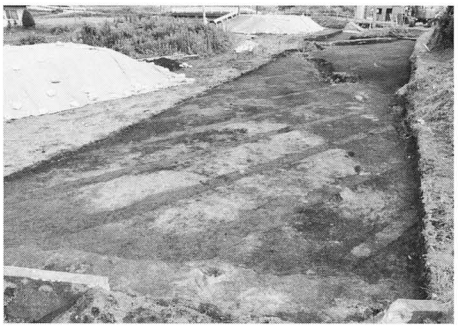


2. 1層目 SI1・SD1（北から）



3. C区中央溝

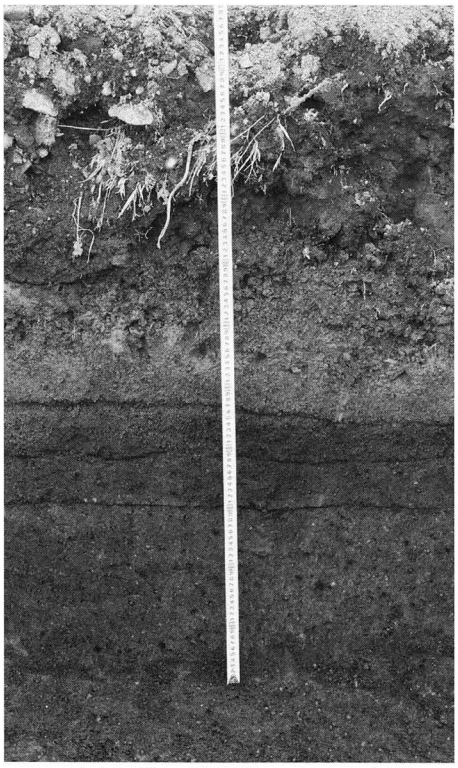
4. 調査前状況



5. 近代溝 確認状況（北から）

6. 近代溝 完掘後（北から）

7. ポール撮影による測量



8. 檜丸尾第一溶岩流による焼土層

9. 3層目 調査状況

10. 4層目 全景（南から）

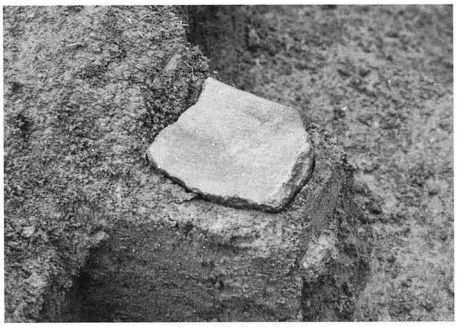
11. 5層目全景・完掘状況（南から）

C区 遺構・遺物出土状況

1.SI1 プラン確認・遺物出土状況

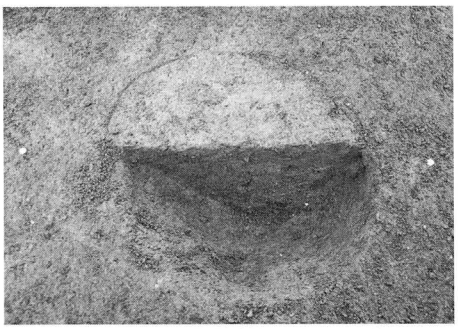
2. 同　浄瓶 出土状況〔61〕

3. 同　遺物出土状況

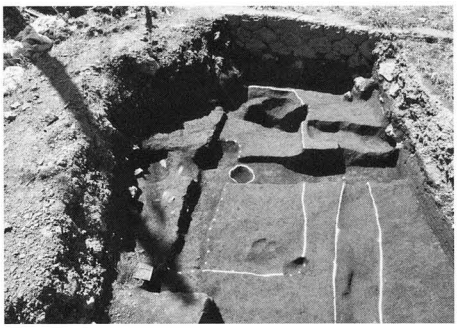

4.SI1 遺物出土状況〔58〕

5. 同〔59〕

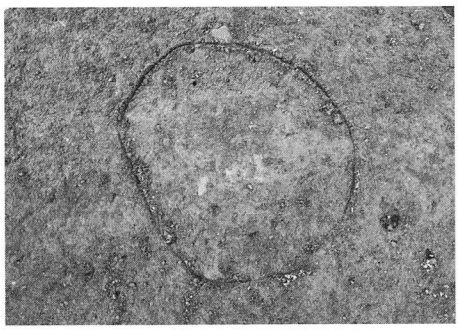
6. 同〔60〕

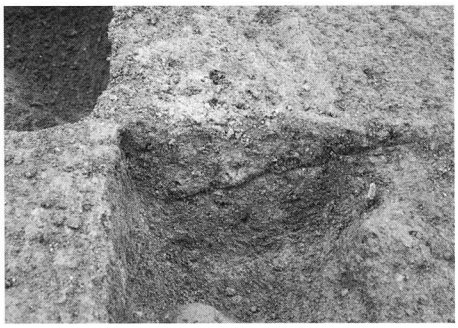

7.SI1 Pit 半截状況（北から）

8. 同左 完掘状況（北から）

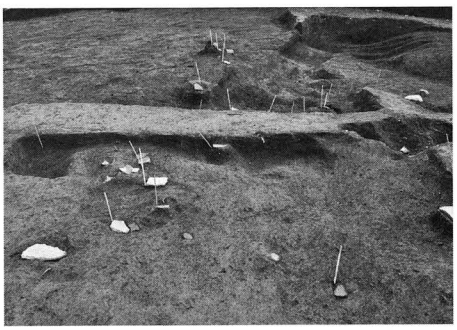

9.SI1 完掘状況

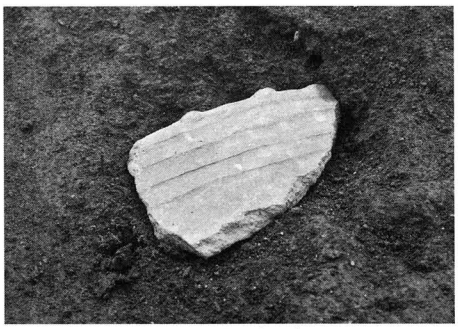
10.SI2 確認状況


11.SI2 焼土（炉）確認状況


12. 同左 堆積状況（南から）

13.SI2 確認状況（北から）

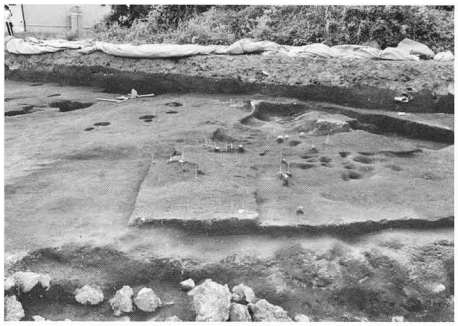

14.SI2 遺物出土状況（北から）


15. 同左〔62〕

図版 10

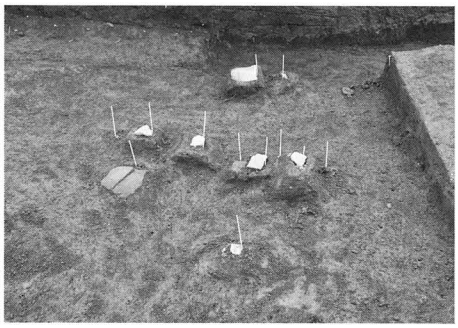
C区 遺構・遺物出土状況

1.SI2 調査状況（南東から）

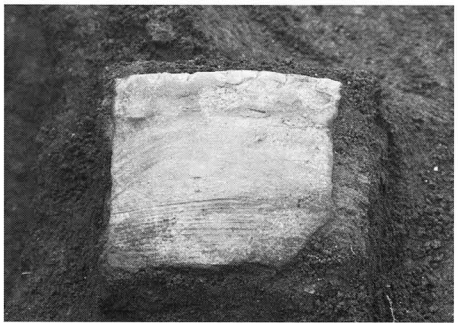


2. 同 遺物出土状況（北東から）

3. 同 完掘状況（北から）



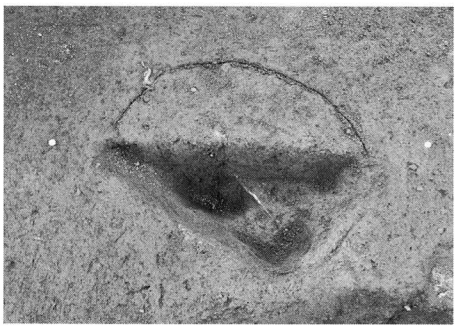
4.SI3 遺物出土状況



5. 同〔129〕

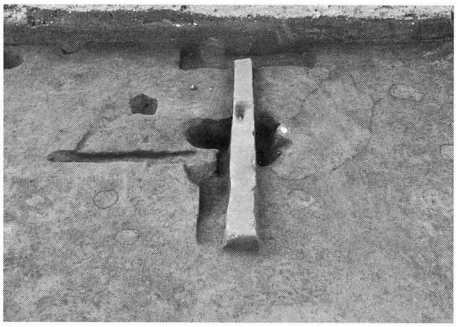
6. 同〔343〕

7. 同〔344〕



8.SI3 焼土（炉）半截状況

9. 同 完掘状況



10.SI3 周辺ピット確認状況（東から）

11. 同 覆土堆積状況（南東から）

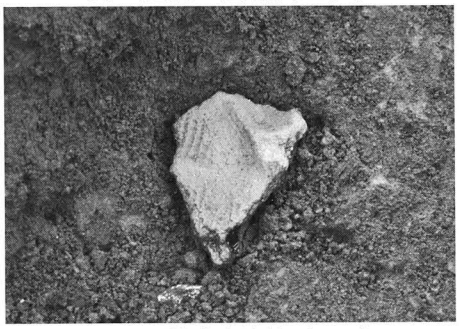
14.C区２層目　完掘状況（南から）

12.SI3 完掘状況（東から）

13.SI2・３完掘状況（南から）

C区 遺構・遺物出土状況

1.SI4 竈確認状況



2.SI4 撹乱内遺物〔135〕

3.SI4 カマド内堆積状況

4.SI4 近景（南から）

5.SI4 カマド調査状況

6.SI4 カマド脇ピット　半截状況（東から）

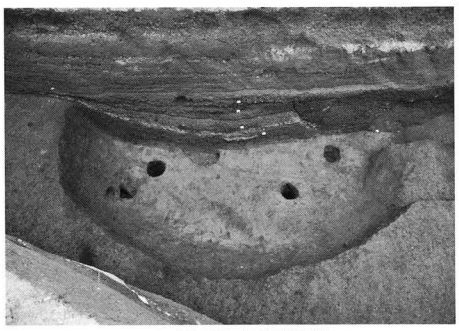
7.SI4 完掘状況

8. 同上 遺物出土状況〔137〕

9.SI5 確認状況（東から）

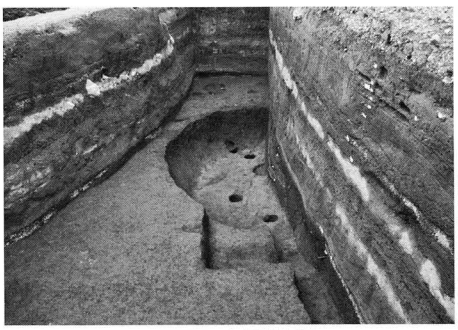
10. 同 スコリア堆積除去後

11. 同 覆土掘削後



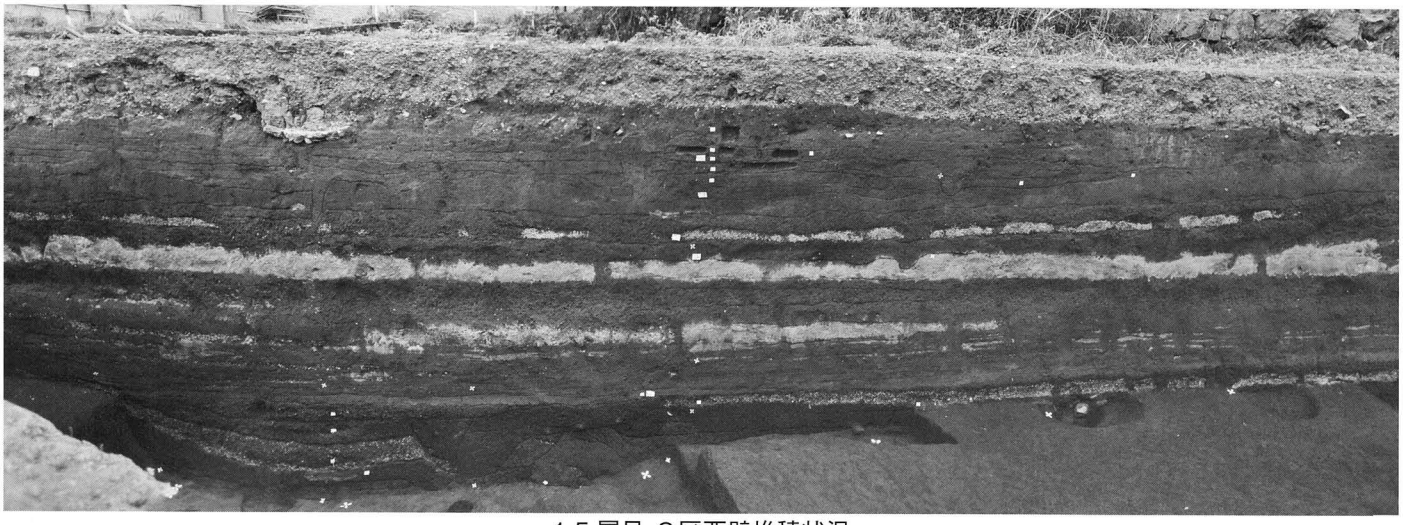
12. 同 柱穴掘削後

13. 同 覆土中の焼土堆積状況



14. 同 完掘状況

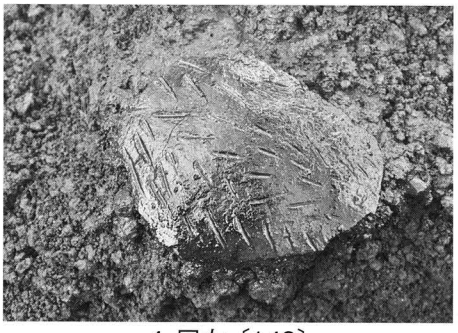
C区 遺構・遺物出土状況



1.5 層目 C区西壁堆積状況

2.SK1 半截状況（南東から）

3. 同左 遺物出土状況



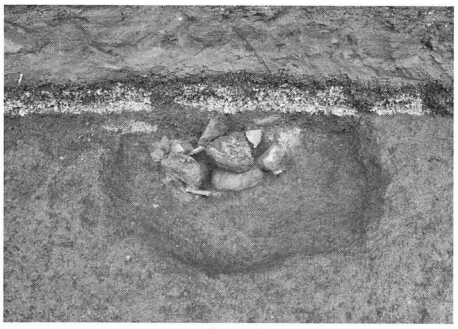
4. 同左〔149〕

5. 同上〔148〕

6.SK1 完掘状況

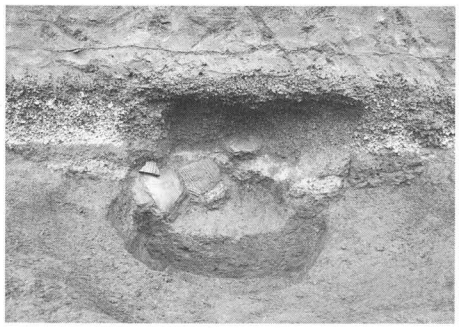
7.SK2 遺物出土状況（東から）

8. 同 礫・炭化物確認状況



9. 同 礫堆積状況

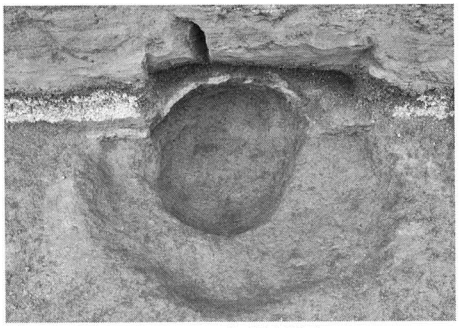
10. 同 礫・遺物出土状況



11. 同 遺物出土状況

12. 同左〔167 ～ 173〕

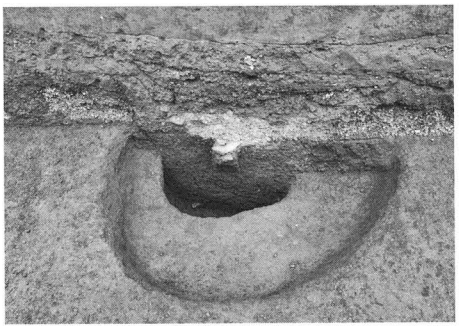
C区 遺構・遺物出土状況

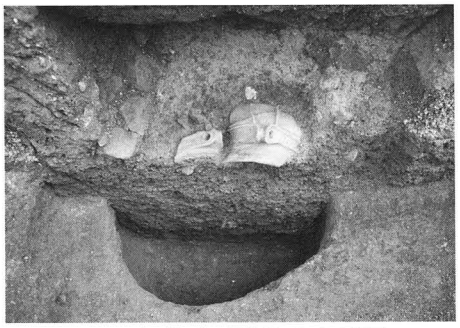

1.SK2 完掘状況

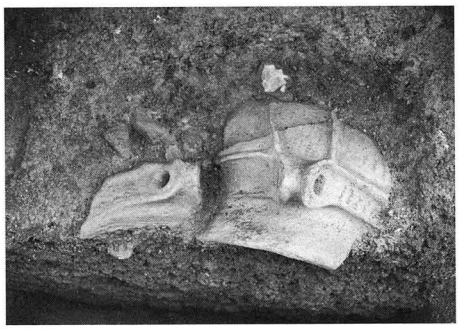
2.SK3 半截状況（南から）

3.SK4 確認状況（西から）

4.SK4 遺物出土状況（東から）

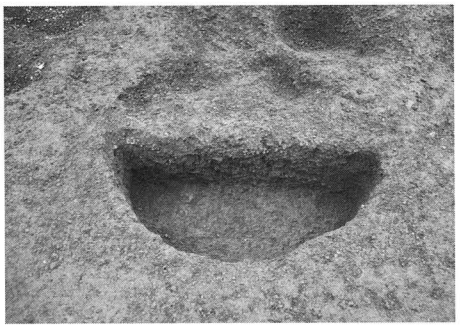

5. 同左 半截状況


6. 同左 粘土下遺物出土状況


7. 同上 粘土下遺物出土状況〔181〕

8. 同左〔182・190〕

9.SK4 掘削後状況


10.SK5 半截状況（南から）

11.SK6 遺物出土状況（西から）

12.SK6 堆積状況（北西から）

13.SX1 確認状況（北から）

14. 同左 出土状況〔202〕（北から）

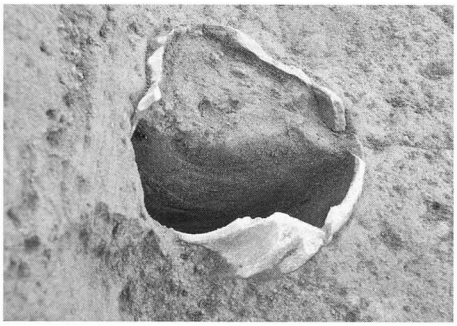
15. 同左 下部（南から）

C区 遺構・遺物出土状況

1.SX2〔206〕確認状況

3.SX2, 土製円盤 出土状況

4.SX3 土製円盤〔207〕出土状況



2. 同上 半截状況

5.SX2 半截状況

6. 同上 半截状況

7. 同左 範囲確認状況

8. 同 完掘状況

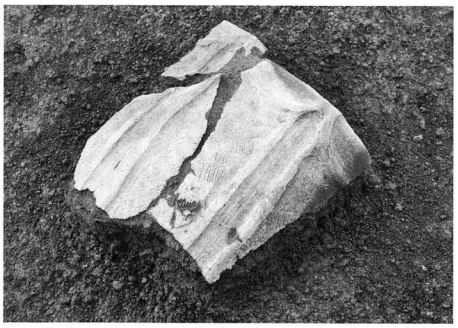
9.SX3 遺物出土状況（東から）

10. 同左（南東から）

11. 同左（南東から）

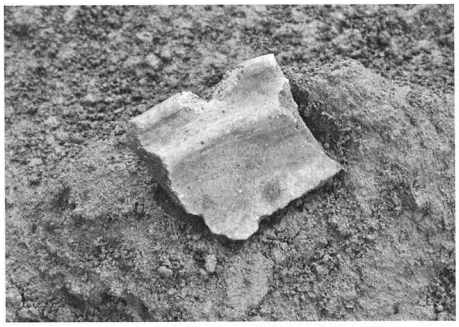
12. 同上（北から）

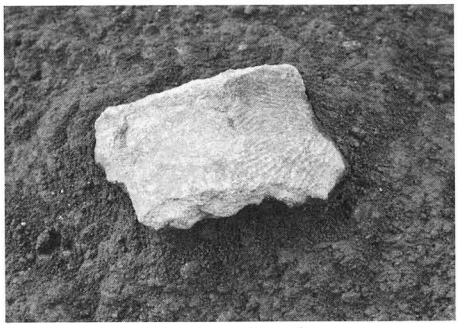
13. 同左〔266〕

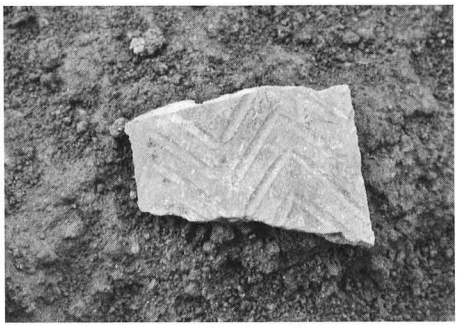


14. 同左〔225〕

C区 遺構・遺物出土状況


1.SX3 遺物出土状況〔209〕


2. 同左〔275〕


3. 同左〔235〕

4. 同上〔264〕

5. 同左〔240〕

6. 同左（東から）

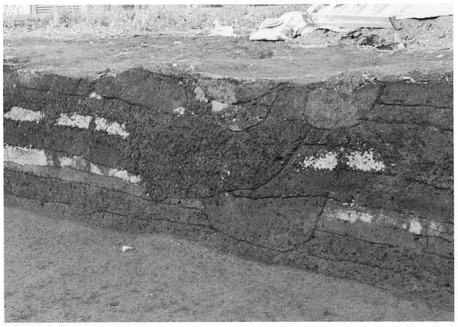
7. 同上（チャート）

8. 同左〔241〕

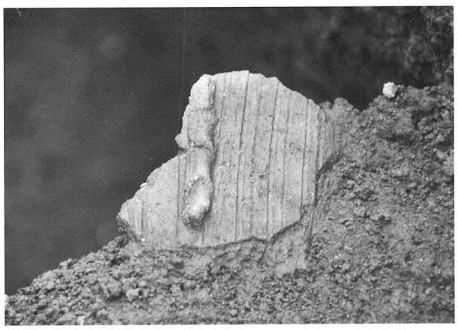
9.SX2・3 調査状況（南東から）

10.SX3 完掘状況（南東から）

11.SX2・3 完掘状況（北西から）


12. C区東壁

13. C区北東部サブトレ（南西から）

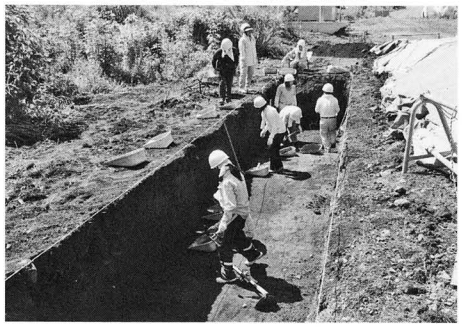

14. 同サブトレ内出土遺物〔314〕

15. 同左〔268〕

図版 16

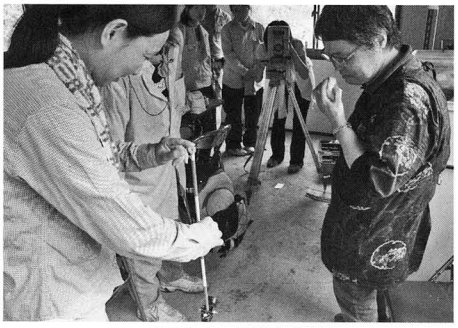
調査風景・埋め戻し状況

1. 表土掘削〈A区〉

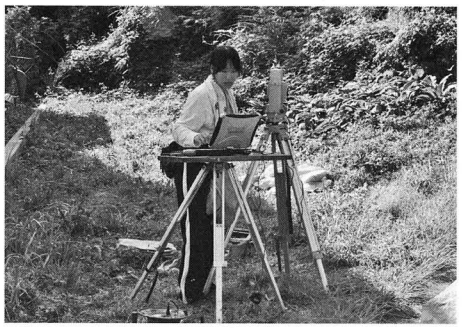


2. 調査風景〈A区〉

3. 調査風景〈B区〉



4. 調査前 測量実習



5. 調査風景

6. 同左

7. 調査風景〈C区〉

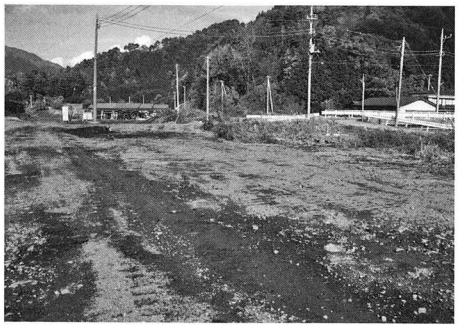
8. 火山灰分析調査

9. 重機による掘り下げ

10. 堆積土サンプリング状況

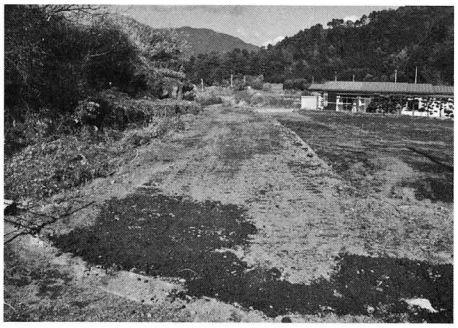
11.H19 年度調査出土　デポ遺構

12. 埋め戻し



13. 埋め戻し後〈A区〉

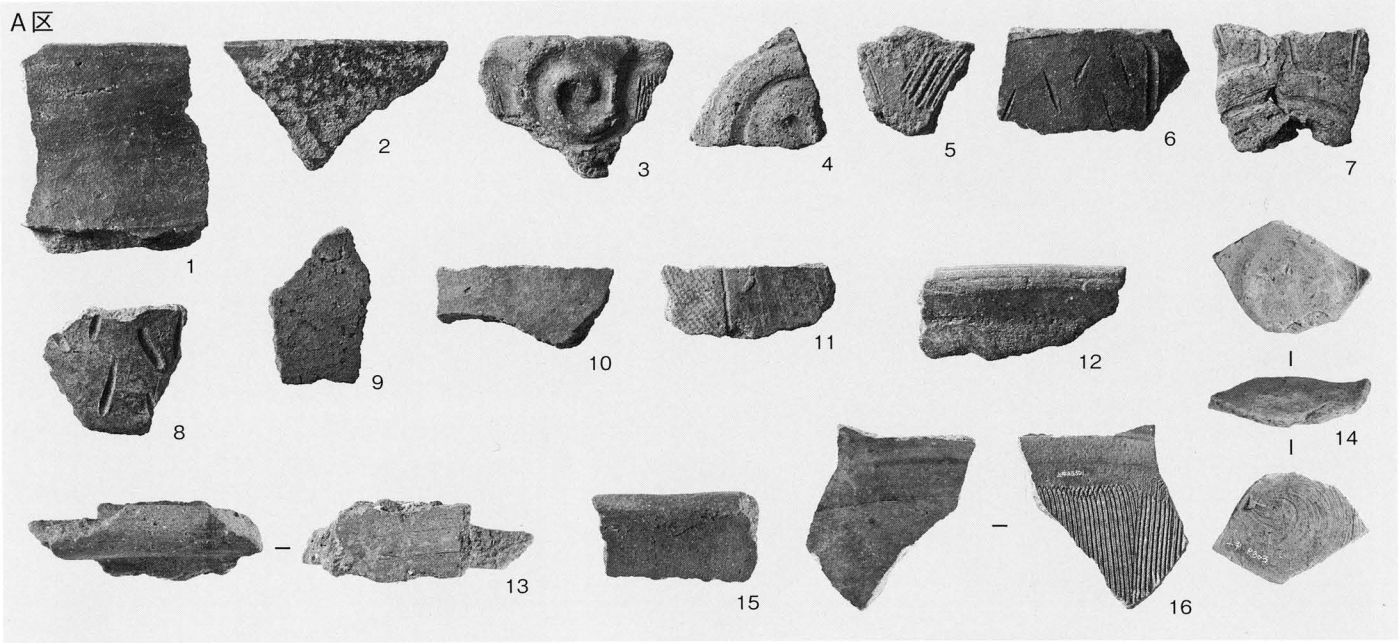
14. 埋め戻し後〈B区〉



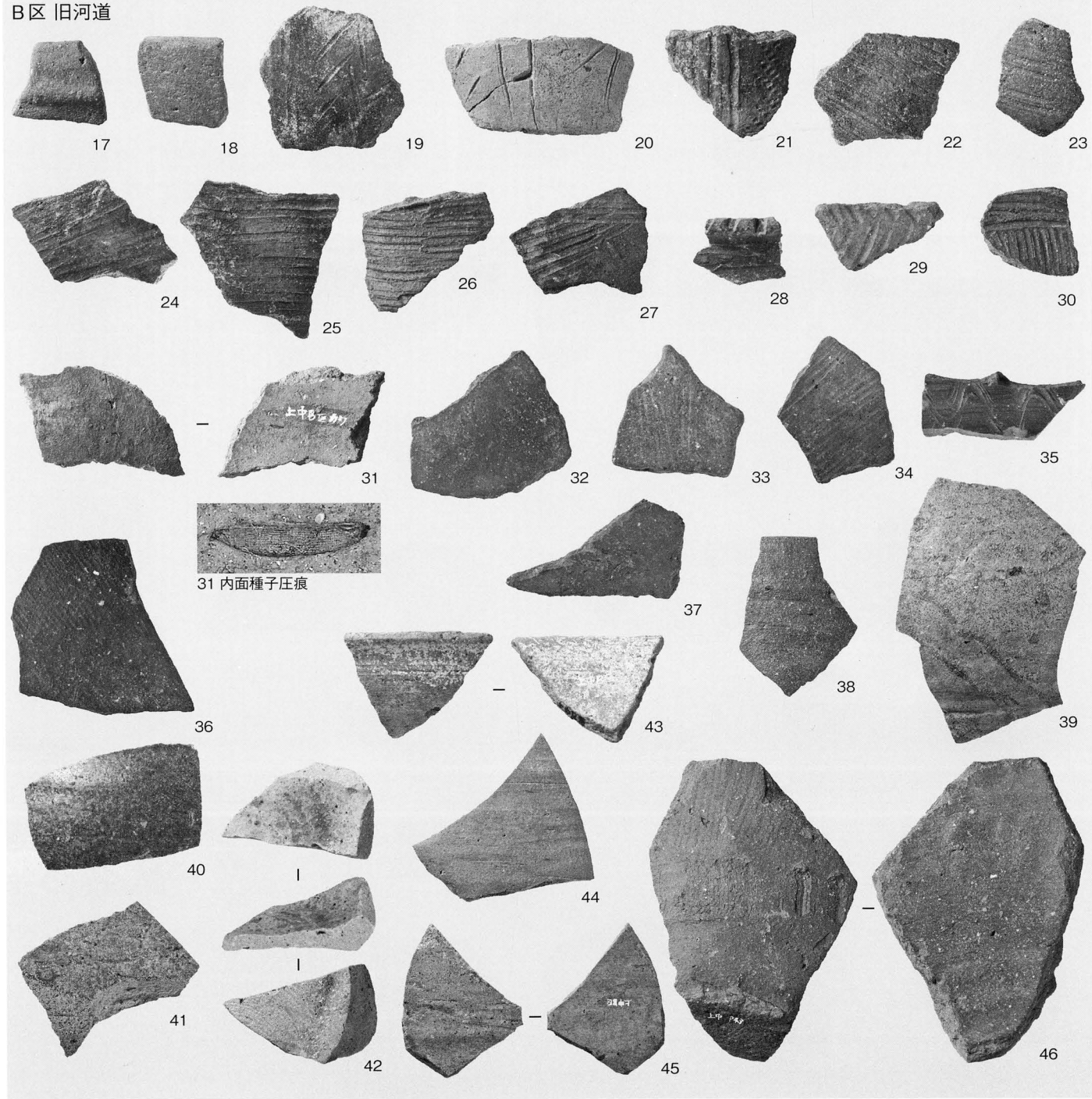
15. 埋め戻し後〈C区〉

出土遺物（A区・B区旧河道①）

A区

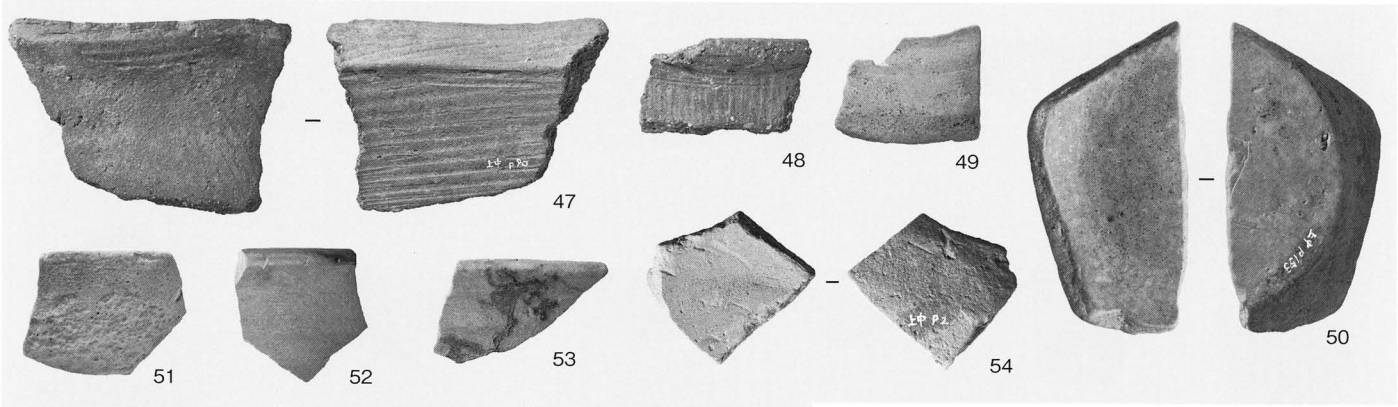


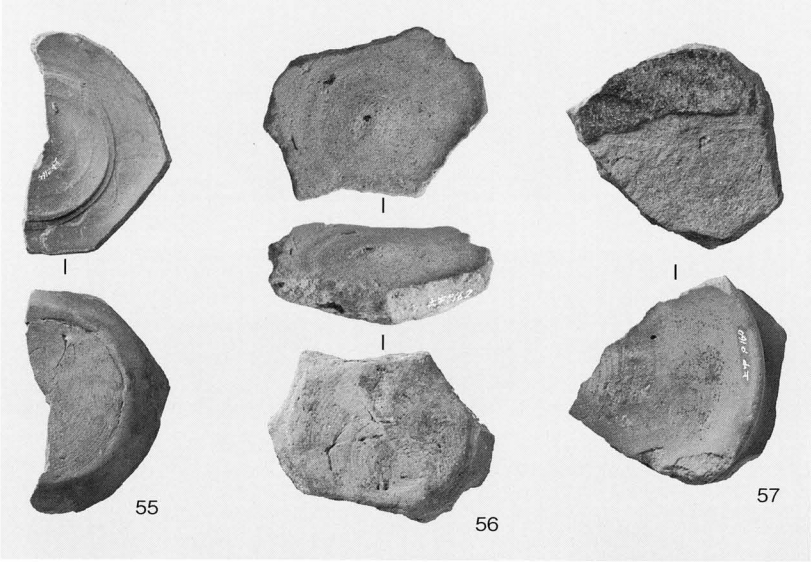
B区 旧河道



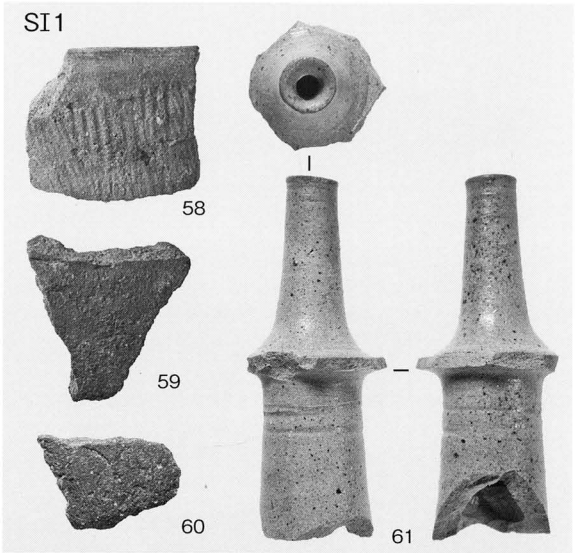
31 内面種子圧痕

出土遺物（B区旧河道②、SI1・SI2①）

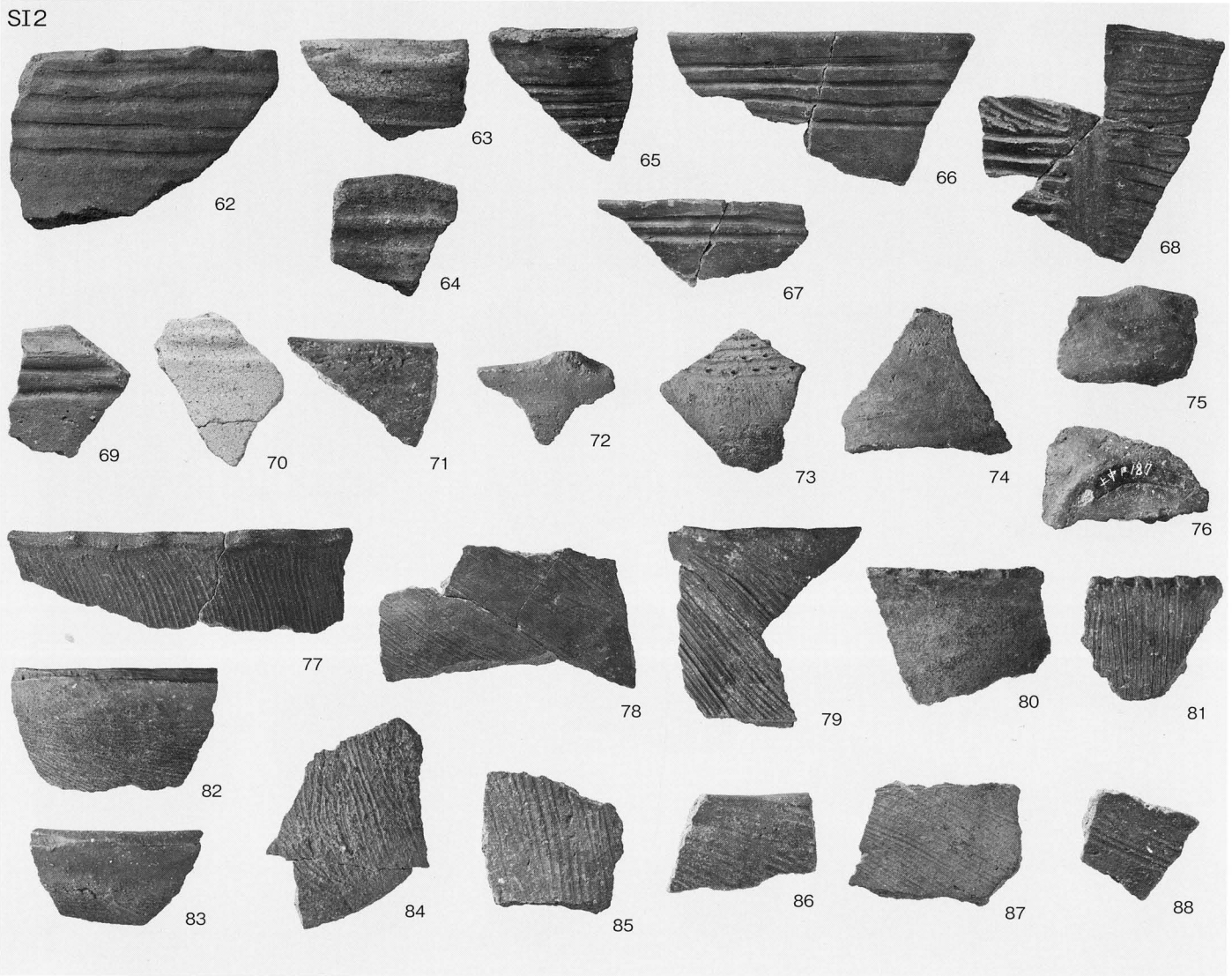


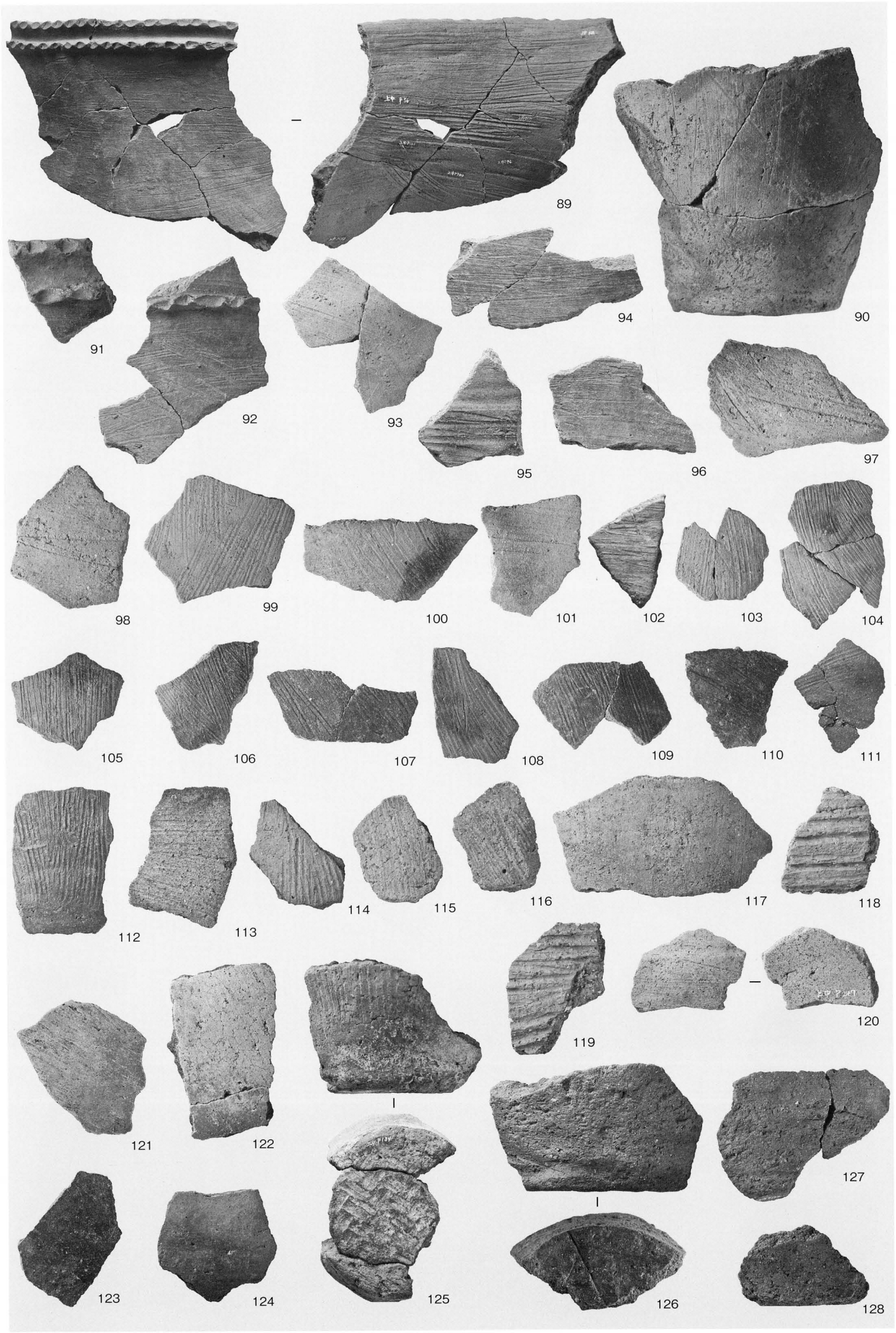


SI1



SI2




89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128

出土遺物（SI3 ～ 5、SK1）

SI3

129-1 129-2 129-3 129-4 130 131 132 133 134

SI4

135 136 137

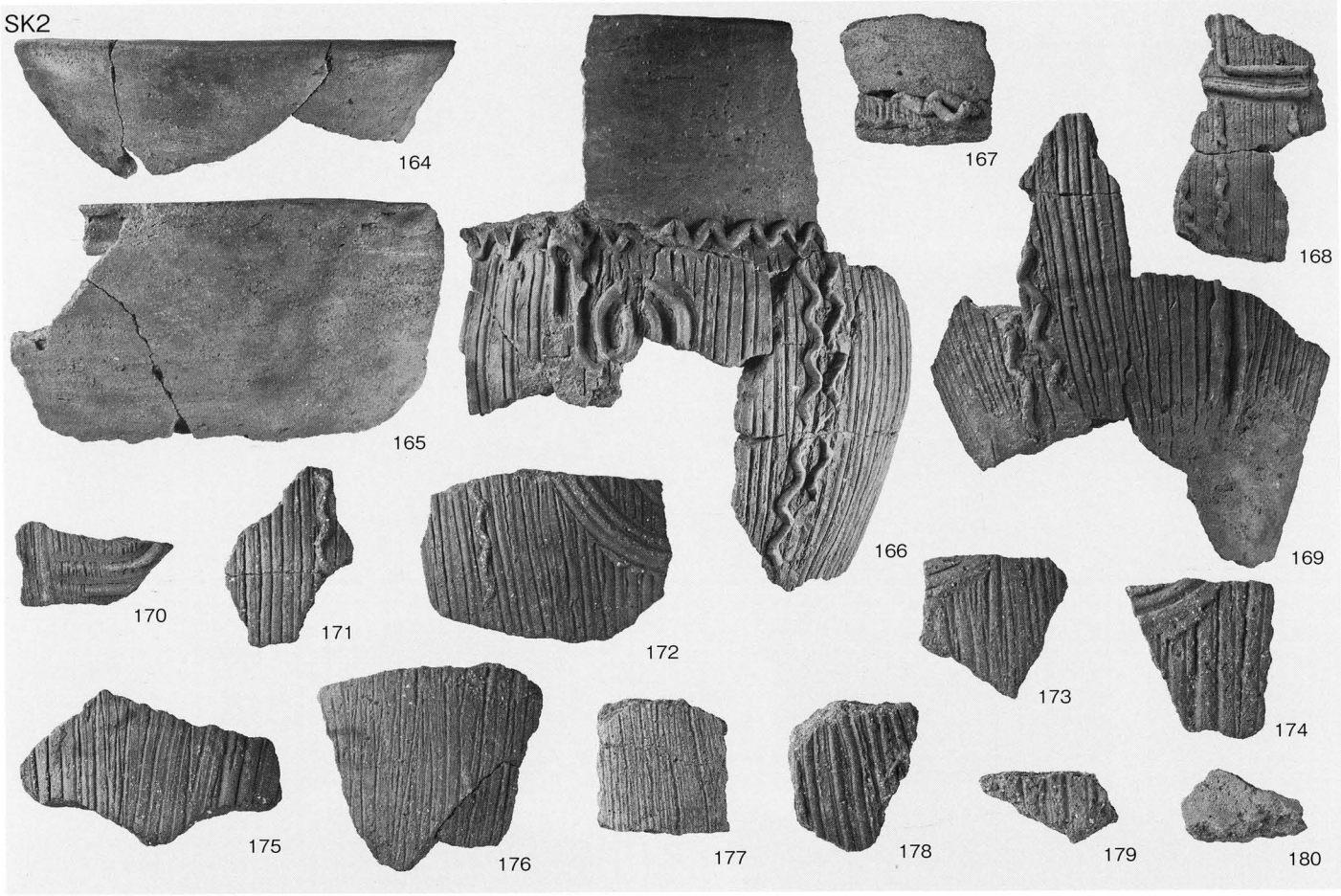
SI5

138 139 140 141 142 143 144 145

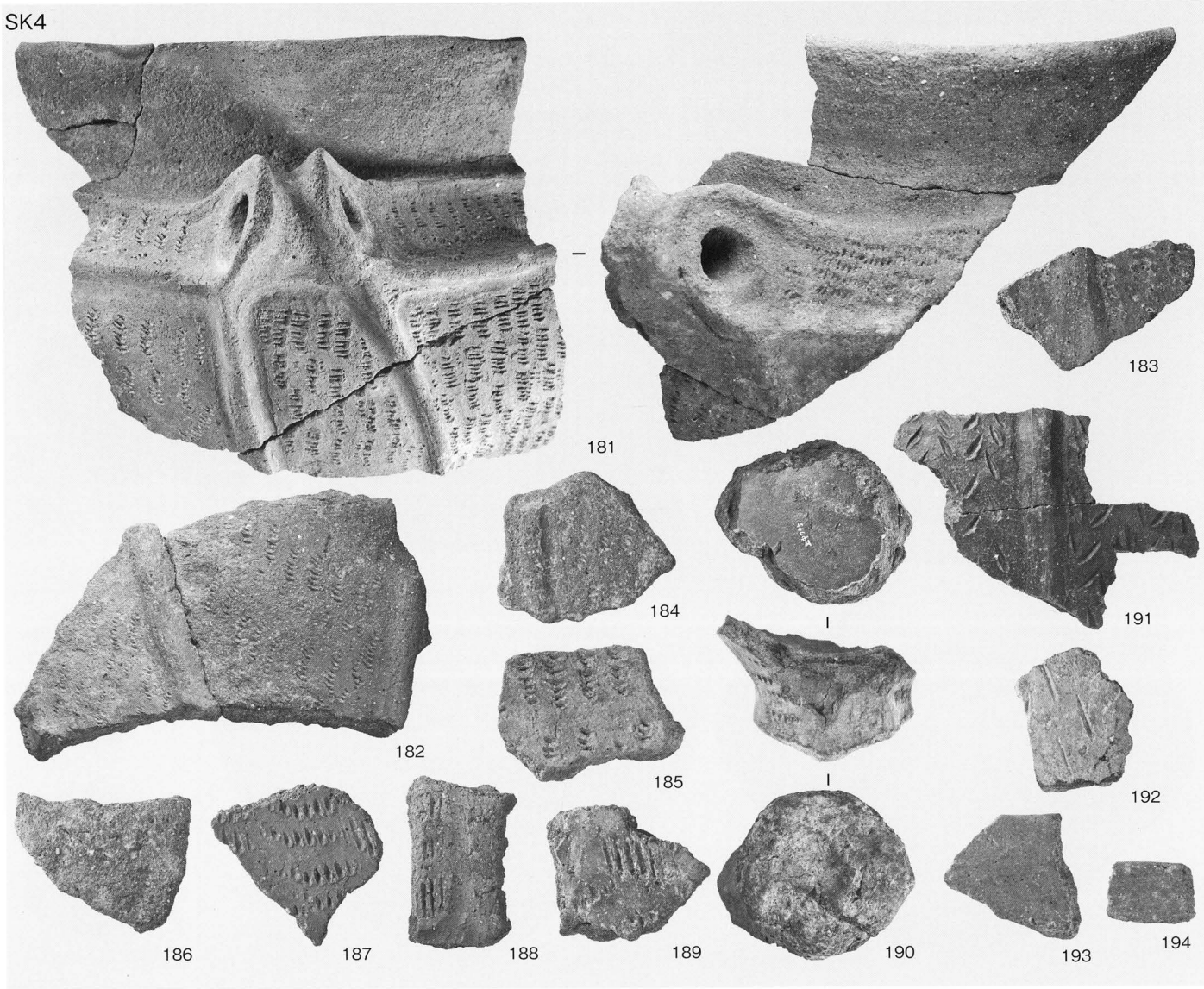
SK1

146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163

SK2

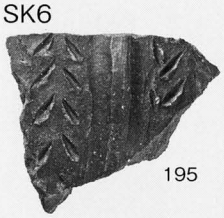

164
167
168
165
166
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180

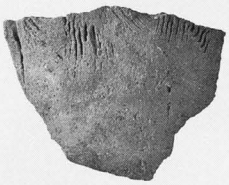
SK4

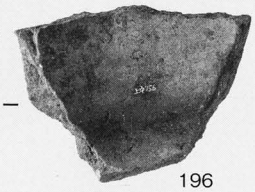

181
183
182
184
191
185
192
186
187
188
189
190
193
194

出土遺物（SK6、SX1・2、SX3①）

SK6


195

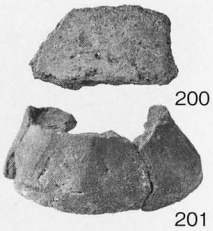



196

197

198

199


200
201

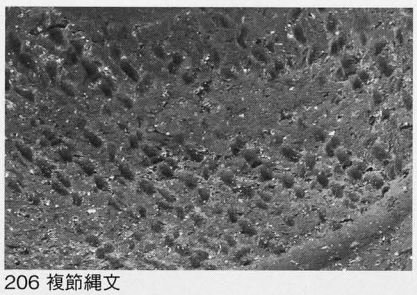
SX1

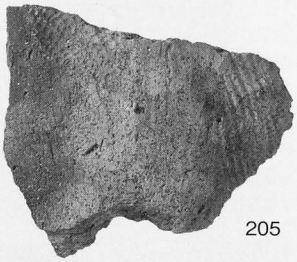
202

203

204

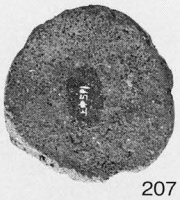
SX2


206 複節縄文

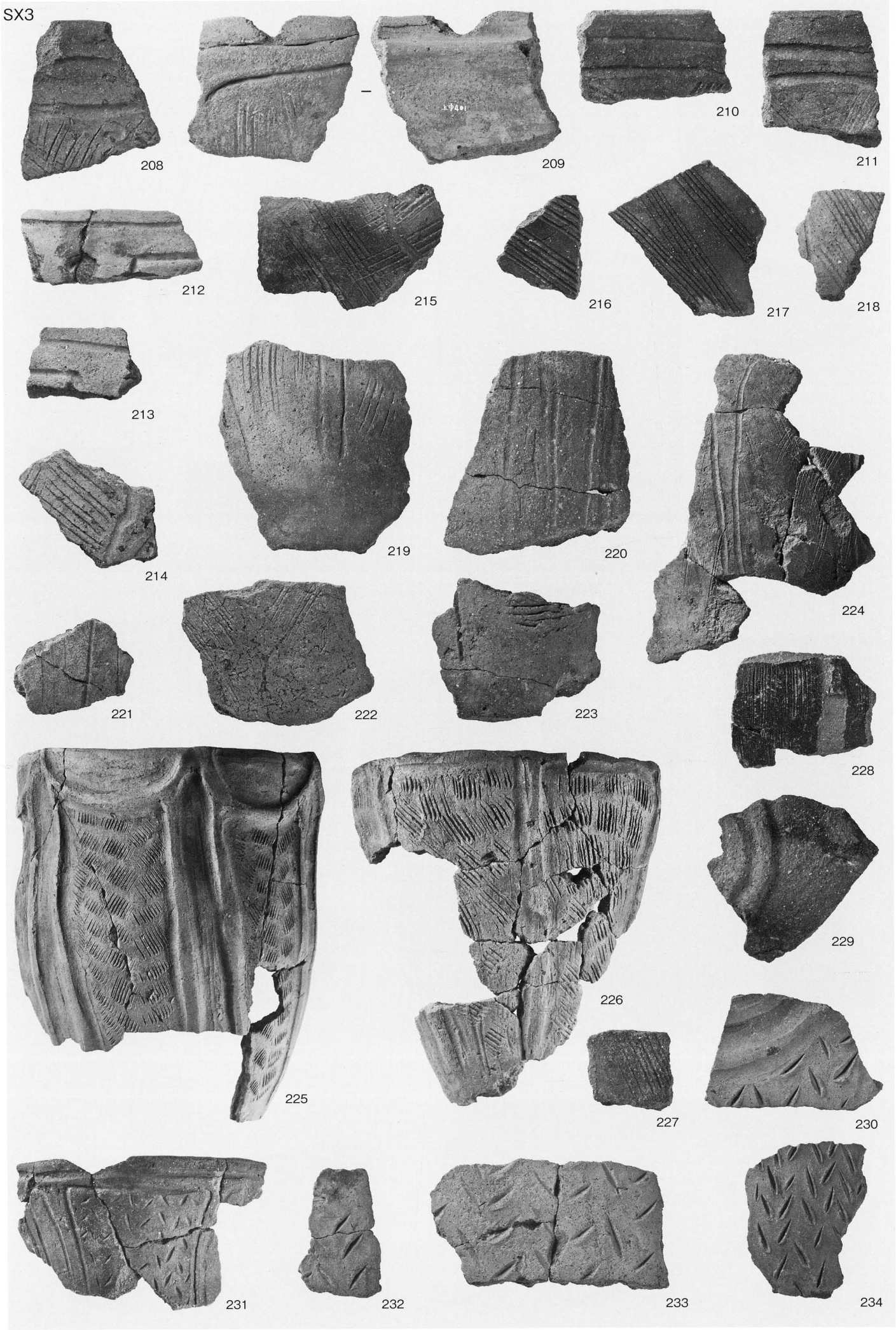

205

206

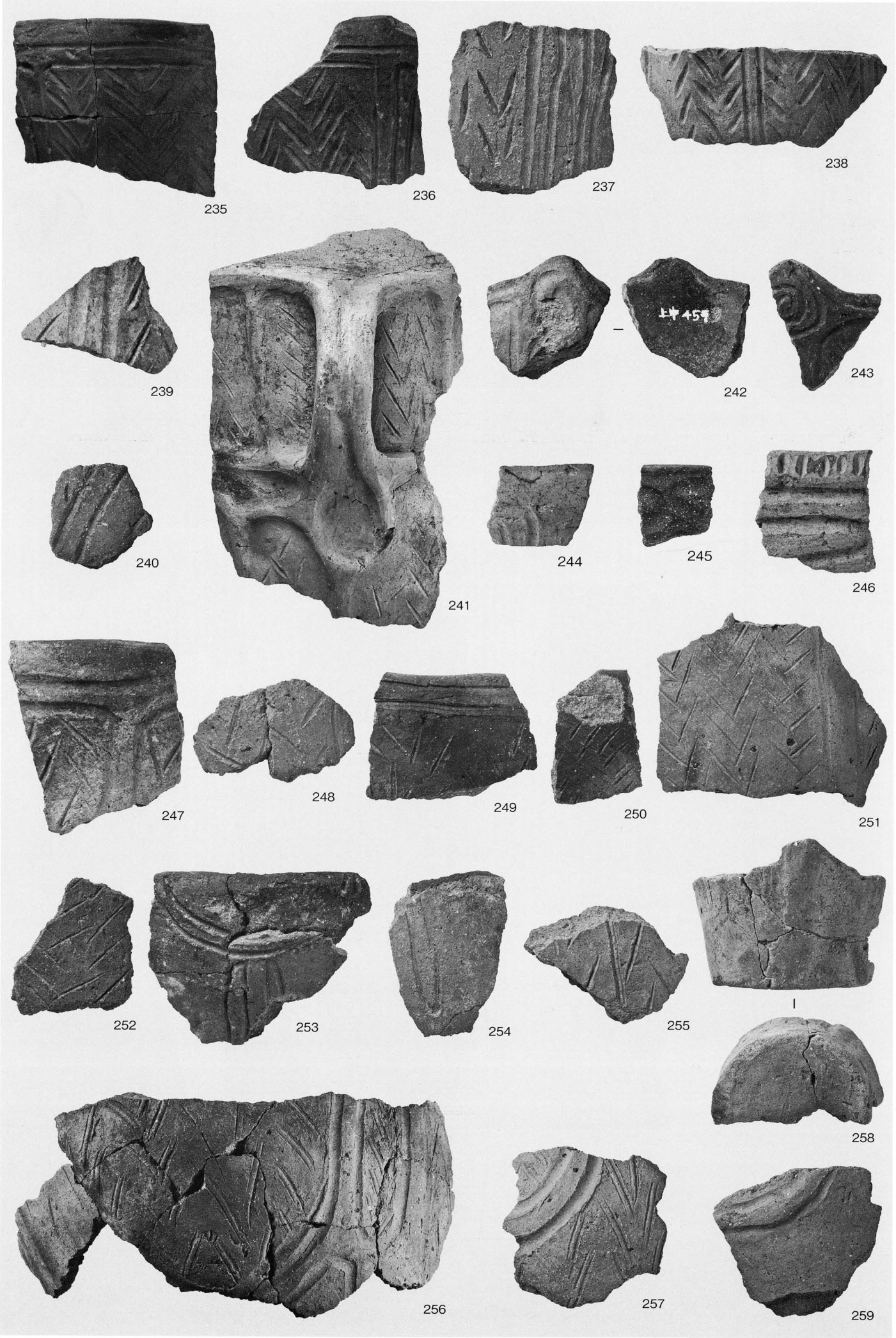
SX3

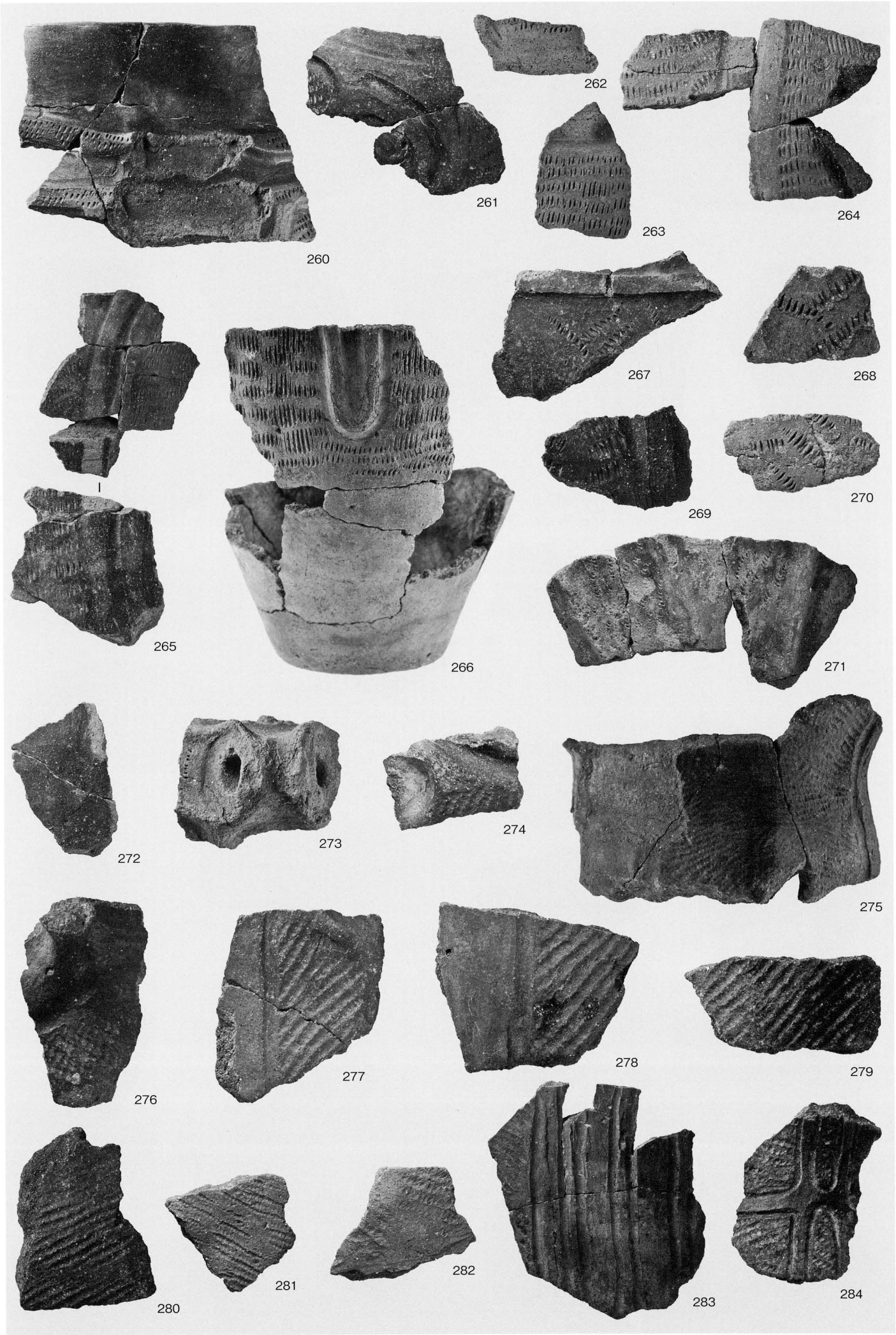

207

SX3

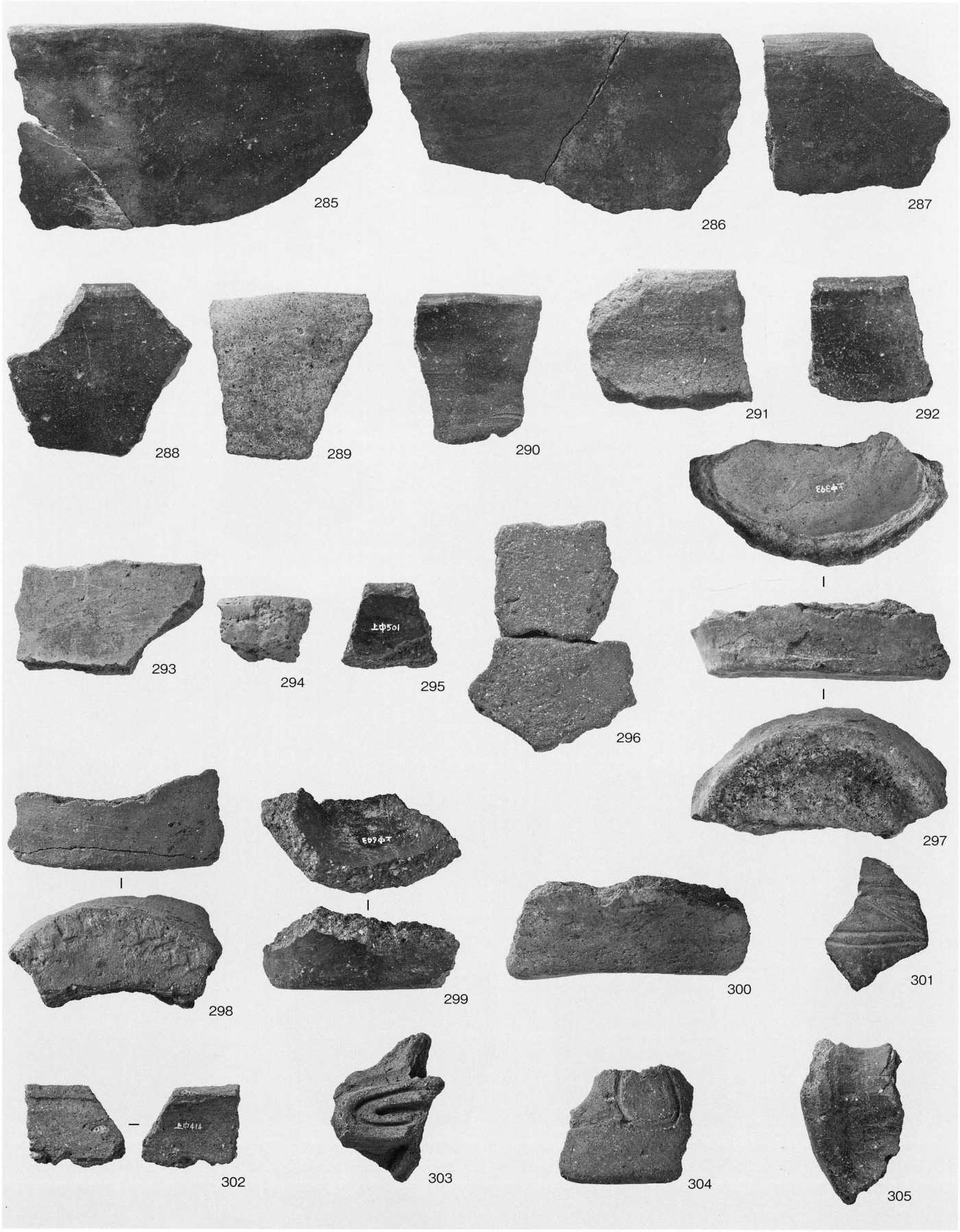

208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234

出土遺物（SX3 ③）

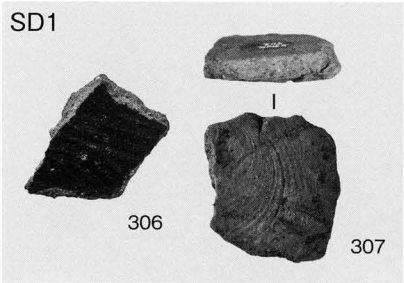

235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
258
256
257
259


260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284

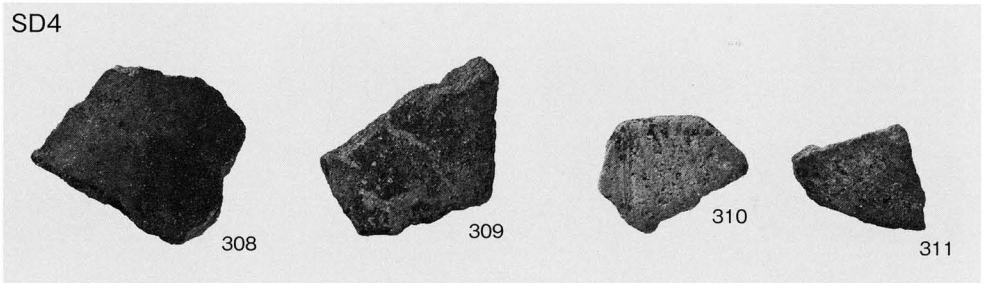
出土遺物（SX3 ⑤、SD）



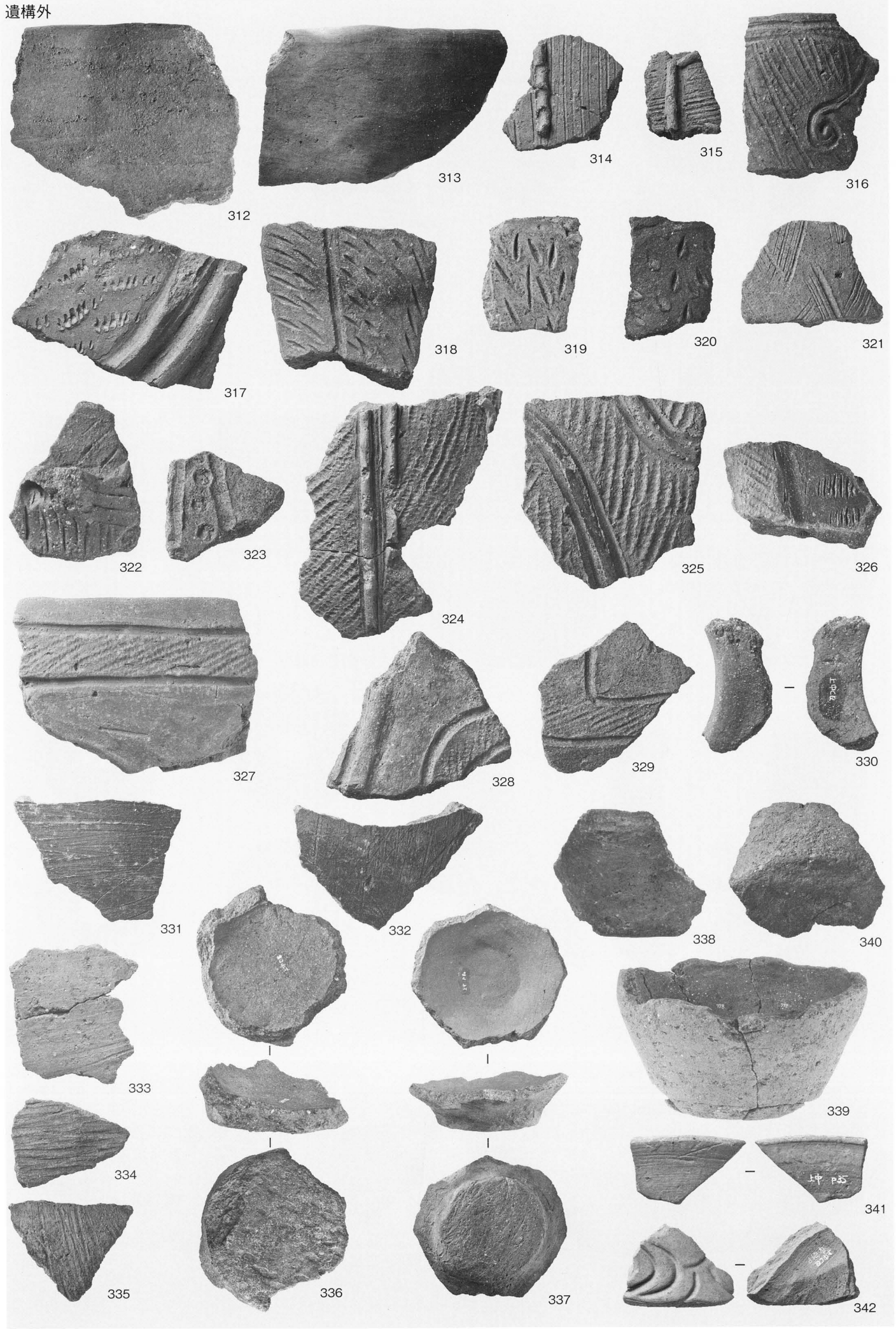
SD1



SD4

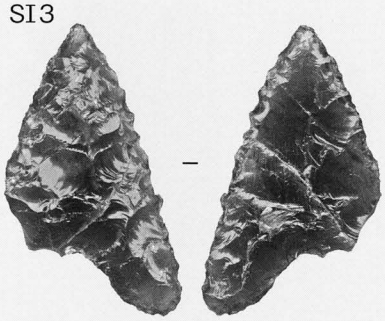


遺構外


312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
338
340
333
339
334
341
335
336
337
342

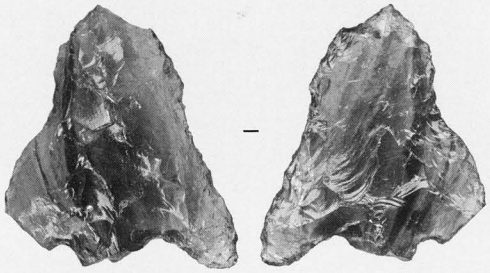
出土遺物（石器・石製品、古銭等）

SI3



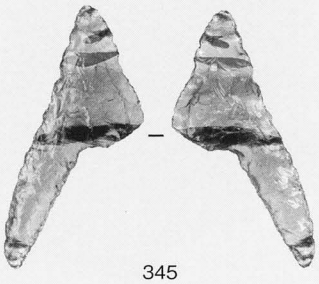
343

SI3



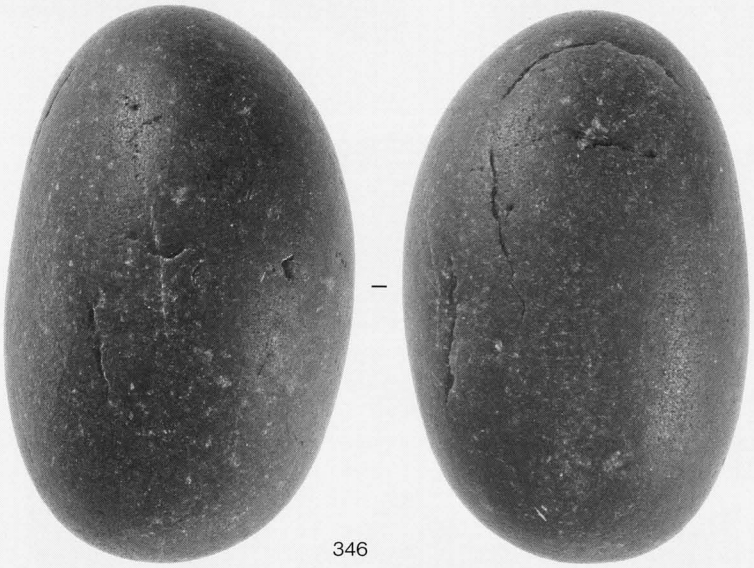
344

B区旧河道



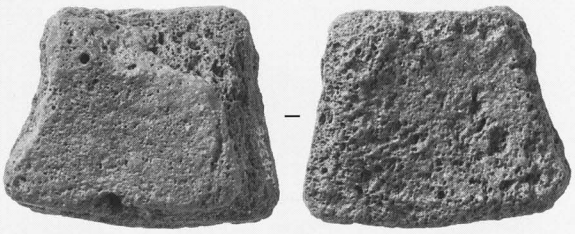
345

C区遺構外



346

A区

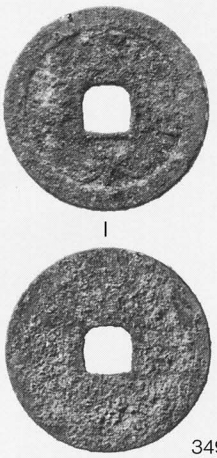


347

B区旧河道

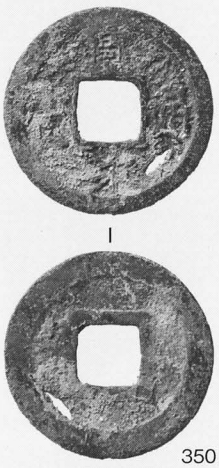
348

SI2 撹乱内



349

A区表土



350

C区遺構外　火山弾

報告書抄録

ふりがな		かみなかまるいせき
書名		上中丸遺跡（第２次）
副書名		中丸地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名		富士吉田市文化財調査報告書 第９集
著者名		望月秀和　松元美由紀　高橋　敦　中山誠二
発行者		富士吉田市・富士吉田市教育委員会・公益財団法人山梨文化財研究所
編集機関		公益財団法人山梨文化財研究所
住所・電話		〒406－0032　山梨県笛吹市石和町四日市場1566　TEL055-263-6441
印刷日		平成24年９月１日
発行日		平成24年９月15日
所在地		山梨県富士吉田市小明見
位置		北緯35度49分84秒　東経138度82分90秒
標高		728m
市町村コード		19202
調査原因		中丸地区土地区画整理事業に伴う道路建設
調査期間		平成23年８月７日～11月16日
調査面積		約619㎡
遺跡概要	主な時代	縄文時代中期後半、弥生時代前期後葉、平安時代、中・近世
	主な遺構	竪穴住居跡、土坑、ピット、溝跡
	主な遺物	縄文時代中期後半の土器・石器、弥生時代前期の土器・石器、平安時代の土師器・灰釉陶器
	特記事項	縄文時代中期後半、弥生時代前期後葉の住居跡の検出および古墳時代に流出した檜丸尾第１溶岩流の堆積状況を確認。
要約		富士火山起源の堆積層に埋もれていた縄文時代中期後半から平安時代までの遺構・遺物を検出した。溶岩や火山灰の堆積によって遺跡の分布状況が不明瞭であった地域においても、断続的ではあるが居住域として利用してきた痕跡が明らかとなった。とくに縄文時代中期後半には安定した土層面が確認されたことから、周辺地域においても、火山灰層下に遺構が遺存している可能性が示唆される。

富士吉田市文化財調査報告書 第９集

上中丸遺跡（第２次）

中丸地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成24年９月15日　発行

編集・発行　富士吉田市
〒403-0004 富士吉田市下吉田1842　TEL 0555-22-1111

富士吉田市教育委員会 歴史文化課
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田2288-1
富士吉田歴史民俗博物館内　TEL 0555-24-2411

公益財団法人 山梨文化財研究所
〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場1566　TEL 055-263-6441